

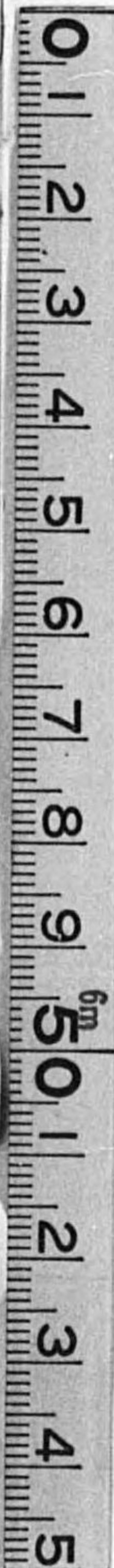
815-048



1200500753396



漢明帝前漢書



始





新參考
日南內典義

K 15

47



815

048

第二高等學校教授岡澤鉦次郎著

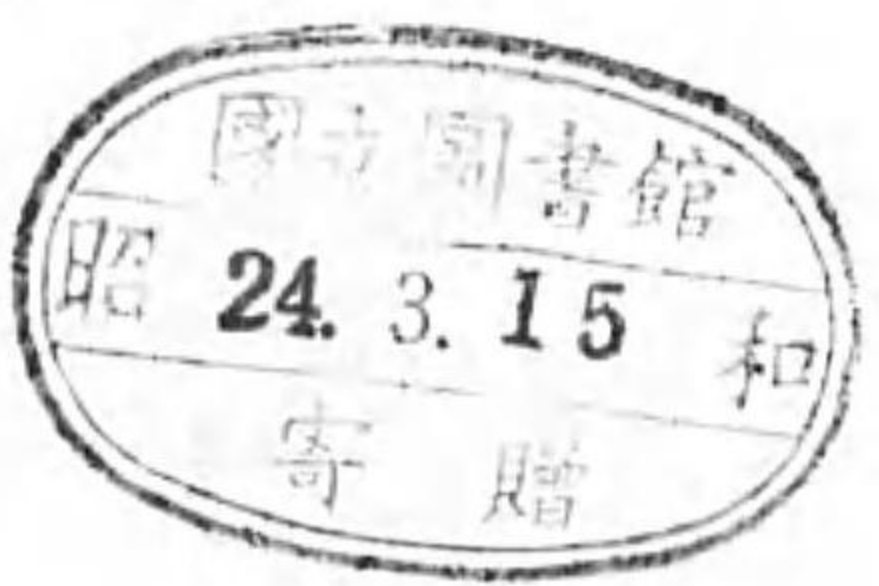
教科
參考

日本文典要義

東京

博文館藏版





緒言

一。此ノ書ハ、大學程度モシクハ高等學校程度ノ學生、中等教育以上ノ内外語學ノ一般教師、及ビ、既ニ或ル程度ノ語學教育ヲ受ケタル者ニシテ、日本文典ヲ獨修セムトシテ適當ナル參考書ヲ得ザル者等ノ參考ニ供シ、且ツハ、日本文典ノ組織ヲ劃一ナラシムベキ新提案トシテ、世ノ國語學言語學ノ専門家ニ向ツテ、其ノ反省ト批評トヲ求メ、國語學ノ進運ニ多少ノ貢獻ヲ致サムコトヲ期スルモノナリ。

一。此ノ書ハ、前著日本文典原理ノ緒言中ニイヘル啓蒙日本文典ノ變形ニシテ、一方ニハ、自家最近ノ研究ニヨリテ、ソノ啓蒙日本文典ニイハムトシタリシモノヲ張大ニシタルト共ニ、一方ニハ、啓蒙日本文典ニイハムトシタリシモノヲ分割シテ三書トスルコトトシ、其ノ第一書トシテ、混沌タル現時ノ國語學界ニ於イテマヅ攻究セラルベキ焦尾ノ急務タル、語ノ分類及ビ文素ノ分解ニ關シテ、日本文典研究ノ基礎タルベキ必需ノ知識ヲ開示セムトシタ

ルモノナリ。(著者ハ、今ニ於イテ、コノ書ノ外ニ、文素論(スナハチ、所謂文章論ヲ中心トシテ、以ツテ、一書トシテ、續日本文典要義トイヒ、更ニ、聲音論及ビ造語法ニ關スルモノヲ以ツテ、一書トシ、續々日本文典要義トイヒ、現時ニアリテ必要トスベキ文典上細大ノ知識ヲ、コノ三書ノウチニ網羅セムコトヲ豫想ス。サレド、或ハ、時宜ニ應)サレバ、コノ設計ノ下ニアリテハ、本書ハ、固ヨリ日本文典ノ全局ヲ盡シタルモノニアラザレドモ、今ノ世上ニ於ケル一般教育界ノ状況ニアリテ、比較的安んずニ授業シ得ベキ文典上ノ知識ハ、殆ンド、語ノ分類文素ノ分解、——此等ダニモ、實ニ根本的ノ大疑問トナリ居ルモノナレド——及ビ、之ニ連帶シテ本書中ニ論及シタル諸種ノ知識ノ範圍ニ止リ、ソノ外ニ出ヅルコト甚少キヲ以ツテ、適當ナル素養ヲ有スル教師ハ、之ニヨリ中等教育モシクハ高等學校一年生程度ノ者ニ授クル教案ヲ立ツルコト容易カルベク、且ツ、本書ハ、合理的ナル論辨解説ヲ與ヘテ、其ノ條理ヲ示シ、其ノ歸趣ヲ明ニシ、素養アリ主張アル人ヲシテ、——誤解ニ出デタルニアラザル論争ヲ歡迎シテ相共ニ正理ノアル所ヲ攻究セムトスルハ實ニ著者ノ素志ナレド——起スマジキ疑問ヲ起シ、試ムベカラザル論争ヲ試ムルガ如キ徒勞ニ服セザラシメムトシタルガ故ニ、幾分カ高尚ニ馳セタ

ル所ナキニアラザレドモ、本書中ヨリ、其ノ論辨解説ヲ去レバ、大體ニ於イテ極メテ簡易ナル文典上ノ知識ヲ殘スコトトナルベキガ故ニ、適當ナル指導ノ下ニ立タムニハ、ヨク、中學卒業前後ノ學生ノ參考書タルコトヲ得ベシ。

(本書ノ讀者中、年齒ナホ弱クシテイマダ十分ニ發展セザル頭腦ヲ有スル者ニシテ、別ニ指導者ヲ有セザル者ニ向ツテ注意スベキハ、カクノ如キ讀者ハ、マヅ、第一編ヲ省略スベク、之ヲ讀ムモ、モシ解シ難キ所アラバ、暫ク之ヲ度外シテ、其ノ他ヲ讀ムベク、又、一字下ゲタル本文大ノ注文ナハチ本註、及ビ細註ハ、本文ヲ讀ムテハ説明ノ足ラザルモノアルヲ感シタル場合ノ外、之ヲ省略スベク、或ハ全體ニ亘リテ之ヲ通讀シ、ナカラ、解シ難キモノハ一切ソノマ、ニ讀過シテ、ソノ解シ得タルモノノミヲ味ハフコトトシ、省略シタルニヨリ、或ハヨク會得セズシテ讀過シタルヨリ、後文ニアラハル、術語ノ不明ヲ感ズルガ如キ場合アラバ、索引ニヨリテ、ソノ解釋ノアル所ヲ搜リ、之ヲ檢按シテ對照覽スルコトトスベキコトナリ。)

一。本書ハ、始メ、三百頁内外ノモノタルベキ約束ノ下ニ筆ヲ執リタルモノナレド、上文ニイヘル用意ト、ワガ國語ノ性質上辭ニ關シテ特ニ注意ヲ深ウスベキ必要アルニヨリ成ルベク其ノ解説ヲ盡サムトシタルトニヨリテ、容量大ニ増加シ、勢、第五編ノ終末ヲ省約セザルベカラザルコトトナリ、マタ、第三編一八ノ註文中ニイヘル附録ヲ削リ去ルコトトセザルヲ得ザリシハ、著者ノ大ニ遺憾トスル所ナリ。然レドモ、コノ兩者ノ削減省約ヲ行フニアラザレバ、紙數ハ更ニ百頁前後ノ増加ヲ見ルコトトナルベク、コノ省削ヲ行フモ

ナホ五割以上ノ擴張トナレリシ上ハ、ソノ省約スベキモノヲ省約スルニ論
 ナク、著者ノ今日ノ地位ニアリテハ、出版者ニ對シテ、ソノ附録二十六頁ヲ附
 載スルコトヲダニ要求スベキ權能ナカリシヲ如何セム。蓋シ、現時ノ趨勢
 大化大寶以來千二百餘年ニ亘リタル紛糾ノ歴史ヲ有スル國語問題ノ大解
 決ヲ遂行シ、國民智能ノ發展及ビ民族的精神ノ死活ヲ左右スベキ至機ヲ伏
 藏スル國語千萬年ノ大計ヲ定メザルベカラザル重大ノ天職ヲ帯ビナガラ、
 イマダ十分ニ醒覺セザルワガ國民ハ、徒ラニ國語ノト絶叫シツ、モ、文典
 上ノ知識ノ如ク、眞面目ナル研究の態度ヲ以ツテ迎ヘザルベカラザルモノ
 ニ向ツテ、甚冷酷ナルガ故ニ、本書ノ出版者ノ如キ大書林ヲシテ、ナホ、紙數多
 キモノノ賣レ行キ如何ヲ懸念スルコト甚シカラシメタリシニ依ルナリ。

(サマレ、第五編ニ於ケル省約ハ、之ヲ上註ニイヘル續日本文典要義ニ詳ニ
 ニスベク、附録ノ附録モ、何等カノ方法ニヨリテ別ニ公表スベキナリ。)

コ、ニ、附録ヲ省キシニツキテ、一言ノ注意ヲ述ベムニ、第三編(一八)ニ五ツノ轉活ノ名ヲ何々
 活トイフコトニ定メタルニツキテ、ハ、ラ、ズ、後ニ至ツテ、或ル活用ノ語ニツキテ、其ノ或ル轉活ヲ
 イフトテ、何々形トイヘル場合アレド、ソハ別ニ異ナル趣旨アリテ、ニハアラズ、又、妄ニ混用シ
 タルニモアラズ。或ル活用ノ語ニツキテ、何々活ト言ヒテ然ルベキ所ナク、何々活ノ語形トイ
 フ義ニテ、直チニ何々形トイヒシノミナリト知ルベシ。サレド、コノ何々活ト、何々活トハ、ス
 ベテノ場合ニ於イテ、全く同様ニ使用シ得ベキモノニハアラズ。何トナレバ、何々活トイヘ

ハ、廣クアラユル活用ノモノヲ概括シテモ、マタ、或ル種類ノモノノ形ニツキテモ、ソノ或ル轉
 活ノ意味ニテ使用セラレベキナリ。何々形トイヒテハ、或ル種類ノ形ヲ成セルモノヲ指スコト
 トナルガ故ニ、何々ノ種類ノ何々形(スナハチ、何々活ノ語形)トハ、イフベケレド、スベテノ種類
 ナ概括シタル場合ナドニ於イテ、一定ノ語形ナキコトトナルニ方ツテハ、然イヒ難キコトト
 ナレバナリ。「但シ、複數ノ語形ノ
 概念ヲバ立テ得ラルベキナリ。」

一。文典上ノ標準ニツキテハ、一定ノ學理ニヨリ自然ノ條理ニ從フベキモノ
 ニシテ、コノ點ニ於イテハ十分ナル所信ヲ有スレドモ、ソハ特殊ナル論辨ヲ
 要スルモノナルガ故ニ、コ、ニ論及セザルコトトシタルモ、トニカク、本書ノ
 主義ハ、必シモ或ル時代或ル文體ニ拘泥セズ、苟クモ今ノ文筆ニ上リ得ベキ
 モノ、及ビ、讀書ノ際ニ遭遇スベキモノノ、合法ノモノトシテ許スベキハ、成ル
 ベク之ヲ包容シ得ベキヲ期シ、辭ノ如キハ、殆ンド漏スコトナク、古今ニ亘リ
 テノ主要ナルモノヲ舉ゲ、ソノ分類上ノ性質ヲ會得セシメムコトヲ期セリ。
(但シ、餘リニ古風ニシテ、其ノ性質モマタ、類推ニヨリテ知得シ得ラルベキモノ、其ノ) コレ、今
(他、特殊ノ事故アルモノニ於イテ、省略ニ附シタルモノナキニアラズト知ルベシ。) ノ如ク、スベテノ關係ニ於イテ、殆ンド定形ナキニ似タル過渡時代ニ於イテ、
 妄ニ或ル特殊ノモノヲ對象トシ其ノ他ヲ抵排シテ文典界ヲ狹メズ、サレバ
 トテ、妄ニ言文ヲ混淆シ妄ニ破格ノモノヲ許容スルガ如キ不規律ニモ陥ラ

ズ、其ノ間ニ、ヨク、言語變遷ノ勢ヲ利シ、語想相關ノ理ヲ明シ、未來ニ於ケル發展ノ餘地ヲ開イテ、文典上自然ノ眞理ヲ發揮セムトスル者ノ、正ニ撰ブベキ道ナルヲ信ズレバナリ。

一。本書ノ校正ニツキテハ、既刊日本文典原理校正ノ周密ナラザリシヲ悔ユルコト甚シキヲ以ツテ、勉メテ校正ヲ嚴ナラシメムトシ、遠隔ノ地ニアルニモカ、ハラズ、始メノ方ノ或ル部分ヲ除ク外、スベテ三校ヲ施セリ。今コノ緒言ヲ稿スルニ方ツテ、イマダ刷リ上ゲテ見ザレドモ、誤植ノ如キハ、サマデニ多カラザルベシ。ナレド、落葉ヲ掃フニ似タル校書ノ業、多少ノ錯誤ナキヲ保スベカラザルガ故ニ、刷リ上ゲテ終レル後、更ニ精閲シテ正誤表ヲ添付スベシ。但シ、左ノ數項ハ、著者ガ、公私ノ匆忙ニ驅ラレ知ラズ、原稿モシクハ下刷リノ校正漏レヲ起スニ至レリ、シモノニシテ、三校ノ際マデ心附カザリシヲ、後ニ發見シタルモノナルヲ以ツテ、特ニ、コ、ニ舉ゲテ讀者ニ謝スルコトトシタリ。(本書ノ讀者ニシテ、既ニ日本文典原理ナ手ニシ、或ハ、本書ヲ讀ンテ更ニ一個所アリ。二七五頁六行、或ハ、文素ヲ成スベキモノナリ、ハ、ニ同書ニ校訂漏レノ大ナルモノ合ノ、述定部ヲ成スベキモノ、或ハ、述定部ノ一部分ヲ成スベキモノ、或ハ、文素ノ結合ヲ、四十四字ノ

製脱漏、コレナリ。コレ、本書著述ノ際ニ發見シタリシ所ナリ。其ノ他、同書ニツキテハ、忽卒ニ調製シタリシ、ノ正誤表ニ漏レタル誤脱重復ノ追訂ヲ要スベキモノ頗アル多ク、コレ、コ、ニ舉ケベキニアラザレバ、暫ク、機會ヲ待ツコトトシタリ。但シ、コ、ニ舉ゲタル一個所ノ外ハ、カクノ如ク甚シキモノハ、ナク、心ヲ潜メテ前後ヲ推セバ、會得シ得ラルベキ條理アル一、二、字ノ錯誤ノミナリ。タ、一、二、八、頁、四、行、ハ、ニ同書ニ校訂漏レノ大ナルモノ合ノ、述定部ヲ成スベキモノ、或ハ、述定部ノ一部分ヲ成スベキモノ、或ハ、文素ノ結合ヲ、四十四字ノ多キヲ以ツテ、其ノ例外トスベシ。サレド、誤脱ニヨリテ、文義ノ明ナラザル所アルヲ感ズル者ハ、本書ヲ手ニスル讀者ニシテ、學理ノ尋釋ヲ愛好スル篤志家ニ向ツテハ、敢ヘテ同書ヲ推薦セムト欲スルガ故ニ、コ、ニ一言ヲ添付スルナリ。

六頁一行 制定素 ハ、 制定部 ノ誤リ。

二〇頁八行註 をかき ハ、 をよみ ノ誤リ

六二頁五六行 構成 ハ、(三ツ) 相對 ノ誤リ。

一〇二頁七行 呼ベリ ノ下、 蓋シ、之ヲ佐藤誠實氏ノ「語學指南」ニ取レルナリ。 ノ一句ヲ脱ス。

一六六頁八行 正體言ノ ハ、 正體言ニ於ケル ノ誤リ。

二二〇頁一行 「あまんず」 ノ下、 (ハ「あまみす」甘) ヲ脱ス。

二六六頁五行 素材ヲ ハ、 素材ニ ノ誤リ。

二八一頁一行 め ノ下、 「よく は あら ず」 ヲ脱ス。

ニ最新版ヲ以ツテシ、更ニ之ヲ十數倍シタラムニハ、始メテ語學研究ノ一(小文)モシ、幸ニシ
 庫ヲ得タリトイフベカラムモ、ソハ、貧生ノ企テ得ベキ所ニアラザルナリ。
 テ、錯誤ノ存スルコトナキヲ萬一ニ僥倖シ得タラムニハ、ソハ、實ニ、遲鈍ナル
 著者ノ力ニハアラジ。冥々ノウチニ本書ノ成立ヲ輔ケラレツラム眞理擁
 護ノ神祇ノ力ナラムノミ。

明治四十一年五月

著者識ス

追記

正誤表ハ、文典學參考書目ノ末ニアリ。閱讀ニ先ダツテ、マツ訂正ノ勞ヲ取ラレムコトヲ、一
 般讀者ニ懇請ス。但シ、ソガ思ヒシヨリモ多カリシ結果ヲ見タルハ、著者ガ慚愧スル所ナリ。
 四十一年六月

教科
 參考
日本文典要義目錄

序編概說

一	文單位文、語單位語、語根、及ビ、被述部、述定部	一頁
二	文素ノ別チ	一〇
三	單文複文、及ビ擬單文	一五
四	語單位語ノ大別附ケタリ「はたらき」	二一
五	語根、語幹、根辭、及ビ、複成語	二八
六	叢語、訛成叢語、及ビ、擬語法	三三
七	位格、招呼法、及ビ、擬呼法	四九
八	述定上ノ性質ト文ノ種類	五五
九	反語法、翻述法、傳述法附ケタリ、傳述的裝定	七四

第一編 品詞の分類ノ取捨

- 一〇 品詞の分類ト單位語ノ四大別……………八六
 - 名詞ニツキテ(八六)
 - 代名詞ニツキテ(八九)
 - 數詞ニツキテ(九二)
 - 動詞助動詞ニツキテ(九四)
 - 形容詞ニツキテ(九六)
- 一一 品詞の分類ト單位語ノ四大別(ツヅキ)……………九九
 - 副詞ニツキテ(九九)
 - 後置詞ニツキテ(一〇一)
 - 接續詞ニツキテ(一〇〇)
 - 感歎詞ニツキテ(一一三)
- 一二 單位語分類ノ標準……………一〇四

第二編 體言ノ分類及ビ性質

- 一三 正體言及ビ準體言……………一四六
- 一四 實體名ノ正體言ニ於ケル要目……………一五六
- 一五 品象名ノ正體言ニ於ケル要目……………一六六

第三編 用言ノ分類及ビ性質

- 一六 作用言及ビ形狀言……………一八〇
- 一七 作用言ノ二大別ト辭的ノ用言……………一八四
- 一八 轉活及ビ活用上ヨリ見タル用言ノ分類表……………一九五
- 一九 爲相作用言ノ別チ……………二〇六
- 二〇 爲相作用言ノ別チ(ツヅキ)……………二二五
- 二一 然相作用言ノ別チ……………二三〇
- 二二 形狀言ノ分チ……………二四二
- 二三 用言ノ轉活ト用法トノ關係……………二五〇

第四編 靜辭動辭ノ分類及ビ性質

二四 靜辭動辭ノ分類法ト、合法ナル其ノ分類表……………二六一

二五 靜辭ノ分類……………二七〇

二六 靜辭ノ分類(ツヰキ)……………二九一

二七 動辭ノ分類……………三四一

第五編 文素ノ分解

二八 文素ノ分解ニ關スル緒論……………三九〇

二九 單文ノ文素ニ於ケル要旨……………四〇二

三〇 單文ノ文素ニ於ケル要旨(ツヰキ)……………四二五

三一 複文擬單文ニツキテノ要旨……………四四四

目

錄畢



日本文典要義

岡澤鉦次郎著

序編 概説

文典學上ノ「文」

一。文單位文、語單位語、語根、及ビ、被述部述定部。
文典學上ニ文トイフモノハ、

あめ ふる。
とも さたる。
かぜ さむし。

等ノ如キ様ニ、或ルものノ類ノ思念スナハチ「あめ」とも「かぜ」ニアラハサレタ
ルガ如キ考ヘ「ヲ」主トシテ、之ニ其ノ作用(スナハチ「ふる」「さたる」ニアラハサレタ

單位文

ルガ如キモノモシクハ形狀スナハチ、さむしニアラハサレタルガ如キモノノ思念ヲ結ビツケタル一思想ノ表現セラレタルモノナリ。カ、ル「文」ヲ他ノ意義ニ使用セラレタル「文」(スナハチ、一篇ノ文一節ノ文ヲ意味スルモノ)ヨリ區別シテハ、單位文トイフ。何トナレバ、文典學上ニイフ「文」ハ、文ト言ヒ得ラルベキ單位ヲ指スモノナレバナリ。

單位思想

有機的結合

文典學上「思想」トイフモノハ、コノ單位文ニアラハサル、ガ如キモノヲイフナレバ、此モ、他ノ意義ニ使用セラル、思想ヨリ區別シテハ、單位思想トイフベシ。凡ソ、或ル思念ガ集リテ單位思想ヲ成スヲ、思念ノ有機的結合トイヒ、其ノ言語ノ方ヨリ見テ、其ノ有機的結合ヲ成スベキ思念ドモヲアラハス語ガ、其ノ有機的結合ヲ成セル思想ノ形ニ結合シタル場合ヲ指シテ、語ノ構想的結合トイフ。文典學ハ、學ハ、畢竟スルニ、語ノ構想的結合ノ條理ヲ究ムルモノハニシテ、平タク言ヘバ、單位文ノ構成ニ關スル典則ヲ研究スルモノナリ。

文典學上ノ「文」スナハチ單位文ハ、文典學上ニイフ語ノ結合ニヨリテ成ル。

語ノ構想的結合
文典學

文典學上ノ「語」

單位語

語根

文典學上ニ「語」トイフモノハ、上ノ例中ナル「あめ」とも「かぜ」ふる「きたる」さむしノ如キモノニシテ、單位文ヲ構成スル單位トスルモノヲイフナリ。コノ故ニ、此モマタ、他ノ意義ニ使用セラル、語(スナハチ、日本ノ語、東北人ノ語)ヨリ區別シテハ、單位語トイフ。

文スナハチ單位文ガ語スナハチ單位語ニテ成ルガ如ク、其ノ語モ、マタ、語根「スナハチ語」ヲツクル「ね」ニヨリテ成ル。例ヘバ、上ノ例ナル「さむし」ガ「さむし」ト「し」トニヨリテ成レルガ如シ。サレド、語ガ文ヲ成スニハ、少クトモ、上ノ例ノ如キニツノ語ノ結合ヲ要スルモノナレド、語根ノ語ヲ成スハ、必シモ然ラズ、タマ一ツノ語根其ノマ、ニテ一語ヲ成ストモアリテ、其ノ關係、オノツカラ、等シカラズ。コノ語根ノ事ハ、別ニ下節ニイフヲ見ルベシ。(本編)

凡ソ、語ガ結合シテ一文ヲ成スニ方ツテ、スナハチ、上例ニ舉ゲタル「あめ」とも「かぜ」ノ如キ、ものノ類ノ思念ヲアラハスモノガ、ふる「きたる」ノ如キ其ノ作用モシクハ、さむしノ如キ其ノ形状等ノ思念ヲアラハスモノト結ビツケラレテ、構想的結合ヲ成ス場合ニ於イテ、其ノものノ類ノ思念ヲアラハスモノハ、

被述部
主部
述定部
從部

其ノ作用モシクハ狀形等ノ思念ヲアラハスモノニヨリテ述定セラルトイ
ヒ其ノ作用狀形等ノ思念ヲアラハスモノハ其ノものノ類ノ思念ヲ述定ス
トイフ。サレバ、コノ述定セラル、モノヲ文ノ被述部(モシクハ主部)トイヒ、
述定スルモノヲ文ノ述定部(モシクハ從部)トイフ。コノ故ニ文ハ必ラズ被
述部ト述定部ト有スルモノト知ルベシ。

サレド、此等ノ例ナル單位文ハ、皆最單純ナル思想ノモノニシテ、被述部モ述
定部モ各一語ノモノナレド、人ノ思想ハ甚複雑ナルモノナレバ、單位文ノ構
造モ決シテ、カクノ如キモノニノミ限レルニハアラズシテ、比較的單純ナル
モノヲ舉グルモ、

あめ つよく ふり ぬ。

よき とも さたる。

け、ふ(今日)の かげ (は) いと さむし。

ノ如キモノ、甚多シ。カクノ如キモノニテハ、つよく ふり ぬ「よき とも」
「いと さむし」け、ふの かげ (は) 等ノ如キハ、二語以上ニテ被述部モシク

分割

割斷的分解

文ノ緊要部

文主

制定部

ハ述定部ヲ成セルモノニテ、其ノウチ、よき「け、ふ」の「ノ如キハ、其ノ被述部ヲ
成スベキ」とも「かげ」等ニ隨從シテ、其等「もの」ノ類ノ語ガ指ス所ヲ明ニシテ、共
ニ被述部ヲ組成シ、つよく「いと」ノ如キハ、其ノ述定部ヲ成スベキ「ふく」「さむ
し」等ニ隨從シテ、其等作用形狀等ノ語ガ指ス所ヲ明ニシテ、共ニ述定部ヲ組
成スルモノナリ。

スベテ、文ヲ被述部ト述定部トニ別チテ思念スルヲ、文ノ分割トイヒ、又、割斷
的分解トイフ。(割斷的分解トハ、次節ニイフ想素的分解ニ對照シタル稱呼
ナリ。)

被述部述定部ノウチ、最單純ナル思想ノ文ニテモ必ラズアラハルベキモノ
(「スナハチ、上例ナル「あめ」とも「かげ」ノ如キモノ「ふる」「きたる」「さむし」
ノ如キモノ。「ふり」「ぬ」「も」「マタ」然リ。本編六擬語法ノ條參考)ヲ、文ノ緊要部トイヒ、其
々ニ別チテハ、被述部ノ緊要部、述定部ノ緊要部トイヒ、其ノ被述部ノ緊要部
ヲ成スモノヲバ、常ニ文主ト稱シ、此等緊要部ニ對シテ、其ガ指ス所ヲ明ニシ
テ、共ニ擴張セラレタル被述部モシクハ述定部ヲ成スモノ(「つよく」「よき」「け、ふ」
ノ「いと」)ヲ、緊要部ノ制定部トイフ。

擴張セラレタル被述部述定部ヲ成ス制定素ノ外ニ緊要部ノ構想的結合ヲ成スニ方ツテ、或ル關係ニ於イテ、被述部ノ緊要部ト對立シ、其ノ構想的結合ヲ完成セシムルモノ、例ヘバ、

あめ 〔以上被述部〕 つち 〔以下被述部〕 を うるほす。

とも ふたり 〔以上被述部〕 こゝ 〔以下被述部〕 に さたる。

け、ふ の かぜ 〔以上被述部〕 は 〔以下被述部〕 さの、ふ の かぜ より さむし。

ニ於ケル「つち」を「こゝ」に「さの、ふ」の「かぜ」より「如キモノアリテ、其ノ對立上ノ關係ヨリ述定部中ニ立ツヲ常トスルニヨリ、世ニ述定部緊要部ノ補部トシテ認メラル。〔きの、ふの、ノ如キハ、補部カクテ、文ノ分割ニ一歩ヲ進メ、緊要部ニ對シテ制定部補部等ノ概念ヲ挿ンデ、述被部述定部ヲ分解スルハ、西洋ニ於ケル舊式ノ分解法ニシテ、頗ブル缺點ヲ有スレドモ、今ナホ、盛ニ彼我ノ間ニ行ハル。〕 〔ナホ、カ、ル分解法ノ事ニツキテ、ハ、第五編ニイフヲ見ルベシ。〕

コ、ニ注意スベキハ、コノ補部トシテ認メラルモノアル思想ノ文ト之ナキモノトノ、構想上ノ大ナル相違ナリ。スナハチ、

補部

補部トシテ認メラル、モノナキ文ハ、全ク、文主タル、或ル物事ノ思念ヲアラハス語ト、其ニツキテノ、或ル作用モシクハ、形狀等ノ思念ヲアラハス語トノ、構想的結合ヲ成セルモノナリ。

然ルニ、之ニ對シテ、

補部トシテ認メラル、モノアル文ハ、文主タル、或ル物事ノ思念ヲアラハス語ガ、或ル關係ニテト對立スベキ他ノ物事ノ思念ヲアラハス語トノ、間ニ起サルベキ、或ル作用モシクハ、形狀ノ思念ヲアラハス語トノ、構想的結合ヲ成セルモノナル

トナリトス。コノ文主タルモノト對立スベキ地位ヲ占メテ、構想的結合ニ入ル思念ヲアラハス語ヲ、文ノ對賓ト稱ス。

コノ對賓ハ、文主ヲ主位ニ置ク、或ル文中ニアリテハ、マヅ文主タルベキモノトシテ——(スナハチ、思考セラレ述定セラルベキモノトシテ)——取リ除ケラル、モノノ外部ニアルニヨリ、勢、述定部中ニ立ツトナリ、其ノ述定部ノ緊要部ト文主トノ構想的結合ヲ全カラシムル述定部ノ補助物件

對賓

トモ認メラルベク、從ツテ、述定部緊要部ノ「補部」トシテ目セラル、ニ至リタルモノナレドモ、想材トシテノ關係ニ於テ、其ノ補部トシテ目セラル、モノハ、全ク、文主ニ對シ、其ノ應接物件トシテ立ツモノニシテ、決シテ、述定部ノ緊要部ヲ成ス作用形状ノ思念ノ隸屬タルベキモノニアラズ、文主ト對賓ト並存シテ、而ル後ニ、述定部ノ緊要部ガアラハス如キ作用形状ノ思念ハ、始メテ、其ノ文主ニツキテ起ルモノナリ。前文ノ例ニ合セテモ思フベシ。何處ニカ、あめト、つち(モシクハ、之ニ當ル或ルモノ)トノ並存ヲ認メズシテ、つち(モシクハ、之ニ當ル或ルモノ)ヲ、うるほすテ、あめノ作用ヲ思ヒ起ス人アルベキ。何處ニカ、ともト、こトノ存在ヲマヅ認ムルコナクシテ、ともト、こトノ存在ヲ思ヒ起ス人アルベキ。何處ニカ、げ、ふの、かぜ(上例ノ「さむし」ハ、比較的ニ寒キ義ヲ含ムモノナリ)トイフ思念ヲ起スニ方ツテ、マヅ、「げ、ふ」の、「かぜ」ニ對シテ比較セラルベキ「さむし」の、「かぜ」ノ如キモノノ存在ヲ許サザル人ノアルベキ。分明ナル事ナリ。コノ故ニ、對賓ナキ文ニアリテハ、被述部述定部ヲ別チ、——制定部アル場

合ニハ——更ニ其ノ制定部ヲ認ムルニテ、ヨク、想材ヲ成スモノノ文ノ構想的結合ヲ成ス關係ヲ盡スヲ得ベケレド、對賓アル文ニアリテハ、文ノ割斷的分解以外ニ、想材ニ應ジタル成分ニ文ノ構想的結合ヲ分解スルニアラザレバ、ヨク、文ト種々ノ片々ノ想材ヲアラハス「語單位語」トノ關係ヲ調停シテ、人ノ思想ヲウツスナル言語ノ委曲ヲ解シ得ベカラズ。カクテ、次節ニイフガ如キ想材的ノ分解スナハチ、想素的分解トシテ見ラレタル文ノ成分スナハチ、文素ノ分チヲ學ブベキ必要ハ、起ルナリ。サレバ、文ノ分解ハ、割斷的分解ト想素的分解トヲ併セテ、始メテ完全ナルコトヲ得ベキモノナリト知ルベシ。本文ニ一言セル舊式ノ分解法ハ、完全ナル想素的分解法ヲ出スベキ準備時代ノモノトシテ認メラルベキモノニシテ、西洋ノ語學界ニテモ、今ノワガ國語學界ニテモ、ナホ盛行スルニカ、ハラズ、最進歩シタル學界中堅ノ學說ハ、西洋ニアリテモ、既ニ推移シテ其ノ面目ヲ改メムトシツ、アルノミナラズ(テ、ル、プ、リ、ユ、ウ、ク、氏ノ比較文章論等ヲ參考スベシ)其ノ舊式ノ分解法ハ、特ニ、ワガ國語ノ性質ニ對シテ、明釋貫通シ得ベカラザル種々ノ欠點ヲ有

スルナリ。(第五編 參照)

二。文素ノ別チ。

分解
想素的
分解
文素

文ハ、上述ノ如ク、廣ク被述部述定部ニ分割スルヲノ外ニ、必シモ其ノ區劃ニ關セズシテ、構想的結合ヲ成スベキ想材上自然ノ約束ニ從ヒ、其々ノ役目ヲ有スル種々ノ成分ニ分ツコトヲ得ベシ。之ヲ、文ノ分解マタハ想素的分解トイヒ、其ノ分解セラレタル各成分ヲ、文素トイフ。
文素ハ、國語ノ性質ニヨリテ、必シモ等シカルベキモノナラザレドモ、最進歩シタル西洋ノ學說ヲ參酌シテ之ヲワガ國語ニ擬議スル時ハ、正ニ左ノ如キ四種ノ文素ヲ成スコトナル。

主素

- (一) 主素、スナハチ、名詞的成分
 - (二) 從素、スナハチ、動詞的成分
 - (三) 裝定素、スナハチ、形容詞的成分
 - (四) 限定素、スナハチ、副詞的成分
- 主素トハ、物(モシクハ之ニ準ジテ)思念セラレタルモノノ思念ノ被述部ノ緊

從素

裝定
限定
素

要部、スナハチ、文主トシテ立テルモノ、及ビ之ト應接シテ其ノ構想的結合ヲ成就セシムベキ地位ニ立ツ物(モシクハ之ニ準ジテ)思念セラレタルモノノ思念ヲアラハス文素ヲイフ。スナハチ前節ノ例ニイヘル「あめ」とも「かぜ」及ビ「つち」を「こゝ」に「かぜ」よりノ類ノ如キモノナリ。
從素トハ、述定部ノ緊要部ヲ成スモノニシテ、文主タル主素ト——(或ハ對賓タル主素ヲ要シ、或ハ對賓タル主素ヲ要セズシテ)——構想的結合ヲ成シ、其ニ文ノ緊要部ヲ形ヅクルモノニシテ、殆ンド全ク物(モシクハ之ニ準ジテ)思念セラレタルモノノ作用形狀ニ限ラル、モノナリ。前節ノ例ナル「ふりぬ」きたる「さむし」及ビ「うるほす」ノ如キハ、スナハチコレナリ。
裝定素及ビ限定素ハ、物(モシクハ之ニ準ジテ)思念セラレタルモノノ形狀作用等ノ思念ガ文素トシテハ立チナガラ、主素モシクハ從素タルベキ地位ニ置カレザル場合ニシテ、裝定素ハ、或ル主素タルベキモノヲアラハス語義ヲ制限シテ其ノ指示スル所ヲ明ニセムガ爲ニ、其ノ當該主素ニ隨從スベキ關係ヲ有スル文素トシテ立チ、殆ンド全ク主素ニノミソフモノナレド、限定素ハ、

或ル文素ガ構想的結合ヲ成スニ方ツテハ特殊ノ状態ヲ明ニセムガ爲ニ其
 ノ或ル文素ニ隨從スベキ關係ヲ有スル文素トシテ立ツモノニシテ主トシ
 テハ從素ニソフモノナレド、マタ、裝定素ニモ他ノ限定素ニモソフ多キノ
 ミナラズ、或ル文素ノ團結セルモノモシクハ一文形ヲ成セルモノニモソヒ、
 時アリテハ、主素ニモソフアリテ、要スルニ、意義ノ許ス限リ、ソフベキ所ヲ
 撰バザルナリ。前節ニ擧ゲタル例ニテイヘバ、よきともノよき、けふ
 のかぜ、はきのふのかぜ、よりノけふのきのふのノ如キハ、皆
 裝定素ニシテ、つよくふるノつよくいとさむしノいとともふたり
 ノふたりノ如キハ、皆、限定素ナリ。其ノウチ、つよくいとハ、從素ニソヘル普
 通ノ限定素ナレド、ふたりハ、主素ニソヘル限定素ナリ。ナホ、

けふ は いと さむし ひと なりぬ。
 けふ は はなはだ あたゝかく なりたり。
 甲 乙 丙 および 丁 は、ことごとく かしこ に あつまれり。
 ひとごとく いそがしげ に かなた に あゆめり。

むかし、神功皇后 三韓 を うち したがへ たまひ き。
 かゝる ほど に、ひとごとく かへり さたりぬ。

ノ如キ例ニ於イテ、いと さむしノいとハ、裝定素ニソヘル限定素ニシテ、は
 なはだ あたゝかくノはなはだハ、他ノ限定素ニソヘル限定素、甲 乙 丙
 および 丁 はノおよびハ、文素ト文素トノ團結ノ内部ニソヘル限定素
 ニシテ、いそがしげ に かなた に あゆめりノいそがしげ にハ、文
 素ト文素トノ團結ノ外部ニソヘル限定素、最終二文ノ例ナル、むかし及び、か
 ゝる ほど にハ、一文形ヲ成セルモノニソヘル限定素ナリト知ルベシ。』
 凡ソ、人ノ思想ハ、物及ビ、之ニ準ジテ思念セラル、モノ(Ⅱ廣義のもの)ノ思
 念ト、之ニツキテノ或ル作用(及ビ、之ニ準ジテ思念セラル、モノ(Ⅱ廣義ノ
 作用)ノ形状)及ビ、之ニ準ジテ思念セラル、モノ(Ⅱ廣義ノ形状)ノ思念ト、此等
 ニツキテノ種々ノ觀察ヨリ得來ル關係ノ思念トニヨリテ成ルモノニシテ、
 其ノウチ、關係ノ思念ハ、他ノ思念ニ附帶シテ起ルベキモノナレバ、其ヲアラ
 ハス語ニシテ、獨立ニ一文素ヲ成スベキハ、殆ンド無シ。もの「作用」形状等

ヲアラハス語ハ、既ニイヘル所ニテ、ホマ感得セラルベシ。(正シクハ、第二編以下ニ於ケル語ノ分)
 類ニ就キテ知リ得(「關係ヲアラハス語トハ、マヅ、前節及ビ上文ノ例ナル」)ふり
 ぬ^レなり ぬ^レかへり きたり ぬ^レ等ノぬ^レけ^レふ の^レさの^レふ の^レの^レけ^レふ
 の かぜ は^レ甲 乙 丙 および 丁 は^レ等ノは^レつち を^レ三韓 を^レ等
 ノを^レこい に^レかして に^レかなた に^レ及ビかゝる ほど に^レ等ノに^レさの
 ふ の かぜ よりノよりいと さむき ひ とノと^レなりたりノ^レたり
 いそがしげ に^レに^レうち したがへ たまひ さ^レの^レさ^レノ如キモノナリ。
 (此等ノ種類性質ニツキテハ、第四編ニ至ツテ明ナルベシ)。
 然レドモ、語ノ意義用法及ビ語形等ハ、年代ヲ經ルニ從ヒテ慣用上避クベカ
 ラザル種々ノ變化ヲ起スモノナレバ、オノヅカラ、本性ヲ逸シタル例外ノモ
 ノヲ生ズルニ至ルベキハ、言語ノ常習トシテ許サザルベカラザルコトニシテ、
 (上例ノうち したがへ たまひ き^レの^レたまひ^レノ如キハ、元來ハ純然タル「作用ヲアラハス語」ナ
 レド、一方ニハ、カクノ如キ用例ニ於イテ、或ル「關係」ノ思念ヲアラハスモノトシテモ認メ得ラル
 ベキコトナリ、「作用」ト「關係」トノ中間ニ立ツカ如キ性質ヲ有スルニ至レルモノニシテ、マ
 タ、意義用法ノ變化シタル一例ナリ。ナホカ、ル種類ノ語ニツキテハ、下編ニイフベシ。)「關
 係」ノ思念トシテ認メラル、モノノウチニモ、吾人ハ、特別ナル條件ノ下ニ一

準從素
繋合的從素

文素ヲ成スモノトシテ認ムベキニ至レルモノニツテ保有ス。

ひと は 一種 の 動物 なり。

伊藤博文 韓國統監 たり。

ノ如キなり^レたりハ、スナハチ、コレナリ。コハ、元來、

ひと は 一種 の 動物 に^レ口語^レて^レ あり。

伊藤博文 韓國統監 と^レ口語^レて^レ あり。

ノ如キ構造ノ思想ニシテ、動物 に^レ韓國統監 と^レニテ、對賓タル一主素ヲ成
 シ、共ニ、ありニテ從素ヲ成ス思想ナレド、其ノに^レト^レあり、と^レト^レあり^レ約合シテな
 り及ビ^レたり^レヲ一語ヲ成スニ至レルガ故ニ、カ、ル構想ノ文ニテハ、なり^レた
 りニテ從素ニ準ズル一文素ヲ成シ、動物^レ韓國統監^レ等ニテ一ツノ主素ヲ成ス
 コト認メザルヲ得ザルコトナレナリ。(ナホ、コノ事ニツキテハ、第四編ニ
 七及ビ第五編ヲ参照スベシ。)
 之ニ依リテ、カクノ如キなり^レたり^レヲ、準從素[○]モシクハ、繋合的從素[○]トイヒテ、從
 素ノウチニ數フベキナリ。

三。單文、複文、及ビ、擬單文。

文典上ニイフ「文」スナハチ單位文ノ如何ナルモノナルカニツキテハ、既ニ前二節ニヨリテ明ナルベシ。サレバ、モシ、カクノ如キ文二ツ以上ヲ集合セシムル時、例ヘバ、「あめ ふる。かぜ さむし。」ノ如クイフコトアル時ハ、固ヨリ、二ツノ文「スナハチ單位文」ノ集合ニシテ、一ツノ文ニアラザルコト論ナケレドモ、複雑ナル人ノ思想ヲ言ヒアラハスニハ、種々ノ關係ヨリ、カクノ如キ二ツ以上ノ文ヲ一ツニ繋ギツケテ一ツノ形ヲ取ラシメ、又、實際ノ思考上ニモ之ヲ一ツノ單位思想ニ準ジタルモノトシテ思念スルヲ便トスルコトアリテ、コトニ、單位文ノ範圍ハ擴張セラレ、純粹ナル單位文ト之ニ準ジタル文トヲ包含スルコトナレリ。

カクノ如クニシテ、「あめ ふる」「かぜ さむし」とも「きたる」とも「きたらず」ノ如キ單位文ニ對シテ、

- あめ ふり、かぜ さむし。
- あめ ふり て、かぜ さむし。
- かぜ さむけれ ど、とも は きたれり。

複
文
文

ノ如ク、廣義ノ單位文ニ入ルベキモノハ、吾人ノ思考言語ノ上ニ現ハル、ヲ常トスルガ故ニ、純粹ナル單位文ヲ單位トイヒ、カ、ル文ヲ複文トイヒテ相別ツベキ必要ハ、コトニ起レリ。

カクノ如クニシテ、複文起ルコトナレバ、被述部モシクハ述定部ヲ等シウスル單位、例ヘバ、

- 甲 こゝに きたる。
 - 乙 こゝに きたる。
 - 丙 こゝに きたる。
- モシクハ、

- われ 史料 を よむ。
- われ 論文 を かく。
- われ 論文 を かゝ ず。

ノ如キ單文ニ對シテ、

甲　こゝにきたり、乙　こゝにきたり、丙　こゝにきたる。

甲　も　こゝにきたり、乙　も　こゝにきたり、丙　も　こゝにきたる。

等ノ如ク又、

われ　史料　を　よみ、われ　論文　を　かく。

われ　史料　を　よみ　て、われ　論文　を　かく。

われ　史料　を　よめ　ど、われ　論文　を　かゝ　ず。

等ノ如キ複文ヲツクルコトノ代リニ、其ノ等一ナル被述部モシクハ述定部ノ重複ヲ避ケムガ爲ニ、其ノ文形ヲ縮約シタル、

甲　乙　丙、こゝにきたる。

甲　乙　あよび　丙、こゝにきたる。

甲　も　乙　も　丙　も、こゝにきたる。

ノ如ク
甲　と　乙　と　丙　と、こゝにきたる。

われ、史料　を　よみ、論文　を　かく。

われ、史料　を　よみ　て、論文　を　かく。

われ、史料　を　よめ　ど、論文　を　かゝ　ず。

擬單文

ノ如キ文形ヲツクリ、カクノ如キ思想ヲ構フルコトアルニ至ル。カクノ如キモノハ、其ノ産出ノ歴史ニ於テ、複文ノ省約セラレタルモノニ過ギザレドモ、一旦斯クノ如キ文形ヲ成シ、斯クノ如キ思想ヲ立ツルニ至ル時ハ、構想的結合ノ關係ニ於テ、大ニ複文ト等シカラザルモノアリテ、却ツテ單文ノ形式ニ近ヅキタル性質ヲ有シ、其ノ性質ヨリシテ、之ヲ擬單文ト呼ビ、明ニ複文ト相別タザルベカラザルモノヲ成スニ至レリ。(本編六連語法ノ條參照)コノ故ニ、吾人ハ、文ニ單文複文擬單文ノ三形式アリトシテ、單位文ノ形式上ノ種類ヲ認ムベキナリ。

凡ソ、想素的分解ヲ施スニ、複文ハ、マツ、其ノ原形ノ單位文ノ數程、文形ヲ成セ

ニシテ、其ノウチ關係ノ思念ハ必ラズ、他ノ思念ニ附帶シテ起ルベキモノナレバ、(ソガ語トシテノ單位以下ニアル時、スナハチ一種ノ語根トシテ立ツ場合ナラズシテ)單位語トシテ立ツモノトモ、他種ノ思念ニ附帶スル場合ヲ想像スルニアラザレバ、獨立ニ其ノ思念ヲ思ヒ浮ブルヲ難シ。コノ故ニ他種ノ語ニ附帶スル場合ヲ想像スベキ手繋リナクシテハ、其ノ語ハ其ノ意義ヲ人ニ通ジ得ベカラズ。之ニ對シテ、物ノ思念作用ノ思念形状ノ思念ノ類ハ、其ノウチニ種々ノ階段ハアレド、要スルニ他ノ思念ヨリ獨立ニ其ノ思念ヲツクルヲ難カラズシテ、他種ノ語ニ附帶スル場合ヲ想像スルヲナクトモ、其ノ語ハヨク其ノ意義ヲ人ニ通ジ得ベキナリ。例ヘバ、けふのつちをふりぬのをぬノ如キハ、○○の○○を○○ぬの如ク他ニ附帶スルヲ想像スルヲナクシテ、其ノ意義ヲ獨立ニ思念シ得ベキモノニアラザレバ、故ニ、全ク其ノ語ヲ獨立ナラシメテハ、其ノ意義ヲ人ニ通ジ得ベカラザレドモ、あめふるつよしうるほす等ノ思念ハ、其ノ間ニ種々ノ階段アルヲハ明ナレド、其ノ語ガアラハス意義ヲ獨立ニ思念シ得ベキガ故ニ、全

「こと」
「言」
「てにをば」
「辭」

ク其ノ語ヲ獨立ナラシムルモ、其ノ意義ヲ人ニ通ジ得ベキガ如シ。

カクノ如クニシテ、スベテノ語ハ、マヅ(甲)全ク獨立ナラシムルモノホ、語義ヲ人ニ通ジ得ベキ性質ノ語、スナハチ「物」作用「形状」ノ類ノ思念ヲアラハス語ト、(乙)全ク獨立ナラシムル時ハ、語義ヲ人ニ通ジ得ベカラザル性質ノ語、スナハチ「物」作用「形状」等ニツキテノ或ル關係ノ思念ヲアラハス語トノ二種ニ別ツヲ得ベシ。コノ全ク獨立ナラシムルモノホ、語義ヲ人ニ通ジ得ベキ性質ノ語ヲ「こと」スナハチ「言」トイヒ、全ク獨立ナラシメテハ、語義ヲ人ニ通ジ得ベカラザル性質ノ語ヲ「てにをば」スナハチ「辭」トイフ。コノ區別ハ、意義及ビ用法ノ上ヨリ見テマヅ知得セザルベカラザル最初ノ分類トシテ、最重要ナルモノナリ。(「てにをば」ハ、其ノ名稱ノ起源ヨリイヘバ、甚狭キ範圍ノモノナレド、今ハ、文典ヲトナレルナリ。然ルニ、術語ノ語義ノ發展ヲ遺レテ、原始的意義ヲ執ツ、以ツテ、トカクノ論ヲ成ス人アリ。過テリトイフベシ。)

コ、ニ、關係ノ思念トイフハ、上例「の」を「ぬ」等ノ如キ語ニアラハサレタル純粹ナル關係其ノモノノ思念ニテ、カタノ如キモノヲ概括シタル上ニ立テタル思念、スナハチ「關係」因果の關係「ナドイフ言語」ノ語義ガ示ス如

キ思念ヲイフニハアラザルコトヲ、ヨク注意スベシ。何トナレバ、コノ「關係」トイフ語ノ類ハ、關係トイフモノトシテ思念セラレタルモノニシテ、却ツテ廣義ノ「もの」ノ思念類ニ入リ、全ク言ノ種類ニ屬シ、コノ「イフ」所トハ別ノモノナレバナリ。

スベテ言語及ビ思念ノ研究ニアリテハ、思念ノ性質ハ、皆思考ノ立テ方ニヨリテ定マルモノニシテ、ツノ言語ニアラハサレタル思念ノ性質ニ至リテハ、一ニ其ノ言語ノ語義用法ニヨリテ斷ゼラルベキモノナリト知ルベシ。何トナレバ、同ジ物件ニツキテノ思念モ、人ノ思念ハ、人々時々場合場合合ハ思ヒ取リ方ニヨリテ左右セラルベキモノニシテ、必シモ常ニ一定ノ形ヲ成スベキモノニアラズ、而シテ人ノ言語ハ、或ル一定ノ約束ノ下ニ其ハ思念ノ表白セラレタルモノナレバナリ。

「はたらき」
〔活用〕

次ギニ、ワガ國語ニテハ、語ニ「はたらき」〔活用〕トイフコアリテ、語ニヨリテ、其ノ「はたらき」ヲ有スルモアリ、有セザルモアリ。例ヘバ、上例中ニモアリタル、作用ノ思念ヲアラハス言ノ「ふる」ハ、ぬノ如キ辭ニ言ヒツヅケラル、時ニハ、ふ

り、ぬノ如ク「ふ」トナリ、む「ず」ノ如キ辭ニ言ヒツヅケル時ハ、ふらむ「ふらず」ノ如ク「ふ」トナリ、どノ如キ辭ニ言ヒツヅケル時ハ、ふれどノ如ク「ふれ」トナル類、コレスナハチ「はたらき」ニテ、スベテ單位語ガ文ノ單位トシテ他ハ語ニ言ヒツヅケラル、關係ニテ、其ノ語形ヲ變化スルヲイフナリ。然ルニ「あめ」「かぜ」ともノ如キハ、文ノ單位トシテ立ツニ方ツテ、如何ナル言ヒツヅケノ場合ニモ、カヽルコトナシ。但シ「あめ」「かぜ」ノ如キハ「あま」「かざ」ともノ如ク、他ノ語ト合シテ一語ヲ成ス時ニ、語形ヲ變ズルコトアレドモ、其ハ文ノ單位トシテ立ツ言ヒツヅケノ場合ニ起ル變形ニハ、アラズシテ、くも「ナド」ノ語ト複合シテ、一ツノ新シキ單位語ヲ成ス場合ニ於テ、起ル變形ナレバ、全ク別ナリ。（本編五）辭ニモ、コノ「はたらき」ノアルモノト、無キモノトアリ。上文ノ例ナル「の」を「ど」ノ類ハ、はたらき「ナキモノナリ。サレド、ぬ」「む」「ず」ノ如キハ、はたらき「アルモノニテ、或ル物ノ思念ヲアラハス言ニ言ヒツヅケラル、時ハ、ふりぬるあめ「ふらぬ」とき（む）ノ場合ニハ、別ニ變形セズ。（あ）ノ如ク、ぬ「ハ」ぬる「ト」成リ、ず「ハ」ぬ「ト」ナリ、又辭「ど」ニ言ヒツヅケラル、時ハ、ふり

ハ「ゆく」「いつた」「いかう」又ハ「ゆかう」ノ如ク言ヒ「ゆく」トイフ思念ニソフ種々ノ關係的意義ヲアラハス語ガ殆ンド分離スベカラザルモノトナリ又「わたくし」「私」トイフ思念ニ關シテ同ジク「わたくしや」「あ」「わたくし」ハ「わたくしよ」を「わたくし」を「わたくしん」又ハ「わたくし」に「如ク言ヒ「わたくし」ニソフ種々ノ關係的意義ヲアラハス語ガ殆ンド分離スベカラザルモノノ如クニナレルトヤ、相似タルモノナルナリ。而シテ、ワガ國語ノ「はたらき」トイフモノハ、本文ノ如シ。決シテ、混淆スベカラズ。

五。語根、語幹、根辭、及ビ、複成語。

語ガ、語根スナハチ語ヲツクル根ヨリ成リ出デタルモノナルヲ、及ビ、語根ガ語ヲ成スニハ、一ツノ語根其ノマ、ナルモアリ、二ツ以上ノ結合ナルモアルヲハ、既ニイヘル所ナルガ(一)語根ノ研究ハ、イマダ開ケ居ラザルヲ以ツテ、今ノ學界ノ狀態ニテハ、如何ナル人モ、スベテノ語ニツキテ語根上ノ明確ナル解説ヲ與フルヲ能ハザレドモ、研究ノ適當ナル方針トシテ、何人モ非議スルヲ能ハザルベキハ、多クハ單位語ノ對比ニヨリテ分解シ得ラル、ダケ分解

シタル終局ノモノヲ以ツテ語根ト見做スベキトニシテ、其ノウチニハ、元來語根トシテ立ツモノナレド單位語トシテモ使用セラル、トアルモノ、例ヘバ、形狀ノ名トシテ「しろ」「くろ」「き」「黄」「あを」「青」「はや」「あそ」と「ほ」「ちか」「なが」「ほそ」ノ如キモアリ、又分解シ難キガ故ニ語根トシテ認ムベキモ、寧ロ、始メヨリ單位語トシテ成立シタルモノナルベキ感ヲ起サシムルモノ、例ヘバ「ひ」「つき」「ほし」テ「あし」ノ如キモアリ、語根トシテハ「し」立チ、語ヲ成ス「ナキヨリ、特別ナル分解ヲ加フルニアラザレバ、明ニ其ノ語根タルヲ認メ得ベカラザルモノ、例ヘバ「なる」「成」「なす」「成」「の」「なる」「乗」「のす」「載」「の」「の」ノ如キモアリ、又同ジク特別ナル分解ノ下ニ「ミ」「認」「メ」「ラル」「ベキ」「モノ」「ニテ」「前例」「なる」「なす」「る」「す」「ナドノ如ク、他ノ語根ニソヒテ單位語ヲ成スヲ常トスル補助ノ語根モアリ。コノ補助ノ語根ニハ、「さ」「よ」「夜」「さ」「ゆり」「百合」「み」「やま」「山」「み」「くに」「國」「等」「の」「さ」「み」ノ如ク、上ニソフモノト「と」「つ」「くに」「外」「國」「あま」「つ」「かみ」「天」「神」「み」「な」「かみ」「水」「な」「上」「た」「な」「ご」「ろ」「手」「な」「心」「掌」「の」「つ」「な」「如ク、中ニソフモノト「き」「よ」「清」「ら」「き」「よ」「さ」「し」「ら」「白」「む」「む」「寒」「し」「等」「の」「ら」「さ」「む」「し」ノ如ク下ニソフモノト別チアリ。カ、ルモノヲ「ね」

「はてにをは」
冠性根辭
接合性根辭
履性根辭

てにをは(根辭)トイヒ、上ニソフヲ冠性根辭トイヒ、中ニソフヲ接合性根辭トイヒ、下ニソフヲ履性根辭トイフ。(コノウチ、接合性根辭ハ、單位語ヲ成スモノニツテ、ル單位語ハ、純然タル單位語ニアラズシテ、接合シテ一語トスルモノナレバ、之ニ依リテ成レ今、下文ニイフ熟成語ヲ成スモノナリ。)世ノ語學書ニ、コノ冠性根辭ヲ接頭語トイヒ、履性根辭ヲ接尾語トイヒテ、單位語ノヤ、相似タルモノト混淆シテ、語(スナハチ單位語)ノ種類トスルモノアルハ、其ノ研究イマダ精シカラザルナリ。コノ根辭ヨリシテ單位語ヲ分解スルハ、語根研究ノ手始めニシテ、マダ、比較的容易ノ事ナルヲ以ツテ、特ニ造語法ヲ攻究スルニアラザルマデモ、單位語ト語根トノ關係ヲ知ル上ニ於イテ、マヅ、カ、ルモノアリトシテ、其ノ名目ヲ暗ンズベキ必要アルモノナリ。

コノ根辭ノウチ、接合性根辭ハ、語ト語トヲ接合シテ新語ヲツクル爲ノモノナレバ、暫ク之ヲ措キ、冠性根辭モ、元來、語ヲ成セルモノノ上ニノミソフベキモノニテ、多クイフベキコナケレド、履性根辭ニ至リテハ、全ク之ト異ナリ、造語法上最注意スベキ性質ヲ有スルモノニシテ、多クノ語ハ、實ニ、ソノ補助ニヨリテ生産スルモノニテ、ソガソフベキ幹部タルモノハ、語根・モ

語幹

シクハ、語ノ語根ニ準ジテ取り扱ハレタルモノニシテ、之レニ添加スル根辭ニ對シテハ、スベテ、之ヲ語幹トイフ。其ノ、語根ヲ以ツテ語幹トスルモノトハ、上ニ例示シタル「きよら」「しらむ」等ノ如キモノナリ。語ノ語根ニ準ジテ取り扱ハレタルモノトハ、「おつ」「落」トイフ語ヲ語根ニ準ジテ之ヲ語幹トシ、履性根辭ナル「す」「ラソ」ヘテ「おとす」「トイフ語ヲツクリ、いま」トイフ語ヲ語根ニ準ジテ語幹トシ、之ニ「めく」「テ」履性語辭ヲソヘテ「いまめく」「トイフ語ヲツクリ、或ハ更ニ之ヲ語根ニ準ジタル語幹トシ、之ニ他ノ履性根辭「す」「ラソ」ヘテ「いまめかす」「トイフ語ヲツクルガ如キモノナリ。コノ語幹トナルモノガ、其ノ、語根・モシクハ、之ニ準ジテ使用セラレタル語ノ、原形ノマ、ナルト、然ラザルトアルコトハ、一方ニ「しろし」「おとなめく」ノ如ク原形ノマ、ナルモノアルニ對シ、一方ニ「しらむ」「おとす」ノ如キモノアルニテ知ルベシ。コノ語幹トイフ名稱ハ、マダ、冠性根辭ヲ有スルモノノ幹部タル語ノ上ニモ、便宜上、通ジテ使用セラルベキナリ。何トナレバ、カ、ル語ハ、語根ニ準ジテ取り扱ハレタルモノニハアラザレドモ、補助ノ根辭ニ對シテツ

複成語

クリ出サルベキ新語ノ幹部タルコニ於イテ、異ナル所ナケレバナリ。
單位語ノ成立ニハ、マタ、純粹ナル單位語トシテ認ムベキモノスナハチ、今説
明シタル例ノ如キ造語法ノモノニ對シ、之ニ準ジタル單位語トシテ、複成語
ト呼ブベキモノヲ成ス造語法ヲ有ス。複成語トハ、切り離セバ、二ツ或ハ二
ツ以上ノ單位語ヲ成スヘキモノガ、複合シテ一語ヲ成スニ至レルモノニシ
テ、(但シ、接合性根辭ハ、モト複成語ヲ成スベキ根辭ナルガ故ニ、切り離シテ單位語ヲ成スモノノ例外ナリ。)其ノ造語法上ノ關係ニヨリテ、
之ヲ大別シテ、熟語連語トシ、更ニ其ノ熟語ヲ別ツテ、熟成語團成語ノ二種ト
スベシ。

熟語

熟成語

熟語トハ、或ル一ツノ物象作用等ノ思念ヲアラハス複成語ニシテ、其ノウチ、
熟成語トイフベキハ、其ノ造語法モ、緊縮シテ、殆ンド純粹ナル一語ト撰ブ所
ナキマデニ熟成シタルモノニシテ、其ガナカニハ、接合性根辭ニヨリテ成レ
ル上例ノ「とつづくに」「たなごころ」如キモノト、しらす「白木」やまがは「山川」よ
ざむ「夜寒」まちどほ「待遠」きばむ「黄喰む」めたつ「眼立つ」こころ「やり」心遣り
ノ如キモノトアリ。(複成語ノウチ、コノ熟成語ハ、最、純粹ナル單位語ニ近キモノニシテ、カ、ル見地ヨリイヘバ、熟語ト連語トハ、遠ニ相距ル所アルモノナリ。)

團成語

連語

リ。或ハ根辭ヲ取り、或ハ上ノ語形ヲ變スル類ノ事アルニテモ、概見スベシ。(蓋シ、本來的ノ複成語ニテ、他ハ之ニ準セラレタルモノナルナリ。)團成語トイフベ
キハ、其ノ造語法、散漫ニシテ、別々ノ單位語ノ團成シタルコト、甚顯著ナルモ
ハニシテ、ふじの「やま」東郷平八郎「九郎判官」源三位「頼政」内閣總理大臣「秘
書官」まごの「て」麻姑手「さる」の「こしかけ」猿腰掛「菌」一種ノ如キモノヲイフ。
連語トハ、元來、一ツノ思念ヲアラハスニハ、アラザル、全ク別々ノ語ナレドモ、
語形上ノ約束ヨリ、一語ノ如ク、思念セラル、ニ至レルモノヲイフニテ、ひと
ひと「つぎつぎ」ノ如ク、同ジ意義ノ物ノ重ナレルト、(タゞ、意義ヲ強メモシクハ、弱ム
イフモノニテ、究極スル所、一ツノモノ一ツノ形状ヲアラハスモノナルハ、連語ナリ。)「あめつち
成サズシテ熟成語ヲ成ス。」「みなく」もろく」ひとりく」唯一人ノ如シ。」「やまか
は」ゆき」陰陽「優劣」強弱「兄弟」姉妹ノ如ク、或ル關係ニヨリテ對照
セラレタルモノノ結合セルトアリ。

六。 叢語、訛成叢語、及ビ擬語法。

複成語ニ似テ、復成語ヲラザルモノ、例ヘバ、たしか、ちて「たしかひて」す
ん「て」す「み」て「如ク、マタ、ひ」ち「得ル義」ひ「こころむ」(言ヒ
ムル義、マタ、言フコトヲ試ムル義)ノ如キモノアリ。吾人ハ、屢、斯クノ如キモノニ接ス。而シテ、

叢語

吾人ハ、マヅ、カクノ如キモノノ性質ヲ知ルニアラザレバ、語句ノ研究上、常ニ
 明確ナル概念ヲツクルコト能ハザルモノアリテ、カクノ如キモノヲ知ラムニ
 ハ、叢語トイフモノニツキ、擬語法トイフコトニツキテ知ル所ナカルベカラ
 ズ。

叢語トハ、叢レル語トイフ義ナレドモ、タゞニ片々ノ語ノ叢レルヲイフニア
 ラズ、或ル單位文ノ一部分ヲ成スベキ語ノ叢リヲイフニテ、一文素ニ當ルベ
 キモノヲモ、一成述部ニ當ルベキモノヲモ、其以上ノモノヲモ、以下ノモノヲ
 モ、便宜上、タゞ語ノ叢リトシテ指呼スベキ必要アル時ハ、名目ナリ。サレバ、
 普通ノ叢語ハ別ニ論ナキコトナレド、或ル關係ニヨリテ其ノ叢語上ニ特殊ノ
 變化ヲ起シ、タゞチニ原形ニ復スベカラザルニ至レルモノニアリテハ、研究
 上、特ニ叢語トシテ之ヲ措置シ、然ル後ニ、其々特有ノ條件ニ依リ、原形ニ溯ッ
 テ、一語一語ノ解剖ヲ施ストセザルヲ得ズシテ、特別ノ注意ヲコシ、ニ集メ
 ザルベカラザルコトナル。カ、ルモノノウチ、最多ク起ルハ所謂「音便」トイ
 フモノノ語ト語トノ言ヒツマケノ上ニ起ル場合、スナハチ、たゝかひ てラ



訛成叢語

「たゝかひ」て「たゝかひ」て「た」ドイヒ、すゝみ て「すゝん」て「トイヒ、け(蹴)
 て「けつ」 て「トイフ」ガ如ク、其ノ音便ノ變形ヲ改ムルニアラズンバ、一語
 一語ノ原形ニ復シ難キモノナリ。(一文素ヨリ他ノ文素ニツマク場合ノモノ、(スナハチ)つゝ、ひびくノ如キモノ、之ニ準ジテ見ル)

「ゆか、む、ずる、しな、む、ずる、とさ、かならず、しな、む、ず等ノ
 こと」
 あたは、ず、あたは、ず、如ク、語形ノ縮約等ヨリ來リタル一種ノ慣用例ニ
 ヨリテ、今ハ、其マ、ニテ一語一語ノ原形ニ復シ難キモアリ。(今ノ口語ニハ、此ノ外ノ變形ニヨリテ成レル、特別ノ叢語極メテ多シ。上節四ノ本註ニイヘル、(つゝ) マタ、語形ノ

たへ、なき、けしからぬ、如ク、語ト語トノツマキ合ヒノ間ニ特別ナル意
 義ノ訛リヲ有スルニ至レルモノニテ、其ノマ、一語一語ニ取り離スモ意義
 通ジ難キニアラザレド、其ノ叢語ナル場合トハ、異ナルモノトナル類モアリ。
 カクノ如ク、慣用上ノ特別ナル性質ニヨリテ、直チニ一語一語ニ解剖スベカ
 ラザルニ至レル叢語ヲ訛成叢語トイフ。(所謂枕詞ノ類ノ、二語以上ヨリ成レルコトハ明ナルモ、其ノ語源明ナラズシテ輕々

シク分解ナ加フベカラザルモノ如キハ、後日ノ研究ニヨリテ分明ナルニ至ルベカラムモノナレド、暫ク訛成叢語ヲ以ツテ論ズベキナリ。マタ、所謂枕詞ナラサルモノニテモ、其ノ語源ノ明ナラザルヨリ、ホゞ二語以上ノ結合ナリトハ覺ユレド、殆ンド解剖スルコト能ハズシテ、而モ一語ノ如ク使用セラル、モノハ暫ク一語ヲ以ツテ論ズベシ。上例ノ「かならず」如キモ、マタ、其ノ一例ヲ成スモノナリ。

套語
套語法
擬語法

蓋シ、吾人ノ言語中、慣性上、或ル特別ナル場合ニ使用セラル、常套ノ語句モシクハ叢語アリ。吾人ハ之ヲ呼ンデ套語トイフ。訛成叢語ハ、畢竟語形モシクハ意義ノ上ニ訛性ヲ帶ビ來レルガ故ニ、直チニ一語一語ノ本態ニ還源スベカラザルニ至レル、叢語ノ套語ナリ。カクノ如ク、慣性ニヨリテ訛性ヲ帶ビシムル言語ノ變化ヲ套語法トイフ。套語法トハ或ル言語ノ上ニ、還源スベカラザル、套語的慣性ヲ帶ビシムル用法ノ義ナリ。コノ套語法ノ外ニ、擬語法トイフベキ特殊ノ用法ノ、マタ、廣ク言語ノ上ニ行ハル、モノアリ。

擬語法トハ一文素モシクハ二ツ以上ノ文素ヲ成スベキ叢語文ハ句(スナハチ文形ヲ成セルモノ)モシクハ句ノ叢リヲ一語ニ擬シテ文ヲ構成スル素材タラシムルヲイフ。蓋シ文ハ文ノ主素タリ得ベキ或ルもの(モシクハ之ニ

準ジテ思念セラレタルモノ)ヲアラハス語ト、其ノ作用形状(モシクハ之ニ準ジテ思念セラレタルモノ)ヲアラハス語トノ構想的結合ヲ成スニヨリテ成ルモノニシテ、其ノ構想的結合ヲ成スニツキテノ種々ノ關係ヲアラハス語タル辭ハ、之ニ添加シテ其ノ補助ノ用ヲ成スモノナル、既ニイヘルガ如クナルモノナレバ、元來一ツノ文素ヲ成スベキモノハ、或ルもの(モシクハ或ル作用形状)ヲアラハス語(スナハチ言一ツナルカ、或ハ之ニ、或ル辭ノソヘルモノ)ナルカ、一ニ居ルヲ以ツテ原則トスベキモノナルナリ。例ヘハ前節ニイヘル、

- あめ つよく ふる。
- よき とも さたる。
- けふ の かげ は いと さむし。
- あめ つち を うるほす。

等ニ於イテ「もの」ノ思念ヲアラハス「あめ」とも等ガ、一言ニテ主素ヲ成シ、作用ノ思念ヲアラハス「ふる」「さたる」「うるほす」形状ノ思念ヲアラハス「さむし」等

普通ノ擬語法

ノ如キ文ヲ認ムルヲ多カルベシ。コノ「ゆき」たる(元來從素ヲ成スベキ叢語、ゆきモ)「あめ」にぬれたる(主素ヲ成スベキ、あめに)「たると」(從素ヲ成スベキ、ぬれたり)「合タル」(主素タル、あめ)「あめ」(從素タル、ふる)「結合シテ、單文ナリ」(「あめ やみ、かぜ いづる(「あめ、やむ」テフ句ト「かぜ、いづ」テフ句トノ合成)等ハ、皆一文素以上ヲ成ス叢語モシクハ一文形以上ヲ成ス句ニテ、會テカ、ル文素ヲ有スル文、モシクハカ、ル句ノ文ヲ操縦シタル「アアル」經驗ヨリ取りテ、一語ニ擬シタル性質を與ヘテ之ヲ轉用シタルモノニテ、皆普通ノ擬語法ノ例ナリ。

コノウチ「ゆき」たるハ一語ニ辭ノソヘルノミナレド、コハ本來的ニ裝定素タルベキモノニアラズシテ、從素タルベキモノノ轉用セラレタルモノナレバ、ナホ擬語法トシテノ轉用ノ例ヲ成スモノナリ。(凡ソ本來的ニ裝定素タルベキモノハ下ニ辭、の「が」が「アソ」ヘル叢語ナルカ、然ラザレバ、形狀チアラハス語、(語根其ノマ、ニ一語ヲ成スモノ以外ニテ)ノ語尾、音ナルモノニ限ルモノナリ。他ノ裝定素ハ皆、コノ擬語法ナリト知ルベシ。)

スベテ作用ヲアラハス語ハ、本來的ニ裝定素タルヘキモノニアラズシテ、作用ノ名ノ義ナルモノノ外、皆文ノ從素タルヲ以ツテ本性トスルモノナリ。然レドモ、作用ヲアラハス語ガ、一語ニテ文ノ從素ヲ成シ、成述部ヲサヘニ成

ス「アアル」ハ前節以來ノ例ニテ明ナルガ如クナルヲ以ツテ、(例ヘバ「あめ、ふる」ニ同時ニ成述部)作用ヲアラハス語ハ、其ノ一文素タリ一成述部タル資格ニヨリテ、タマ一ツノ語ニテモ、擬語法ニ依リテ、裝定素ニ轉用セラル、「アアリ」例ヘバ、

ゆく ひと おほし。
 みる あめ を みる。

ノ如シ。タマニ「ゆき」たるノ如キモノニ限ラザルナリ。此等ハ擬語トイフ名目ノ上ヨリ見テ、頗ブル異様ノ感ヲ與フベキモノナレド、其ガ一語ニシテ而モ一語ノ資格ナラザルヲ思ヘバ、マタ、怪シムニ足ラザルヲ知ルベシ。コレ、擬語法ノ會得上、特殊ノ注意ヲ要スル事ナリトス。

コノ擬語法ハ、必シモ、裝定素トシテ起ルモノニハアラス。マタ、限定素主素等トシテ起ル「アアリ」。マヅ、其ノ限定素トシテ起ルモノノ例ヲ擧グレバ、

すこし も よどま ず いひ とき たり。
 やゝ つよく うち つけ たり。

砲丸 あめ より しげく とび きたる。

ノ「すこし」も「よどま」ず「やゝ」つよく「あめ」より「しげく」ノ如キモノ、コレナリ。
（「形状」ヲアラハス語ハ、語尾ノ「ク」音ナル場合ニ於イテハ、本來的ニ限定素タルベキ場合ト「作用」ノモノナル場合ノ如ク、一語ナルモ、ナホ從素モシクハ、述部タル資格ヲ持スルモノヨリ轉用セラレテ、此ノ擬語法ヲ成ス場合ト互ニ混在スベクハ、述部タル特殊ナル條件ヲ示スモノトシテ、殆ンド識別ノ途ナキヲ以ツテ） 或ル特殊ノ條件アル場合ナド、スベテ、本文ノ如シタル場合モ、スベテ、之ニ準ジテ知ルベシ。
（「擬語法」ニテ、添フベキ辭ヲ省ク類アリト知ルベシ。） 其ノ主素トシテ使用セラ

屢、他ノ場合ニ使用セラル、モノナリ。
（凡ソ、文語ニ於イテハ、もの「思念」ヲアラハナモノヲ呼ビ懸ケ呼ビ出ス様ニ使用セラル、場合ノ外、皆、或ル特殊ノ辭ヲ添附シテ、或ル文語ナ成スヲ通則トス。但シ、文及ビ呼ビ懸ケ呼ビ出シニ使用セラル、モノニテモ、必要ニ應ジテ辭ヲ添附スル場合モアリ、其以外ノモノニテモ、コノ下ニイ） 其ノ主素トシテ使用セラレ、モノハ、例ヘバ、
うまるゝ、あり、しぬる、あり。

みをそこなふをかなしむ。

こ うまるゝを よるこぶ。

よ(夜)の ふくる に したがひ て、いと さびし。

へびの みづを わたる を み たり。

ひとの 西洋 に おもむく を おくる。

ノ「うまるゝ」「しぬる」「み」を「そこなふ」「こ うまるゝ」「ふくる」「みづ」を「わたる」「西洋」に「おもむく」ノ如シ。此等ハ、皆、口語ニテ、ものニ準ジタル力ヲ保タスル「の」「スナハチ」「ゆく」の「も」あり、かへる「の」も「ある」ノ「ヲ」ヘテ俗譯スベキモノナリ。
（「形状」ヲアラハス語ニテモ、「よき」を「とり、あしき」を「すつ」「よき」「あしき」ノ如ク、コノ同ジ種類ノ用法ヲ成スモノハ、皆、從素ヲ成スベキモノナリ。） コノ「ヲ」ヘテ俗譯スベキニアラザルモノニテハ、

「あり」と「こたふ」。

そのひと きたら ず」といひ おこし たり。

ノ如ク、他ノ語句ヲ文中ニ取り入レテイフ場合ニ起ルモノアリ。カクテ、所

謂引用ノ語句ト稱セラル、モノハ之ヲ入ル、本文ヨリ見テハ皆、コノ擬語法ニヨリテ、一ツノ「もの」ノ思念ヲアラハス語ニ比擬シテ使用セラレ、之ニ添附セラル、辭トノ補助ニヨリテ、一ツノ主素トシテ立ツニ至レルモノナリト知ルヘシ。(「形状」ノ思念ヲアラハス語ノ、從素タリ、或ハ、他ノ文素ト結合シテ述部ヲ成トナル「ク」ノ語尾ヲ持シテ、境遇的ニ「もの」ノ思念ヲアラハス意義ト成リ、主素タルモノトシテ立ツベキ擬語法ヲ取ル「アリ」コレモ、マダ、コノ「イフ」ノ「チソヘテ俗譯スベキモノトハナラズ。例ハ「おほく」ハ偽物ナリ「それ」ヨリ「おほく」ヲ「あたへ」たり「おほく」それヨリ「おほく」如シ。此等ハ「おほく」の「それ」ヨリ「おほく」の「もの」ヲ「義ト成ルニテ、上ノ」思念ヲ成スベキ様ニ轉用セラレタルモノナリ。)

「ゆかむ」のころなし。

「小隊 すしめ」の號令をくだす。

「あめ ふり て つち かたまる」の ことわざ を おもへ。

ナドノ「ゆかむ」小隊 すしめ「あめ ふり て つち かたまる」ナドノ如キモノニテ「もの」ノ思念ヲアラハス語が「ひと」の「ころ」うま の たぐひナドイフ場合ニ、辭「の」ノ添加ヨリテ裝定素ヲ成スニ準擬セラレタルナリ。』

擬體法

カクノ如クニシテ、擬語法中「もの」ノ思念ヲアラハス語ニ比擬セラル、擬語法ヲ特ニ標出シテ擬體法トイフ。擬體法トハ「もの」ノ思念ヲアラハス語ハ、前節(四)ニイヘル體言ノ主タル部分ヲ成スモノナルニ依リ、體言ニ擬スル用法ノ義ヲ以ツテイフナリ。

以上之ヲ「單ニ單位語ニ比擬シテ轉用セラレタル擬語法」トス。而シテ、此等ノ中、一文素ヲ以ツテ其ノ擬語法ヲ成スモノハ、(一文素ニテ直チニ成述部ヲ法ヲ成スモノ)性質上、純粹ナル單位語ニ當ルベク、二文素以上ノ結合ヲ以ツテ其ノ擬語法ヲ成スモノハ、性質上、團成語ニ當ルベキモノナリ。サレド、特ニ其ノ間ノ區別ヲ立テムハ、次ギニイフ「單位語ノ造語法ニ擬議セラレタルヨリ來ル擬語法」ニ於ケル「擬連語法」「擬熟語法」ノ別チノ如ク、必要ナルモノニアラズシテ、言語ノ研究上、却ツテ、擬體法ト然ラザルモノトノ區別ヲ立ツルヲ必要トス。

「單位語ノ造語法ニ擬議セラレタルヨリ來ル擬語法」ニハ、連語ノ造語法ニ擬シタル、或ル關係ヲ以ツテ成ル擬語法ト、熟成語ノ造語法ニ擬シタル、或ル關

擬連語法
擬熟語法

係ヲ以ツテ成ル擬語法トアリテ前者ヲバ擬連語法トイヒ、後者ヲバ擬熟語法トイフ。

其ノ擬連語法ヲ成スモノハ元來ニツ以上ノ別々ノ文モシクハ複文ヲ成スベキ句ノ成述部ノイヅレカモシクハ其ノウチノ或ル文素ガ同一ナル場合ニ之ヲ省約セムトスルニ方ツテ同一ナラザル方ノ諸成述部ヲ一種連語的ノ緩キ一團トシテ之ヲ一語ニ擬スル構想的結合ヲ成スモノナリ。
(上節三條ヲ參照) 例ヘバ、

甲 乙 丙 きたる。

甲 たち て まふ。

ノ「甲」乙「丙」たつまふガ其々ニ連語ニ擬議セラレタル用法ヲ成シテ其々ノ文ニ於ケル構想的結合ヲ成スガ如シ。カ、ル場合ニ於イテ一團結ヲ成スベキ各成述部ガ一語以上ノ文素モシクハ二ツ以上ノ文素ニテ成ル時ハ上ニイヘル普通ノ擬語法ニヨリテマヅ之ヲ一語ニ比擬シ更ニ此等ヲ連語ニ擬議シタル一團トスルコナルヲ以ツテ勢ニ重ノ擬語法ガ遂行セラル、コ

トナルナリ。

たけ たかき ひと も たけ ひくき ひと も みな、こゝ
に あつまれり。

われ、古今 の 史籍 を よみ 成敗 の 機 を かむがふ。
ナドノ如キ文ニ於ケル「たけ たかき ひと も」ト「たけ ひくき ひと
も」トガ互ニ擬連語法ヲ成スベキ一團ヲ成シ、古今 の 史籍 を よみト
成敗 の 機 を かむがふトガ同ジク擬連語法ヲ成スベキ一團ヲ成ス
場合ノ如キ、スナハチ、コレナリ。

スベテ上節ニイヘル擬單文ヲ成セル文ハ必ラズ、コノ擬連語法ヲ以ツテ其
ノ成述部ノイヅレカヲ成スモノニシテ成述部ノ一方ガコノ擬連語法ヲ以
ツテ成ル文ハ必ラズ、擬單文ヲ成スモノナリ。何となれば、擬單文ハ個々別
々ノ文モシクハ複文ヲ成スベキ思想ノ成述部ノ一方ヲ等シウスルモノヲ
一文ニ縮約セムガ爲ニ、コノ擬語法ヲ取ルモノナレバナリ。而シテコレ擬
單文ガ單ニ複文ノ省略セラレタルモノト認メラルベカラズシテ、擬單文ト

(擬單文ノ性質)

シテ立ツベキ一種ノ特性アルモノトシテ認メラレザルベカラザル所以ナリトス。

其ノ擬熟語法ヲ成スモノハ、一文素ヲ成シ得ベキ語ニツ以上ヲ一種熟成語モシクハ團成語ニ擬議シタル團結ノ一文素トシ又ニツノ文素ヲ成スベキモノヲ同ジ様ノ一團トシテ結びツクルモノニシテ其ノ二語以上ヲ熟成語的ニ團結スルモノノ如キハ殆ンド熟語モシクハ連語タルガ如キ感覺ヲ與フベキ極メテ密接シタル關係ヲ有スルモ全ク或ル構想的結合ヲ成ス場合ニ於イテノミ隨時ニ團結スルノミナラズ明ニ別々ノ語トシテノ概念ヲ支持シテ操縦セラル、點ニ於イテイマダ複成語ノ境ニ達セザルモノナリ。

其ノ二語以上ヲ熟成語的ニ團結スルモノノ例ヲ舉グレバ、

- ゆき 5 (ホ、^ホゆき^を立テ方ハ同ジカラズト知ルベシ) (トイフ程ノ義ヲ成セドモ)
- ゆき つく (ホ、^ホゆき^を立テ方ハ同ジカラズト知ルベシ) (トイフ程ノ義ヲ成セドモ)
- いひ なす (ホ、^ホいひ^を立テ方ハ同ジカラズト知ルベシ) (トイフ程ノ義ヲ成セドモ)

ノ如ク上文ニイヘル「^ホいひ^を立テ方ハ同ジカラズト知ルベシ」ノ如キハ實ニ之ニ屬スルモ

ノニテ、ニツノ文素ヲ成スベキモノヲ熟成語的ニ團結スルモノノ例ヲ舉グレバ、

- こ(子) あもふ (ホ、^ホこ^を立テ方ハ同ジカラズト知ルベシ) (トイフ程ノ義ヲ成セドモ)
- はな花) みる (ホ、^ホはな^を立テ方ハ同ジカラズト知ルベシ) (トイフ程ノ義ヲ成セドモ)
- みち途) ゆく (ホ、^ホみち^を立テ方ハ同ジカラズト知ルベシ) (トイフ程ノ義ヲ成セドモ)

ノ如シ。(訛成套語中音便ニヨリテ起ルモノハ、マタ、形體上ヨリ起ルモノトイフヲ得ベキナリ。)

又、其ノ團成語ニ擬スルモノニテハ、故 井上文部大臣 故 黒川真頼翁 現

文部大臣 (もと の いま の ナドイヘハ、裝定素ヲ成ス普通ノ形式ニテ、別ノモノトナルナリ) 純粋ナル國語ニテハ、古文ニテ、めら あ が むつ かむろぎ の みこ、とナドアル「むつ」上「かむろぎ」の「みこと」トノ團結ノ「子爵 鳥尾得庵」文學博士 加藤弘之「從五位 何某」教授 何某「米庵 市川三亥」(以上ハ文素ノ團) ナドノ如キ、其ノ例ナリト知ルベシ。

七。位格、招呼法、及ビ擬呼法。

吾人ハ、既ニ、文ノ主素ニツキテ注意スル所アリタリ。同ジク主素トイフモノノウチニモ、文主トシテ被述部ニ立ツモノモアリ、其ノ對賓トシテ述定部

資格 主格 位格

ニ立ツモノモアルコトヲ見タリ。其ノ述定部ニ立ツモノノウチニモ「つちをうるほす」ノ「つち」を「如キモアリ」。「こゝ」に「きたる」ノ「こゝ」に「如キモアリ」。「さ」の「ふ」の「かぜ」より「さむし」ノ「かぜ」より「如キモアリ」。「いと」さむさむさむと「なりぬ」ひと「如キモアリ」いそがしげに「かなた」に「あゆめり」ノ「かなた」に「如キモアル」ヲ認メタリ。カクノ如クニシテ、其ノ文中ニ立ツ地位上ノ關係ニ種々雜多ナル異點ヲ有スル主素ハ、其ノ構想的結合ニ關スル研究上ノ要求ヨリ、其ノ地位上ノ關係ヲ區別スベキ必要ヲ生ズルコトトナル。依リテ、其ノ地位上ノ關係ヲ名ヅケテ、位格トイヒ、其ノ文主タルモノノ地位上ノ關係ヲ名ヅケテ、主格トイヒ、對賓タルモノノ地位上ノ關係ヲ名ヅケテ、賓格トイフ。此等ノウチニ包含セラルベキ位格ノ委曲ナル種類ニツキテハ、別ニ説クベシ。(第五編 參照)

文ノ主素タリ得ベキ語ニシテ、文ノ主素トナルコトナク、文ノ構想的結合ニ入ルコトナクシテ、而モ、言語ニ上リテ、屢吾人ノ間ニ使用セラル、モノアリ。其ノ主素タリ得ベキ語ガアラハス、ものヲ呼ビ懸ケ或ハ呼ビ出スガ如キ場

呼格 召呼法

呼ビ懸ケノ召呼法 呼ビ出シノ召呼法

合ニ其ノ語ヲ使用スルモノ、スナハチコレナリ。カクテ、コノ呼ビ懸ケ呼ビ出シニ用キラレタル語ハ、固ヨリ文素以外ニ立ツテ、寧ロ、文ト伍シテ、殆ンド對等ノ資格ヲ有スルモノトシテ、使用セラル、モノナレド、呼ビ懸ケ呼ビ出シニ使用セラル、語ハ、其ノ場合以外ニ於イテハ、常ニ文ノ主素ヲ成スモノナルニヨリ、其ノ場合ヲモ、主素タル場合ノ位格ノ領有ニ擬シ、呼ンデ呼格トイフ習ヒヲ成セリ。今、呼ンデ召呼法トイフ。位格以外ノ一種ノ用法ナレバナリ。カクノ如ク、文素以外ニ立ツテ構想的結合ヨリ獨立スルモノハ、正シク文典上ニ研究セラルベキモノニアラザレドモ、ソガ、文ト伍シテ殆ンド對等ノ資格ヲ取リ、瀕繁吾人ノ言語ニ上ル間、文モシクハ文素ト互ニ相感化スル所アリテ、オノヅカラ、性質上ノ種々ノ繫累ヲ有スルニ至レルヲ以ツテ、マタ、文典上ニ附説スベキ必要ヲ生ズルコトトナルナリ。

カクテ、呼ビ懸ケ呼ビ出シノ用法ヲ概括シテ、召呼法ト呼ブ以上、召呼法ニハ、當然ニ、呼ビ懸ケノ召呼法ト呼ビ出シノ召呼法トノ種別ヲ生ズベキコト、マヅ明ナリトイフベシ。

次郎(！)。次郎(！)。はやくきたれ。

太郎 や。太郎 や。おきよや。おきよや。

みち ゆく ひと よ。もの まうさむ。

ノ次郎(！)太郎 やひと よノ如キハ、スナハチ呼ビ懸ケノ招呼法ニシテ、

あ(！)。悠々たる 天(！)。なんぞ 無情なる。

あ(！) 忠なる かな。楠木正成(！)。かれ、よ世を さつて

より、天下、また、一人の かれなし。

釋迦 や。クリスト や。かれら、なんびとぞ。

ノ天(！)楠木正成(！)釋迦 やクリスト やノ如キハ、スナハチ呼ビ出シノ

招呼法ナリ。招呼法ニモ、辭ノ添加セザル場合ト添加スル場合トアルコト

ハ、次郎(！)天(！)等ニ對スル太郎 やひと よ等ノ例ヲ以ツテ知ルベク、裝

定素ヲ有スルモノモアルコトハ、みち ゆく ひと よ悠々 たる 天(！)

ノ例ニ於ケルみち ゆく悠々 たるニテ知ルベシ。

コ、ニ注意スベキハ、招呼法ハ、下ニなる等ノ語ヲ包含スル意義タルヲ許

咏情語

サザルコトニシテ、楠木正成(！)ノ例ヲ改メテ、あ(！)。快男兒(！)。かれ、

ひとたび よ を さつ て より、天下、また 一人の かれ

なしトセムニハ、ソハ、普通ニ、快男兒 なる かな類似ノモノ省略セラレ

テ、一種招呼法ニ擬セラレタル用法ヲ成セルニ過ギザルモノト成ルガ故

ニカ、ル場合ニハ、スベテ招呼法ヲ成サズ。然レドモ、モシ、更ニ其ノ快男

兒(！)ヲ改メテ、かの 快男兒(！)トセムニハ、ソハ、なるノ包含ヲ拒絶スルガ

故ニ正シク招呼法ヲ成スベキガ如シ。たれ なる かノ問ヒニ答ヘテ

「なんぢ よモシクハ、なんぢ ぞ」トイハム場合ノ如キモ、なんぢノ下ニハ

「なるヲ包含スルガ故ニ、マタ招呼法ニアラザルコト勿論ナリト知ルベシ。

(ナホ、カ、ル類ニツキテハ、次節ヲ参考スベシ。)

吾人ハ、マタ、上文ノ例中ナル「あ(！)ノ如キ咏情ノ語ニツキテ、ソガ甚招呼法ニ

似タル或ル性質ヲ有スルヲ認メ得ベシ。スナハチ、あ(！) 悠々 たる

天(！)ノ「あ(！)ノ如キハ、毫モ下ニ關係スル所ナク、ヨク獨立ニ言語中ニ樹立シ

テ使用セラル、點ニ於イテノ近似ヲ認メ得ベシ。而シテ、斯クノ如キ用法

〔感歎詞〕

咏情語ノ本用

咏情語ノ轉用

ガ、ナホ、他ニモ咏情ノ語、スナハチ、所謂感歎詞、西洋文典ノ所謂間投詞ナルモノニヨリテ、常ニ起ルモノナルコトモ、マタ、想起セラルベキナリ。サレド、ソガ、ものノ思念ヲアラハサザル點ニ於イテ、招呼法ノ語ト等シカラザルコトモ、マタ、同時ニ會得セラルベキナリ。カクノ如キモノハ、招呼法ヲ成スモノノ如ク用法上紛ラハシキトモナケレバ、別ニ用法ノ名ヲ立テズ、タゞ、他ト區別セムガ爲ニ、呼ンデ、咏情語ノ本用トイフベキナリ。(咏情語ハ、體言中ノ一種ナルニ依リテ「言」ニ屬セシメラルベク、體言ニ用言ノ定義ニ依リテ「體言」ニ屬セシメラルベキモノナリニテ知ルベシ。〔本篇四及ビ第二編一三〕ヲ參照スベシ。〔辭〕ニ屬スルモノハ、咏情ノ義ナラハスモノナリトモ、獨立ニ使用セラル。然レドモ、上例中ニテモ、あゝ、忠なるかな。楠木正成、ノ例ノ如キ、あゝ、全ク他ノ言語ヨリ獨立ニ使用セラレタルモノニアラズ、緩ク、限定素的關係ヲ以ツテ、忠なるかなヲ限定スル用ヲ成ス。ナホ、あゝ、かなしや、あゝ、くるしトイハムガ如キモ、マタ、然ナリ。コハ、咏情語ノ轉用ナリ。

吾人ハ、マタ、上例中ニ於イテ、天下、また、一人の、かれ、なしノ、天下ハ普通ニハ、天下にトイフベキモノニシテ、コハ、ナルハ、其ノ「に」ノ省カリタル

擬呼法

變形ナルコトヲ認ムベシ。然レドモ、位格ヲアラハス辭ノ如キハ、妄ニ省略シ得ラルベキモノニアラズシテ、コハ、前節ナル擬語法ノ條ニ於イテ、こを、おも、ふ、みちトイフベキモノノ「を」ガ其ノ擬語法ニヨリテ省カレテ、こおも、ふ、みちトナルコトヲ示シタルガ如ク、元來ハ、天下にトイフベキモノナルヲ、上文ニ説キタル招呼法ニ擬シテ、文ノ情勢ヲ、コハ、ニ強ムムガ爲ニ、其ノ辭ヲ省キタルモノナルナリ。カ、ル用法ヲ擬呼法トイフ。

「バトリメント」譯して 國會と いふ。
 滿城の 珍籍、をしむ ひと なし。
 曠世の 奇才、ひと しらず。

ノ如キモ、「バトリメント」珍籍「奇才」等ノ下、皆、アルベキ「を」ヲ省キテ、之ヲ擬呼法トシタルナリ。然レドモ、文ノ情勢ヲ強ムトイフ點ニテハ、其ノ文勢ニヨリテ強弱ノ階級アリテ均一ナルコト能ハズト知ルベシ。

八。述定上ノ性質ト文ノ種類。

吾人ハ、既ニ文ノ成立ニ基ヅキテ文ヲ分解スルニ方ツテ、被述部ト述定部ト

ニ分割スル割斷的分解ト、主素從素裝定素限定素等ノ文素ニ別ツ想素的分解トアルコトヲ認メタリ。今其ノ間ノ關係ニツキテ之ヲ見ルニ、マヅ、想素的分解ハ、一思想ヲ建設スベキ想材的ノ分解ナリ。其ノウチ、裝定素ト限定素トハ、表白上、其ノ意義情狀ヲ分明ナラシメムガ爲ニ、他ノ文素モシクハ文素ノ或ル結合ヲ制限スル用ヲ成スニ過ギザルモノナレバ暫ク之ヲ措キ、其ノ主要部タル主素ト從素トノ構想的結合ニツキテ之ヲ見ルニ、文主タル主素ト從素トノ結合ハ、元來、ものト之ニツキテノ作用「形狀」ノ述定トノ關係ニヨリテ成ルモノニシテ、其ノウチニハ、其ノ想材トシテ他ノものノ思念「スナハチ文主ノ對賓ヲ需ツニアラザレバ其ノ述定ヲ全ウシ得ベカラザルモノ」（「あめつち」を「うるほす」類）ト、想材トシテ他ノものノ思念ヲ需タズシテ其ノ述定ヲ全ウシ得ベキモノ（「あめ」類）トアリ。其ノ他ノものノ思念ヲ需ツテ始メテ其ノ述定ヲ全ウシ得ベキモノニアリテモ、其ノものノ思念ヲ需ツ様ニ種々ノ異同アリテ、其ノものノ思念ヲシテ文主タル主素ニ對シテ其々ニ種々ノ異同アル關係的地位ヲ取ラシムルモノニシテ、此等文主及び其ノ對賓タルモノ

自立的從素
依立的從素

自他ノ關係
他

ノノ間ノ地位上ノ關係ヲアラハスモノハ、スナハチ、前節ニイヘル「位格」ナリ。而シテ、斯クノ如キ主素ト結合スル從素ノ思念「スナハチ、從素トシテノ「作用」形狀」ガ、其ノ主素ノ種々ノ結合ニ應ジタル種々ノ異同ヲ有スベキモノナルコト、固ヨリ自明ノ事ナリトス。其ノ對賓タルものヲ想材トスルヲ要セザル文ノ從素ヲバ、自立的從素トイヒ、之ヲ要スル文ノ從素ヲバ、依立的從素トイヒ、此等自立依立ノ從素ノ種々ノ位格ヲ有スル主素ト結合スル委曲ノ關係ヲ呼ンデ、自他ノ關係トイフ。自他ノ關係トハ、文主タルモノヲ自トシ、對賓タルモノヲ他トシ、從素ヲ成スベキモノノ其ノ間ニ繫累スル關係ヲ指ス由ノ稱呼ナリ。（第三編一七）然レドモ、此等ハ、要スルニ構想的結合ヲ成ス想材上ノ關係タルニ過ギザルヲ以ツテ、別ニイフベシ。然ルニ、割斷的分解ニ至ツテハ、全ク等シカラザル立脚地ヲ有スルモノナリ。何トナレバ、マヅ、文ノ要素タル主素從素ニツイテ之ヲイフニ、主素タルモノノウチ、文主タルモノハ、元來、一思想ノ建設セラレムトスルニ方ツテノ注意ノ中心點トシテ、思想ノ位置ヲ定ムベキ基礎タリ本據タルベキモノニシテ、

其ノ思想ヲアラハス文ノ構想的結合ヲ成ス他ノ文素ハ皆、コノ基礎タリ本據タルモノニ繋累シテ思考ニ上ルニ至ルモノナルニモカ、ハラズ、想材トシテ立ツ點ニ於イテハ、他ノ主素モ、皆、相等シカルベキ性質ヲ有シ、イツレモ、恰モ家ノ柱立テノ如キモノトシテ、主素トシテノ共通ノ資格ヲ有スルモノナリ。然レドモ、翻ツテ、文ノ割斷的觀察ヨリイヘバ、注意ノ集中點トシテ思想ノ位置ヲ定ムベキ基礎タリ本據タルモノト、之ニツキテ思考ニ上ル繋累的ノ想材トハ、其ノ關係大ニ異ナル所アルヲ以ツテ、マヅ、思想ノ位置ヲ定ムベキ基礎タリ本據タル文主側ノ被述部ヲ立テ、之ニ繋累シテ思考上ニ誘致セラル、從素ト同ジク文主ニ繋累シテ思考ニ上ル對賓トヲ以ツテ、從素側ノ一團トシ、之ニヨリテ、構想的結合ヲ起ス基礎タリ本據タルモノト、之ニ繋累シテ起ルベキモノト、對照ヲ成スベキ様ニ思念スルコトナルベキ、自然ノ約束ハ、オノヅカラ吾人ノ思考ヲ支配シ、コノ二ツノ部分(スナハチ、被述部、述定部ノ兩成述部)ニ一思想ヲ分割スベキ、コノ自然ノ約束ハ、吾人ノ思想言語ヲシテ、マタオノヅカラ、述定部ノ被述部ニ對シテ起スベキ述定の性質ニ

ヨリテ、思想ノ性質ヲ左右スベキ種々ノ述定上ノ發展ヲ成スニ至ラシメタリ。コノ故ニ、吾人ハ、文素ガ、想材方面ノ構想的結合トシテノ特殊ノ立脚地ヲ有スル稱々ノ種類ヲ有ツニ對シ、成述部ガ、表現的方面ノ構想的結合トシテノ特殊ノ立脚地ヲ有スル種々ノ種類ヲ有ツヲ注目セザルヲ得ザルナリ。

今、表現的方面ノ構想的結合トシテノ特殊ノ立脚地ヲ有スル種々ノ種類ヲ成スニ至レル述定上ノ性質ヲ按ズルニ、人ガ或ル被述部ニ關シテ或ル述定ヲ試ムル場合ニハ、(甲)述者(スナハチ、其ノ思想ヲ言ヒ述ブル者)ト、想材トシテ立ツ者ト、外ニ、別ニ述者ト對立スルモノアルヲ思考ノ形式中ニ表現セザル場合ト、(乙)述者ト、想材トシテ立ツモノト、外ニ、ナホ、其ノ述者ヨリ言ヒ懸ケラルベキ對者アルヲ、思想ノ形式中ニ表現スル場合ト、(丙)のぼるか、なんぢ、やま、ノ二ツアリ。而シテ、其ノ

(一) 寫述

〔相對的構成ノ想〕
〔絕對的構成ノ想〕
〔本來的相對ノ想〕
〔境遇的相對ノ想〕

凡ソ他ニ言ヒ懸ケラルベキ者スナハチ第二者ガ述者スナハチ第一者ト對立スルトテ言語ノ上ニ表現スル思想ヲ相對的構成ノ想トイヒ別ニ言ヒ懸ケラルベキ者スナハチ第二者ノ對立ヲ言語ノ上ニ表現セザル思想ヲ絕對的構成ノ想トイフ。其ノウチ相對的構成ノ想ニハ本來的相對ノ想トイフヘキモノト境遇的構成ノ想トイフヘキモノトアリ。本來的構成ノ想トハ本文ノ(乙)ノ如ク第二者ノ對立ガ明ニ思考ノ形式中ニアラハサル、モノニシテ疑問的命令的ノ想ヲ成スモノナリ。境遇的相對ノ想ハ思考ノ形式ハ全ク絕對的構成ノ想ト等シクシテ其ノ方ニ特徴ノ別ツベキモノヲ有セザレドモ想材タルモノ(スナハチ第三者トシテ立ツ者)ノウチニ第一者ニ對シテ第二者ノ對立ヲ認ムベキ關係ヲ指示シ居ルモノニテ第二者ヲアラハスモノガ第三者トシテ立ツ場合(スナハチ所謂第二人稱ヲ成ス者アル場合)モシクハ第一者第二者間ニ用キラルベキ禮讓的言語ノ起ル場合ニ於テ起ルモノトス。例ヘバ「われよく足下の誠意を^{しる}なんぢらみなわかきに^{すぎ}たりわが

〔境遇的間接相對ノ想〕

寫述

みはすてに^いて^さふらふ^ふノ如シ。「明ニ第二者ナラザル者ニツキテノ禮讓ノ語詞アルモノモ、マタ之ニ準擬スル關係ヲ有シテ境遇的間接相對ノ想トイフヘキモノヲ成ス。例ヘバ、そのとき、後醍醐天皇は^{すて}に^みやこ^に還幸^ましまし^{たり}し^なり^むかし^すさの^をの^みこと^うなばら^をし^らし^{たま}へり^きノ如シ。(此等、後醍醐天皇モシクハ「すさの」の「みこと」ヲ第二者トシテ言ヒ懸皇モシクハ「すさの」の「みこと」ノ資格トノ間ニ、或ル對立上ノ關係ヲ有スルヲ示スモノナルコト分明ナルヲ以ツテ、ナホ境遇的相對ノ想ニ準ズベキモノナルコト論ナカルベキナリ。)サレド、コノ境遇的相對ノ想ハ、本文ノ(甲)中ニ入リテ(乙)ニハ入ラズ。何トナレバ、コノ種類ニ屬スルモノハ、述定部ノ被述部ニ對シテ起スベキ述定的性質ニ於テ構想的結合ノ關係上、別ニ(甲)ヨリ區別セラルヘキ特殊ノ影響ヲ思考ノ形式上ニ起スヲナケレバナリ。寫述トハ事實ヲ其ノマ、ニ寫シ述ブル述定ニシテ、述定部タルヘキモノガ被述部タルヘキモノニツキテ思念セラルベキ様ハ、諸文素ヲ成スベキ事物品象ノ認得ガ想材トシテ思考ニ上ルニ方ツテ、オノツカラ兩成述部ヲ成ス

ベキ自然ノ結合ヲ成シ以ツテ其ノ述定ヲ成就スルニ至ルモノニシテ特ニ
 第一者スナハチ述者ノ意志ニヨリテ想材ヲ左右鹽梅シタル形跡ヲ其ノ述
 定状態ニ止メザルヲ特色トスルモノナリ。下ニイフ他ノ述定條件ニ當ル
 モノヲ除キテ上節ニ擧グル所ノ多クノ例文ハ、あめ ふる以下悉ク、コノ種
 類ノ述定ニ屬スルモノナリ。
 然レドモ述者ミヅカラテ第三者トシテ被述部ニ置キ其ノ意志ヲ述ブル場
 合ニハ勢述者ノ意向ヲ述定中ニ示ストナルガ故ニ時ニ他ノモノト混同
 セラレ易キ傾向ヲ有スレドモ其ノ意向ハ述者ノ意向ニシテ述者ノ意向ナ
 ラザル關係ナルヲ思ヘバ、——(スナハチ第一者トシテノ述者ニアラズシテ
 第三者トシテノ述者ナルヲ思ヘバ)——迷フ所ナカルベキナリ。例ヘバ、
 われ は 英國 に ゆき たり。
 あかさ ころ を ひと に みせ ばや。
 等ノ述定ガ述者ノ意志ヲ示スニモカ、ハラズ其ノ寫述タルヲ失ハザルガ
 如シ。

寫述文 說述

スベテ寫述ノ述定部ヲ有スル文ヲ寫述文トイフ。
 說述トハ寫述ノ如ク事實ヲ其ノマ、ニ寫シ述ブルニハアラズシテ述者ノ
 意志ヲ以ツテ斷定シ推定シ想像シテ說キ述ブル述定ニシテ述定部タルベ
 キモノガ被述部タルベキモノニツキテ思念セラルベキ様ハ諸文素ヲ成ス
 ヘキ事物品象ノ認得ヲ基トシテ或ハ述者ノ斷定ヲ施シ或ハ述者ノ推定想
 像等ヲ加フルトニヨリテ兩成述部ヲ成スベキ結合ヲ成シ以ツテ其ノ述定
 ヲ成就スルモノニシテ特ニ第一者スナハチ述者ノ意志ニヨリテ想材ヲ肯
 定シタル形跡ヲ其ノ述定状態ニ止ムルヲ特色トスルモノナリ。
 (想像モ、マ
 ナル肯定ナリ) 例ヘバ、

孔子 は 聖人 なり。
 その いろ ちしろ なり。
 あめ ふる なり。
 あめ ふる あり。
 あめ くら あり。

説述文
咏歎

ノ如シ。
 カクノ如ク、説述ハ、元來述者ノ肯定ニ依リテ成ルモノナルガ故ニ、其ノ述定ノ主柄ヲ掌ルモノハ、全ク述者ノ身ニアルベキモノナレド、サハナクテ、述者ハミヅカラ主位ニ立ツテ、其ノ主柄ヲ取ラズ、身ヲ客位ニ置イテ、其ノ述定ヲ成スナルモ、ナホ、其ノ推定ヲ貸シ、其ノ想像ヲ貸スコトニ依リテ始メテ認得シ得ラル、關係ヨリ、説述ニ準ジテ思念スベキ一種ノ述定ヲ成スコトアリ。

かの 釋迦 の ごとき は、慈 なり と いふ べし。
 クリスト の ごとき は、俠 なり と いふ べし。
 もの おもふ ひと は、かく ぞ ある らし。

ノ如キハ、スナハチ、コレナリ。
 スベテ、説述ノ述定部ヲ有スル文ヲ、説述文トイフ。
 咏歎トハ、元來寫述モシクハ、説述ノ述定ヲ成スベキモノヲ、咏歎語ノ本用ニ擬シタル一種ノ性質ヲ附與シテ、表白スル一種ノ述定ニシテ、其ノ特色トスル所、全ク、咏情語ノ本用ニ擬シタル一種ノ性質ヲ有スル點ニ存ス。例ヘバ、

咏歎文
疑問

うれしき かな。 あゝ(！)、かなしき かな。
 東郷平八郎 は、真に偉なる かな。
 かき ども の ふき たふさ れぬる よ。

ノ如シ。
 (コノ例中、被述部ナキモノハ、皆アルベキ被述部ヲ省略シタルモノナリト知ルベシ)
 説述ノ述定ヲ成スベキモノヨリ來レルモノモ、咏歎ノ述定ヲ成ス場合ニハ、其ノ説述性ハ消失スルモノトス。咏歎ノ述定ノミナラズ、下ニイフ、疑問及ビ命令ノ述定ヲ成ス場合モ、マタ、然リ。(ナホ、下文傳述法ヲ説ク條ヲ參考スベシ。)

スベテ、咏歎ノ述成部ヲ有スル文ヲ、咏歎文トイフ。
 疑問トハ、寫述モシクハ、説述ノ述定ヲ有スル文ヲ成スベキモノノ、想材モシクハ、關係等ニ於イテ明ナラザル所アルカ、或ハ、或ル事實モシクハ、物件アリトノミハ、知レド、全ク何ナルカヲ知ル能ハザルカ、又ハ、知ル所アレドモ、不確實ナルカノ場合ニ方ツテ、二者ニ向ツテ求ムル所アラムトスルヲ、表白スル述定ヲ成スヲイフ。例ヘバ、

た が きたり し か。
 なに を せ し なる か。
 い か なる 関係 おこり し か。
 甲 乙 に うた れ たる か。 乙 甲 に うた れ たる

な なる か。
 なに こと なる ぞ。
 そ は きみ なり や。
 きみ きたり し か。
 うま に のり し か。 ふね に のり し か。

ノ如シ。(なにごとぞ)類體言ノ下ニなるヲ省キテ疑問チアラハス辭ニツバケタルモ
 説述形ノモトモ疑問トシテハスベテ其ノ説述性ヲ省略セラレタルモノト知ルベシ。又、コ
 コ、ノ例中被述部ナキモノハ皆アルベキ被述部ノ省略セラレタルモノト知ルベシ。又、コ
 ノ疑問ノ述定ニハ、た が きたり し かノ例ナドノ如ク、被述部側ノモ
 ノト述定部(特ニ其ノ緊要部)トノ間ニ述定ノ形式上ニ於ケル特別ノ關係ヲ
 有スルモノアリ、マタ左ノ例ノ如ク、全ク疑問ノ本形ヲ被述部ニ置クモノサ

疑問文
希求

へアルコヲ注意スベシ。

たれ か きたり し。

いと や こむ われ や ゆかむ。

スベテ疑問ノ述定部ヲ有スル文ヲ疑問文トイフ。

希求トハ、述者ガ第三者ニ向ツテ命令シ、請願シ、禁戒シ、希望スルコヲ表白ス
 ル、述定ヲ成スライフ。例へバ、

ゆけ。そをうけよ。 勤勉なれ。

はやくゆきてよ。 これみたまへ。

放心し たまふな。 あしくな おもひそ。

幸福なれ。 健在なれ。 いやさかえませ。

あめ ふらなむ。 かぜは やまなむ。

ノ如シ。(希求ニモ説述形ノモノヨリ來レルモノアルヲ、例中ナル勤勉なれ等ノ如ク、ナ
 又、被述部ナキ例文ハ、皆省略セラレタルモノナルヲ、マタ前項ノ例ノ如シ。但シ、命令的請願的
 禁戒的ノハ、其ノ被述部ハ、皆省略セラレタルモノナルヲ、マタ前項ノ例ノ如シ。但シ、命令的請願的
 ト、然チ、第二者トハ、同一ノ者ナレド、希望ノハ、被述部ト、第二者トハ、全ク別物ニシテ、其ノ第二者ハ

翻述法

ハ「や」(或ハ之ニ「は」トイフ辭ソモ)アル通則トスレドモ疑問ノ述定ニモ屢其ノ「か」
 「や」ヲ省略シテイフコアルガ如ク反語法ニモ「いか」で「ゆく」「べき」など
 おもふ「べき」ノ如ク「コノ」「や」「か」ヲ省クコトモアルナリ。
 コノ反語法ハ原形タル疑問形ノ省察ヲ求メテ却ツテ然アルベカラザル
 由ヲ知ラシメムトスルモノナル方ヨリ勢我ヨリ説述スル語法トシテ思
 念セラレザルベカラザル關係ヲ成シ説述中ニ攝收セラルベキ性質ヲ有
 スルモノトナルナリ。「咏歎希求等ノ意義ヨリ來ル反語ハ固ヨリ無シ。
 マタ反語ヨリ他種ノ述定性ニ轉移スルコトハ下ニイフ傳述法ヲ成ス場合
 ノ外スベテ無シ」。
 翻述法トハ一旦陽性モシクハ陰性ノ述定ヲ成シシモノヲ翻シテ其ノ反對
 ノ意義ヲ成ス述定トスル用法ニシテ例ヘバ「ものあり」ものなし「われ
 満州」に「ゆく」われ「満州」に「ゆか」ず「われ」は「軍人」なり「われ
 は」軍人「なら」ず「トイフ類ノ諸述定ノ文意ヲ翻シテ其ノ反對ノ意義ノ
 意義ナル述定トセムガ爲ニ、

もの あり 〇に 〇あら ず。
 〇もの なき 〇に 〇あら ず。
 われ 満州 〇に 〇ゆく 〇に 〇あら ず。
 われ 満州 〇に 〇ゆか 〇に 〇あら ず。
 われ 満州 〇に 〇ゆか 〇に 〇あら ず。
 われ 〇は 〇軍人 〇なる 〇に 〇あら ず。
 われ 〇は 〇軍人 〇なら 〇ざる 〇に 〇あら ず。
 ノ如クスルモノニテ述定ヲ營ム文素ヲ擬體法ニヨリテ主素的ノ形トシ更
 ニ一文素ヲ成シ得ベキ「あら」「ず」ノ如キ否認ノ述定形ヲソフルモ其ノ文全
 體ハ上ヨリ見テ其ノ「あら」「ず」ハ決シテ從素ノ用ヲ成スニアラズシテ、
 原形ノ從素ガ指示スル性質ノ陰陽ヲ翻轉スル用ヲ成シ、ある に あり
 ず「なき」に あり ず「ゆく」に あり ず等ニテ套語的ノ一文素ヲ成サ
 シメ、以ツテ其ノ述定部ノ陰陽性ヲ反轉セシムル類ヲイフ。
 カクノ如クニシテ、コノ語法ハ、陰陽性ノ翻轉トイフコト以上ニ何ノ感化ヲ
 モ全文ノ上ニ起サザルベキモノナレドモ、其ノ原形ノ説述ナルモノニア

傳述法

リテハ、あら、ずヲ以ツテ終フル關係ヨリ、其ノ述定部ノ述定性ヲ變ジテ
 寫述性ノ述定タラシムルモノトス。「コノ語法ハ、咏歎疑問希求ヨリ來ル
 一ナシ。コノ語法ノモノヲ移シテ疑問形ノモノタラシムルヲ得ベ
 シ。もの、ある、に、あら、ざる、か、われ、滿州、に、ゆく、に、あ
 ら、ざる、か、ノ如シ。カ、ル場合ニ、ある、に、あら、ざる、か、ゆく
 に、あら、ざる、か、ガ套語的ノ一文素タルコトハ、決シテ忘ルベカラズ。」
 傳述法トハ、述定部ヲ成スモノヲ擧ゲテ、前節(六)ニイヘルガ如キ、擬體法ニテ
 所謂引用ノ語句ヲ一主素トスルモノニ擬準シタル擬體法ヲ用キ、之ニ一ツ
 ハ、從素ヲ成シ得ベキ他ハ、モノヲ言ヒソヘナガラ、其ノ言ヒソヘラレタルモ
 ノヲ正シク文ノ從素トシ、其ノ擬體法ヲ加ヘラレタルモノヲ文中ノ一主素
 タル地位ニ置クニハアラデ、ナホ、原形ノ被述部タルモノニ對スル正面ノ述
 定部タルモノヲ動かストナク、タ、其ノ被述部タルモノガ其ノ述定部ニア
 ラハサル、ガ如クナリトイフコトニツイテ、第一者タル述者ハ、直接ニ之ヲ述
 定スルニアラズシテ、第三者タル者(其ノ勿論、述者タル者ガ同時ニ、第三者ノ資格ヲ以ツテ、
 其ノ地位ヲ充タスコトナバ成シ得ベキナリ。)(八)ノ

本註ナル(述格ノ條)ガ其ノ被述部ニツキテ然思ヒ然イフ所ヲ傳述スルモノナ
 ルニ過ギザル旨ヲ表白セムトスル一種ノ語法ヲ成スモノナリ。例ヘバ、

そのひと つひにうせたり。
 そのひと かならず 死する なり。

ゆく すゑ よき こと あり じ。
 命 に そむく ものは かならず 罰せ らる べし。

ノ如キモノヨリシテ、
 そのひと つひにうせたり。と *世人 いふ。

そのひと かならず 死する なり。と *われ きく。

ゆく すゑ よき こと あり じ。と *われ は おもふ。
 命 に そむく ものは かならず 罰せ らる べし。と *ぞ

* ひと の (つたふる)。
 ノ如キ語法ヲツクリ、其ノ從素ヲ成シ得ベキモノノ言ヒソヘラレ居ルモノ
 ニハ、意義上ハ、必ラズ其ノ文主タルベキモノアルベキニテ、ソハ、
 中ニ補

ヘルガ如ク、スベテ、われ、ひと、(世)人ノ類ノ語、スナハチ、第三者タルモノノウ
 チ、純然タル第三者ヲ漠然ト指スカ、第一者ノ、第三者トシテ立テルモノヲア
 ラハスカナル語ニ限ルニテ、(決シテ、明ニ或ル者ヲ指定シタル純然タル第三者、モシク
 ハ、第二者ノ、第三者トシテ立テルモノヲ以ツテセズ。)*
 *符ノ所モシクハ始メノ所ニアルベキ關係ノモノナルヲ、其ヲ表ニ立テテ
 イフ、ナクシテ、イヅコ、マデモ原形ノ被述部ヲ全文ノ被述部トシテ据エ置
 クモノヲイフ。時アリテハ、トノ下ニソヘラルベキ從素ヲ成シ得ベキモノ
 ノ文主タルベキモノガ、

命にそむくものは かなら
 づ 罰せらるべし。なり。

ノ場合ノ如ク、必ラズ始メニ來ルベキニ限リテ、其ノ從素タルベキモノモ、ソ
 ノウチニ必ラズアルベキ主要ナル語ヲ省キテ、ソヲウクベキナリノミナル
 ヲ常トスルモアレド、大方ハ、上例ノ如キモノナルヲ常トシ、イヅレニシテモ、
 其ノ文主ガ表面ニ出サルベキモノトシテ思念セラル、
 素タルベキモノガ全ク原形ノ述定ニ關スル補助的ノモノタル性質ヲ失ハ

ザルハ、事實ナリ。

又、コノ傳述法中、とぞ、さく、とぞ、いふ、とぞ、いふ、なる、とぞ
 つた、ふる、とぞ、おも、ふ、ナドアルベキ場合ニ、とぞ、トノミイヒテ其ノ下
 ヲ省キタルモアルハ、上ノ例ノ末ノモノノ如クニシテ、之ト同ジ様ニ、とな
 ん、さく、と、なん、おも、ふ、と、こそ、つた、ふれ、と、こそ、いは、め、ナド
 ノ如ク種々ニイフベキモノヲ、と、なん、と、こそ、トノミイヒテ、下ヲ省キタ
 ルモアリ。此等、とぞ、と、なん、と、こそ、ト成ル傳述法ノ省略ハ、古クヨリ
 廣ク行ハレタリシニテ、殆ンド、省略形ノ傳述的套語トシテ立ツニ至レリ。

と、なん、と、こそ、ト例ヲ示セバ、命にそむくものは かならず 罰せらるべ
 し、と、なん、(さく)、と、さる、ひと、のもと、には、いかに、ゆく、べき、と、こそ
 ナドノ如シ。

凡ツ、傳述法ヲ成セルモノハ、其ノ原形タルモノノ述定ノミヲ切り離シテイ
 ハムニハ、其ノ性質ハ、固ヨリ、其ノ原形ノマ、ニテ變ル、ナケレド、(傳述法ヲ
 原形タルベキモノハ、寫述(反語法ノモノヲ含)傳述法ヲ成セル一團トシテハ、説述
 ムノモノニ限リ、スベテ、其ノ他ヲ以ツテセズ。)*
 形ノモノナリトモ、必ラズ寫述トナリテ、説述ヲ成サズ。傳述法ヲ成サムガ

傳述的裝定

爲ニ言ヒソヘラレタルモノノ、説述形ニテ終ルモノ（「スナハチ、辭ナリ」ヲ以ツテ終ルモノ）（辭ナリ）フツフ場合以外ノ、説述形ヲ取ル傳述法ナシ。モ、マタ、然リ。何トナレバ、原形説述ナルモ、既ニ傳述法ヲ爲ス以上、述者ノ眼ヨリ見テ、其ノ説述ハ間接ノモノトナリテ、述者其ノモノノ説述タラザルコト明ニシテ、傳述法ヲ成サムガ爲ニ言ヒソヘラル、モノノ説述形ニテ終ルモノモ、マタ、實ニ傳述ノ述定ヲ成スモノナルヲ以ツテ、ソガ述者ニヨリテ表白セラルルニモカ、ハラズ、述者ハ、直接ノ肯定ヲ成スモノタルニアラザルコトナレバナリ。

コノ傳述法ハ、皆文ノ述定ヲ成スベキモノナルコト固ヨリ論ナキ所ナレド、其ノウチ、といふ及ビ、といふノ義ヲ包含スルモノ、就中、之ヨリ起レル一種ノ套語ナル辭ノて、ト、説述形ヲ成ス辭ナリ（傳述法ヲ成スモノト、説述ノ述定ヲ成スモノトナ、間ハズ）トハ、體言モシクハ擬體法ヲ成セル語句ニソヒ、更ニ擬語法ヲ取リテ裝定素ヲ成スコトアリ。例ヘバ、

十九世紀のはじめに、あたつて、獨逸國に、グ、キルヘル、ム、フ、ホン、フンボルトといふ學者ありけり。そのとき、

一方に、フランツ、ポツプといふひと、ヤコブ、グリム、ヴ、キルヘルム、グリムといふはらからなどならびいて、ともに、言語の研究に新生命をあたへ、學界これよりしてひらけたり。その他、ベツカー、ポツト、ベンフ、ワイ、シ、ユライハー、クルチウス、スタインタールなど（いふ、などいふ、）なるといふものども、前後あひついでいで、いづれも雄名を一世にしきて、あほいに學界の發展をたすけ、言語學界の覇權をしてながく獨人のてに歸せしめたり。さばれ、時代の推移なるなみのちからは、いやしくくにうちよするひにあらたなるいそしみもて、すべてこれらひとをはらむりさらむとするにあらざや。あはれいまの「オーソリテ、イ」なるものよ。パウルや、ガベレンツや、ブルツフマンや、デルブリユツクや。さ

かりの はなも いくときぞ。「新派」なる なも、あす
 は また、やがて「舊派」と うつり なむ。いはゆる「獨逸の
 言語學壇」なる 今日の 威名も、はたして とこしへ
 なる べしや。

ノ如シ。之ヲ傳述的裝定トイフ。

コノウチて、トイフ語ハ、カク傳述的裝定ニ使用セラル、外今ハ却ツテ、
 其ノ本態タルベキ述定ニ用キラレザルコトトナレリ。又「なり」トイフ語
 ハ、述定ヲ成ス場合ニハ、説述ヲ成スベキ習ヒナルヲ、裝定素ヲ成ス場合ニ
 ハ、説述ノ義ヲ失ウテ、寫述的ノモノトナリ、傳述的裝定ヲ成スコトトモナ
 ルナリ。(第四編二七聯合動辭ノ條及ヒ、説法從屬動辭ノ條ヲ參考スベシ。)但シ、「なる」ノ傳述的裝定ハ、と「いふ」
 「て、ふ」ノソフ裝定トハ、ヤ、性質ヲ異ニスル所アリテ、と「いふ」て、ふ」ノ方ハ、
 固ヨリワガイフコトニハアラネドモ、其ノ表白ニツキテハ、暗ニ事實トシ
 テ之ヲ承認スル關係ノ傳述的裝定ヲ成スニ對シ、なる」ノ方ハ、必シモ承認
 セズトシモナケレド、暫ク其ノ表白ノ承認ヲ避ケ、全ク間接ノ地位ニ立ツ

ヲ明ニスル關係ノ傳述的裝定ヲ成スモノナリ。「ナホ、コノ傳述的裝定ト
 イフモノガ、裝定素中ノ如何ナル地歩ヲ占ムルモノナルカニツキテハ、第
 五編ニイフヲ見ルベシ。」

第一編 品詞的分類ノ取捨

一〇。品詞的分類ト單位語ノ四大分類。

ワガ國語ノ單位語ノ分類ニツキテ、吾人ガ、マヅ、體言、用言、靜辭、動辭ノ四大別ヲ取ラザルベカラザルハ、既ニイヘルガ如シ。(四) 序編今、此等各種ノ分類ニ入

ラムトスルニ方ツテ、吾人ハ、コ、ニ、コノ四大別ト所謂品詞的分類、ネオナチ、西洋文典ニ模擬シタル、名詞、代名詞、數詞、動詞、形容詞、副詞、後置詞、又ハ、て、に、を、は、接續詞、感歎詞等ノ品彙トノ關係如何ノ大體ヲ知リテ、此等四大別各種ノ分類ガ如何ナル態、度ヲ取ラザルベカラザルカヲ知ルヲ要ス。

所謂名詞ハ、純正ナル西洋文典式ナラムニハ、アラ、ユル、物事ノ名ノ語ナリ。
名詞トイフ語ニ依リテ、廣ク名ノ語ヲイフモノトシテ之ヲ解スレバ、西洋文典ニテハ所謂形容詞中ニ入レル、モノトモナルベキ形狀ノ名ナル「しろくろきあをはやおそながみじか等モ、マタ、名詞ニ入ルベシ。物事ノ名ハ、

名詞

廣義ニ於イテ「もの」ノ思念ヲアラハスモノナリ。コノ故ニ、文ノ主素トシテ立チ、或ル位格ヲ取り得ベキ性質ヲ具有ス。形狀ノ名ハ、固ヨリ、形狀ノ思念ヲアラハスモノノ一種類ニシテ、文ノ主素トシテ立チ、或ル位格ヲ取り得ベキ性質ヲ具有セズ。(語形ハ同シモ、廣義ニ於イテ「もの」ノ思念ニ入ルベキアラハス語ナル)サレド、コノ形狀ノ名ハ、確ニ「名」ノ語トシテ立チ居ルモノニシテ、所謂形容詞ノ如ク名ノ語ナラザルモノトハ大ニ等シカラザル所アリ。

コノ故ニ、普通ニイフ形容詞ノ概念ノウチニ混入スベカラズ。(今、西洋文典ニヘバ、物事ノ名ノ語ニ限リ、形容詞ノ如ク名詞ノ意味ヲ制限スルモノナバ名ノ語トイハズ。古クハ、形容詞全體ヲ擧ゲテ所謂名詞ト共ニ名ノ語トシテ、裝定(形狀)名詞トイヘリ。サレド、コノニイフカ如キ意味ニ於イテノ形狀ノ名ニアラズ。カハ、ル、トハ、別ニ論ズルトスベシ。)サレバ、コノ形狀ノ名ハ、物事ノ名ノ部類ニ附屬セシメテ、廣義ニ於イテ「名」ノ語トシテノ名詞トイフ一大種類ヲ成ストトスベキカ、ナホ、所謂形容詞ナルモノノ部類ニ附屬セシムルヲ可トスベキカ、又、別ニ獨立ノ一種類トスベキモノナルカハ、マヅ、一應ノ疑問タルベキモノニシテ、世間ノ學者モ、大概、確然タル學理上ノ判定ヲ與ヘ得ズシテ、其ノ間ノ取捨ニ迷ヒ居ルモノノ如シ。サレド、上述ノ四大分類ニ合セテ、「言

而シテ、人稱代名詞指示代名詞疑問代名詞ノ區別ヲ立ツルコトモ、ヨク之ヲ
 檢按スル時ハ、實際ニ於テ、正確ニ行ハレ得ベキモノニアラズ。何トナレ
 バ、人稱代名詞ト稱セラレ、モノノウチニテ「われ」なんぢ其ノ他、第三者トシ
 テノ第一者第二者ヲ指示スルモノハ、第一者第二者トシテ立ツ關係上、勢、人
 (モシクハ人格ヲ與ヘラレタルモノ)ヲ指スコトナリヌベキモノナレド、「かれ」
 ノ類、及ビ、指示代名詞ト稱セラル、モノハ、皆種々ノ關係ニヨリテ廣ク第三
 者ヲ區別スル語トモニシテ、人ヲ指スト人ナラザルモノヲ指ストノ區別ニ
 ヨリテ立ツモノナルニアラザルヲ以ツテ、(「かれ」ノ類ノ語ガ人ナラザルモノヲ指示
 モ、常ノ事ナリ。タゞ、「かれ」ノ類ハ、第一者第二者ノ立脚地ニ對立スル第三者ヲ指ス方ニ多ク用
 キラル、語「これ」ノ類ハ、廣ク第三者中ノ地位的關係ヲ指ス方ニ用スラル、語ナルガ故ニ
 「かれ」ノ類ニ於テ人ヲ指スコト多ク、「これ」ノ類ハ之ニ反スル狀ヲ呈スルノ「人稱」ヲ人
 ミ、「これ」ノ類ニテ第一者第二者ヲ指示スル「サヘ」モアルヲ思フベシ)。「人稱」ヲ人
 (モシクハ、人格ヲ有スルモノ)ニ限ル方ヨリ、此等ノ間ニ「人格」ト「指示」トノ二種
 類ヲ成スベキ劃線ヲツクラムハ、成シ得ラルベキコトニアラズ、(「モシ」人稱ヲ
 ニカ、ハラズ解釋シ、第三人稱ニアラユル物事ヲ包含セシムトナラズ、所謂指示代名詞ハ、
 殆ンド皆、人稱代名詞トナリテ指示代名詞ノ名目ハ消滅スルコトナルニ至ルベキナリ。)
 疑問代名詞トイフモノモ、必シモ、他ニ向ツテ問フ場合ニノミ使用セラル、

明索指示名
 暗索指示名

モノナラネバ、(例ヘバ「なに」を「も」あたへ「ず」「いづれ」を「ゆるす」「べし」
 「なに」ニシテ、用キラル、場合ノ異ナルノミナレド、モシ、強ヒテ別語トシテ説カム)マヅ、述者ノ疑
 ト欲セバ、所謂不定代名詞ノ名モテ呼バラル、モノノウチニ入ルベキナリ。
 問中ニ存スル或ルモノヲ指ス義ト解釋スルコトトシテ、(「コノ種類ニ擬セラル
 ニ、述者心中ノ疑問中ニアル不明了ノ或ルモノヲ指スモノナレバ、代名詞)コノ種類ニ屬
 ノ名ナ可ナリトセムモ、ナホ疑問代名詞トイフベキモノニアラズ。
 スベキモノハ、廣ク、述者心中ノ疑問中ニアル不明了ナル或ル第三者ヲ指示
 スルモノニシテ、人ト人ナラザルモノトノ上ニ制限アルニモアラズシテ、勿
 論、人稱「指示」等ノ名目ト對立シ得ベキ性質ノモノニアラザレバナリ。サレ
 バ、モシ、所謂代名詞、スナハチ、タルメステ「タ」氏ノ所謂指示詞ヲ、ワガ國語
 ノ上ニ分類スベクンバ、
 (甲)明索指示ニ屬スルモノ、スナハチ、明索指示名(所謂人稱代名詞「指
 示」代名詞ヲ含ム)
 (乙)暗索指示ニ屬スルモノ、スナハチ、暗索指示名(所謂疑問代名詞所謂不定代
 名詞トイフモノノ一部ヲモ
 含ム)
 トシテ別ツベキナリ。
 然ノミナラズ、所謂代名詞ヲ以ツテ擬セラル、モノノウチニモ、上文ニイヘ

ノ名ニ準
指示名
ズ
形ノ名ニ準
指示名

ル所謂名詞ニ擬セラル、モノニ物事ノ名ノ語ト形状ノ名ノ語トアルガ如ク、マタ物事ノ名ト同ジ資格ヲ取ル指示ノ名スナハチ或ル關係ヲ有スルものヲ指示スル名ノ語ト形状ノ同ジ資格ヲ取ル指示ノ名スナハチ或ル關係ヲ指示スル名ノ語トアルコトハ用法上特ニ注意セザルベカラザルコトトス。「かれこれそれ」如キハ、スナハチ其ノ前者ニ屬スルモノニシテ、「かこそ」「か」の「ひ」と「いぬ」の「そ」ノ類ノ如キハ、スナハチソノ後者ニ屬スルモノナリ。(但シ、後者中、前者ノ思念チアラハス方ニ轉用セラレタルモノ)コレ、マタ所謂代名詞ヲ以ツテ擬セラル、モノノ上ニ於イテ等閑ニ看過スベカラザル點ナリトス。

カクノ如クニシテ、所謂代名詞ナルモノノコトハ、マタ大ナル疑問ニシテ、世間ノ學者モ、一般ニ迷ヒ居ルコト、ナホ、名詞ニ擬セラル、モノノ如シ。然レドモ、此モ、上述ノ四大分類ニ合セテ、言ニシテ活用ナキコトニ於イテ、スベテ體言ニ入ルベキモノナルハ、異論ヲ容ルベキニアラザルナリ。

次キニ、所謂數詞トイフモノハ如何トイフニ、西洋文典ニハ、所謂形容詞ニ入

數詞

事物ニツキテ
數量ノ名
數ノ形状ノ名

ル、學者多ケレド、ワガ國語ニテハ、形容詞中ニ入ル、ヲ得ザルコト、下ニイフガ如クニシテ、スベテ數ノ名トシテ立ツモノナリ。コノ數ノ名ナル語ヲ西洋ニテ基数ト序數トノ二種ニ別ツニ倣ハムハ、特別ノ支障アルコトナケレドモ、元來、コノ別チハ、タゞ意義上ノ別チナルノミニテ、文典上ノ性質ニ多ク關スル所ナク、特ニワガ國語ニテハ、カ、ル分類ヲ行フベキ必要甚少ク、却ツテ他ニ特別ノ注意ヲ要スルコトアリテソハ、所謂名詞ニ於イテ、物事ノ名ト形状ノ名トノ別アルガ如ク、所謂代名詞ニ於イテ、名ニ準スル指示名ト形状ノ名ニ準ズル指示名トノ別アルガ如ク、ひとつ「ふたつ」「みつ」「よつ」「いつ」と如ク、文ノ主素タリ得ベキ資格ヲ有スル物事ニツキテ、數量ノ名ヲ成スモノト「ひと」「ふた」「み」「よ」「いつ」ノ如ク、主素タリ得ベキ資格ヲソナヘザル數ノ形状ノ名ヲ成スモノトニ依リテ、二ツノ別チヲ有スルコトナリ。(漢字ニテハ、元來、コト

ノ區別明ナラズシテ、「一」「二」「三」「四」「五」等ノ文字ヲ、双方ニ當ル場合ニ通用スルガ故ニ、漢字ノ音ノマ、ニテ呼ブ數ノ語ニツキテハ、純粹ノ國語ナルモノノ言ヒ別チニ引キ當テテ、ヨク思考スルニアラザレバ、分別シ難キト多シト知ルベシ。(在來ノ文典家ガ、殆ンド全ク、コノ區別ヲ注意セザリシモ、ソノ區別明ナラザル漢字音ノ數ニ眼慣レテ、ヨク省察スルナカリシヨリノ過チナリ。)サレド、イヅレニシテモ、言ニシテ活用ナキコトニ於イテ、スベテ體言ニ

動詞

入ルベキモノナルハ、異論ヲ容ルベキニアラズ。

次ギニ所謂動詞トイフモノハ、如何トイフニ、物事ノ作用ヲアラハス語ハ、其ノ作用ノ名トシテ轉用セラレタル場合（あめ）のふり、つよし、すいみ、は）ヲ除キ、皆、此ニテ、用法上ニハ種々ノ相違アレド、分類上、一種類トシテ立ツコトニ於イテ、西洋式ノモノト參差スル所ナシ。タゞ、特異ナル性質ヲ有スルモノトシテ注意スベキハ、西洋文典ニ、助動詞トイフニ當ルモノノ上ニアリ。所謂助動詞ハ、西洋文典ニテハ、動詞ニ附屬セシメラレ居ルモノニテ、元來一ツノ動詞ナリシモノガ、今モ其原義ノ方ニ使用セラル、コトモアレド、或ル關係ノ思念ヲアラハス方ニ轉用セラル、コトトナリ居ルモノヲ指スニテ、（其ナカニハ、既ニ原義ノ方ニ使用セラレザルニ）或ル他ノ動詞ガ述定ノ用ニ當ル場合（至レルモノノ交ラザルニハ、アラザレドモ、）ノ種々ノ關係ヲアラハサムガ爲ニ、之ニ添附スル補助的ノ動詞トシテ認めラルベキモノヲイフナリ。ソガ助動詞トシテ立ツ功用ヨリイヘバ、動詞トハ全ク別種ノ用ヲ成スモノニシテ、大體上、ワガ國語ノ辭主トシテ、動辭ニ當ルベキ意義性情ヲ有スルモノナルニモカ、ハラズ、全ク動詞ノ種類外ニ立

助動詞

ツモノトシテハ分類セラレズシテ、ワガ國語ノ言ノウチニ入ルベキモノナル動詞ニ附屬セシメラル、習慣ヲ成スハ、實ニ其ノ語ガ、ナホ、一方ニ於イテ普通ノ動詞トシテモ使用セラレ居リテ、殆んど場合ニヨリテ、普通ノ動詞トモナリ補助ノ動詞トモナルガ如キ觀ヲ呈スルヲ常トシ、既ニ普通ノ動詞トシテ使用セラル、コトナキニ至レルモノニアリテモ、其ノ語ノ歷史上ノ關係トナホ普通ノ動詞トシテモ使用セラレ居ルモノノ方ニ引キツケテ考ヘラル、關係ヲ有スルトヨリ、分類上、スベテ此等ヲ一括シタルモノヲ動詞以外ニ分立セシムルコトヲ敢行スルヲ難ンゼシムルモノアルニ依ルナリ。ワガ國語ニテハ、其ノ補助ノ動詞ニ當ルベキ意義ノモノハ、殆んど全ク其ノ語ノ成立上ノ歴史ニ於イテ、始メヨリ關係ノ思念ヲアラハスモノトシテ立ツモノナレバ、動詞ノ部類ニ附屬セシメ得ベキ情實ヲ有スルコトナク、コノ點ヨリ、下ニイフガ如ク、辭ノ部類ニ屬スベキモノ（主トシテハ動辭ヲ成ス）トナルガ故ニ、彼我ノ間ニハ、コノ大ナル性質上ノ相違ノ存在スルヲ見ルトナルナリ。サレド、ワガ國語中ニハ、却ツテ、西洋文典ノ助動詞ニ當ルベキ

形容詞

意義ヲ成スモノ以外ノ語ニテ、殆ンド、彼方ノ助動詞ガ動詞中ニ附屬セシメラル、ガ如キ地位ニ立ツモノアリ。世ニ「敬語」卑下語ト稱セラル、語法ヲ成サムガ爲ニ、所謂動詞ニ添附セラレテ補助的ノ用ヲ成ス「たまふ」は「べる」さ「ふらふ」ノ類ノ語、スナハチ、コレナリ。此等ハ、一方ニハ、全ク普通ノ動詞トシテ通用シ居ルモノニテ、他ノ一方ニ、所謂敬語卑下語ヲ成スガ如キ場合ノ關係的意義ヲアラハス語トシテ見ラルベキ用法ヲ成シ、モノニシテ、カ、ル方面ヨリ見タル性質ニ於イテ、全ク彼方ノ助動詞ト相當ル者タルナリ。コレ、必ラズ知ラザルベカラザルコトナリ。而シテ、コノ助動詞ニ當ル「たまふ」は「べり」ノ類ガ四大分類ノ用言動辭ノ中間ニ立ツガ如キモノナルコトヲ外ニシテ、普通ノ動詞ニ當ルモノガ「言」ニシテ「活用アルモノナルコトニ於イテ用言ニ屬スベキモノナルハ、論ナカルベキナリ。

次ギニ、所謂形容詞トイフモノハ如何トイフニ、西洋ノ形容詞ハ名詞ヲ制定スル語トシテ定義セラル、モノニシテ、其ノ原語ヲ正譯スレバ、殆ンド「裝定詞」(裝定語)トモイヒツベキモノニシテ、之ヲ「形容詞」ト譯シタルハ、其ノ裝定ヲ

成ス語トナリ居ルモノガ、意味上物事ノ形狀ヲアラハスモノナル事實ヨリ取レリシモノニテ、文典學上甚不適當ナル用語ナリトイフベク、カ、ル名目ノ習用セラレテヨリ、名詞ヲ「裝定」ストカ名詞ノ意義ヲ制限ストカイフベキ場合ニ、名詞ヲ「形容」ストイフ新語ハツクリ出サル、コトトナリタレド、固ヨリ、在來世間一般ニ使用セラレ居ル「形容」ストイフ語トモ異ニシテ、正シク「裝定」スノ意義ヲモ寫シ難ク、空シク兩者ノ間ヲ往來スル人迷ハセノ謎語タルニ止レリ。

コノ西洋文典ノ形容詞ニ當ルモノハ、意義上、マヅハ、ワガ國語ノ「よし」ひとあしき いぬ おほい なる うま 廣大 の 地 ナドノ「よし」あしき おほいなる 廣大 の「ノ類ナルベシ。サレド、なる」の「ナド」ノソヘルハ、明ニ二語以上ノ集リ・スナハチ・叢語ヲ成スモノナレバ、固ヨリ、單位語ノ分類ニ當ラズ。カ、ルモノハ、其々ニ取り別ケテ、別々ノ語トシテ取り扱フベキモノニテ、取り別ケラレタル「おほい」廣大ハ、皆、形狀ノ名トナリテ、其ノ語一ツニテハ、名詞ヲ裝定スル語トシテノ性質ヲ具ヘズ。

(ルガ、ソノ事ハ、上ニモ少シクイヘル所ナリ、形ノ名ナカニハ、裝定の關係ニテ成語

ナ成スコト「おほいぬ」しるいぬ」ノ如クナルモアレド、ソハ、造語法上、コノ故ニ、裝定スル語一語内ノ成分ナ成ス時ノ事ナレバ、コトハ別ナリト知ルベシ。トシテ形容詞ニ擬セラルベキモノハ、よき、あしき」ノ如キモノノミトナルベシ。然レドモ、よき」あしき」ノ類ハ、ワガ國語ニテハ、よし」あし」ノ如クイヒテ、文ノ從素トシテ述定ノ用ヲ成スヲ本形トシ、よき」あしき」ノ如クナルハ、其ガ活キタル一ツノ場合ナルコトト成リ居ルノミナラズ、其ノ同ジ語ハ、ナホ、よく」あしく」トモ活ラキテ、限定素スナハチ所謂副詞ノ用ヲ成ス場合モアルコトト成リ居ルガ故ニ、之モ、到底、單位語ノ分類トシテノ形容詞ニ擬スルコト能ハザルコトトナルナリ。サレバ、西洋文典ノ形容詞ニ當ル單位語ノ種類ハ、ワガ國語中ニハ存ゼザルナリ。

但シ、西洋文典ニテ、準從素スナハチ整合的從素ヲ有スル文ノ、ホ、

そ の あし おほい なり。

そ の いろ 美 なり。

ニ當ルベキモノニツキテ、其ノ「おほい」美」ノ地位ニ立ツモノヲモ、文主ニ對スル形容詞ナリトスルコトアレド、カ、ル構造ノ文ニ於イテ、おほい」な

副詞

り「美」なり」ノ如キモノガ、文主ニ對シテ、之ヲ述定スル述定部ヲ成スモノニシテ、裝定素ヲ成スモノナラザルハ、分明ナリトイフベク、カ、ル構造ノ文ニ於ケル「おほい」美」ガ、單位語トシテハ、形狀ノ名ガ一種ノ位格ヲ取ルベキ様ニ轉用セラレタルモノニシテ、其ノ位格ヲ取ル關係以外ニ、文主ト關與スル所ナキコト、マタ、明ナリトイフベシ。(第四編二七及二九參照)コノ故ニコノ「おほい」美」ノ如キモノハ、少クトモ、ワガ國語ニ於イテ、所謂形容詞ニ屬スベキモノナラズト知ルベシ。(西人ノ間ニモ、カクノ如キ地位ニ立ツモノヲ以ツテ文主ヲ裝定スルニアラズトスルハ、既ニ其ノ説アルコトナリ。カノ中島博士ノ論理撮要ノ紛本タル論理學ノ著者ヘンリー・ノーブル・デ・イ氏ノ如キ、實ニ、其ノ論者ナリ。)

一。品詞的分類ト單位語ノ四大別(ツマキ)。

次ギニ、所謂副詞トイフモノハ如何トイフニ、西洋文典ノ副詞ハ、名詞以外ノモノヲ制定スル語トシテ認メラレ、ホ、既ニイヘル限定素ヲ成ス語ナリ。

(上ニイヘル限定素ニハ、主素ヲ限定スルモノヲ含メドモ、西洋文典ニテハ、名詞ヲ制定スルモノハ、無キトナル。)

サレバ、彼方ノ副詞ニ當ルモノノ大部分ヲ占ムルハ、よくあしく等ノ語及ビ
 「あきらか」に「ますぐ」に「くろく」と「ちら」とノ如キ叢語ナレド、其ノ叢
 語ハ、形容詞ノ條ニイヘルモノノ場合ト同ジク、其ノマ、ニ一語トシテノ分
 類ニ當ルベキモノニアラデ、一ツノニ取り分けテ取り扱ハルベキモノニ
 テ、之ヲ取り別クレバ、あきらか「ますぐ」くろく「ちら」ノ如キハ、皆上文ニイヘ
 ルモノト同ジク形状ノ名トナルニテ、よくあしくノ如キモノノ方ハ、一語ニ
 テ副詞ノ用ヲ成セドモ、此モ前ニイヘル如ク、よし「あし」ナドイヒテ述定ニ使
 用セラレ、よき「あしき」ナドイヒテ裝定ニ使用セラル、其ノ一ツ語ノ活ラキ
 タル一ツノ場合ト成リ居ルモノナレバ、副詞トイフ種類ノ語ナリトハイフ
 ベカラザル、ナホ、よき「あしき」ヲ形容詞テフ種類ノ語ナリトイフベカラザ
 ルガ如シ。

而シテ、此等ノ外ニ、彼方ノ副詞ニ當ルベキモノハ、たえくものいふよ
 くくみれ ばノたえくよくくノ如ク、限定素ヲ成ス單位語トシテ
 或ル事相ノ状況ヲアラハス方ニ使用セラレタル語「たちまち」「ひたすら」もは

後置詞
前置詞

ら「ほど」「しばく」「ますく」「なほ」等ノ如ク、廣ク事相成存ノ時間、數量、容態、配置
 等ニ關スル状況ヲアラハス套語及ビ「や」「いと」はなはだナドノ如ク、形状「モ
 シクハ事相ノ程度ニ關スル状況ヲアラハス套語、むしろ「けだじ」「たゞし」「かな
 らず」「おそらく」「つらく」「たとへ」ナドノ如ク、述者ノ或ル想形ヲ構フル上ニ必
 要ナル或ル状況ヲアラハス套語等ナリ。此等ハ、其ノ語トシテノ成立上ノ
 歴史ニハ種々ノ差異ヲ有スレドモ、トモカクモ、言ニシテ活用ナキトニ於イ
 テ、體言ニ屬スベキモノナルハ、明ナリトス。

次ギニ後置詞トイフモノハ、如何トイフニ、西洋文典家ガ其ノ國語ニハ、名詞
 (モシクハ名詞的ノモノ)ノ前ニ言ヒソヘラレテ種々ノ關係ヲアラハス前置
 詞トイフモノアルヲ常トスルニ對シ、意義功用ノ上ヨリ見テ同ジ種類ノモ
 ノニテ、名詞(モシクハ名詞的ノ用法ヲ成スモノ)ノ後ニ言ヒソヘラル、モノ
 アル國語ニツキテ、之ヲ指シテ後置詞ト言ヒ居ルモノニテ、ワガ國語ノ狹義
 ニイフては「スナハチ」活用ナキ辭ナル靜辭ノウチニ、ホ、其ノ後置詞ニ
 當ルモノ(「スナハチ」より「に」まで)ノ類多キヨリ、品詞的分類ヲ取ラムトスル大

助詞 後助詞

體ノ世潮ハ之ヲ後置詞ニ擬セムトスルモ其ノ參差出入ノ甚シキヨリ品詞的分類中ニ於イテ獨後置詞ノ目ヲ削リ代フルニ狹義ノマナルニテをハヲ以ツテセントスル傾向ヲ成ス。大槻文彦氏ノ廣日本文典ノ如キハカ、ル分類法ノ代表者トシテ、オソソリテ、イ一視セララル、モノナリ。然レドモ、てにをハノ名ガ他ノ品詞名ニ對シテ獨變調ナルヲ以ツテ稱呼ノ様式ヲ一ニセムガ爲ニ芳賀矢一氏ノ明治文典ノ如キハ、在來廣義モシクハ狹義ノ辭ヲ助辭トモイヒ來レリシヲ利用シ改メテ助詞ト呼ベリ。(ヤ、古ク中根肅氏ヲ後助詞ト呼ベリ)

今、其ノ助詞ト後置詞トノ異點ノ主タルモノヲイハバ、西人ノイフ後置詞ハ、前置詞ト同ジク、名詞モシクハ名詞的ノ用法ヲ成スモノニ言ヒソヘラル、ヲ條件トスルモノナルニ對シ、我ノ靜辭ナル助詞ハ、彼ニイフガ如キ名詞モシクハ、其ノ名詞的ノ用法ヲ成スモノノ後ニ言ヒソヘラル、モノノ外ニイ所謂動詞ナドノ或ル述定ヲ成スモノニソウテ、其ノ後ニ置カル、モノノ限定素ヲ成スモノ(スナハチ廣ク副詞的ノ用法ヲ成セルモノ)ナドニソウテ、其

ノ後ニ置カル、モノハ、限定素、裝定素ヲツクラムガ爲ニ他ノ語ニソウテ、其ノ後ニ置カル、モノヲモ廣ク包括スルヲ、スナハチコレニテ、其ノ(イ)ニ屬スルモノハ、ゆく、か、ゆく、な、ゆか、じ、ノ、か、な、じ、ノ類トゆか、ば、み、ら、る、べし、ゆき、て、み、む、ゆけ、ど、み、られ、ず、ノ、ば、て、ど、ノ類ト有シ、其ノ(ロ)ニ屬スルモノハ、つよく、は、ひか、ず、よく、も、みえ、あしくも、みゆ、ノ、は、も、ノ類ニテ、此ハ、一方ニ、主素ヲ成スモノ(スナハチ廣ク名詞的ノ用法ヲ成セルモノ)ニモ、ソヘ用キラルベキコト、われ、は、ゆか、じ、わ、れ、も、ゆか、む、ノ如クナルモノニテ、其ノ(ハ)ニ屬スルモノハ、あきらか、に、みゆ、くろ、く、と、ぬる、ましる、の、いぬ、こ、の、ひと、わ、が、み、ノ、に、と、の、が、ノ類ナリ。

世ニハ、品詞的分類ノ名目ヲ傷ケザラムヲ欲シ、コノ靜辭ナル助詞中、ホマ後置詞ニ當ルモノヲ取りテ後置詞トシ、他ヲバ、他ノ品詞ニ分附セムトスルモノアリ。カ、ル主義ノ人ハ、大方「か」「な」「じ」ノ如キ、モノヲ助動詞トシ「ば」「て」「ど」ノ如キ、モノヲ接續詞トシ、「は」「も」ノ如キ、モノヲ副詞トシ、「に」「と」「の」

「が」ノ如キモノヲバ、或ハ、後置詞トシ、或ハ、上ノ語ト共ニ推シクルメテ「副詞」
 「形容詞」代名詞「ナド其々ニ縁ヲ尋ネテ附會セムトスルモノノ如シ。カク
 ノ如キ措置ハ、固ヨリ、品詞の名目ノ崇拜心ニ出デタルモノニシテ、其ノ人
 ノ精神、始メヨリ學理ノ研究ニアラザルヲ以ツテ、其ノ崇拜ノ情ヲ満足セ
 シメムトスル外、勢、學理ノ尋釋ニ冷刻ニシテ、其ノ要求ノ爲ニハ何モノヲ
 犠牲トスルヲモ辭セザラムトスル状態ニ陥レル結果ニシテ、學理上、殆ン
 ド一顧ノ價ナキモノナレド、過渡時代ノ今日ニアリテハ、ナホ、一種ノ學說
 トシテ敬意ヲ持セザルベカラザルノミナラズ、之ヲ排セザラムモ、人迷ハ
 セノ種トナリヌベケレバ、少シク、之ヲ辨ズベシ。

マヅ、「か」「な」「じ」ノ類ヲ助動詞ナリトスルコニツキテイハムニ、助動詞トハ、
 補助ノ動詞ヲイフニテ、ワガ國語ニテハ、上ニイヘル「たまふ」「はべり」「さふ」
 らふ類ノ語ニコソ、之ニ當ルモノアレ、他ニハ、一切助動詞トイフベキ性質
 ノモノナキナリ。「なり」「たり」「きつる」「らる」「す」「しむ」等ノ動辭ノ如ク、意義
 上、西洋文典ノ助動詞ガアラハスモノニ當ルベキ性質ヲ有スルモノヲコ

ノ種類ニ附會スルダニ、既ニ、許スベカラザルコナルニ、(此ハ、殆ンド、誤解シ居
 ラザル人ナキガ如シ。)
 活、ラ、キ、モ、何、モ、ナ、ク、動、詞、ニ、對、シ、テ、何、ノ、似、タ、ル、性、質、モ、ナ、キ、モ、ノ、ヲ、何、ス、レ、バ
 トテ、助動詞トハ呼ビタリケム。タゞ、動詞述定ノ用ヲ補助スベキ或ル關
 係ノ思念ヲアラハスコニ於イテ、スナハチ、辭ノ功用ヲ成スベキ性質ヲ有
 スルコニ於イテ、西洋ノ助動詞ト互ニ似通ヒタル點ナキニアラザル所ヤ、
 誤解ノ種ナリケム。或ハ、助動詞ヲ以ツテ、動詞ヲ補助スル詞ト思ヒ取レ
 ルニモヤアラム。誤レリトイフベシ。

次ギニ、「ば」「て」「ど」ノ如キモノヲ所謂接續詞ナリトスルコニツキテイハム
 ニ、此等ノ語ハ、上例「ゆか」「ば」「み」「らる」「べし」等ノ如キ或ル思想ニ於イテ、
 「ゆく」ノ如キ或ル思念ト「み」「らる」「べし」「み」「む」「み」「られ」「ず」ノ如キ或ル
 思念トノ接續シテ一團ヲ成スニ方ツテノ、其ノツゞキ合ヒ上ノ關係ヲア
 ラハス爲ニ、上ノ方ニ置カル、モノニ隸屬シテ、ソノモノガソノ關係ヲ以
 ツテ、下ノ方ニ置カル、モノニツゞキユクコトヲアラハスモノニシテ、決シ
 テ、上ノモノト下ノモノトノ間ニ立ツテ、之ヲ接續スルニハアラズ。〔勿論

言ヒツヰケ上、或ル接續上ノ關係ヲアラハシ居ルハ事實ナレバ、關係ヲアラハス補助ノ語(スナハチ辭トシテノ區別ナラムニハ、其ノウチノ、接續上ノ關係ヲアラハス辭ト、言ヒ得ラルベキハ明ナリト知ルベシ)。サレバ、所謂接續詞ニ當ルモノナラザルハ分明ナルヲ、之ヲ接續詞ト稱スル人ハ、接續ニ關スル意義ヲアラハスモノスナハチ、接續詞ナリト思ヘルナルベシ。况シテ、之ヲ「また」「および」「かつ」ノ如キ類ト混同セムトスルガ如キハ、其ノ誤リモ、マタ、甚シトイフベシ。

次ギニ、「も」ノ如キモノヲ副詞トスルコトニツキテイハムニ、所謂副詞ナルモノハ、ソレミヅカラ、一文素ヲ成シ得ベキ意義ノモノニ限ルニテ、「は」「も」ノ如ク、全ク他ノ語ニ隸屬シテ或ル關係的意義ヲ言ヒソフルモノニテ、ソレミヅカラ、一文素ヲ成スベキ資格ナキモノヲイフベキニハアラズ。

コレ、西洋文典ノ所謂副詞ナルモノガ元來、所謂動詞(從素ヲ成ス)、所謂形容詞(裝定素ヲ成ス)、及ビ他ノ所謂副詞(限定素ヲ成ス)ヲ限定スベキ一文素ヲ成ス語ナルニ依ルコトニテ、今ハ、所謂前置詞ナドヲ限定スルコトアレド、(ネスフキール氏ノ英文典)

ニイフガ如キ、接續詞ヲ限定スル副詞アリトイフ説ハ、信ズベカラズ。氏ガ用例ノ釋法ハ、當チ失ヘルモノナリ。但シ、其チ許ストスルモ、コトノ議論ニ關係スル所殆ンド無シ。ソハ、前置詞ナルモノガ元來ハ、名詞動詞(分詞)形容詞副詞ナドノ漸次ニ訛轉シタルモノニテ、慣用ノ久シキ、殆ンド、其ノ大體ノ性質ニ於イテ、ワガ國語ノ辭ト相別ツベカラザル補助的ノモノトハ成リタレド、其ノ本義ノ系統ヲ傳ヘテ、ナホ、ワガ國語ナドニ對譯スレバ、名詞動詞等ノ意義ニ匹敵スル意味ヲ包含スルモノ多ク、副詞ガ添附スル場合モ、殆ンド全クカ、ルモノニノミ限ルコトナリ。(所謂前置詞ニ限ラズ、所謂接續詞ノ如キモノモ、其ノ本源ハ、ホトト様ノ性質ヲ有スルモノニシテ、其ノ轉訛ノ程度コソ違ヘ、其ノ由來スル關係ハ、共ニ、上文ニイヘル、助動詞ノ動詞ニ於ケルガ如キ類ノモノナルナリ。カクノ如キコトハ、スベテ、西洋語ノ成立上ノ本性ガ、其ノ單位語ヲシテ、皆、一文素ヲ成シ得ル意義ヲ有ツベキ本來的ノ性質ヲ有セシメ、本來的ニワガ國語ノ辭ノ如キ意義ノモノヲ有セザラシムベキモノナルニ依ルナリ。)ナホ、コノ事ニツキテハ、次節ノ本註中ニ、西洋語トワガ國語トノ本性上ノ異同ニツキテイフ所ヲ參考スベシ。ワガ國語ノ「は」「も」ノ

如キモノヲ以ツテ品詞的分類ノ副詞ニ擬セムトスルコト不倫ナルハ之ニ依リテ明ナレド上文ニモイヘル如キ副詞トカ、ル辭トヲ混同セムトスルコト可否ハ、タゞ常識ニ訴ヘテモ殆ンド迷フ所アルベカラザルモノナルナリ。

次ギニ「あきらか」に「くるく」と「如キ」に「と」を「しる」の「いぬ」この「ひと」わ「が」こゝろ「の」が「如キモノ」ヲ後置詞トスルコトニツキテハ、西洋ノ國語ニ於イテ其ノ名詞代名詞等ノ用法中ニ、ワガ國語ニ譯シテコノ「が」ヲ以ツテスベキ所謂領格(寧ロ生格)ニ當ルモノヲ所謂前置詞ヲソヘテアラハス場合ノモノアルヲ取リテ、マヅ「の」ガ後置詞トスベキ標準トシ、之ヲ敷衍シテ「に」と「ヲ」モ取リ入レムトナラムニハ、ソハ其ノ人ノ心々ニ任スベシ。サレド恰モ「ワガ國語」の「が」ヲ以ツテ譯スベキ場合ヲ成ス領格ヲ以ツテ所謂形容詞的性質ノモノ「スナハチ裝定素」ヲ成スモノトスルハ、西洋ノ學者モ殆ンド一致シ居ルトコロニシテ、之ヲ他ノ位格ヲ取ル用法ヲ成ス場合ト混一スベキニアラサルコト、既ニ識者ノ注意ヲ惹キ居

ル今日ニ方ツテ、今更ニ西施ノ鑿ニ倣ハムトスルコト智愚ト其ノ筆法ヲ「に」と「マデ」及「ボサム」トスルコト得失トハ、多辨ヲ要セザルベシ。就中「に」と「方」ノ如ク、其ノ添加ニヨリテ所謂副詞ニ當ルベキ叢語ヲ成スモノヲモテ、普通ノ位格ヲ別ツモノノ如キ用法上ノ性質全ク懸隔セルモノト混一セムトスルガ如キハ、西洋文典式ノ崇拜觀ヨリスルモ、殆ンド呆然タラザルヲ得ザルベキモノトス。「に」と「の」ガ「ソ」ヘル叢語ヲ擧ゲテ、縁ヲ尋ネテ或ル品詞ニ附會セムトスルガ如キ方法ヲ取ルモノニ至ツテハ、單位語トシテノ分類ト文案トシテノ分解トヲ混雜スルモノニシテ、固ヨリ顯然タル過誤トシテ、何人モ反省シ得ベキモノナルニモカ、ハラズ、語スナハチ單位語ノ分類ニコノ類ノ手段ヲ取ルコトハ、後置詞ニ代ヘテ、てにをは「目」ヲ立ツル人ノ間ニモ多ク行ハレ、殊ニ「を」「か」「わ」ノ如キ指示名ノ下ニツヘル「の」ガ場合ニ於イテ、この「を」「の」「か」「わ」ガ「如キモノ」ヲ一語トシテ思念スルコト、漢文訓讀ノ餘弊ヲ受ケタル故ニヤアラム、漢字ヲ以ツテ本字ト認メ來レリシ因習ノ惰性ニ弊ハレタル故ニヤアラム、

接續詞

ハタ、英語ナドノ所謂代名詞領格ノ一語ナルモノノ直譯ナドヨリヤ迷ヒ入リケム、篤學ノ士ニモ、ナホ、其ノ過誤ニ陥ルヲ免レザル者多ク、殆ンド比々皆然リノ觀ヲ呈ス。語學界ノ荒蕪、以ツテ概見スベキナリ。

次ギニ接續詞トイフモノハ如何トイフニ、西洋文典ニイフ接續詞ハ、或ル語文素モシクハ文ヲ接續スル用ヲ成スモノニテ、彼方ノ國語ニテハ、所謂助動詞ニ、ワガ國語ノ如ク、言ヒツマケノ關係ニテ種々ニ語形ヲ變化セシメテ、承接接續ノ關係ヲ自由ニスルハ、たゞ、スナハチ、活用トイフモノナク、(序參照)——所謂不定詞及ビ分詞ヲ除キテハ——スベテ從素トシテ立ツ場合ニノミ使用セラル、モノナレバ、文形ノモノモシクハ、述定部ヲ成セルモノヲ接續セシメムトスルモ、其ノマ、ニテハ、別々切レ、ノモノトナリテ言ヒツマケラルベキ便宜ヲ缺クヲ以ツテ、其ノ缺陷ヲ充タサムガ爲ニ、必ラズ、接續上ノ關係モシクハ、狀況ヲアラハス語ヲ、其ノ間ニ加フルヲ要スルヨリ、其ノ關係モシクハ、狀況ヲアラハス語ハ、正シク接續ノ用ヲ成スコトトナリ、コ、ニ接續詞テ、文素的ノ品詞ヲ成スニ至リ、其ノ概念ヲ、主素トモ裝定素

ドモ限定素ドモ等ノ間ノ連絡ノ方ニ言ヒソヘラル、モノ(序編ニイヘル状態ニ六參照)主素ドモヲ連ネ從素ドモヲ連ネ裝定素ドモヲ連ネ限定素ドモヲ連ネマタコレアリ。タ、(特ニ從素及ビ述定部ノ場合ニ於イテ)性質上接續詞ヲ要スルナリト)ニモ推シ及ボシテ、スベテ同様ニ思念スルコトトナレリシナリ。コノ故ニ、西洋ニテイフ接續詞ハ、眞ニ接續詞ノ稱ニ合ヘリ。然レドモ、ワガ國語ニ於ケル「ば」「て」「ど」ノ如キモノガ之ニ當ラザルハ、既ニイヘルガ如クニシテ(前節)世ノ文典家ノ多クガ接續詞ニ擬スル「また」「および」「かつ」ノ如キモノニ至リテモ、ヨク其ノ性質ヲ按ズル時ハ、實ニ接續詞トイフベキモノヲ成サズシテ、タ、接續(寧口團結)ニ方ツテノ狀況ヲアラハス限定素タル語「スナハチ」接續ニ關スル副詞)タルニ過ギザルナリ。

蓋シ、ワガ國語ニテハ、彼方ノ國語ノ動詞ニ當ルモノハ言フマデモナク、彼方ノ助動詞等ノ場合ヲ充タス意義ノ語モ、殆ンド皆「はたらき」ヲ有シテ、承接接續ノ言ヒツマケヲ自由ニスルガ故ニ、語モシクハ、或ル叢語句等ノ團結ニ方ツテノ接續ニ他ノ語ヲ要スル必要ナキノミナラズ、(ゆき、みる、おき、ふす、ひ、ゆく、ひ)は、いで、つき、は、いる、(所謂動詞ナル用言其ノ他ノ活用アルモノハ、皆特別ノ形式ナソナヘ、名詞等ノ活用ナキモノハ、ソノマ、ニテ接續セラル、ナ得ルナリ。)甲乙

別ニ接続ノ任ヲ完ウスベキ形式ヲ有スルハ、西洋ノ國語ハ勿論他ニ類例ナキコトナリ。
 補助ノ語トシテ他ノ語叢語句等ニ隸屬シテ種々ノ關係ヲアラハス辭ノ添
 加セラレテ既ニ團結セラルベキ自由ヲ有スルモノヲシテマス、自由ノ
 境涯ニ進マシメ得ベキアリテ、（上ニイヘルハ「て」ノ類及ビ「甲」と「乙」とハ「本
 ノ如キ」と「チ」ノ添加セ）文ノ主素タリ得ベキ語スナハチ西洋文典ノ名詞ニ當
 ラル、場合ヲ思フベシ。流麗ニスルヲ以ツテ如何ナル場合ニモ、接続上ノ表
 白法ニ缺陷ヲ生ズルコトナシ。コレ更ニ接続上ノ狀況ヲアラハシテ情意ノ
 表白ヲ豊滿ナラシメムガ爲ニ、また「および」かつ等接続ニ關スル狀況ヲアラ
 ハス語ヲ使用セザルニアラザレドモ、此等ガ全ク便宜上ニ取捨セラルベキ
 モノニシテ、語文素句等ヲ接続スル職責ニ關與スル所ナキ所以ナリ。（讀者
 ハ、コ
 、ニ、カクノ如キ語ニツキテ思念スルニ方ツテ、漢文ト國文トノ性質ヲ混同スルコトナカラムヲ
 要ス。漢文ニ於ケル漢字ノ用法ヲ執ツテ妄ニシテ、國語ニ臨ムガ如キ愚ナ演ズベカラズ。モ
 シ、ナホ、「また」「および」かつ等類ニツキテ接続ノ職責ヲ有スルガ如キ思ヒアラムニハ、カクノ如
 キモノヲ捨ツルモ、語文素ノ叢語句ノ接続ヲ遂ケ團結ヲ全クスルコトノ自由ナルヲ、實例ニツキ
 テミヅカラ觀察察スベシ。如何ナル文モ、接続トイフ方ヨリ見テ、カ、ル語ナキ様ニ言ヒ更
 ヘラレザルナキヲ認ムルニ及ンテ、此等ノ語ガ接続トイフアラズシテ、接続ニ關スル狀況ナラ
 ハス副詞ナルヲ明メ得ベキコト、鏡ニ向ツテ影ヲ見ルガ如クナルベシ。但シ、限定素ヲソアラ
 固ヨリ、無意義ノコトナラザルヲ以ツテ既ニカ、ル語ナキ一種ノ副詞ヲ成ス語トシテ使用スル

感歎詞

習ヒアル以上、カ、ル語ナキヘタル場合ニ特別ニ豊滿ナラシメラル、或ル情意
 ナマテ十分ニ寫シ出スコト能ハザル場合アルベキハ、言ヲ需タズト知ルベシ。
 カクノ如クニシテ、ワガ國語ニ、所謂接続詞ナルモノナクシテ、却ツテ、接続ニ
 關スル或ル意義ヲ有シテ、所謂副詞中ニ列スベキ、特別ノ語アルコトヲ確言
 セザルベカラザルコトトナルハ、大ニ注目スベキコトナリトス。而シテ、カ
 、ル語モ、マタ、上文ニイヘル副詞ノ如ク、言ニシテ活用ナキコトニ於イテ、體
 言ニ屬スベキモノナルハ、分明ナリトス。
 次ギニ、所謂感歎詞トイフモノハ如何トイフニ、コハ皆、廣義ニ於イテノ咏情
 語、スナハチ、咏情ノ語モシクハ之ニ準ジテ思念セラルベキモノニシテ、既ニ
 序編中(七)ニモイヘルガ如ク、用法上、本用ト轉用トノ別アリテ、其ノ本用ノモ
 ノハ、大體上、西洋文典ニイフ間投詞ト同ジク、文ノ構成ニ關スル或ル職責ヲ
 有スルコトナカルベキモノナレドモ、其ノ轉用ノモノハ、緩ク限定素ノ用ヲ
 成シテ、一種ノ準副詞タル點ニ於イテ、ヤ、異ナル所アリト知ルベシ。（但シ、
 西洋
 文典トイフウチニモ、希臘時代ノ文典家ナドハ、所）而シテ、此ノ種ノ語モ、言ニシテ「活用」
 謂間投詞チ一種ノ副詞トシテ數ヘタリシナリ。（コノ種類ニ屬スルモ
 ナキ點ニ於イテ、體言ニ屬スベキモノナルコトハ論ナシ。ノナ、叫聲ニシテ語ニ

アラズトイフ人モアルメド不可ナリ。叫聲ニマレ何ニマレ荷クモ或ル情意ヲ寓スル約束
 的ノ符徴トシテ其ノ情ヲ表スル以上語ヲザラシタラザルモノチモ實ニ準ニ眼テ用ス
 ル急進ノ無意識ナルハ聲ノ又詠歎ノ辭スナハチ詠歎ノ類トコノ感歎詞トノ區別ヲ解
 ゼズシテ之ヲ混同視スル人モアレド大ニ不可ナリ。詠歎ノ辭ハ定義ニ合フベキ性質ヲ有スルモ
 語ニシテ感歎詞ハ獨立ニ使用シ得ラレド大ニ不可ナリ。詠歎ノ辭ハ定義ニ合フベキ性質ヲ有スルモ
 ナリ。時代ノ變遷ニ伴ヒテアリ得ベキモ一方ヨリト知ルベシ。

一三。單位語分類ノ標準。

今前二節ニ述ブル所ニヨリテ性質上品詞的分類ニヨリテ指示シ得ベキモ
 ノト指示シ得ベカラザルモノトノ關係ヲ圖示スレバ、

- (イ) 名詞 (西洋文典ニイフ名詞) 物事ノ名體言
- (ロ) 名詞 (名ノ語タルコトニ於テイニ準ズベキモノ) 形状ノ名體言
- (ハ) 代名詞 物事ノ名ニ準ズル指示名體言
- (ニ) 代名詞? 形状名ニ準ズル指示名體言
- (ホ) 數詞 物事ニツキテノ數量名體言
- (ヘ) 數詞? 數ノ形状ノ名體言
- (ト) 動詞 作用ヲ其ノマ、ニアラハス語用言

(チ) 助動詞 (但シ、意義ニ於テ相當ラズ) (所謂敬語卑下ノ動辭的)

(リ) 欠 (但シ、チヲ以ツ) 活用アル辭(動辭)

又 形容詞 欠 (但シ、ルノ一部分ヲ以ツテ之ニ代フ)

(ル) 欠 (但シ、述定ノ場合ヲ除キ、(メ)ヲ以ツテ之ニ代フ) 述定裝定限定ヲ一ツ語ノ活ラキニテアラハス形状ノ語用言

(ヲ) 副詞ノ一部分 (得ベキ意義上ノ性質ヲ有スルモノ) 欠 (但シ、ルノ一部分ヲ以ツテ之ニ代フ)

(ワ) 副詞ノ他ノ部分 (但シ、チノ如キ意義上ノ性質ヲ有セザルモノ) 狀況ヲアラハス套語體言

(カ) 欠 (但シ、レヲ以ツ) 接續ニ關スル狀況ヲアラハス套語體言 (體言)

(ヨ) 後置詞 活用ナキ辭ノ一部分(靜辭)

(タ) 欠 (但シ、レノウチ、其ノ一部分ニ當ルモノアリ) 活用ナキ辭ノ他ノ部分(靜辭)

(ヨ)ノ場合ニ入ラザルモノ)

(レ) 接續詞 (西洋文典ニ) (欠) (但シ、カ、及ビ、タノ一部分) 以ツテ之ニ代フ。

(ソ) 感歎詞 (西洋文典ニ)

咏情ノ語體言

ノ如クニシテ、コノウチ、西洋語ニアリテ我ガ國語ニナキモノハ、タゞ、其ノ品詞名ヲ廢棄スルコトトスベキ外、ワガ單位語ノ分類ニツキテ多クイフベキ必要ナケレド、(形容詞ト接續詞トハ、コ、ニ、廢棄セ) (甲)ワガ國語ノ特性上、彼ノ品詞名ト正シク相當ラザルモノト、(乙)我ニアリテ彼ニ無キモノトハ、特ニ注目スルヲ要スベキモノニシテ、マヅ、其ノ(甲)ニ屬スルハ、(ロ) (ニ) (ヘ)ノ三項ニ當ルモノニテ、其々ニ、(イ) (ハ) (ホ)ノ品詞名ヲ敷衍シテ、其ノウチニ收メ、其ノ各ノ内部中ニ細別ノ目ヲ立ツルコトトスルカ、然ラザレバ、(イ) (ハ) (ホ)ニ對シテ、(ロ) (ニ) (ヘ)ヲ概括シ、互ニ相對立スル種類タラシムルコトトスベキ性質ヲ有スルナリ。(但シ、其ノ後者ニヨル時ハ、直チニ、歩ミヲ品詞名ノ破壞ニ進ムルコトトナルヲ以ツテ、推究ノ順序上、暫ク前者ニ就クベキ假定ヲツクリ置キテ、(乙)ノ結着ヲ待ツコトトスベシ。) 其ノ(乙)ニ屬スルハ、(リ) (ル) (カ) (タ)ノ四項ニ當ルモノニテ、此等ノ四種ハ、——今ノ世間ノ風潮ノ如ク——品詞的の分類ヲ取ラムトスル以上、

如何ニシテ其ノ分類ニ調和シ得ベキモノナルカヲ考へ、果シテ調和シ得ベキ道アリヤ否ヤヲ攻明セザルベカラザル最初ノ要衝ニ當ルモノニシテ、分類問題ノ天王山タルモノナリ。

サレバ、説明上ノ便宜ニ從ツテ、マヅ、カノ項ニ當ルモノヨリ始メテ、コノ四種ノモノヲ檢按セムニ、コノ種ノ語ナル接續ニ關スル狀況ヲアラハス套語ハ、西洋文典ニハサルモノナク、トモ、ワガ國語ニハ存在スル一種ノ副詞トシテ、副詞中ニ收ムルコトトセムハ、サマデ困難ナルコトニアラザルベシ。次ギニ、(タ)ノ項ニ當ルモノナル活用ナキ辭ノ一部分ノ性質上、彼ノ所謂後置詞ニ當ラザルモノニツキテハ、之ヲ(ヨ)ノ項ニ當ルモノト併セテ活用ナキ辭ハ、一種類ヲ立テ、後置詞ノ名ヲバ廢シテ、芳賀氏ノ撰名ニ依リテ、助詞ノ名ヲ取り、之ニ命名セムトスルコト、(更ニ其ノ内部ヲ別ツ) 差シ當リテノ適當ナル案ナルベシ。然レドモ、之ヲ行ハムニハ、其ノ定義ヲバ、或ル關係的意義ヲアラハサムガ爲ニ他ノ語ニソフベキ補助ノ語トセザルベカラザルハ、無論ノ事ニシテ、コノ定義ヨリコノ種類ヲ見ルコトトスレバ、其ノ影響トシテ、其ノ他

ニモ、リノ項ニ當ルモノナル活用アル辭スナハチ動辭ガ、マタ、或ル關係的意義ヲアラハサムガ爲ニ他ノ語ニソフベキ補助ノ語テフ定義ノ下ニ立ツベキモノナルコトニ於イテ一致シ、同ジク、助詞トイヒツベキモノタルヲ認ムルコトトナルベキヲ以ツテ、正シク、助詞ノ稱號ヲ與ヘザルベカラザルコトトナルモ、ナホ、其ノ間ニハ互ニ相互ヲ區別スベキ差異ノ點アルコト、マタ、オノヅカラ明ナルヲ以ツテ、其ノ差異ヲ最著シキ點ナル、活ラキノ有無ニ取リテ、其ノ間ノ區別ヲ立テ、或ル關係的意義ヲアラハサムガ爲ニ他ノ語ニソフベキ、活用ナキ補助語、同ジク、他ノ語ニソフベキ、活用アル補助語トシテ、其ノ定義ヲ別チ、コノ兩者ノ名目ヲモコノ定義ニ合フモノトセザルベカラザルコトトナルハ、自然ノ順序トシテ、動カスベカラザルコトナルベシ。コノ故ニ、助詞ノ名ヲ、更ニ改メテ、靜助詞ト呼ビ、活用アル辭ナルリノ種類ノ方ヲバ、之ニ對シテ、動助詞ト呼ブコトトセザルベカラザルコト、分明ナリトイフベキナリ。

(之ヲ「無活動詞」有活動詞トイハムモ可ナルベケレド、在來既ニ前者ヲ「靜辭」トイヒ、後者ヲ「動辭」トイフ分類法アリテ、其ノ名目廣ク流布シ居ルヲナレバ、之ヲ利用シテ、「動」「靜」モテ相別ツナモ) 而シテ、動助詞トイラベカラザルコト前節ノ如

靜助詞
動助詞

クニシテ品詞名ノ之ニ當ルモノナキ一種類ヲ成スリハ、既ニ、解決シ去ラレタルナリ。殘ス所ハ、實ニ、ルノ一種類ノミ。(但シ、品詞名中ニ助詞ヲ列シ、其ノウチツルコトセバ、別ニ支細ナカルベケレド、品詞的種類トシテハ、餘リニ廣漠ノ感アルベク、靜助詞動助詞トシテ、別々ニ品詞名ニ列セムトセバ、廣漠ノ嫌ヒナキヤ、避ケ得ラルベケレド、活用ノ有無トイフコト品詞的種類ノ條件中ニ算入セシ新異例ヲ開キシニテ、オノヅカラ、文素的用法ニヨリテ別ル、コトトナリ居ル品詞的種類ノ基礎ヲ動カシタルコト成ルヲ、注目シ置クベキナリ。

カクテ、彼ニアリテ我ニナキモノノウチ、品詞的種類ヲ持スル上ニ於イテ、最大ナル支障ヲ與フルモノトシテ、今次ギニイハムトスルルノ種類ノモノヲバ、暫ク度外ニ置クコトトシテ、假ニ、全局上ノ分類ヲ觀察スレバ、品詞的種類ノ名目中、マヅ、削除セラルベキ、形容詞、接續詞、棄テ、名詞ヲ以ツテ、イト、ロトヲ包含セシムベキ、一團ノ概稱トシ、代名詞ヲ以ツテ、ハ、ニヲ包含セシメ、數詞ヲ以ツテ、ホ、ヲ包含セシムルコトトシ、動詞ヲ以ツテ、ト、ヲアラハス外、チノ種類ヲ成ス、助動詞ヲ攝セシムルコト、西洋文典ノ動詞助動詞ノ關係ノ如クシ、副詞ヲ以ツテ、ワ、カ、ノ、項ニ當ルモノヲ包含スル、一種類タラシムベキハ、自然ノ順序ナルベク、之ニ、靜助詞、動助詞、及ビ、感歎詞、ヲ加ヘ、名詞、代名詞、數詞、動詞

トシテ立ツ時トハ、固ヨリ別ニテ、語根ナラム場合ニハ、之ヲ以ツテ單位語分類中ノ一部ヲ占ムベキニアラズ、一語トシテ立チ一語ノ用ヲ成スモノナラムニハ、之ヲ語根ナリトイフベカラザルハ、事理明白ノ事ナラズヤ。サレバ、形容詞ノ語根ナドイヒテ、一語トシテカクテ、用法テノ形状ノ名ヲ説キ曲グルハ、決シテ許スベキコトニアラズト知ルベシ。カクテ、用法等ノ關係ト全ク離レタル、放縱自恣ナル意義上ノ分類ノ妄ニ試ムベカラザルコトヲ知ラムニハ、形容詞ノ名目ガ、遂ニワガ單位語ノ分類中ニ樹立シ得ベキ餘地ナキコト、イヨク明ナルベキナリ。

サレド、コノルノ種類ノモノガ、文素ニ當ル用法ニテ別ツベカラザル以上、思考材料トシテノ立脚地ヨリ、意義上其ノ他ノ概念ヲ借リテ之ヲ措置セザルベカラザルハ明ニシテ、コノ方針ニヨリテ、ルノ屬ノ形状ノ意義ニ於イテ混ラハシキモノヲ有スル名詞ノ類ト、互ニ區別セラルベキ特性ヲ按ズレバ、意義上ニテハ、他ノ種類ニ於ケル形状ノ語ハ、一語トシテ、名ノ思念ヲ成スニ對シ、コノ種類ノモノハ、一語トシテ、名ノ思念ヲ成サザルコトニ於イテ相反シ、形式上ニテハ、他ノ種類ナル形状ノ語ガ活ラキヲ有セザルニ對シ、コノ種類ノモノハ、活ラキヲ有スルコトニ於イテ相反シ、之ニ伴ナウテ、用法上ニモ、オノヅカラ、嚴然タル種々ノ差異ヲ存スルヲ認ムベシ。(例ヘバ、此ノ種類ノモノガ述定ノ用ヲ成スニ對シ、他ノ種類ノモノガ述定ノ用ヲ成スニ對シ、)

ガ、述定ノ用ヲ成スコトナキ類ノ如シ。コノ故ニ、コノ互ニ相反スル點、スナハチ、名ノ語ナリヤ否ヤ、活ラキヲ有スルカ否カトイフ點ヨリシテ、之ヲ見ルニ、辭ニ當ルモノニ靜助詞動助詞ノ區別アリテ、恰モ靜辭動辭ニ當ル類別ヲ成スガ如ク、言ニ當ルモノノウチニ、意義上、名ニ屬スル側ノモノ、然ラザル側ノモノ、形式上、活ラキアルモノナキモノノ、類別アリテ、ルノ種類ノモノハ、ト及ビチノ種類ノモノト共ニ、意義上、名ニ屬セザルモノヲ成シ、(同シ語形ナルモ、意義上、イロ等ノ種類ニ轉ジ去リタルモノハ、固ヨリ、イロ等ノ類ニ入ルコト論ナシ)形式上、活用ヲ有スル部類ヲ成シ、之ニ對シテ、他ハ皆形式上、活ラキナクシテ、意義上、廣義ノ名^(スナハチ、名モシクハ名ニ準ジテ見ラルベキモノ)ヲ成スベキモノノ、部類ヲ成スコト明ニシテ、(カ)ノ如キハ、直チニ名トイフベニ形式上ノ事ヲ連想シツ、明ニ名ノ語ナルイ^(ロ)ナドノ類ト明ニ名ノ語ナラザルガ如クナレド、一方ノ間ニ立ツテ、如何ナル地位ヲ占ムルモノナルカヲ思念スル時ハ、ソガ廣義ノ名トシテ認メラルベキモノナルヲ認ムルハ、容易カルベク、之ニ依リテ、狀況ノ名トイフコトト定メ、更ニ省察スル時ハ、其ノ語ノ意義上ノ性質ガ、ヨク其ノ名稱ト合フモノナルヲ認メ得ベキナリ。ヨシヤ之ヲ承認セザラム人アリトモ、ソガ寧ロイ^(ロ)ナドノ類ニ入ルベクシ。其ノ二ツノ類別ガ、恰モ、體言ノ用言ノ區別ニ當ルモノナルヲ認ムルコトトナルベシ。

カクテ、ルノ類ガ、性質上、全クト及ビチト共ニ、活ラキアル言^(スナハチ、用言)ト

作用言
形状言
作用言
形状言

シテ、活用ナキ言(スナハチ體言)ニ對スル一部類ヲ成スモノナルヲ、實際上ヨ
 リシテ明確ナル以上ハ、ルノ種類トシテ、性質ノ認定及ビ其ノ命名ガ、全ク、
 其ノ廣キ一部類ヲ成スモノ(スナハチ用言)ノ中ニツキテ、トト相分ルベキ性
 質ニ依リテ決セラルベキモノナルハ、マタ、明白ノ事理ナリトイフベシ。而
 シテ、其ノトニ屬スルモノガ、意義上、物事ノ作用ヲアラハスモノニシテ、(ル)ニ
 屬スルモノガ、意義上、物事ノ形状ヲアラハスモノナルハ、何人モ直チニ會
 得シ得ラルベキ事ニシテ、ヨク之ヲ檢按スル時ハ、其ノ活用上ノ性質マデモ、
 ヨク、コノ意義上ノ區別ニ伴ナヒテ、其々ノ特色ヲ有スルヲ、マタ、分明ニ認得
 セラルベキナリ。(コノ活用ノ性質ノ事ニツキテハ、第三編ヲ參考ス)コノ故ニ、其ノ命
 名ノ如キモ、マタ、コノ性質ニ伴ナフ相對的ノモノナラザルベカラザルヲ論
 ナク、用言中ニ於イテ、作用ヲアラハスモノト形状ヲアラハスモノトノ區別
 ナル關係上、作用用言「形状用言」ノ名ガ最適切ナルハ、明白ノ事ナレド、(作用
 「形状」ノ名ガ、在來ノソガ國學者ニヨリテ、用言中ノ區別トシテ、作用用言「形状用言」ト呼
 ハ大ニ注意スベキコトニシテ、用言ノ名ハ、元來、體用テハ漢語ノ物ノ實體ト其ノ作用ノ功
 トナイフ方ニ對照シテ用キラル、チ取リテ言ヒ出シタルニテ、始メハ、(トノ類ニノミイヘリシ
 ナルガ、ルノ類ニモ言ヒ及ボスコトナリ、ゾカ國語ノ性質上、コノ類(スナハチ、文ノ述定ヲ成シ得

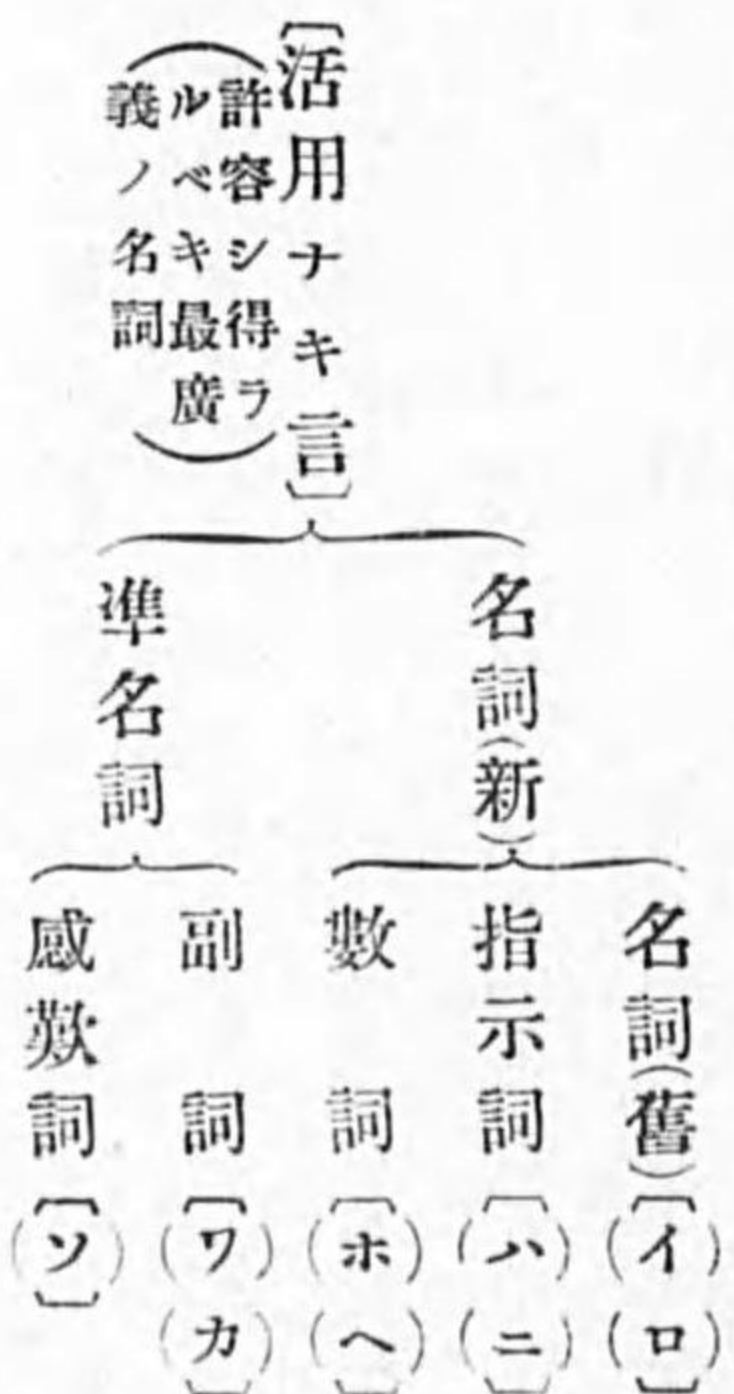
有活作用詞
有活形状詞

ル言ガ、必ラズ活ラキナ有スル習ヒナルヨリ、文典學上ノ術語トシテハ、オノツカラ、活ラキアル
 言ノ義ニ思ヒ取リテ使用セラル、コトナレリシナリ。(ハ、た、ら、き、ヲ、活、用、ト、イ、フ、モ、マ、タ、同、様、
 ナル轉義ニシテ、漢語ニハ、固ヨリ、(ハ、た、ら、き、ト、イ、フ、ガ、如、キ、意、義、ヲ、加、フ、ル、コ、ト、シ、テ、漢、字、崇、拜、時、代、ノ、習
 ヒトテ、漢字名ヲ必需トシタル以上、カクノ如キ新義ヲ加フルコトシテ、時務ノ急ヲ濟スルハ、
 寧ロ、當然ノ事ナリトス。用字ノ原義ニ拘泥シテ、カ、ル、用、語、例、ヲ、非、議、セ、ム、ハ、大、ナル、誤、リ、ナ、リ。
 體言トイフ語モ、實體アルモノヲアラハス語ノ義ヨリ、移リテ、漸々、廣義ニ用キラレ、用言ト對照
 シツ、發展シテ、活用ナキ言ノ義ト成ルニハ、至レルナリ。「言辭」ノ語義ノ如キモ、マタ、漸々ニ發
 展シタル結果ナリト知ルベシ。序編ニイヘル用言「スナハチ、本書全體ニ使用セラル、用言」ノ
 如キハ、實ニ、コノ意義ノ用言ナリト知ラザリシカバ、必シモ、作用用言「形状用言」ノ義ナリシニ
 用言中ノ別チトシテ、用言ナリシモノナラザリシカバ、必シモ、作用用言「形状用言」ノ義ナリシニ
 アラザレドモ、ソガ、用言テハ、廣キ概念ニ入ルモノヲ區別スル種類別クトナルニ及シテハ、オノ
 ヅカラ、カクノ如キ義ト成レリシナリ。サレバ、用言中ノ一部分トシテ、作用用言「形状用言」ノ作用
 用言「形状用言」ノ略稱ナリトス。)カクテハ、品詞の名目ヲ取ラムトスル以上、他ノ種
 類ノモノト調和シ難ケレバ、サル方ニハ、(ト、ス、ナ、ハ、チ、所、謂、動、詞、ヲ、有、活、作、用、詞、ト、イ、ヒ、
 トイヒ、ル)有活形状詞トモイヒツベキモノナルベシ。(コノトノ種類ヲ、在來動
 詞トイヘルハ、動詞トイヒ、
 ラハス詞ノ義ニテ、作用ト相近キ義ヲ有スルモノナレハ、有活動詞トイヒ、或ハ單三動詞トイヒ、
 テモ可ナルベシト思フ人アルベケレド、トニハ、動作ノ外態度ヲアラハスモノヲ含ミ居ルチ
 以ツテ、作用トイフニアラザレハ、盡スベカラズ、且ツ、動作トイハムニマレ、
 活用アル由チ言ヒ述ブルニアラザレハ、作用ノ名トナレルモノノ所謂名詞中ニアルモノト混
 ラハシキコト、前ニイヘル形容詞ノ場合ト同ジコトナラズ、却ツテ、活用アル由チイハムハ、必要ナルコ
 トナリ。(況シテ、動トイヒ、イヒ、ヒ、テ、カ、タ、チ、ア、リ、サ、マ、フ、義、ト、シ、テ、ル、チ、有、活、形、容、詞、ト、イ、フ、モ、可、ナ、ル
 スル人ノアルベキナキヤ)形容詞「カ、タ、チ、ア、リ、サ、マ、フ、義、ト、シ、テ、ル、チ、有、活、形、容、詞、ト、イ、フ、モ、可、ナ、ル
 ベシトイフ人モ、アリヌベケレド、既ニ、カ、タ、チ、ア、リ、サ、マ、フ、義、ト、シ、テ、ル、チ、有、活、形、容、詞、ト、イ、フ、モ、可、ナ、ル
 適切ナレド、形容「名ハ、カ、タ、チ、ア、リ、サ、マ、フ、義、ト、シ、テ、ル、チ、有、活、形、容、詞、ト、イ、フ、モ、可、ナ、ル
 的ニ裝飾スルコトヲ、巧ニ形容ス」其ノ形容甚巧ナリ」ナドノ如ク言ヒ來レル世ノ習ヒ、及ビ、西洋

文典ノ學修ヨリ、上節(一〇)ニイヘルガ如ク、裝定ノ義ヲ持タセテ、モ用キラル、ト混ラハシケレバ、取ルベキニアラザルベシ。

サレバ、品詞的分類ノ名ハ、コ、ニ、再ビ改訂セラレテ、名詞、代名詞、數詞、有活作用詞(之ヨリ推セバ、所謂助動詞ニ當ルチノ類ナバ、補)、有活形狀詞、副詞、靜助詞、動助詞、感歎詞ノ九種トナルトナルモ(靜助詞ニ動助詞ヲ「助詞」ノ一目中ニ收ムルコトトスレバ、八種ト成ル)。其ノウチ、代名詞ノ名ノ不當ナルコトハ、上節(一〇)ニイヘルガ如クニシテ、國語實際ノ性質ニ違反スルモノナレバ、他ノ品詞名ヲモ移動シタル以上、斷ジテ、代名ノ稱ニ代フルニ指示名ノ稱ヲ以ツテセザルベカラザルコトナルベク、之ヲ改稱セムニハ、其ノ改稱ト共ニ、所謂代名詞ノ概念、スナハチ、名詞ノ代リノ詞ノ概念ハ全ク破棄セラレタルモノナルヲ以ツテ、之ト同時ニ、コ、ニ興起スベキ問題トシテ、既ニ形狀ノ名ヲモ、名詞ニ收メタル以上、コノ指示名ヲモ、名詞ニ收メザルベカラザルコト、事理分明ノ事トナルベク、其ノ趨勢ハ、マタ、數詞ヲシテ、名詞中ノ一種類タラザルヲ得ザラシムルコト、勿論ノ事トナルベシ。(大槻氏本文典ノ如キモ、既ニ代名詞「數詞」ヲ以ツテ名詞中ニ收メタリ。然レドモ、代名詞「名」ヲ存シナカラ名詞ノ一種トスルハ、殆ンド兩面アル名詞ノ概念ヲ有スルモノナリ)。之ト共ニ、一方ニハ、上述ノ如キ廣義ノ名ニ入ルベキワカ(ソ)ノ類ガ、名詞ニ入ルベキ

カ否カノ疑問ノ解決モ、コトニ要求セララル、コトナルベシ。(名詞、既ニ、物事ノ義ノ「な」語トシテ、形狀ノ名ヲ許シタル以上、荷クモ「名」ノ語ヲ以ツテ、名詞中ニ入ルハ、拒絶シ得ベキ理アルナシ、但シ、階段ノ差アリトシテ、外廓ニ置クコトナバ、心得ベキナリ)。コトニ於イテ、品詞名ノ分類ハ、マタ更ニ、一轉シテ、



〔活用アル言〕 有活作用詞(トチ)
有活形狀詞(ル)

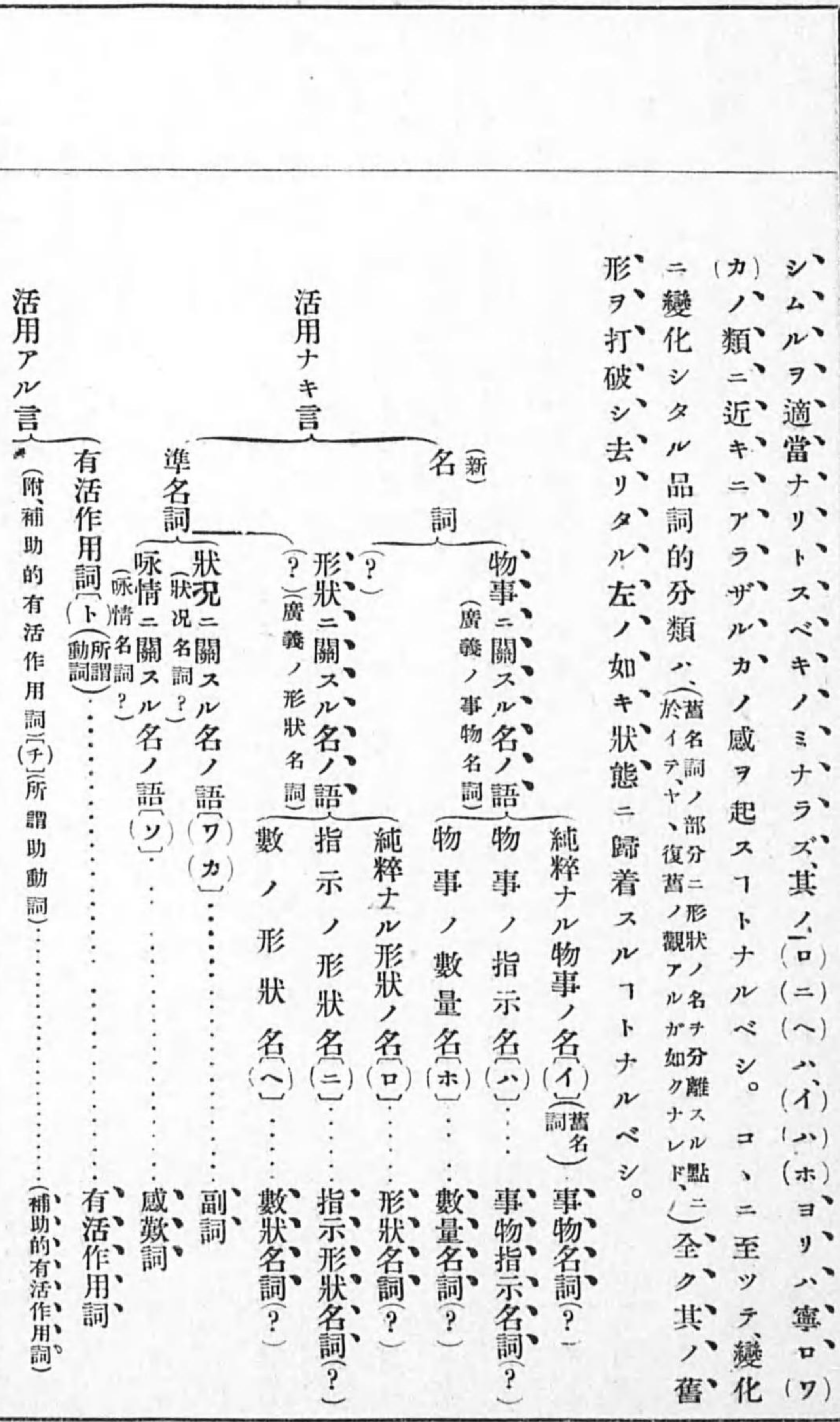
〔活用ナキ辭〕 靜助詞(ヨタ)

〔活用アル辭〕 動助詞(リ)

ノ如キモノトナルベキモ、之ト共ニ、コノ新名詞ノ思念ヲ建設スル以上、ハ、其ハ、ウチノ指示詞、數詞ニ對シテ區別セラルベキ舊名詞ハ、何ト呼ブベキカラ

意義上ヨリ解決セザルベカラザルトトナリ之ヲ研究セムトスルニツキテハ殆ンド論理學的ナル種々ノ深奥ナル新問題ニ接觸シテ意義上ノ範疇ヲ考察セザルベカラザルヲ感ズルコアルベクサマデ奥深クタドルコガ果シテ文典上ニ必要ナル事ナリヤ否ヤニマデ想ヒヲ馳スルコアルベシ。然レドモトモカクモ一旦思ヒヨコニ致ス時ハ(イ)ト(ハ)ニ及ビ(ホ)トノ異同ヲ新ニ研究ノ題目トスル方ヨリ必ラズ解決セザルベカラザル文典學上必要ノ問題トシテ提出セラルベキハ西洋文典ノ所謂名詞ニ當ル事物ノ名ノ語以外ノ名ノ語ナル(ロ)ヲ(イ)ト一括スルコトノ可否如何ノ疑問ニシテソハ(イ)ノ(ロ)ニ於ケル關係ト(イ)ノ(ハ)ニ於ケル關係トノ親疎果シテ如何ノ疑ヒハ舊名詞ト指示詞數詞トヲ新名詞中ニ概括スル以上必然ニ起ルベキ問題ナレバナリ。而シテ(ハ)ハ(イ)ニ最近ク(ホ)之ニツギ共ニ皆文ノ主素トシテ種々ノ位格ヲ取り得ベキモノニシテ(ロ)ハ却ツテ(ニ)ヘト共ニ(ニ)ニ(意義ノ轉用セラ)レタルモノノ外)之ニ反スル用法ヲ成スガ如キ事實ハ推考ノ順序コニ至レル今ノ必然ノ理勢トシテ明ニ注意ヲ惹クニ至ルベク寧(ロ)イ(ハ)ヲ一括シテ(ロ)ニ(ヘ)ト對照セ

シムルヲ適當ナリトスベキノミナラズ其ノ(ロ)ニ(ハ)イ(ハ)ヨリハ寧(ロ)ワカノ類ニ近キニアラザルカノ感ヲ起ストナルベシ。コ、ニ至ツテ變化ニ變化シタル品詞的分類ハ(舊名詞ノ部分ニ形狀ノ名ヲ分離スル點ニ)全ク其ノ舊形ヲ打破シ去リタル左ノ如キ狀態ニ歸着スルコトナルベシ。



有活形狀詞(ル)

有活形狀詞

活用ナキ辭——靜助詞(ヨク)

靜助詞

活用アル辭——動助詞(リ)

動助詞

サレバ結論トシテ來ルベキモノハ、**甲案**名詞、**準名詞**、**有活作用詞**、**有活形容詞**、**靜助詞**、**動助詞**ノ六種トスルカ、**乙案**事物名詞、**事物指示名詞**、**數量名詞**、**形狀名詞**、**指示形狀名詞**、**數狀名詞**、**狀名詞**、**數形**、**副詞**、**感歎**、**有活作用詞**、**有活形狀詞**、**靜助詞**、**動助詞**ノ十二種トスルカニアラザレバ、**甲**一ヲ疎ニ過グトシ、**乙案**ヲ繁ニ過グトシテ、**イハ**及**ビロ**(**ニ**ヘ)ヲ其々一ツニ概括シタル、廣義ノ**事物名詞**、**廣義ノ形狀名詞**ヲ取り、**事物名詞**、**形狀名詞**、**狀況名詞**、**咏情名詞**、**有活作用詞**、**有活形狀詞**、**靜助詞**、**動助詞**ノ八種類トスルニ定ムルコトナルベシ。サレド、**有活作用詞**、**有活形狀詞**ノ**有活**ノ名ハ、**無活**ニ對スベキ稱號ニシテ、而モ之ニ對照スベキモノナキヲ以ツテ、特ニ目立チテ、頗ブル不穩ノ感ヲ起サシムベキモノナレバ、**コノ二種**ヲ以ツテ成ル**活用アル言**ニ對スル**活用ナキ言**ハ、**到底**、**無活作用詞**、**無活形狀詞**ナド、此ト對照スル名ヲ與ヘ得ベキ種類ヲ成ス能ハザ

作用活用詞

形狀活用詞

ルモノナル以上、寧ロ、比較的耳目ニ立タザル名ヲ撰ビテ、**作用**、**活用**、**用詞**、又ハ、**作用活詞**、**形狀活用詞**、又ハ、**形狀活詞**、ナド改稱スルヲ便トスルコトナルベシ。』

サルニテモ、ナホ、**形狀活用詞**ニ對シテ、**同ジ**、**形狀**ノ名目ヲ有スル、**形狀名詞**トシテ、**形狀活用詞**トノ關係ヲイフニ、**コノ**、**形狀名詞**ハ、**名目上**ノ關係ヨリ、**勢**、**活用**、**ナ**、**キ**、**形狀**ノ語ヲ代表スルガ如ク、**ニ**、**思念**セラルベキモノナルニカ、ハラス、**實際**ニ於イテ、**事物名詞**ニ屬スベキモノノウチニモ、**活用**、**ナキ**、**形狀**ノ語ニテ、**し**、**ろ**、**く**、**ろ**、**さ**、**ノ**、**如ク**ナルモノアリテ、**マヅ**、**コノ**、**八種類**ヲ以ツテ、**分類**ノ基トセムトスル立脚地ヨリシテハ、**正**ニ、**形狀名詞**ニ屬スベキ觀ヲ呈スベク、**人**ヲシテ、**其ノ**、**分類上**ノ區劃ニツキテ、**大ニ**、**迷フ**所ナキヲ得ザラシメ、**其ノ**、**分類**ヲシテ、**甚會**得シ難キ憂ヘアルモノタラシムベキナリ。(サレバトテ、**し**、**ろ**、**く**、**ろ**、**さ**ノニハ、**イノ**、**類**ト**ロ**ノ類トノ用法上、嚴然タル差別ヲ存スル區劃ハ、**全ク**破) **コノ**、**故**ニ、**事物名詞**、**壞**セラレテ、**イヨク**、**分類上**ノ準律ヲ失フニ至ラムトスベキナリ。

『**形狀名詞**』、**狀況名詞**、**咏情名詞**ノ概念ヲ建設スルニ方ツテハ、**マヅ**、**一段**上階ノ概括ナル**名詞**、**準名詞**ヨリ、**歩**ミヲ起シテ、**事物名**、**形狀名**、**狀況名**、**咏情名**等ノ種類ガ、**其ノ**、**ウチ**ニ對峙スル**分類**ナル關係ヲ示シテ、**コノ**、**形狀名詞**ノ**形狀活**

用詞ト對照スルモノニアラザルヲ明ニセザルベカラザルヲ知ルベク〔甲案ハ再ビ分類ノ基礎トシテ思念セラル、トナルベシ。〕（コノ場合ニ於イテ、形狀名ニ屬スベキカハ、前文ニイヘルカ如ク、暫ク疑問タルヲ免レザレドモ、文典上、語ノ用法ヨリ見テ、事物名ハ文ノ主素タリ得ベキ本性ヲ有シ、他ハ然ラザルヲニ於イテ、斷然トシテ、獨特ノ格式ヲ以ツテ準名詞ニ入ル、ヲ可ナリトスベキナリ。形狀名）

サレド、更ニ〔甲案〕六種ノ分類ヲ檢スレバ、マヅ、作用活用詞ト、形狀活用詞ト、ハ實ニ、活用アル言中ノ區別ニシテ、其ノ關係ヲ以ツテ對立スルモノナレバ、ヨク之ヲ會得スルニハ、名義上ヨリモ、實際上ヨリモ、マヅ、助詞ナラザルモノニテ、活用アルモノ（スナハチ、用言ニ當ルモノ）テフ、思念ノ存在ヲ必要トスルヲ論ナク、名詞ト、準名詞ト、モ、名義上、既ニ最廣義ノ名ノ概念ニヨリテ、概括セラレ得ベキ豫想ノ下ニ對立スルモノニシテ、實際上ニモ、實ニ作用活用詞ト、形狀活用詞ト、ヲ概括シタル、活用アル言ニ對スル、活用ナキ言ノ一團トシテ、相對峙シ、兩者合同シテ、助詞ナラザル語トシテノ一大團ヲ成スモノ（スナハチ、言トシテノ一大團ヲ成スモノ）ナレバ、此等各二種ノ別チヲ會得セム上ニ、マヅ、活用アル言、活用ナキ言テフ、相對的ノ種類ノ存在ヲ會得スルヲ要スルヲ、分明ニ認得

セラルベキナリ。然ノミナラズ、コノ、活用ナキ言、活用アル言ヲ、名詞、準名詞、作用活用詞、形狀活用詞ト、別クルヲ必要ナルニ比シテ、殆ンド劣ルヲナキ分類ノ、靜助詞、動助詞中ニ起ルベキモノハ、既ニ細目ニ讓ラレテ、タゞ漠然タル種類ヲ成スニ止ルヲ以ツテイハバ、分類法上、發足點ノ均一ヲ保ツ必要ヨリ、單位語分類ノ基礎ガ、言ニ當ルモノト、辭ニ當ルモノトヨリ來レル四種ノ別チナル、活用ナキ言、活用アル言、活用ナキ辭、活用アル辭、スナハチ、體言、用言、靜辭、動辭ニヨリテ、立テラレ、漸次ニ進行スベキ種々ノ細分ハ、皆、コノ四種ノ上ニ建設セラレタルモノナラザルベカラザルヲ知ルニ至ルベキナリ。

カクテ、品詞的の分類ヲ取リテ、ワガ國語ノ實際的性質ニ合セテ改訂シタル結果ヲ見レバ、紛々タル單位語分類ノ基礎ハ、全ク、體言、用言、靜辭、動辭ノ四差別ニ歸着シタルニテ、靜辭、動辭ニ當ル、靜助詞、動助詞ハ、辭ニ當ル廣義ノ助詞ニ攝收セラレ、コノ補助語ニ對スル他ノ種類ハ、マタ、活用ノ有無ニヨリテ、恰モ體言、用言ニ當ル區別ヲ成シテ、實ニ、言ニ當ルベキ概念中ニ攝收セラル、トトナレリ。在來ノワガ國學者間ニ、ワガ國語ノ實際ノ研究ヨリ、オノヅ

カラ、歸納的ノ分類ヲ成シツ、發展シ來リタル

體言(の)こと

言(こと)

〔語〕ことば

用言(はたらき)ことば

作用言(わざ)ことば

形状言(さま)ことば

辭(てに)をは

靜辭(すわり)てにをは

動辭(はたらき)てにをは

ノ如キ分類法ノ大體ニ於イテ如何ニ尊重スベキ性質ヲ伏スルカラ知ルハ、
コ、ニ至リテ容易ナラザルベキカ。吾人ハ、ナホ實際ノ重ンズベク事理ノ
曲グベカラザルヲ悟リシテ、ワガ單位語ノ分類セラルベキ標準ガ之ニヨリ
テ始メテ立ツベク、マタ必ラズ之ニヨリテ立テラザルベカラザルヲ確
信スルヲ得ザルベキカ。
〔著者ハ、コ、ニ、カ、レ、分、類、法、ノ、發、展、ニ、殊、効、ヲ、有、ス、ル、本、居、宣、長、
鈴木順、東條義門、富樫廣隆、權田直助等ノ學者ヲ表章セザルベ
ズ。カ。〕

吾人ハ、コ、ニ、品詞的分類ノ取捨ニツキテノ推論ヲ結バムトスルニ方ツテ、

ナホ、某詞トイフ「詞」字ヲソフル稱呼ノ可否ヲ注目スルヲ要ス。「詞」ノミナラ
ズ、「語」「言」「辭」ノ如キ、イヅレモ、其ノ本義ニ於イテ、今文典上ニ使用セムトスル
ガ如キ意味ヲ表白スベキ適當ナル典據ヲ有スルモノニアラズ。タゞ、因習
轉移ノ間、オノヅカラ、或ル新義ヲ包含スル新用法ヲ成スニ到レルモノナリ。
コノ故ニ、既ニ先蹤ヲ有シテ世ニ行ハル、モノニ向ツテ、必シモ其ノ典據ヲ
責ムルヲ要スベキニアラザレドモ、其ノ因習轉移ヲ經テ今ニ馴致セル調和
不調和ノ關係ハ、マタ、等閑ニ附スベカラズ。

「詞」ノ字ハ、「詞句」「文詞」「詞章」「詞藻」「詞人」「詞賦」ナド、スベテ修辭的ノ或ル價值ヲ意
味シタル場合ニ使用セラル、傾向ヲ有シ、言語ノ「あや」「文」ヲ成セル方ニツキ
テ見ルベキモノニシテ、ソノ「あや」ヲ成ス所以ノ「語」スナハチ助語ノ類ヲノミ
「詞」トイヘル典例ハアレド、「語」「言」ノ如ク、廣ク單位語ノ義ニ使用セラレタル準
據ハ、絶エテ無ク、タゞ、之ヲ和譯シテ「ことば」トイフ方ヨリ、近來ワガ國人ノ間
ニ語ト區別ナキガ如クニ取り扱ハル、コハアルニ到リタレド、明ニ語ノ分
類ニ使用シタルモノトシテハ、西洋文典式以外、鈴木胤ノ「言語四種論」ニ、て

にをば「以外」ノモノヲ體の詞「形狀」の詞「作用」の詞ト名ヅケタルト、富樫廣蔭ノ『詞の玉橋』ニ、體言ニ當ルモノヲ「こと」トイヒテ「言」ノ字ヲ當テ、用言ニ當ルモノヲ「ことば」トイヒテ「詞」ノ字ヲ當ツルコトシ、てにをば「ニハ」辭ノ字ヲ當ツルコトシタルトヲ推スベキモノナルモ、ソノ前者ハ、タゞ「ことば」トイフ國語ヲ「詞」ノ字ニテ寫セシノミノ事ニテ、後者ハ其ノ漢字ノ用キ別ケニツキテ特ニ主張ヲ有スルニモカ、ハラズ、其ノ典據ニ誤解アルモノノ如ク、共ニ、先蹤トシテ重キヲ置クニ足ラズ。スベテノ單位語ニ亙リテマサシク「詞」ノ字ヲ用キ出シタルハ、實ニ、洋學者ガ所謂品詞名ヲ譯シテ某詞ト呼ビタルニ始リ、品詞的分類ノ流行ハ、今日ニ於イテ、遂ニ某詞某詞ノ稱ヲ天下ニ普及セシムルコトナリタレド、ナホ、或ル一ツノ語ヲ指シテ一詞トハイハズシテ一語トイフヲ常トスルガ如キ、(其ノ一種類ヲ指スニハ「品詞トイフ」) 偶「詞」ノ字ガ單ニ一語ヲ指ス方ニ使用セラル、コノ不穩ナルヲ實際ノ上ニ證明スルモノナリトイフベシ。サレド、某詞某詞ト呼ビ慣ラサレタル今、品詞トシテハ、詞トイフモノホ許容セラルベキ點ナキニアラズ。何トナレバ、西洋文典ノ品詞ノ分

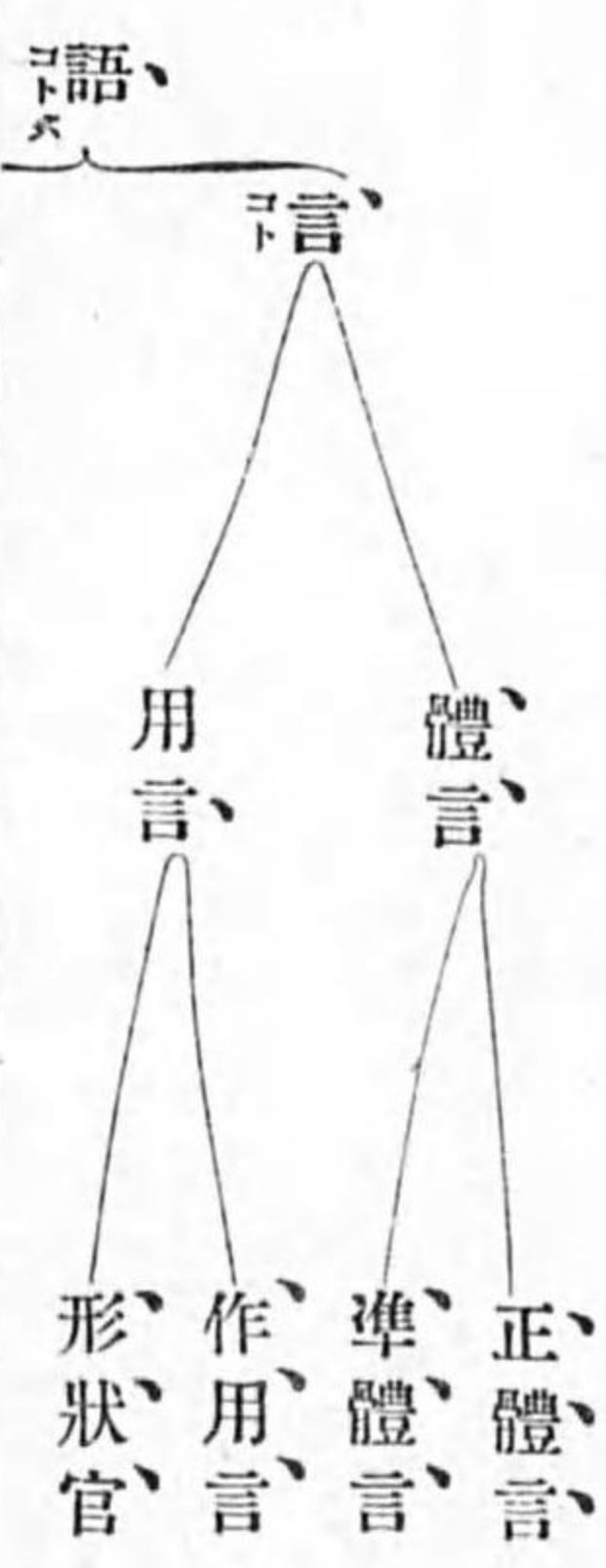
類ハ、上文ニモイヘル如ク、單位文ヲ構成スル役目ヲ主トシタル別ケ方ヲ成スモノニシテ、構想的結合ノ「あや」ヲ成スベキ或ルモノヲ包含スルモノトシテ「語」ヲ見ルモノナルヲ以ツテ、其ノ一語ニ當ルモノヲシテ、或ル程度ニ於イテ「詞」字ノ意味ニ類似シタル性質ヲ有セシムルモノナレバナリ。然ルニ、品詞的分類ノワガ國語單位語ノ分類ニ適セズシテ、ワガ單位語ノ分類ニ適スベキモノハ、全ク構想的結合ノ「あや」ヲ成スベキ或ル意味ヲ包含セザルモノナルハ、上述ノ如シ。コノ故ニ、詞字ノ稱呼ガ、品詞的分類ノ停廢ト共ニ停廢セラルベキモノナルハ、明ナリトイフベシ。(但シ、彼ノ品詞的分類ニ近キ性質ヲ有セキ場合アルコト、第五編ニ就イテ知ルベシ。)

「語」「言」「辭」等ノ字モ、適切ニ今ノ文典上ノ用法ニ當ルガ如キ區別ヲ有スルモノナラザレドモ、「語」ノ字ガ「單語」「一語」「語彙」ノ如ク使用セラレテ、單位語ノ義ヲ成スコアリ、「言」ノ字ガ「一言」「一語」「言々」「句々」ナトノ如ク使用セラレテ、同ジク單位語ノ義ヲ成スコアル(老子五千餘言「ナドイフ」「言」ノ如キハ、明ニ、漢字ノ「ハ」皆人ノ知ル所ニシテ、「辭」ノ字ガ「詞」ノ場合トホゞ同ジ様ニ、所謂助語ノ類ヲ指ス事ト

ナリ、助語辭、助辭ノ如ク用キラレ、ワガ國語ノ「て」をば「ヲ」指スモノトシテ利
 用セラル、ニ適當ナル歴史ヲツクリ居ルコトモ、マタ、人ノ知ル所ニシテ「語」ト
 「言」トヲ使ヒ別クルニツキテハ、別ニ其ノ準據トスベキモノヲ認メザレドモ、
 (コ、ニモイヘル如ク、所謂助語ヲ「詞」トモイヒ、助辭トモイヘル例アレド、言トモ、助言トモイヘル
 例無キハ、或ハ「言」ガ所謂助語ナリ「辭」以外ニ立ツベキ性質ナ有スル故ニヤト思ハルレ
 ド「老子五千言」ナド、イフ「言」ニハ所謂助語ヲ包含ス。純粹ナル國語ニテ「こと」トイヒ「こと」ト
 イフモノノ間ニモ、マタ、十分ナル準據ヲ見出シ難シ。タゞ「こと」トイフ「こと」トイフモノノ外、必シモ
 セシメ「こと」ニハ「て」ニハ「を」以外ノ單位語ノミヲ指サシムベキモノノ外、必シモ「節」アルノミ。
 スベテ、新ニ裁定スル術語ハ、特ニ不調和ナルベキ事情アルモノノ外、必シモ「節」アルノミ。
 隨時ノ便宜ニ從フナリ「許」) 吾人ノ慣用上、吾人ヲシテ、在來ノワガ國語學者ノ間ニ
 言ヒ出サレタル上掲ノ如キ新義ノ用法ヲ以ツテ、比較的穩當ナルモノトシ
 テ承認セシムルニ足りヌベキモノアリテ、上述ノ如キ分類上ノ標準ヲ取ラ
 ザルベカラザルヲ見タル今ニ於イテ、其ノ先蹤ヲ利用シテ其ノ名目ヲ採擇
 スベキハ、條理上殆ンド動カスベカラザルナルベシ。サレバ、吾人ハ、詞ヲ捨
 テテ「語」ヲ取り之ヲ「言辭」ニ別ツテ取り、作用活用詞、形狀活用詞、モ、用言中ノ別
 チナル故ヲ以ツテ、作用用言、形狀用言トイフコトト定メ、更ニ其ノ略稱トシ
 テ、在來國學者間ノ稱呼ナル作用用言、形狀用言ヲ承認シテ之ヲ取り、(舊稱ノ起源
 ハ當時分類

正體言
準體言

上ノ觀察イマダ密ナラザリシカバ、作用用言、形狀用言ノ略稱トシテ定メラ、(「靜助詞」「動助詞」
 レタルモノナルニハアラザリシナレド、今取ツテ斯クノ如ク定ムルナリ。) 體言ニツキテハ、(イ)ハ、
 ハ、名、モ、在來ノ稱呼ナル「靜辭」「動辭」ノ舊ニ復スコトトシ、活用ナキ言スナハチ
 體言ニツキテハ、(イ)ハ、(ホ)ヲ概括シタル物事ニ關スル名ノ語ヲバ、用法上、正シ
 ク文ノ主素タリ得ル資格アル故ヲ以ツテ、其ノ他ノ形狀ニ關スル名ノ語狀
 況ニ關スル名ノ語、咏情ニ關スル名ノ語等、正シク文ノ主素タリ得ル資格ナ
 キモノト對立セシメテ之ヲ「正體言」トイヒ、他ヲ「準體言」トイフコトト定メ、(之
 「正」準ト呼ブ理由ハ、第
 二編ニイフベシ。) 其以下ノ分類ヲバ、コノ二種類中ノ細別トスルコトノ正
 理ナルヲ信ジ、單位語分類ノ基礎トシテハ、早ク序論ノウチニモ擧グ置キタ
 ル四大別、スナハチ「體言」「用言」「靜辭」「動辭」ノ四種類ヲ立ツルモ、在來ノ品詞的分
 類ニ代用スベキモノトシテハ、



第一編 品詞的分类ノ取捨 (111)



(辭的作用言)

ハ如キ關係ニ置カレタル正體言、準體言、作用言、形狀言、靜辭、動辭、ノ六種ヲ取ルトシ、(チノ種類ニ屬スルモノハ、辭的作用言ノ如ク改稱シテ、作用言ニ隸屬セシムルトトスベシ。コノ類似ノモノノ西洋文典ニナクシテ我ニアルモノノ如キ、委シキコトハ、スベテ後編ニ至ツテ)コノ標準ニヨリテ、ワガ國語ノ實際上ノ性質ヲ發揮セムヲ勉ムベキモノナルヲ認ム。

世ニハ、品詞的分類ノ西洋諸國語ニ行ハルノノミナラズ、廣ク世界ノ諸國語ニ應用セラル、ヲ見テ分類上ノ眞理コ、ニアリト固信シ、ワガ國語ニノミ、サマデ異ナルコアルベカラズトシヒタスラニ品詞的分類ニ引キツクルヲ以ツテ功トスル人アルガ如シ。サレド、ソハ大ナル誤リニテ、在來、語學ノヤ、秩序アル研究ハ、西人ノ手ニノミ限ラレタレバ、彼等西洋人が其ノ國語以外ノモノヲ研究スルニ方ツテ、彼等ハ、自家ノ標準ニテ他ノ國語ヲ規シタルノミノ事ニテ、ソガ果シテ他ノ國語ニ適シタリヤ否ヤハ知ルベカラザルナリ。ワガ國語ニツキテノ西人ノ文典ガ、多クハ門戸ノ見

ニトママリ、深ク堂奥ニ達スルコト能ハザルヲ以ツテ推ヒバ、他ノ國語ニモ覺東ナキハ多カルベシ。西人ノ手ニ成リシ品詞的分類ノ比較的正確ニ比較的ニ適應シタル状態ニ應用セラレタルヲ許スベキハ、彼等自身ノ國語ノ上ナルノミ。タゞ西洋ノ國語ト言ヒテハ、甚漠然ナレド、今ノ西洋列國ノ殆ンドスベテハ、皆、一語系ノ漸々ニ分派セシモノニテ、之ニ、古代ノ印度語(廣義ノ梵語)古代ノ波斯語及ビ希臘語羅甸語其ノ他ノ古語ヲモ加ヘテ、古今ニ亘リテ其ノ一語系ヲ成スモノヲ概括シテ、之ヲ「印度歐羅巴語」トイフニテ、コノ國語ノ本性ハ、文典上ノ形式ヲ成ス方法(構想的結合ニ關スル種々ノ關係ノ思念ヲ表白スル方法ガ、元來、インフレクシ、ヨン、ト稱スル語形ノ變化ヲ以ツテスルコトニアリテ、(序編四本)インフレクシ、ヨンノ欠漏ヲ補ハム爲ニ、所謂前置詞助動詞ヲ以ツテスルコトモ、古クヨリナカリシニハアラデ、現代ノ諸國語ニアリテハ、コノ傾向著シク増進シ來リ、英語ノ如キハ、殆ンド其ノ極端ニ達シタル一標本ヲ成スモノナレド、カ、ル方法ハ、インフレクシ、ヨンノ漸ク荒廢ニ傾クニ依リテ起リ、漸々ノ發展ヲ遂

ゲタリシモノニテ、言語學ノ溯リ得ラル、所其ノ語族ノ原始時代ニ、インフレクシ、ヨシニテスベテノ文典上ノ形式ヲアラハシシハ分明ナル事ニシテ、本來的ニハ、一文素ヲ成スニ補助ノ語ヲ要セザルベキ性質ヲ有スルモノナルヨリ、本來的ニ補助語タルベキモノトテハ、殆ンド發展スルコトナク、補助語トシテ使用セラル、前置詞助動詞様ノモノハ、元來他ノ語ヨリノミ轉成セシモノナルヲ、上ニモ一言セルガ如クニテ、今モ前置詞ニハ、殆ンド副詞トノ間ニ劃線ヲ引キ難キモノモアル由ハ、彼方ノ専門家ノ明ニ承認スル所ニシテ、吾人モマタ、コレヲ實例ノ上ニ觀察シ得ベキナリ。カクノ如クニシテ、大體上、彼ノ國語ハ、一語ニテ一文素ヲ成スモノトシテ發展シ居ルガ故ニ、其ノ語ノ性質ハ、其ノ語ノ分類ヲシテ、ホ、文素ノ別チト一致スルモノナラシムベキ情勢ヲ有スルナリ。サレバ、今ノ西人間ニ行ハル、品詞的分類モ、大體上、實ニ、カクノ如キ性質ヲ有シ、ナホ完全ナルモノナラザルヲ、彼ノ國人中ニモ識者ノ認ムル所ナルガ如クナレド、トモカクモ、大體上、彼等ノ國語ニ適合スベキ性質ヲ有スルモノナルナリ。

然ルニ、ワガ國語ニテハ、彼ノインフレクシ、ヨシニテアラハス所ヲ、始メヨリ補助語トシテツクリ出サレタル辭ニテアラハスベキ、本來的性質ヲ有スルガ故ニ、一語ニテ一文素ヲ成スガ如キ語ノ分類法ヲ取ルヲ能ハザラシムベキ性質ハ、實ニ國語ノ成立ト共ニ備ハレリシモノニシテ、更ニ、ワガ國語ニ於イテ、ワガ國語特有ノ「はたらき」トイフモノヲ有スルヲハ、ワガ國語ヲシテ、彌々、西洋諸國語ヨリ遠ザカリタル發展ヲ遂ゲシメ、其ノ語ノ分類ヲシテ到底一致スルヲ能ハザラシムベキ約束ヲ、先天的ニ確立シタリシナリ。然ルニ、世人、ヨク之ヲ察セズ、西洋文典式崇拜ノ餘弊ヨリ、ワガ國語ノ正當ナル分類法ト實際的ノ研究トヲ閉塞スベキ門戸ヲ堅クセムコトヲ勉ム。今日ノワガ學界ノ如ク、過渡時代ノウチニアリテ、一種時好ノ趨勢ヲ成セル間ニ立チテハ、マタ、已ムヲ得ザル過チナレド、學問ノ爲ニハイト罪深キワザナルベシ。篤學ノ士、願ハクハ、心ヲコ、ニ致シテヨ。又、或ル人ハ、廣ク外國語ヲ學ブヲ要スベキヲ、ガ國民ハ、教育上、マヅ、其ノ準備トシテ、品詞的名目其ノ他、成ルベク西洋文典式ノ體裁ヲ取リタル日本

文典ヲ學バシムベシト唱フメレド、コハ、甚シキ謬見ナリトイフベシ。凡
 ソ、國土風俗ヲ異ニスル國民ニハ、其々其ノ國民相應ノ民族的心理アリテ、
 互ニ相等シカラザル點アルヲ常トス。國語ノ性質ヲ異ニスル場合ニ於
 イテ、殊ニ然リ。サレバ、マヅ自己ノ心性ト相合フ國語ノ範疇的概念ニヨ
 リテ、正シク自國語ヲ解スルヲ得セシメ、之ト比較シテ其ノ異同ヲ了得
 セシムルヲ依リテ、外國語ヲ教フベキハ、理ノ動カスベカラザル所ナリ。
 然ルニ、至ク別種ノ國民間ニ發達シタル國語ノ範疇的概念ヲ取り、自己ノ
 國語ヲ曲解セシメ、之ヲ以ツテ外國語教授ノ準備トセムトスルガ如キヲ
 アラバ、タゞニ、正シク自國語ヲ了得スルヲ能ハザルノミナラズ、自國語ニ
 合ハザル範疇的概念ガ、自國語ノ智識ダニ全カラザルモノニ注入セラレ
 テ、正シク會得セラルベキ理ナケレバ、其ノ不完全ヲ極ムベキ、準備的智識
 ナルモノハ、却ツテ、外國語ヲ正確ニ修得スルヲ妨害タルニ終ル外、何ノ
 功用ヲモ舉ゲザルベキヲ、識者ヲ需ツテ後ニ知ルベキヲニアラズ。惡シ
 ク僻ヅケラレタル半物識ナルト、至ク無邪氣ナルモノトヲ教ヘテ、イヅレ

ニ於イテ良好ナル結果ヲ收メ得ベキカハ、經驗アル教師ノ明ニ知ル所ナ
 ルニアラズヤ。且ツ、自國語ノ正確ナル智識ナク、外國語ヲ修得セムトス
 ルニ方ツテ其ノ異同ヲ比較スベキ的確ナル標準ナキ場合ニ於イテ、外國
 語ニツキテノ明確ナル會得ヲ成シ難カルベキハ、論ヲ需タザルベキヲニ
 シテ、現今學生ノ外國語教育ノ効果ノヨク舉ラザル一大原因ハ、實ニ、コ、
 ニ伏スルモノナルヲ、識者ノ否定セザル所ナルベシ。余ハ西洋文典式ノ
 日本文典ヲ教ヘムトスルヨリハ、日本文典式ノ西洋文典ヲ教フルヲ勉メ
 ムト、當今ノ急務ナルヲ思フ。外國語教育ノ爲ニ自國語ノ教育ヲ犠牲
 ニセムト欲スル設計ハ、歸着スル所、兩者ノ教育ヲ破壊シ終ルニ止ルベシ。
 切ニ教育家ノ一考ヲ望ム。

第二編 體言ノ分類及ビ性質

一三。正體言及ビ準體言。

體言ガ言、スナハチ、獨立ナラシムルモ、ヨク語義ヲ人ニ通ジ得ベキ語ニシテ、
 はたらき活用ナキモノヲイフコト、(四)序編及ビ體言中ニ正體言準體言ノ別ヲ
 立ツベキコトハ、(第一編)既ニイヘル所ナルガ、其ノ活ラキナキ由ヲ以ツテ定
 義ヲ立ツルハ、同ジク言ニシテ活ラキアル用言ニ對シテ區別スルモノニシ
 テ、體言ソノモノノミニツキタイヘバ、(最廣義)ノ語ナルヲ以ツテ其ノ
 特性トスルニテ、其ノウチニ所謂物事ノ名、スナハチ最廣義ニ於イテ、
 ノ名ニ入ルベキモノト、(二)と「事」名ガ最廣義ニ於イテ、
 勉強といふものは「勉強」といふこと(は)形状狀況等ノ名、スナ
 ハチ最廣義ニ於イテ、
 意義上ノ性質ニ伴フ用法上ノ區別ハ、文ノ主素トシテ立チ得ラル、ト然
 ラザルトニアリテ、正體言準體言ハ、スナハチ其ノ別チヲ成スモノナリ。然

正體言
準體言

ものゝな
の體言
さまゝの體言

レバ、正體言ハ最廣義ニ於イテ、
 準體言ハ最廣義ニ於イテ、
 ルモノナリ。之ヲ正體言準體言ト名ヅクルハ、
 フニモ、其ノウチニ、マタ種々ノ階段アレド、要スルニ名ノ語トシテ立ツモノ
 ナルヲニ於イテ、
 通ニ名ノ語トシテ認識セラル、
 中ニ攝收セラル、
 必シモ「名」ノ語トシテ、
 ヨリモ、
 ニシ、
 なノ概念ニ準ジテ、
 用法上ヨリモ、
 體言中ノ伴食語タルヲ免レザルヲ以ツテナリ。
 呼バズ、
 ルベキナリ。

第二編 體言ノ分類及ビ性質 (111)

實体名ノ正体言
品象名ノ正体言

チ、最廣義ナルもの、なトシテ、文ノ主素タリ得ベキモノ（スナハチ「あめふる」
「さむさつよし」さむさつを「ふせぐ」の「あめ」さむさつドノ如ク、種々ノ位格ヲ取り得ベキモノ。
 ○形状ニ關スルモノニテモ、さむさつノ如ク、さ終ルモノナドガ形状ノ名ノ類ヲ離レテ、最廣義
 ノものニ屬スベキコト、そのさむさつといふものは、ひどいもの、だ、テ、ドイフ
 ニテ知ルベシ。コノ「さ」ノ根辭ナ有スルモノガ、ものノウチニ屬スルハ、ソガ或ル形状ノ名ヲ成
 スモノニアラズシテ、或ル形状ノ程度ノ名）ハ、スベテ正體言ニ屬スルモノト心得、其
 ノウチニ實體名品象名ノ別アルコト、スナハチ、甲實體アリトシテ思念セラ
 ル、もの、名ナル（人ヲ指シテイフ「ひと」馬ヲ指シテイフ「うま」雨ヲ指シテイフ「あめ」如キモノ）ト、乙實體ナシトシテ思
 念セラる、もの、名ナル（學問「イヒ」藝術「イヒ」性質「イヒ」善行「イヒ」時日「イヒ」年月「イ
 キモノガ如）トノ別チアルコトヲ知り、其ノ用法トシテハ、正ニ其ノ特徴トシテ
 舉ゲタルガ如ク、文ノ主素トシテ、或ル位格ヲ取ルヲ常法トシ、辭のモシクハ
 がソヒテ裝定素ト成ル場合モアリ、招呼法トシテ、文素以外ニ立ツコトモア
 リ（タゞ、或ルものヲ表自スルノ場合ニハ、固ヨリ、文素ヲ成サザルモノニシテ、文
 典上ノ用法トイフベキモノナラ、ナレド、コノ數ヘズ。）又品象
 名ノ時間場合程度目的由因等ニ關スル意義ノモノ（例ヘバ、ひかし「いま」ノ如
 ク「しかる」ところ「うづもる」ほど「すぐ」ため「それ」ゆゑ「ナド」）とこ
 る「ほど」「ため」「ゆゑ」等ノ如キモノハ、慣用上、其ノマ、ニ限定素ヲ成スコトア

狀況名品象

形状名ノ準體
狀況名ノ準體
咏情名ノ實體

リト知ルヲ以ツテ足レリトスベシ。〔コノ限定素ヲ成スニ至レルモノヲ狀
 況名品象名トイフ。蓋シ、其ノ品象ヲ狀況的ニ考ヘ取リテ限定素トシテ
 使用セラル、コトトナレルモノニシテ、殆ント準體言ナル狀況名ノ性質ヲ
 領有スルコトトナレルモノ、ナホ、全ク品象タル資質ヲ失ハズシテ、——（狀況名
 ノ決シテ裝定素ヲ取ルコトナキニ對シ）——依然トシテ裝定素ヲ取ルモノ
 ナレバナリ。ナホ、カ、ル種類ノモノ及ビ擬似ノモノニツキテハ、續日本文
 典要義ニイフベシ。〕（實體名品象名ノ區別ニツキテハ、今少シ説明シ置クベキモノアレ
 名トノ合シテ復成語ヲ成セルモノニアリテハ、スベテ、下ノ方ノ語性ニ依リテ、其ノ語籍ヲ定ム
 べきモノナリト知ルベシ。例ヘバ、おやおもひ「ひと」が品象名ニ屬シ、孝子「善人」が實體名
 ニ屬スベキガ如シ。然レドモ、漢語ニアリテハ、純粹ナル國語ニ合セテ、下ニツクベキ義ノモ
 ノニ依リテ語籍ヲ定ムべきモノナルガ故ニ、必シモ、下ナル方ノ語性ニ依ラズ。例ヘバ、殺人「放
 火」討賊等ガ品象名ヲ成シテ、實體名ヲ成サザルガ如シ。コノ實體名品象名ノ區別ノミニアラ
 ズ、復成語ノ語籍ハ、スベテ、コノ法則ニ依ルモノナレバ、他ノ種類ニアリテモ、皆之ニ準ジテ知ル
 べきナリ。）
 準體言ニハ、前編ニイヘル所ニヨリテ既ニ明ナルガ如ク、形状名ノ準體言（ス
 ナハチ、しる「くる」は「や」お「ま」しる「廣大」等ノ如キモノト、狀況名ノ準體言（ス
 ナハチ、や、「なほ」は「なはだ」かつ「また」等ノ如キモノト）咏情名ノ準體言（ス

辭的進体言

スル所アルベシ。
 辭的準體言トハ、皇太子 殿下、師團長 閣下、三條實美 公、加茂真淵 翁、本
 居宣長 居士、伊藤東涯 さま、木戸孝允 どの、殿下、閣下、公翁、うし、さま
 どの等の如ク、(此等ノ例ノ如ク、或ル正體言ノ下ニ言フヘラレタルニハアラア、其ノ語ノ
 本編一五) マタ、甲 乙 丙 丁 等、太郎 次郎 輩、太郎作 次郎作 ども
 大臣 次官 達、書籍 文書 類ノ等、輩とも、達ノ如ク、(甲乙丙丁等ヨリ轉來
 シタル一種ノ辭ニシテ、漢字ノ等ノ字ヲ宛ツレド、全ク其ノ性質ヲ等シクセズ。ス) 五時
 辰、宛テ字ノ漢字ニ依リテ純粹ナル國語ノ意義性質等ヲ誤ルアルベカラズ。ス) 五時
 ごろ、三人 ばかり、五尺 ほど、のころ、はかり、ほど、ノ如ク、ソノウチ或ル若
 干ノ例外ヲ成スニ到レルモノノ外、皆一方ニハ本形ノマ、ニ正體言トシテ
 立チ得ベキモノナレド、或ル者ノ、或ル關係上ノ資格ヲアラハサムガ爲ニ、殆
 ンド辭的ニ其ノ、或ル者ヲアラハス語ニ添加スルモノヲイフニテ、其ノ用法
 上ヨリ見レバ、寧口辭ニ近キモノナレド、恰モ前章ニイヘル辭的作用言(スナ
 西洋文典ノ助動詞)ガ、動辭ニ屬セシムベカラザルガ如クニシテ、殆ンド兩者ノ
 中間ニ立ツテ、サレドナホ、意義上體言ノ性質ヲ保留シテ、一種ノ限定的用法

辭的体言

ヲ成、ス、モノト、認、ム、ル、ヲ、可、ト、ス、ベ、キ、モ、ノ、ナ、レ、バ、辭的準體言(必シモ、正準ヲ別合
 ニハ辭的體言トシ)ノ目ヲ立テテ準體言中ニ攝セシムルナリ。(位格ヲアラハス
 イフモ可ナルベシ。)ノ目ヲ立テテ準體言中ニ攝セシムルナリ。(位格ヲアラハス
 移シテ、ヤ、體言ニ近キ性質ヲ帶ビ來レルモノアリ。「うづもる」にて「ひと」のくるま
 で「ナドイフ」まで「如シ」サレド、其ノ本性ヨリ見テ、辭的體言トイハムヨリハ、一種ノ雜性辭ト
 シテ、辭的作用言ヲ用言ニ屬セシムルナリ、ナホ、上述ノ例ニ準
 シテ、辭的準體言ニ入レ得ベキモノナレド、他ノ語トノ關係親密ニシテ、全ク
 一ツノ復成語ヲ成シ了レルモノトシテ見ルヲ便トスベク、取り離シテ見ル
 時ニ、體言ニ列スベク、寧口、根辭的準體言ト呼ビツベキモノアリ。「ひと」
 つがひ の かも、ひとふり の たち、ひとつぎ の さけ、みかたな
 かり ころす、一尺 の ぬの、千メートル の へだち、一斗 の ま
 め、つがひ、ふり、つぎ、かたな、尺、メートル、斗、ノ如ク、第一、第二、御、心中、御、歸
 宅、ノ、第、御、ノ、如シ。
 世ニハ、體言用言靜辭動辭ノ嚴格ナル區別ヲ立テナガラ、辭的準體言ノ如
 キ條目ヲ存スルコトノ可否ヲ疑フ人アルベケレド、スベテ、生育シ易ク變
 化シ易キモノハ、如何ニ嚴格ナル科學的分類ヲ施セバトテ、其ノ限界ニ於

根辭的準體言

イテ、必ラズ分類ノ中間ニ位スルガ如キ變幻ノ者ヲ出シ、其ノ一面ヨリ見レバ、殆ンド其ノ性質ヲ別ツベカラザルニ似タルモノアリ。動物ト植物トノ關係ニ於イテ、人ト獸類トノ關係ニ於イテ、其ノ他、或ル種類ノ動物モシクハ植物ト他ノ動物モシクハ植物トノ關係ニ於イテ、或ル人種ト他ノ人種トノ關係ニ於イテ、皆、斯クノ如キモノアルガ如キ、以ツテ概見スベシ。言語ニ關スル分類ニ於イテ、マダ、斯クノ如キモノアルヲ免レザルナリ。サレバ、カ、ルモノハ、定義ニ依リテ其ノ大體ヲ舉ゲ、特ニ、カ、ルモノアリトシテ其ノ變幻ノ者ヲ認メ置クコトトスルヲ以ツテ、措置ノ法ヲ得タルモノトスベキナリ。

一四。實體名ノ正體言ニ於ケル要目。

實體名品象名ノ區別ハ、既ニイヘル所ナルガ、コ、ニ其々ノ要目ヲ示サムトシテ、マヅ、其ノ間ノヤ、嚴格ナル區別ヲイハバ、實體トハ、一ツ二ツトシテ數ヘラレ得ベキ單位ヲ有シテ、他ノモノヨリ獨立ニ思念セラレ得ベキモノ、スナハチ、體アルモノヲ指シイフニテ、(イフマテノ事ニテ、其ノモノトシテ、數ヘラレ得

實體ノ思念

品象ノ思念

ベキ單位ヲ有ストイヒ得(普通ニ物體トイフモノトハ、其ノ廣狹等シカラズ。何ベキヲ、勿論ナルベシ。)トナレバ、物體トイヘバ、科學ノ研究材料タルヲ能ハザルガ如キ無形ノモノ、例ヘバ、**かみ**、**ほとけ**ノ如キモノヲ拒絶スルヲ常トスレドモ、**コ**、**ニイフ**ガ如キ**實體**ハ、之ヲ拒絶セザレバナリ。(「かみ」「ほとけ」ガ、或ル物體例ヘバ、偶像木石動物ノ類テモナク、實體ニテ、コ、ニ舉ケルマデモナク、レド、無形ノ聲口、吾人ノ眼ニ觸ル、**コ**、**ナキ**モノトシテ、思念セラレ、**かみ**、**ほとけ**ナリトモ、一ツ二ツトシテ、數ヘラレ得ベキ單位ヲ有シテ、他ノモノヨリ獨立シテ、思念セラレ得ベキモノナルヲ明ナレバ、**コ**、**ニハ**、廣クカクノ如キモノナモ包含シテ、**體**ヲ有ストイヒ、之ヲ**實體**ト名ツケタルナリ。(「かみ」「ほとけ」ノ類ノ思念モ、モシ、下ニイフ品象名ニ入ルベキモノトシテ、思念セラレタルムニハ、言フマデモナク、其ノ部類ニ入ルベキモノトス。スベテ、意義上ヨリ來ル分類ニテハ、意義ノ變化スルニ伴ヒテ、部類ノ變化スルハ、已ムナリ得ザル。)實體ナシトシテ、思念セラレ、モノトハ、一ツ二ツトシテ、數ヘラレ得ベキ單位ヲ有シテ、他ノモノヨリ獨立ニ思念シ得ラルベキニアラザルモノ、スナハチ、**體**ヲ有セザルモノ、ニシテ、カクノ如キモノハ、必ラズ、實體アルモノニ依リテ始メテ、念出セラル、或ル**品象**ノ思念ニシテ、或ル實體ノ内部ニ屬スルト外圍ニ屬スルトヲ問ハズ、(一ツ二ツトシテ、數ヘラレザルニシモアラザレド)實體アルモノヨリ、全然獨立ニ思念セラレ、ベキモノナラズシテ、常ニ、或ル程度ニ於イテ、實體アルモノニ依立スル關係ヲ保ツモノ

ナリ。(ナホ、次節ヲ参照スベシ。○實體ニ依立スル品象トイフ方ヨリイヘバ、準體言ナル形
 スルモノノ場合ニノミ品象名ノ名ヲ用キ、他ハ形狀名作用言形狀言等ノ名ヲ用ウルトシタ
 レバ、混雜スルヲナシト知ルベシ。言トシテハ、性質上ノ別ヲトシテハ、マツ、體言用言正體言準
 體言ノ別ヲ立ツルヨリト成リ居ルガ故ニ、性質上ノ區別ニツキテハ、固ヨリ、論アルベキニアラズ。
 (用語法トイフ標準ヨリ見ルモ、カ、ル品象ト他ノ品象トチ區別シテ別稱ヲ用ウルトセム以
 上、カ、ル品象ノ名ニ品象名ノ名ヲ與ヘ、他チヤ、他チヤ、必要ニ應ジテ別ニ論述スルヲアルベシ。)

個體名
準個體名

カクテ、實體名ニ屬スルモノハ、一ツ二ツトシテ數ヘラレ得ベキ單位ヲ有シ
 テ、其ノ單位ノ思念ニヨリテ、ヨク獨立ニ思念セラレ得ベキモノナレバ、其ノ
 意義上ノ關係ニハ、常ニ其ノ單位ニツキテノ概念ヲ保持スベキモノニシテ、
 コノ方ヨリ、實體名ニハ、本來的ニ單位ノ思念ヲ起スベキモノト、人爲上ノ約
 束ニヨリテ單位ノ思念ヲ起サシムルモノト、二種ノ區別ヲ生ズルトナ
 ルベキ自然ノ趨勢ヲ有シ、コノ區別ハ、實ニ吾人ヲシテ實體名ヲ細別セシム
 ベキ自然ノ法規ヲ成スモノナリ。之ニ依リテ、前者ヲ名ヅケテ、個體名トイ
 ヒ、後者ヲ名ヅケテ、準個體名トイフ。サレバ、個體名トハ、自然ニ一個ノ思念
 ヲ起スベキモノナル實體名スナハチ、ひと、うし、うま、ふて、すみ、すむりノ如
 キモノニシテ、準個體名トハ、人爲的ニ一個ノ思念ヲ起スベキ約束ヲ成セル

モノナル實體名スナハチ、て、あし、あめ、かぜ、軍隊、聽衆ノ如キモノナリト知
 ルベシ。

スベテ實體ヲ認メテ名ヲ命ズルハ、一個(スナハチ單位)ノ状態ヲ取ル場合
 ニ於イテス。何トナレバ、一個ノ状態トシテ之ヲ認ムルニアラザレバ、其
 ノモノノ限界ヲ識得スルヲ能ハズ、從ツテ、其ノものノ概念ヲツクルヲ能
 ハザレバナリ。然レドモ單位トシテノ標準ハ、必シモ自然ノ約束ニ依ラ
 ズ、ヨク人爲的ニ移動セシメ得ベキモノナレバ、ひと、テフ自然ノ單位以內
 ニ其ヲ組ミ立ツル單位ヲ見出ストシテ、くび、胴、て、あし、等ニ別ツヲ
 得ベク、カ、ル場合ニ於イテ、くび、胴、て、あし、ノ如キハ、皆一ツノモノトシテ
 立ツナリ。又、之ト反對ニ、吾人ハ、ひと、テフ單位ヲ團結セシメタル一團體
 ヲ單位トシテ、群集、軍隊、聽衆等ヲ一ツノモノトシテ思念スルヲモ得
 ベシ。カクノ如クニシテ、個體名ニ對シテ準個體名トイフベキモノハ生
 ズルナリ。カクテ、一ツノ個體名中ニ單位ノ標準ヲ小ニシタル單位ノ複
 數ヲ見出ストモアルベク、或ル個體名ガ他ノ個體名ノ一部分タルヲ見出

ス、トモアルベケレド、單位トシテノ標準ヲ動カサザル以上、或ル個體名ノ正體言ハ其ノもの一個ヲ意味スルヲ原則トスルニテ、コレ、個體名ノ起源ガオノヅカラ然ラシムル所ナリ。然レドモ、個體名中、下ニイフガ如ク、通稱名トシテ立ツモノハ、其ノ同一單位ニ立ツモノ、二個以上ヲ指ザサムトスル必要ヲ感ズルコトアリテ、コ、ニ其ノ一個ヲ指ザス場合ニ對シテ、個體ノ複數トイフ思念ヲ生起スルコトナル。複數ノ思念ヲ表示セムトスルニ方ツテ、ワガ國語ニテハ、前後ノ關係上明ナルモノハ、別ニ其ノ表白法ヲ用キズ、特別ノ必要ヲ感ズル場合ニノミ、辭「ら」言ヒソへ、或ハ、下節(一六)ニイフガ如キ、準體言ノ一種類ニ屬スル「ども」「たち」等「ら」言ヒソフルコトト成リ居ルナリ。西洋諸國語ノ如キハ、スベテニ互リテ必ラズ、單複ノ關係ヲ表示スルコトシテ、複數ノ場合ニ於イテ常ニ特別ナル語形ノ變化ヲ用キテ之ヲ別ツノミナラズ、文主ノ單複ニ對シテ、文ノ從素タルモノニマデ、整調セラルベキ單複ノ語形ヲ有ス。概シテ之ヲイフニ、一ハ、簡ナレドモ、時ニ單複ノ不明ヲ起サシムル憂ヘアリ、一ハ、精シケレドモ、其ノ形式ヲシ

單位通稱名
單位特稱名

テ常ニ繁縟ニ流レシメ、互ニ長短ノ所アリテ、妄ニ輕重スベカラズ。

個體名ノ正體言ニハ、單位通稱名ト單位特稱名トノ二種アリ。單位通稱名トハ、同ジ單位ノ標準ニヨリテ立ツ個體ノイヅレニモ通用シ得ラルベキ稱呼ニシテ、(漢文及ビ漢文ヨリ出タル語法ノ文ニテ、通稱ヲ某トイフ「ナドア」單位特稱名トハ、同ジ單位ノ標準ニヨリテ立ツ個體中ノ或ルモノニ附與セラル、特別ノ稱號ニシテ、同一通稱名ニ依リテ呼バルル他ノモノニハ通用シ得ラルマジ、キモノナリ。例ヘバ、「ひと」「うま」「かみ」「神」(くに)國ノ類ハ、同ジ單位ノ標準ニヨリテ立ツ個體ニ通用シ得ラル、名ナルヲ以ツテ、單位通稱名ナレドモ、義經「家康」「いけづき」「するすみ」モシクハ「八幡大明神」「日本」「日本國」ノ如キハ、「ひと」「うま」「モシクハ」「かみ」くに等ノウチノ或ルモノニノミ附與セラレタル特別ノ稱呼ニシテ、他ニ通用シ得ザルベキモノナルヲ以ツテ、單位特稱名ナルガ如シ。コノ故ニ、單位特稱名ハ、單位通稱名ヲ有スルモノノウチノ或ルモノニ與ヘラレタル特別ノ稱號ニシテ、兩者ノ間ノ區別ハ性質上明ナルモノナレド、其ノ通稱名ヲ有スル單位ノ資格ガ、其ノウニ、更ニ小ナル單位

ヲ有スル様ニ思念セラル、ヲ得ルモノナル場合ニハ、其ノ特稱名ハ、其ノ小ナル單位ノ個體ニ對シテハ、殆ンド、通稱名タルニ似タル如キコトトナルベシ。例ヘバ、日本トイフ國ノ單位名ニ對シテ更ニ小ナル單位名ヲ成ス「九州」「四國」「關東」「北海道」等ハ、皆、日本ナリトイフヲ得ベキガ如ク、或ル山脈ノ特稱名ト其ノウチノ一ツノ山ト、或ル一ツノ川全體ノ特稱名ト其ノウチノ一部分トノ如キモノニ於イテ、同ジ關係ニ思念セラル、トアルガ如シ。サレド、通稱名ガ同ジ標準ノ單位ノモノニ通ズル名ヲイフナルニ反シテ、此等單位ノ關係ヲ異ニシタルモノノ上ノ事ナレバ、通稱名トイフベキモノナラザルトハ、明ナリト知ルベシ。(コノ全部ト一部分トノ關係ナバ「ひとくび」屬「てあし」ヲ以ツルキモノナリ。)

コノ單位通稱名中ニ、單位ノ眼ニ見ルベカラザルモノ・スナハチ、所謂無形ノモノアルトハ、既ニイヘル所ナルガ、モシ、カ、ルモノト然ラザルザルモノトニヨリテ、スナハチ、所謂有形ノモノ所謂無形ノモノノ別チニヨリテ之ヲ別ツベクンバ、顯體單位通稱名「隱體單位通稱名」ノ名ヲ以ツテ部類ヲ

顯體單位通稱名
隱體單位通稱名

立ツルヲ得ベシ。然レドモ、コハ、文典上サマデ有用ノ事ニアラズ。サレド、別ニ必要ナル區別トシテ注意スベキモノアリ。或ルものヲ主トシテ、其ノ本來的ノ性質ヲ包舉スルモノトシテ認メラル、ものノ稱呼、スナハチ本來的ナル種類ノ稱呼例ヘバ「ひと」老人「壯者」小兒ノ如キモノト關係的ノ性質ヨリ見タルものノ稱呼、委シクイヘバ、或ル他ノ者ヲ中心トシタル觀察ヨリ起ル關係或ハイツレ中心トシモナク兩々相對持スル上ノ關係等ヲ主トシテ、其ノ境遇的ノ性質ニヨリテ指舉スルモノトシテ認メラル、ものノ稱呼、スナハチ境遇的ナル種類ノ稱呼例ヘバ「ちん」は「をぢ」をば「あに」おと、「祖父」高祖父等ノ類、及ビ「きみ」君「おみ」臣「とも」友「師」弟子等ノ類ナドトノ別チ、コレナリ。(コノ他元來品象名ノ一種ヲ成ス或ル資格モ、其ノ特別ナル資格爵位官職等ヲ有スル者ヲ指ス義トナルモノハ、マタ、コノ後者ノ類ニ入ルコトナル。ナホ、次節品象名ノ條ヲ參考スベキナリ。)前者ヲ直觀單位通稱名トイヒ、後者ヲ曲觀單位通稱名トイフ。サレド、コノ區別モ、ナホ、初學者ニ於イテ必需ノ急トスベキモノニアラズ。

準個體名ニ屬スルモノニモ、個體名ニ單位通稱名ト單位特稱名トアルニ準

直觀單位通稱名
曲觀單位通稱名

準單位通稱名
準單位特稱名
部分的單位通稱名

ジテ準單位通稱名ト準單位特稱名トノ別チアリ。

準單位通稱名ニハ、かしら「胴」てあし「かほ」め「はな」ゆび「うて」はぎ「せ」はらノ如ク、或ル實體ノ一部分ヲ單位ト認ムルモノ（スナハチ部分的單位通稱名）ト内閣「國家」國民「學校」會社「銀行」（但シ、學校「會社」銀行ナドノ建築物ヲ指スノミニノ指ス所ニヨリ他ノ種類ニ屬ス）「軍隊」東洋「諸國」歐洲「列強」ナドノ如ク、同種ノ單位モシクハ種々ノ單位、或ル關係ノ下ニ結合セラレタルニヨリテ成レル一單位ヲ認ムルモノ（スナハチ集合的單位通稱名）ト「金」「銀」「銅」「鐵」（但シ、貨幣「ゆび」等トシテ立ッ金銀銅鐵ノ如キハ、其ノ方ヨリ見ラレタル場合ニ於イテ、單ニ「金」「銀」「銅」「鐵」トイフ名ノ類ニ入ラズシテ「貨幣」「ゆび」「わ」「かま」「ひばし」等の名ノ類ニ入ルベキコト勿論ナリト知ルベシ）「かぜ」「つち」「土」「ひ」「火」「みづ」「さけ」「酒」「あめ」「雨」「けむり」「つゆ」「しも」「ゆき」「ガス」「電氣」「空氣」くも「雲」ナドノ如ク、或ハ「みやげ」「餞別」「進物」「賄賂」「賞品」「名物」「遺失物」ナドノ如ク、隨時ニ變化スル——（自然的或ハ人爲的ノ）——或ル形狀ヲ標準トシテ、隨時ノ單位ヲ定ムルカ、分析的、研究ノ力ニヨリテ、其ノ分子ヲ見出スカニヨルニアラザレバ、單位ノ思念ヲ起スコト能ハザルモノニシテ、普通ニハ、其ノモノハ本質ものさねモシクハ性質ト信スルモノヲ認定スルトニヨリ

集合的單位通稱名

物質的單位通稱名
不定單位通稱名

テ單位ノ變化ヲ許シツ、其ノ思念ヲツクルモノ（スナハチ物質的單位通稱名）寧ロ不定單位通稱名ト、（純粹ナル物質名トシテ立ッ場合ハ、次節ニ）「人類」（普通ニハ、タゞ直覺的ニ或ハ習慣上ヨリ來ル隨時ノ直覺的感得ニヨリテ認メ得ラル、人ノ思念ニシテ、上述ノ如キ單位通稱名ナレド、人類トイハバ、其ノ「ひと」ニ當ルモノノ異種ノスベテヲ概括包含スルトニ依リテ建設シタ）「猿類」「四足獸」「動物」「植物」「生物」「有機體」「無機體」「原素」「理想」「精神」「たま」「靈魂」こゝろ「ちから」「精力」「情」「慾」等ノ如ク、種々ノ異點ヲ有スルモノヲ共通ナル點ニ依リテ包括シ、思索的ニツクリ出シタル思念ニシテ、其ノ單位ハ、全ク想像的ノモノナル（スナハチ包括的單位通稱名トアリ）（如何

單位通稱名ニ表自セラル、モノモ、極メテ嚴格ニ考察スレバ、其等ノ單位ハ全ク等一ナルベキモノナラザルガ故ニ、殆ンド、此ト相似タルモノナルガ如キ感ヲ起スニ至ルベケレド、其等ニキテハ、其ノ同シキヲ見テ、其ノ異ナルヲ見ザルヲ常トスルヲ以ツテ、ナホ、常識的ニ容易ク其ノ單位ヲ認メ得ベキモノナリトス。然ルニ、此ノ包括的單位通稱名ニ屬スルモノハ、始メヨリ異點ヲ有スルモノトシテ、認メタルモノヲ包括シタル通稱ナレバ、一方ニ其ノ包括ニ入ルベキ實際ノものヲ指擧シ得ラル、ト自由ナルニモカ、ハラズ、假設的想像ノ外、一定ノ單位ヲ見出スヲ能ハザルモ）

準單位特稱名ハ、或ル準單位通稱名ヲ有スルモノ、ノウチ、或ルモノニ與ハラレタル特別ノ稱呼ニシテ、其ノ通稱名ヲ有スルスベテノ間ニ共通スルモノナラザル等ノ關係スベテ、單位通稱名ニ對スル單位特稱名ノ關係ノ如シ。

包括的單位通稱名

準單位特稱名

例へば、國民ニ對シテ「日本國民」マタハ「日本人」英國國民「マタハ「英國人」カゼニ對シテ「いかほ」カゼノ類ナル「おろし」や「ま」おろしニ對シテ「ひゑ」おろし「ひゑやま」おろし「みやげ」ニ對シテ「京都」みやげ「日光」みやげ「名物」モシクハ「名産」ニ對シテ「仙臺」名物「繪島」名産「學校」モシクハ「大學」帝國大學「義塾」語學校「外國語學校等」ニ對シテ「東京帝國大學」慶應義塾「東京外國語學校」會社「モシクハ「株式會社」ニ對シテ「内國通運會社」日本郵船株式會社「銀行」ニ對シテ「正金銀行」安田銀行「艦隊」ニ對シテ「東郷艦隊」ナドイフモノアルガ如シ。

一五。品象名ノ正體言ノ要目。

次ギニ、品象名、スナハチ、實體、ナシトシテ、思念、セラル、モノノ、思念、ニシテ、他ノ、或ル、實體、ヲ有スル、モノ、ニ依リテ、初メテ、念出セラル、或ル、品象ノ、モノトシテ、思念、セラレタル、モノ、ヲアラハス、ナハ、實體名ガ其ノ單位ニツキテノ概念ニヨリテ、支持セラル、ガ如ク、其ガ依立スル、或ル、實體ノ、内部、或ハ外部ニ屬スル、或ル、相位ノ、關係ニ依リテ、支持セラル、モノナリ。何トナレバ、吾人ガ、或ル、モノトシテノ、品象ノ、思念ヲツクルニハ、吾人ヲシテ、モノトシテ之ヲ

相位名
相位品象名
標準相位名
標準相位品象名

思念、セシムル、所以ノ、物相、モシクハ、位置ノ、存在ヲ、要スベキモノニシテ、モノトシテ立ツベキ、思念ヲ起サシムル、所以ノ、物相、位置等ノ、存在ナクシテハ、モノトシテノ、或ル、品象ノ、思念ガ成立シ得ラルベキ理由アルコトナケレバナリ。而シテ、吾人ガ、カクノ如キ、相位ヲ有スル、モノトシテノ、品象ノ、思念ヲ立ツルニ方ツテ、吾人ハ、實體名ニ個體名ト準、個體名トノ差別ヲ見出スガ如ク、本來的ノ、相位、スナハチ、本來的ニ、或ル、實體ニ屬スル、相位トシテ認ムベキモノヨリ成レル、モノトシテノ、品象ノ、思念ト、之ニ準ズル、或ル、相位、スナハチ、述者タル、第一者ノ、想像上、相對的ニ、外部ヨリ、或ル、實體ニ屬スル、モノトシテ認ムル、相位ノ、存在ヲ認ムル、トニ依リテ成レル、モノトシテノ、品象ノ、思念ト、アルヲ見出ス、トヲ得ベシ。之ニ依リテ、前者ヲ、相位名、又ハ、相位品象名トイヒ、後者ヲ、標準相位名、又ハ、標準相位品象名トイフ。而シテ、コ、ニ注意スベキハ、相位名ハ、元來、實體ニ屬スル、相位ニ依リテ起ルベキモノナレバ、其ノ本性ガ斯クノ如キモノトシテ論ゼラルベキハ、論ナキコトナレド、既ニ盛ニ起リ盛ニ使

立、スル、新ナル、相位ノ、思念ヲ、起シ、實體、直接ノ、相位名ナラザル、種々ノ、相位名ヲ、建設スル、トアルヲ、常トスルニ、至ルヲ、以ツテ、吾人ノ、使用スル、言語ニハ、必シモ、直接ニ、實體ニ、屬スル、相位ナラザルモノニ、ヨリテ、成レル、品象名アルコトナリ。(下文ノ、建立的、相位名、準、建立、的、相位名、等ヲ、參考スベシ。)

コ、ニ、讀者ハ、相位トイフ語ガ、品象ノ、廣義ノ、ものトシテ、思念セラルベキモノヲシテ、ソノ、廣義ノ、ものトシテ、思念セラル、ニ到ラシムル、其ノ、特性ヲ表ハス方ニ、使用セラレタルコトヲ、注目スルヲ、要ス。何トナレバ、實體ヲ有スルモノニツキテ、ノ、單位ノ、名ハ、人ノ、耳目ニ、慣レ、居ル所ナレド、コ、ニイフガ如キ、相位ノ、思念ハ、曾テ、流布シタルコトナキ、新名目ナレバナリ。而シテ、ものトシテ、ノ、品象モ、既ニ、ものトシテ、思念セラル、以上、一ツニツトシテ、數ヘラルベキ、性質スナハチ、單位ヲ、有スルコトナレドモ、此等ノ、ものハ、相位ニ、依リテ、ものノ、思念ヲ、ツクルニ、至リテ、始メテ、實體ニ、準ズル、性質ヲ、有セシメラル、コトニ、ヨリテ、單位ノ、思念ヲ、起シ、得ラル、ニ過ギズシテ、マヅ、單位ニ、ヨリテ、其ノ、思念ヲ、ツクリ、得ベキモノニ、ハアラザルナリ。之

具足相位名
建立相位名
準具足相位名
準建立相位名

ヲ以ツテ、相位ノ、概念ガ、特ニ、重キヲ、品象名ノ、正體言ニ於ケル分類ニ成スコトナホ、單位ノ、概念ガ、特ニ、重キヲ、實體名ノ、正體言ニ於ケル分類ニ成スガ如クナルベキ所以ヲ、悟ルベキナリ。
相位名ノ、正體言ニハ、具足相位名又ハ、具足相位品象名トイフベキモノト、建立相位名又ハ、建立相位品象名トイフベキモノトノ、別アリ、準相位名ニモ、準具足相位名又ハ、準具足相位品象名トイフベキモノト、準建立相位名又ハ、準建立相位品象名トイフベキモノトノ、別アリテ、其ノウチニ、マタ各二種ノ、類別ヲ、有スルコト左ノ如シ。

相位名	具足相位名	形質的品象名
建立相位名	力相的品象名	
準具足相位名	種類の品象名	
	軌範的品象名	
	作用的品象名	
	形状的品象名	

指示的品象名
〔準建立相位名〕
對稱的品象名

具足相位名トハ本來的ニ或ルものスナハチ實體名ヲ成スモノ、モシクハ品象名ヲ成セル既得ノものノ思念ニ具足スルモノトシテ感得スル品象ノ形狀ノ上ニものトシテノ品象ノ思念ヲ成スモノヲイフニテ例ヘバ種々ノ物ニヨリテしろくろあかあを等ノ色彩上ノ形狀ヲ感得シ之ニ依リテ實際的ニいろトイフものノ存在ヲ思念シ或ハ施イテしろいろくろいろあかいろあをいろ等ノ思念ヲツクリ（タゞ、しろくろナドイフモ、其ノ形狀ノ義ナラズシテ、いろいろくろいろいろ等ノ義ヲ成スモノハ、マタ、コレナリ。）又ハ種々ノ物ニヨリテまる四角等ノ種々ノ形狀ヲ感得シ之ニ依リテ實際的ニかたちトイフものノ存在ヲ思念シ或ハ施イテまる（圓形、四角、四角形等ノかたちノ思念ヲツクリ、（タゞ、其々ノ形狀ノ思念ヲアラハス場合ニハ、同語形ナリトモ、コノ類ニアラズ。以下モ準ジテ知ルベキナリ。）又ハ種々ノ人ニヨリテ寛厚謹嚴猛惡柔順等ノ種々ノ心性上ノ形狀ヲ感得シ之ニ依リテ實際的ニさが（性質）トイフものノ存在ヲ思念シ或ハ施イテ寛厚（寛厚ノ性）謹嚴（謹嚴ノ性）猛惡（猛惡ノ性）柔順（柔順ノ性）等ノ性

形質的品象名

質ノ思念ヲツクリ又ハ種々ノ物體ニヨリテ水石金鐵等ノ性質上ノ異同ヲ感得シ實際的ニもの の さがスナハチ物質性トイフものノ思念ヲツクリ施イテみづ（水）みづ（水）トイフ物質性（水）しし（石）しし（石）トイフ物質性（石）金（金）金（金）トイフ物質性（金）鐵（鐵）鐵（鐵）トイフ物質性（鐵）ノ思念ヲツクル（其ノ物質性ノ思念ニアラズシテ、其實體名ナリ。混）類ハ皆、コノ種類ニ屬スルモノニシテ、（スベテ、實際的ニ、スナハチ、實消スベカラズ。混）象ハ皆、之ニ屬ス。例ヘバ、人相（品位）ひとがら（人相）ちまみ（妙所）類ノ如シ。此等ハ、スベテ、形質的品象名ヲ成スモノナリ。又、いろ（容色）あたへ（おもむき）趣味ニ近キ（義ナルモノ）にほひ（かをり）威（威）徳（徳）權勢（職權）命令權（學閥）ちから（資力）學力（責任）主義（目的）目的（目的物ノ義）ノ如ク前ノ例トヤ、似タル所モアレド、オノツカラ異ナル所アル相位トシテ、一種ノちから（資力）有シ、形質的品象名トノ間ニハ、恰モ物體ニ於ケル無機對有機體ノ差異ノ如キ關係ヲ有シ、甚實體名ニ近キ點ヲ有スル一種ノ品象名ノ、具足的品象名ニ屬スベキモノアリ。コレ、スナハチ、力相的品象名ヲ成スモノナリ。

力相的品象名

種類的品象名

ラズシテ、思索的ニ其ノ或ルものニ屬スルモノトシテ、思考セラレヌル、既得ノ種々ノ品象的思念ノ上ニ建立セラレタルものトシテ、品象ノ思念ヲアラハスモノヲイフニテ、例ヘバ、實際的ニ人ニツキテ得ラレタル種々ノ品象的思念ノ上ニ、思索的ニ其ノ「ひと」トイフモノニ屬シテ、其ノ「ひと」トイフモノヲ舉グルニ堪フベキ性質、スナハチ「ひと」トイフ種類ノモノツ資格ヲアラハスものトイフものトシテ、品象ノ思念ヲツクリ得ベキガ如キ、（さるは、動はだひとにちかしみはひとにして、こゝろはひとにあらずすべて、ひとたるものはひとたるみちをふまざるべからず等ノ如キ用法ノ「ひと」コ）其ノ一例ニテ、苟クモ、或ル種類トシテ他ノモノヨリ別タルベキモノナル以上、スベテノ體アルものニツキテ、皆斯クノ如キ思念ノ成立セザルコトナク、其等ハ、皆或ル種類ヲアラハス實體名ヲ用キテ之ヲ表白スルヲ常トス。コノ故ニ、實體名ヲ成ス語ガ、其ノモノトシテノ性質「其ノモノトシテノ資格」ノ義ニ使用セラル、場合ハ、スベテ、皆コレナリト知ルベシ。カクノ如キモノヲ名ツケテ、種類的品象名トイフ。

コノ種類的品象名ヲ建設スベキ材料トシテノ品象名的思念ハ、甚複雑ナ

ル「トモアリ、甚簡單ナル「トモアリ、人ニヨリテ一定セザル「トモアリ。就中、或ル一ツノ品質ニ依リテ成ルモノノ場合ノ如キ、最簡單ナル種類的品象名ノ概念ヲ立テ得ベキモノトス。實體名トシテ「みづ」「いし」「金」「鐵」ノ類ガ、タゞ其ノ物質性ヲアラハス方ニ使用セラル、場合ハ、上ニイヘル形質的品象名ヲ成セドモ、コノ種類的品象名トナル場合ノ如キ、其ノ例ナリ。」

個體特稱名ノ類ハ、普通ニ種類トイフベキモノナラザレドモ、既ニ或ル個體特稱名、例ヘバ、ネルソン「トイヒ」東郷平八郎「トイフ」ガ如キ名稱アレバ、之ニ依リテ云々ノ人トシテ他ノ人ヨリ區別セラレベキ性質資格ヲ想像スル「トナル」ヲ以ツテ、マタ、種類的品象名トシテ立チ得ベキ餘地ヲ有スルモノナリ。（サテ、コソ、東洋のネルソン、英國の東郷「ナドノ如クモ言ヒ出デラル、ニテ、カクノ如キモノハ、確ニ、コノ種類的品象名ノウチニ攝收セラルベキモノナリ。）「ナホ、形質的品象名ニ屬スル者モ、形質上ノ種類ヲ認ムル思考ヨリ、其ノ種類ノ資格ヲアラハス方ニ用キラレタルハ、マタ、コノウチニ攝收セラルベキモノトス。」

コノ種類の品象名中ニハ、元來實體名モシクハ、之ニ準ジシテコノ種類ヲ成スベキモノ〔スナハチ、上註ニ示ス如ク、形質的品象名〕ナリシニハアラデ、特ニコノ種ノ品象名トシテ建設セラレタルモノアリ。官名職名爵名位名姓名年號其ノ他此等類似ノ名目ノ如キモノ、コレナリ。例ヘバ、大臣「總理大臣」大將「陸軍大將」知事「長野縣知事」全權大使「英國全權大使」文科大學教授「東京帝國大學理科大學教授」巡查「大工」吳服商「農」公爵「子爵」士族「平民」正三位「從六位」工學博士「文學士」得業士「おほみ」大臣「あそみ」朝臣「源」藤原性「近衛」岡澤氏「慶長」明治「春秋」戰國「前漢」後漢「元」明「清」ノ如キモノ、コレナリ。〔コノウチニ、特稱モノナ誤リテ、個體特稱名ト混同スベカラズ。其ノ性質ニ大ナル相違アレバナリ。スベテ、コノ類ノモノニモ、特稱名ト通稱名トノ區別ハ、全ク用ナキ事ニアラザレドモ、實體ト品象名トノ區別、モシクハ、コ、ニ學ケル諸種類ノ別チナ混同スルモノナホ〕但シ、官職爵位氏姓ノ如キモ、或ル實際ノ個體ヲ指ザス方ニ使用セラル、モノハ、轉ジテ實體名トナルモノナレバ、サルカタニ、心スベキナリ。

軌範的品象名

種類の品象名ノ外、ナホコノ建立相位名ニ屬スベキモノニテ、上表ニ示シタルガ如ク、軌範的品象名トイフベキモノアリ。軌範的品象名トハ、マヅ、數量

名「スナハチ、かず、トイフ」もの「思念ヲ成ス」ひとつ「ふたつ」ひとり「ふたり」一個「二個」「一匹」「二匹」等ノ類、〔わづか「おほく」おほく「は」ナドイフ「おほく」ニ「許多」若干ノ類量ニアラズ。下文ニイフ準具足相位名ナル形狀的品象名ニ屬スルカ、然ラザレバ、準體〕時間ノ形狀名トシテ立ツモノナリ。其ノ使用セラル、意義ニ應ジテ識別スルヲ要ス。〔時間ハ、名、スナハチ、とき、トイフ〕もの「思念ヲ成ス」むかし「いま」太古「上古」中古「近古」現今「未來」きの「ふけ、ふ、あす」ことし「はる」なつ「あき」ふゆ「冬至」立春「午前」午後「よひ」ひる「ね」子ノ刻「うし」丑ノ刻「一時」「二時」ついで「たち」よつか「一月」「二月」及ビ第一年第二年ノ義ナル「一年」「二年」〔ひととき「ふたとき」「いちんち」ふい、日時ヲ數フルノモノ、ハ、數量名ノ方ニ屬シ、コノ方ニ入ラズ。特別ニ定メラレタル年月日時年ニテイヘバ、明治「一年」「明治「二年」紀元ヨリ數ヘタル「一年」「二年」等、月ニテイヘバ、十二月月ノ月名日ニテイヘバ、一ヶ月中ノ稱呼モシクハ、農家ニテイフ「二十日」「二十七日」〕其ノ他、紀念日「祭日」天長節「紀元節」節供「節句」ノ類、方位名「スナハチ、ひがし」にし「みなみ」きた「ひつじ」未ノ方「いぬゐ」戌亥ノ方「モシクハ、俗間イフ「鬼門」惠方ノ類、位置名「スナハチ、かみ」なか「しも」〔此等ハ、方位名トシテモ、時間名トシテモ、〕うへ「した」〔たか「ひく」ノ類ハ、コレニ似タル義ナルモノモ、位置ニ屬シ、種々ノ思索作用、ニツキテ起ルものトシテ、ノ關係的範疇名ナル場合程度目的由因等ノ思念ヲアラハ

ス、ところ「ほど」あひだ「ため」ゆゑノ類(本編一)品象ノ類族名、スナハチ形質的品象名ノ概括セラレタルモノナル、いろ「かたち」等ガ形質的品象名ノ如ク實際的ナルニハアラズシテ、想像的ニ之ニ關スル、スベテノ品象名ヲ統紀スル範疇名ヲ成スガ如キ場合、其ノ他種類ノ資格ヲアラハスニツキテ、品象名モシクハ、他ノ品象名ヲ概括シタル範疇名(スナハチ)種類族系等ノ如ク「世代」資格性質品象ノ如キモノ、及ビ學科名藝術名モシクハ學術等ニ關スル特別ナル概念ヲアラハス、スベテノ術語サテハ、論文書籍等ノ題目ノ如キモノニシテ、直接ニ實體實象ヲ指スニアラザルモノハ、スベテ皆、ものトシテノ品象名ヲ成スベキモノトシテ、悉ク、コノ種類ニ收メラルベキモノトス。

次ギニ、準相位名ノ正體言ニツキテイハムニ、既ニイヘルガ如ク、相位名ニ、準ズル、或ル、相位(スナハチ)第一者ノ想像上ヨリシテ、相對的ニ、外部ヨリ、或ル實體モシクハ、之ニ擬シテ取り扱ハレタル、ものトシテノ品象ニ屬スルモノトシテ認ムル相位ノ存在ヲ認ムル、トニ依リテ成レル、ものノ思念ニシテ、其ノウチニハ、相位名中ニ具足相位名ト建立相位名ト別チアルガ如キ別チ、ス

〔準具足相位名〕

ナハチ(甲)本來的ニ、或ル、もの(スナハチ)實體名ヲ成スモノ、或ハ、品象名ヲ成セル既得ノ、ものノ思念ノ之ニ準ジテ思念セラル、モノニ具足スルモノトシテ、感得スル品象ノ形狀ニツキテ、ものトシテノ品象ノ思念ヲ成セルモノヲアラハス名ノ語ニシテ、其ノウチニハ、いしるゝ、くろゝ、ながゝ、みじかゝ、あつゝ、うすゝ(薄)ノ如キ、或ル品象ノ形狀ヲ感得シ、之ニヨリテ、ツノ形狀ガ、其ヲ領有スル、本體ニ對シテ、之ト形影相隨フガ如ク、相伴ナフ、附帶物件ナル、トヲ想像シ、或ル程度ノ、しるゝ、くろゝ、ながゝ、みじかゝ、あつゝ、うすゝ等ノ、形狀テフ、ものノ存在ヲ認メテ、ソガ、或ル、本體ニ隨伴スルヲ、思念スルコトトナレル類ノ、モノト、(ロ)と、すゝ、む、おも、ふ等ノ、如キ、或ル品象上ノ、動靜ヲ感得シ、之ニヨリテ、或ル、しゝゝ、わゝゝ、モシクハ、ことテフ、モノノ存在ヲ認メテ、ソガ、或ル、本體ニ隨伴スルベキ、附帶物件ナル、トヲ想像シ、と、び、すゝ、み、おも、ひ等(飛躍ニ進行ニ勉強ニ携帶ニ詳察ニ)ノ、しゝゝ、わゝゝ、モシクハ、ことテフ、モノノ存在ヲ認メテ、ソガ、或ル、本體ニ隨伴スル、トヲ、思念スル類ノ、モノトヲ有スルモノト、(乙)本來的ニ、或ル、ものニ具足スルモノトシテ、感得スルニハ、アラズシテ、別ニ、述者ノ立脚地ヨリ、認定シタル、或

〔形狀的品象名〕

〔作用的品象名〕

〔準建立相位名〕

指示的品象名

ル關係的思念、ニヨリテ、ものトシテ、品象ノ思念ヲ建立シタルモノヲアラハス名ノ語ニシテ、其ノウチニハ、(イ)「こ」か「モシクハ」なに「いく」等ノ如キ述者ノ地位ヨリ見テ、感得接受シ得ラルベキ、或ル關係的形狀ノ存在ヲ認定シ、之ニヨリテ、其ノ關係的形狀ヲ領有スルモノト認定シタル、或ル本體ヲ間接ニ指示スベキものトシテ、品象ノ思念、スナハチ、これ「それ」かれ「こ」そこ「か」し「こ」なに「もの」なに「こと」いく「ひと」いく「とき」ナドノ如キモノヲツクレル類ト、(ニ)「こ」か「な」に「等」ハ、元來、準體言ノ形狀名ヲ成セルモノナレド、時ニ、コノ「これ」等ノ如キト、(意義ニ轉用セラル、トアリ。カ、ル時ニハ、マタ、コノ類ニ入ルナリ。但シ、カ、ル形狀名ノウチニテモ、いくノ如ク、其ノマ、ニテハ、此ノ類(口述者トシテ、自己ノ立脚地ヨリニ入ルベキ意義、ニ用キラザルモノモアルナリ)口述者トシテ、自己ノ立脚地ヨリ見テ、禮節ヲアラハス爲モシクハ、相互ノ資格ヲアラハス爲ナル、相對的ノ、或ル關係ヲ表白スルヲ要スベキモノト認定スル、或ル本體ニツキテ、其ノ關係ニヨリテ、間接的ニ之ヲ舉示スベキものトシテ、品象ノ思念、スナハチ、足下(第二者ヲ指ス場合)拙者(第一者ヲ指ス場合)さみ(足下)おんみ(全上)あなた(全上)そなた(第二者ヲ指ス場合)わたくし(第一者ヲ指ス場合)閣下(殿下)陛下(おんまへ)御前(うへ)うへさき(かみ)おいかみ(以上四語、オノガ君上モシクハ)わぎも(吾妻)おもと(かた)おいかた(三語共、其ノ對等者ヲ指ス場合ニ限ル)

對稱的品象名

者タル人ヲ(ナドノ如キ、或ル特別ノ思念ヲ、ツクレル類(コノ類ハ、獨立ニ文ノ主素ト指ス場合)ナドノ如キ、或ル特別ノ思念ヲ、ツクレル類(コノ類ハ、獨立ニ文ノ主素トニ限ルニテ、同語形ニテモ、皇太子「殿下」某君「足下」ア「殿下」足下「如ク、他ノ語ノ補助トシテ立ツ辭的準體言トハ、其ノ類ヲ別ニスト知ルベシ。○又、コノ類ノモノトイノ類トノ關係ニツキテハ、在來ノ品詞的分類ナル代名詞ノ説明法ヨリ思ヒ混フ人アルベシ。)ト有スルモノト下、其ノ間ニハ、大ナル區別アルモノトス。委シキ「ハ」別ニイフベシ。)ト有スルモノト別チアリ。此等(甲)乙ノ別チハ、直チニ準相位名中ノ具足相位名建立相位名トイフベキモノナレド、其ニ準相位名中ノ別チナル「コ」ヲ明ニセムガ爲ニハ、準ノ字ヲ加ヘテ、(甲)ヲ準具足相位名トイヒ、(乙)ヲ準建立相位名トイフヲ便ナリトスベシ。(甲)ノイ(ロ)ハ、スナハチ、上ノ表中ニイヘル形狀的品象名ト作用的品象名トノ別ニシテ、(乙)ノイ(ロ)ハ、スナハチ、其ノ指示的品象名(コノウチノ類ハ、前編ニイヘル明索指示名ニシテ、なにもの「いくひと」類ハ、暗索指示名ナレバ、更ニ、コノ類ヲ別ツテ明索指示品象名暗索指示品象名ナド名ツクベケレド、サバカリ細密ナル分類ハ、コトニシタリ。)ト對稱的品象名トノ別ナリ。

準具足相位名
準建立相位名
形狀的品象名
作用的品象名
指示的品象名
對稱的品象名

第三編 用言ノ分類及ビ性質

一六。作用言及ビ形状言。

用言ガ言_レスナハチ獨立ナラシムル_レヨク語義ヲ人ニ通ジ得ベキ語_ニシテ
 ば、た_ラき_レ活用アルモノヲイフコト_ニ序編_ニ用言中ニ作用用言スナハチ作用言
 形状用言スナハチ形状言ノ別ヲ存スルコト_ニ第一編_ニは、た_ラき_レトハ如何ナル
 モノナルカトイフコトハ_四序編_ニ既ニイヘル所ナルガ之ヲ意義上ヨリイヘバ、
 用言ハ體言ガ_レスナハチ固形體的ニ思念セラルベキ模型的概念ヲ成スモ
 ノトシテ立ツニ對シ、流動體的ニ思念セラルベキ模型的概念ヲ成スモノト
 シテ相對照シ、オノツカラ、は、た_ラき_レヲ有セザルト、は、た_ラき_レヲ有スルトノ差
 異ヲ語形ノ上ニ見ルコトトナレルニテ、其ノ流動體的ノ思念スナハチ動的
 思念ヲアラハス用言ニアリテハ固形體的ノ思念スナハチ靜的思念ヲアラ
 ハス體言ト互充的ニ文ノ要素トシテ構想的結合ヲ全ウスルヲ以ツテ、其ノ
 功用ノ主眼トスルガ故ニ、毎語必ラズ、其ノ語ノ本形トシテ、文ノ從素タルベ

〔動的思念〕

〔靜的思念〕

本形

キ一定ノ語形ヲ有シ、其ノ語ノは、た_ラき_レヲ成スモノトシテ、信ゼラル、一聯
 ハモノヲ代表シ、統紀スルモノトシテ認メラル。之ヲ用言ノ本形ト名ヅク。
 用言以外ノ活用アルモノ、スナハチ動辭ノ如キモ、マタ之ニ準ジテ、其ノ本形
 ヲ認定ス。

凡ソ人ノ思念ヲ單位語ニ依リテ表白セラル、所ニ依リテ歸納的ニ概括ス
 レバ、體アルものノ思念ト之ニ依リテ抽象的ニ得ラレタル屬性ノ思念ト之
 ヲ經緯スル種々ノ關係的思念トニシテ、體アルものノ思念ト屬性ノ思念ト
 ハ言ヲ成シ、之ヲ經緯スル種々ノ關係的思念ハ辭ヲ成スモノナリ。而シテ、
 其ノ言ヲ成スモノノウチ、體アルものノ思念ハ靜的思念トシテ、常ニ構想的
 結合ノ主素トシテ立ツヲ得ベク、屬性ノ思念中作用スナハチもの_レちか
 ら_レ活動ヲアラハスモノハ動的思念トシテ、常ニ構想的結合ノ從素トシテ
 立ツヲ得ベク、作用以外ノ屬性ハ或ハ靜的思念トシテアラハレ、或ハ動的
 思念トシテアラハレ、其ノ靜的思念ヲ成スモノハ、或ハ體アルモノニ準ジテ
 品象名ノ正體言トナリ、或ハ體ナキモノトシテ、形状名狀况名等ノ準體言ト

作用言

形状言

ナル相違ニシテ、作用言ハ必ラズ五十音圖ノウ列ノ音ニ當ルモノモシクハ、
 リノ音ヲ以ツテスルモノ(次節参照)ニシテ、形状言ハ必ラズシノ音ヲ以ツテ終ル
 モノナルコトナリトス。之ニヨリテ、二者ノ定義ヲ定メテ左ノ如キモノト
 心得ルハ、實際上甚便益アルコトナリ。何トナレバ、作用ト形状トハ、意義上
 分明ナル差異ヲ有スルコトナレド、作用中ニハ、動作ヲアラハスモノト態度
 ヲアラハスモノトアルコト、次節ニ述ブルガ如クニシテ、其ノ態度ト形状ト
 ノ區別ハ、ヤ、モスレバ混淆セラレ易キコトアルガ故ニ、(現ニ、次節ニ述アル然
 ニ入ル、文典書サ)形式上ニ存スル明確ナル差異ニヨリテ、其ノ相違ヲ劃然タ
 ラシムルハ、教育上頗ブル有利ノコトナレバナリ。

作用言ハ、作用ヲアラハス用言ニシテ、其ノ本形五十音圖ノウ列音モシク
 ハ、リ音ヲ以ツテ終ハルモノナリ。
 形状言ハ、形状ヲアラハス用言ニシテ、其ノ本形シ音ヲ以ツテ終ハルモノ
 ナリ。

一七。作用言ノ二大別ト辭的ノ用言。

寫相作用言

作用言中、其ノ本形五十音圖ノウ列音ナルモノト、リ音ナルモノトアルコト
 ハ、前節ニイヘル如クナルガ、其ノウ列音ヲ以ツテ終ハルモノハ、上例「かく」お
 くノ類ニシテ、其ノリ音ヲ以ツテ終ハルモノトハ、あり「在、有」をり「居」等ノ語
 ガ、ホ、上例ニ準ジテ、あら「あり」ある「あれ」をら「をり」をれノ如キ活用
 ノ形體ヲ成シ、其ノ本形スナハチ文ノ從素タルベキ一定ノ語形トシテ、ハ、あ
 る「をる」ハ、語形ヲ取ラズシテ、あり「をり」ハ、語形ヲ取ルガ如キタイプ。コノ二
 種ハ、其ノ本形ニ於イテ既ニ大ニ異ナルガ如ク、意義上ニ於イテモ、本性上大
 ニ異ナルベキモノニシテ、前者ハ、然スル由ニ思念セラレタル作用ヲ表ハス
 ベキ本性ヲ有シ、後者ハ、然アル由ニ思念セラレタル作用ヲ表ハスベキ本性
 ヲ有ス。之ニ依リテ、前者ヲ名ヅケテ、爲相作用言トイヒ、後者ヲ名ヅケテ、然
 相作用言トイフ。

作用トハ、既ニイヘルガ如ク、もの「ちから」活動ヲアラハスモノニテ、其
 ノウチニハ、意義上、動作ヲアラハスモノト態度ヲアラハスモノトノ別チ
 アリ。「動作」ハ、普通ニハ、人モシクハ他ノ動物ノ坐臥進退ノ類ヲイフナレ

動作

態度

ド、コ、ニハ、極端マデ張大セラレタル意義ニ於イテ使用セラル、ニテ生
 物ト無生物トヲ問ハズ、或ルものノ作用スナハチ、ちからノ活動トシテ許
 サルベキモノヲ、其ノモノノちからノ活動トシテ正面ヨリ認メタル思念
 ナリ。之ニ對シテ、態度ハ、其ノちからノ活動トシテ許サルベキモノヲ、其
 ノちからノ活動トシテ正面ヨリ認メズ、其ノ動作ノ存在トシテ、之ヲ側面
 ヨリ認メタルガ如キ地位ニ置イテ思念シタルモノナリ。サレバ、如何ナ
 ル動作モ、其ノ觀察法ニヨリテハ、悉ク、態度的ニ認得スルコトヲ得ベク、又、
 本來的ニ態度トシテ認メラルベキモノモ、然ル態度ヲ取ルトシテ思念セ
 ラル、時ハ、皆動作トシテ認メラル、コトトナルベキナリ。何トナレバ、
 既ニ、取ルトイフ思念ヲ成セバ、ソハ、直チニ、ちからノ活動ヲ正面ヨリ認ム
 ルコトトナレバナリ。コノ故ニ、動作ト態度トニハ、思念ノ變幻涯リナキ
 性質上——或ル極端ノモノニコソ、殆ント一定ノ準則ヲ定ムルコトヲ得
 ベケレド——スベテノ動的屬性ニツキテ一定不變ノ區劃ヲ建設シ得
 ベキモノニアラズ。サレド、或ル實際的ノ立脚地ヨリ見テハ、——(スナハ

チ或ル國民モシクハ或ル國民或ル時代ノ立脚地ヨリ見テハ——其ノ思
 念ノ立テ方ヲ查定スルヲ得ベキ左券ヲ有スル場合ニ於イテ、吾人ハ、常識
 的ニ之ヲ肯定シテ憚ラザルコトヲ得ベシ。而シテ、ワガ國語ノ構造上ニ
 於イテ、本來的ニコソ、動作態度ヲ別ツベキ左券タルモノハ、實ニ作用言本
 形ニ於ケル、二種ノ特色ナリ。漢字漢語ノ汎濫ガ國語ノ微旨妙用ヲ紊シ
 テヨリ、使用上、然スル相ノモノヲ然アル相ノモノト混ジ、然アル相ノモノ
 ヲ然スル相ノモノト混ズル傾向ヲ生ジタレド、其ノ本性ノ牢乎トシテ拔
 クベカラザルコトハ、國語學上ノ適當ナル素養アリ修練アル者ノ常識ニ
 ヨリテ、容易ク判知シ得ラルベキモノニシテ、リ音ニ終ルモノハ、代表者タ
 ル、ありガ他ノ語ニ添加シテ新語ヲツクル場合ニ、(然相作用言ノ條)其ノ添加
 シタル本ノ語ニ對照シテ、上述ノ如キ動作態度ノ別ヲ明ニスベキ意義用
 法ヲ存スルニ徴スルモ、所謂思ヒ半ニ過グルモノアルベキニテ、コノ然相
 作用言ガリ音ヲ以ツテ終ハル本形ヲ有スル本由モ、其ノ意義上ノ性質ガ
 他ノ作用言ト形狀言トノ中間ニ立ツガ如キ情味ヲ有スルヨリ、其ノ本性

ノ當然ニ作用言タルベキモノナル性質上殆んど全ク他ノ作用言ト區別スベカラザルはたらし方ヲ取リナガラモナホ形状言ノイ列音ニ終ル本形ニ感化セラルベキ心理的感應ニヨリテ——其ノ語形ノ成立時代ニ方ツテ——特ニ作用言トシテノコノ變態ヲ其ノ本形ニ起シシモノナルベシ。サレド其ノ微細ノ論ハ前節ノ註文ニモイヘル如ク活用ニ關スル造語法ト語義トノ關係ヲ論セザルベカラザルコトトナリ到底本書ノ如ク紙數ヲ限り卑近ヲ主トスルモノニ於イテスベキモノナラザルヲ以ツテ、コ、ニ其ノ論ヲ詳ニセザルコトトスルノミナラズスベテカ、ル觀察ヨリ來ル微細ノ分類ニ亘ルコトヲ避ケタリ。

サレド、ナホコ、ニ一言シ置クベキハ、爲相作用言ニモ本來的ノ爲相ナルト然相的ノ爲相ナルトアリ然相作用言ニモ本來的ノ然相ナルト爲相的ノ然相ナルトアリテ作用ノ種類ハ實ニ左ノ如キ大體上ノ分類ヲ成シ、

作用
 然スル相ノ作用(甲) 本來的ノ爲相(イ)
 然相的ノ爲相(ロ)

〔然アル相ノ作用(乙) 爲相的ノ然相(ハ) 本來的ノ然相(ニ)〕

其ノウチ(イ)ハ生物ノ有意的作用及ビ之ニ準ジテ思念セラレタル無生物ノ有意的作用ヲアラハシ(ロ)ハ無生物ノ無意的作用及ビ之ニ準ジテ思念セラレタル生物ノ無意的作用ヲアラハシ合シテ廣義ノ動作ヲ組成スルト共ニ其ノ(イ)ヲ以ツテ狹義ノ動作ヲ成シ(ハ)ハをり居はべり侍ニアラハサル、モノノ類ニテ然相ノ作用ナガラナホ其ノ作用ヲ起スモノノ爲相的ナル性質ヲ裏面ニ伏スルモノナルヲ暗示シ(ニ)ハありニアラハサル、モノノ類ニテ生物ナルト無生物ナルトヲ問ハズ全然然相的ノ思念ニシテ合シテ態度ノ思念ヲ組成スルト共ニ(ニ)ヲシテ狹義ノ態度ヲラシメ、更ニ(ロ)ハ(ニ)ヲ連ネテ廣義ノ態度ノ思念ヲ成サシムベキト共ニ(イ)ハ(ハ)ヲ連ネテ最廣義ノ動作ノ思念ヲツクリ得ベキ性情アルトニテ語ノ分類ニツキテハ必シモ(乙)ニ於ケル(ハ)ニ別ツベキ必要ヲ感ゼザレドモ(甲)ニ於ケル(イ)ノ區別ハヤ、精密ナル研究ニ於イテ爲動的爲相作用言然動的爲

爲動的爲相作用言

然動的爲相作用言
主動性爲動
客動性爲動

〔自動詞、他動詞〕

相作用言トシテ必ラズ區分セラルベク、ソノ爲動的爲相作用言ニ於イテ大體上所謂自他ノ別チニ當ルベキモノヲ別チテ、主動性爲動ト客動性爲動トヲ立ツベモノニテ、西洋文典ヨリ來レル自動詞他動詞ノ別チノ如キハ、ホヤ、コノ客動性爲動ニ對シテ他ノアラユル作用ヲ對照セシメタルモノナルコトナリトス。

西洋文典ニイフ自動詞他動詞ノ別チハ、西人中ニモ、眼識アル者ノウチニハ、其ノ適當ナル理論的分類ナラザルコトヲ觀破シ居ル人モアル程ニテ、固ヨリ、作用言ヲ別ツベキ正當ナル分類ニアラズ。サレド、西洋古今ノ言語ニテハ、其ノ區別、ニヨリテ、所謂發働、受働、働勢ヲ、取り得ベキモノト、發働ノミヲ、取りテ、受働ノ働勢ヲ、取ルコトナキモノトノ別チヲ成スガ故ニ、

〔語形モシクハ文ノ構成上ノ形式ヲ成ス方ノ結合上ヨリ見テ〕——語ニツキテノ實際的ノ性質ノ上ニ建設セラルベキ分類トシテ、決シテ、愚ナル分類ニアラザルヲ、彼我國語ノ性質如何ヲ顧ミズシテ、ソヲ、サナガラニワガ國語ノ分類上ニ移植セントスルハ、全ク無意氣ナル模倣ニ屬ス。何

トナレバ、ワガ國語ニテハ、彼ノ所謂自動詞ニ當ルモノモ、皆受働ノ働勢ヲ起シ得ベキモノナルコト、ひて「こなく」あねしぬノ如キモノニ對シ、ひにて「こになかれ」て「あねにしなれ」て「チドイフガ如キ思念ノ文ヲ成スコトノ常ノ習ヒナルニテモ、明ナルコトニシテ、理論上ヨリ見ルモ、毫モ不當ナル性質ヲ有スルモノナラザレバナリ。自動詞他動詞ノ分類ノ適從スベキモノナラザルコト知ルベシ。

〔但シ、自他ノ別チ「テフコトハ、別ニ、主動性客動性ノ作用間ニ注目セラルベキ一種ノ題目ヲ成スモノニシテ、文素論ニ關シテ大ニ研究セラルベキ必要アルモノナリト知ルベシ。大槻氏ノ所謂「有對」「無對」ノ說ノ如キモ、更ニ數步ヲ進メテ的確ナル準據ヲ求メ、文素論上ニ深奧ナル研究ヲ要スルモノニハアレド、マタ、語性論上ノ普通ノ分類ニ適用スベキモノニアラズト知ルベシ。〕

〔此等ノ事ニ關シテ學理ハ、續日本文典要義其ノ他ニ説ク所アルベシ。〕

然相爲相ノ分類ニツギテ、作用言ノ細目ニ亘リタル分類ヲ成スベキモノハ、はたらしノ性質ニ依リテノ類別ナリ。何トナレバ、爲相作用言然相作用言

内部ニ於ケル意義上ノ別チハ、殆ンド全ク理論的文典ノ範圍ニ屬スベキモノ、モシクハ、文素論ニ屬スベキモノニシテ、普通ノ文典ニ於ケル語性論第一ノ要務ハ、文典上ノ領野ニ屬スベキ語形ノ變化ヲガ國語ニテハ殆ンド全ク語ノ「はたらき」ヲ主トシテ語ヲ整理シ、以ツテ、其ノ異同ヲ暗ンズルニアルモノニシテ、ソノ必要ハ、はたらきアル語ノ場合ニ於イテ、其ノ極端ニ達スルモノナレバナリ。

體言ニアリテハ、既ニ「はたらき」ヲ有セザルガ故ニ、之ヲ整理スルニ方ツテ、或ル程度マデ、其ノ意義用法ヲ主持セザルベカラザレドモ、ナホ、普通ノ文典ニ於イテ、其ノ細目ノ論ヲ分類上ニ施スヲ要セズ。況シテ、作用言ノ如ク、或ル「もの」ちからノ活動ヲアラハスモノハ、言トシテ立ツベキ性質ヲ有スルコトニ於イテ、コソ體言ト等シケレ、體言(特ニ「もの」名タル正體言)ノ如ク、全ク單獨ニ使用セラレテ、ナホ、其ノ實用ヲ濟シ得ベキモノニアラズシテ、特ニ抽象的ニ思念セラル、場合ヲ除キ、主素トシテノ體言ヲ連想スルニアラザレバ、其ノ實用ヲ濟スベカラザルモノニアリテハ、其ノ意義

上ノ區別ヲ明ニセムト欲セバ、勢、文ノ主素タリ得ベキもの、思念トノ結合ヲ思念セザルベカラザルガ故ニ、到底、文素論ニ亘ルコト多カラザルヲ得ズシテ、語性論ノ分類トシテ、意義上ノ十分ナル整理ヲ施サントスルコトノ殆ンド不可能ナルヲ認ムルハ、甚容易カルベキヲヤ。コノ故ニ、語形上ノ曲折ニ關セザル以上、強チニ意義上ノ曲折ヲ盡サムトスルハ、普通ノ文典ニ於ケル分類ノ可ナルモノナラズト知ルベシ。(但シ、理論的文典ニアリテハ、深ク思念上ノ委曲ニ亘ルベキモノナルヲ以ツテ、文ノ主素タリ得ベキモノヲ補充概念トシテ、意義上ノ曲折ヲ盡スベキ必要ヲ感ズベキモノトス。) 形狀言ノ分類ニツキテモ、之ニ準ジテ知ルベシ。

然レドモ、「はたらき」ノ性質ニ依リテノ類別ニ進ムニ先立ツテ、ナホ、分類上注意スベキモノアリ。前編ニモイヘル所アリシ辭的作用言及ビ下ニイフ辭的形狀言コレナリ。(コノ兩者ヲ概括シテイフヘキ必要アル時ハ正ニ辭的作用言ノ稱呼ヲ用ウベシ。) 辭的作用言ハ體言ニ於ケル辭的準體言ノ如ク、一方ニハ、普通ノ作用言トシテ使用セラル、モノガ用法上、動辭的ニ使用セラル、ニ到レルモノニシテ、

辭的作用言
辭的作用言

〔一〕の 〔かた〕
 〔二〕の 〔かた〕
 〔三〕の 〔かた〕
 〔四〕の 〔かた〕
 〔五〕の 〔かた〕

ツノ場合ニ二ツノ語形ヲ傳ハテ之ヲ習用シ來リ、偶然六ツノ「はたらき」ヲ存スルコトナレニテ、全ク五ツノ場合中ニ攝收セラレベキモノナルナリ。後ニ至ツテ説明スルヲ見ルベシ。
 ○三 サレバ、語ノ「はたらき」ニツキテノ正確ナル知識ヲ得ムト欲セバ、必ラズ其ノ五ツノ場合ヲ知ツテ、其ノ五ツノ場合ニヨリテ成ル「はたらき」ノ模型、スナハチ「はたらき」ノ「かた」ヲ豫想シ、之ニ合セテ、語ノ「はたらき」ヲ正シ、語ノ「はたらき」ノ異同ヲ明ニセザルベカラズ。

其ノ五ツノ場合トハ、スナハチ、左ノ如キモノニシテ、其々ノ場合ニ應ジテ起ル「はたらき」ノ模型スナハチ「はたらき」ノ「かた」ノ互ニウツリハタラク關係上ノ地位ヲバ「はたらき」ノ第一の「かた」或ハ略シテ「一」の「かた」「はたらき」の第二の「かた」或ハ略シテ「二」の「かた」「はたらき」の第三の「かた」或ハ略シテ「三」の「かた」「はたらき」の第四の「かた」或ハ略シテ「四」の「かた」「はたらき」の第五の「かた」或ハ「五」の「かた」トイフコトトスベシ。

(イ)「はたらき」の第一の「かた」ヲ成スモノ。
 辭「む」「ず」「ば」等、言ツ、マ、ク、ル、場、合。

(ロ)「はたらき」の第二の「かた」ヲ成スモノ。
 作用言又ハ辭、て「モシクハ」「き」「けり」等、言ヒツ、マ、ク、ル、場、合。

(ハ)「はたらき」の第三の「かた」ヲ成スモノ、スナハチ、本形。
 普通ニ——(スナハチ、特別ノ條件ナクシテ)——文ヲ結、ブ、場、合、スナハチ、其ノ語ニテ文ノ言ヒ、キ、リ、トナル普通ノ場合。

(ニ)「はたらき」の第四の「かた」ヲ成スモノ。
 體言、言、言ヒツ、マ、ク、ル、場、合。

(ホ)「はたらき」の第五の「かた」ヲ成スモノ。
 辭「ど」「ども」「ば」等、言ヒツ、マ、ク、ル、場、合。

此等ノ五ツノ「かた」ヲ成スモノノ場合トシテ舉ゲタルハ、必シモ、コノ五ツノ「かた」ニ當ル語形ガ用キラルベキ、スベテノ場合ヲ悉クシタルモノニハアラズ。現ニ、第三ノ「かた」ヲ成スモノスナハチ本形ノ如キモ、タゞ文ノ言ヒ切リトナルノミニアラズシテ、「べし」「らし」等ノ辭ナド、言ヒツマケラル、コトトナルモアルニテ、他ノモノニモ、其々或ハ他ノ辭ナド、言ヒツマケラレ、或ハ

或ル特殊ノ用法ヲ取ルコトナドモアルハ、讀者ノ過去ノ實驗ニ徴シテ、直チニ想起セラル、所ナルベシ。コヽニ擧ゲタルハ、實ニ、『最普通ニ起ルベキ現象』『五ツノ「かた」ヲ檢出スルニ便ナル場合』トイフコトヲ標準トシテ、五ツノ「かた」ノ特色ト認ムベキモノヲ撰出シタルモノニテ、其ノウチ、辭「ば」ヘ言ヒツマクルコトハ、第一ノ「かた」ヲ成ス場合ト第三ノ「かた」ヲ成ス場合トニ共通ナルヲ以ツテ、暫ク之ヲ除クコトトスレバ、他ハ皆五ツノ「かた」ニヨリテ語ノ「はたらき」ヲ檢出スベキ恰當ナル試験法ヲ成スベキモノニシテ、之ニヨリテ語ノ「はたらき」ヲ檢出シ、以ツテ、下文ニ説クガ如キ、用言ノ分類ヲ成スベキ「はたらき」ノ定律ニ擬議セムニハ、苟クモ、不正ナル口僻ニ慣レタル人ナラザル以上、既知ノ語ノ「はたらき」ニツキテ、其ノ正ヲ失フコトナカルベキモノナリトス。(ナホ、紛ラハシキ傾向アルモノ、及ビ、在來不正ト認メラレタルモノノ) サレバ、コノ五ツノ「かた」ヲ成スベキモノトシテ擧ゲタル五ツノ場合ハ、下ニ説明スルガ如キ活ラキ方ニヨリテ別ツベキ語ノ種類ヲ知ル上ニモ、文章語ノ活ラキ方ヲ實際ニ正ス上ニモ、マヅ心頭ニ印シテ暗記セラレザルベカラザルモノトス。

但シ、コノ五ツノ場合ハ、「はたらき」の「かた」ノ最大數ヲ有スル作用言ニツキテノ「かた」ヲ示スモノニシテ、形狀言及ビ動辭ニツキテハ、必シモ、コノ五ツノ「かた」ニ當ル語形ヲ併有セズシテ、或ル場合ヲ欠クモノアリ、作用言中ニサヘ、コノ五ツノ場合ニ亘リテ使用セラルベキ必然性ヲ有シナガラニ、實際ノ使用上ニハ、其ノ幾分ヲ欠如スルガ如キモノ無キニシモアラズト知ルベシ。』
 コノ五ツノ「はたらき」の「かた」ヲ「はたらき」の「第一」の「かた」ナドノ如ク呼バムハ、ヤヽ長キニ失スル憂ヘアレド、如何ニ急遽ノ際ナリトモ、略稱ニ從ヒテ、「一」の「かた」「二」の「かた」「三」の「かた」「四」の「かた」「五」の「かた」トイハムニハ、毫モ稱呼ノ冗長ヲ感ズルコトナカルベキモノナルヲ、「一」「二」等ノ數ヲ以ツテ呼バムヨリハ、五ツノ「かた」ドモノ特性トシテ互ニ他ト相別ツベキ概念ヲツクリ得ベカラム名稱ヲ取ラムコト、甚實益アルコトニシテ、在來ノ學者モ、サル方ニ其ノ稱呼ヲ發展セシメ來レリシモノナレバコヽニモ、サル方ノ稱呼ヲ定メ置クベキ必要ヲ感ズ。カヽル方ノ名目ニツキテソノ始メヲ成シシ人ノ、(「はたらき」の「かた」ノ五ツナルヲ認定シタルハ、春庭ヲ推) コ

ノ五ツノ「かた」ヲ成セル語ニツキテ、將然言「連用言」截斷言「連體言」已然言ノ名ヲ以ツテシタリシハ、大體上甚賢明ナル命名法ニシテ、近來、上述「はたらき」の「かた」ノ性質ヲヨク了解セヌ人ノ無下ニ言ヒタタスガ如キ、無意義ナルモノニハアラズ。サレド、其ノ命名法ハ、一面ニハ、確ニ種々ノ謬想ヲ含蓄スルモノニシテ、爾來、種々ノ人ニヨリテ種々ノ改更ヲ試ミラレタルモ、イマダ、スベテニ亘リテ恰當ナル名稱ヲ定メ得ズシテ、誹毀ヲ試ムル人アルモ無理ナラザルベキ状態ニ止マレリ。(附錄)今、更正シテ、未定活「連用活」結終活「連體活」已定活「トイヒ」はたらき「トイフ」コトヲ、或ル語ト他ノ語トノ「活ラキブリ」ヲ區別スル方ヨリ見テハ、在來ノ習慣ニヨリテ「活用」スナハチ「はたらき」の「ふり」トイフコトトスルニ對シ、コノ五ツノ「かた」ヲ互ニ區別スル方ヨリ見テハ、「轉活」スナハチ「はたらき」の「かた」トイフコトト定ムベシ。(サレバ、在來ハ四上ニイヘル「かく」ノ如キ活用ノ名「ナド言ヒ來レルモノヲ略シテ四段活ナドイフニ對シ、此ノ五ツノ「かた」ノ名ナル未定活「連用活」等ハ、未定轉活「連用轉活」ナドイフベキナラシテ、イフモノナルトコトトナルベク、其ノ性質ヲ異ニスルモノヲ、同ジク何々活トイフコトトハナレド、既ニ何々活ト言ヒツヅク時ハ、其ノ性質ヲ異ニスルモノヲ、同ジク何々活トイフコトトハナレド、既ニ何々互ニ相紛ル、コトハ、決シテアルマシキモノナレバ、一々何々轉活トイハム必要ナク、必要ナキニ長キ名目ヲ使用スルハ、全ク無益ノラザナルベキノミナラズ、漢語ヲ主トスレバ、コト「活用」トモ

未定活 連用活 結終活 已定活 活用

轉活

イヒ「轉活」トモイフベケレ、純粹ノ國語ニテイヘバ、共ニ「はたらき」ニテ、言ヒ別チテハ「はたらき」の「ふり」ト「はたらき」の「かた」トニ別ル、コトトナルニ過ギザルモノナレバ、必シモ「活用」轉活「略」トセズシテ、其ノイフニモ通用スル「はたらき」ニ當ルモノト思考セムモ、マタ可ナルベキモノナルヲ以ツテ、一切未定活連用活ノ如ク唱フベク、未定轉活連用轉活ナドハ呼バヌコトトスベキナリ。(但シ、四段活用ノ類ハ、廣ク然呼バル、習慣ヲ成セルヲ以ツテ、必シモ、之ヲ省略シテ四段活トノミ呼バシムベキ必要ヲ感セズ。ナホ、四段ナドイフ名稱ノ事ハ、下節ニイフナ待ツベク、未定以下ノ名目ヲ撰定スル)

語ノ「はたらき」ニヨリテ用言ヲ分類スベキ前提ノ智識タル「はたらき」の「かた」スナハチ轉活ノ概念ト、其ノ各轉活ノ名目トヲ確定シタル以上、進ンデ、用言ノ分類法ニツキテ一々ニ其ノ學理ヲ示サムトスルニ方ツテ、マツ、學理ノ指示スル所ニヨリテ分類セラルベキ作用言形狀言ノ分類ノ、如何ナルモノナルベキカヲ示サムニ、作用言ハ、前ニ述べタル如キ形式ニ伴ナフ、爲相作用言「然相作用言」ノ下ニ左ノ如キ種々ノ類別ヲ有シ、形狀言ハ、上ニ例示シタル「よし」ノ如キ語ノ活ラキ様ト「あし」ノ如キ語ノ活ラキ様トニ依リテ、左ノ如キ二種ノ類別ヲ有ス。

爲相作用言
然相作用言

四段活用爲相作用言 (略稱、四段作用言)

附、ナ行變格爲相作用言 (略稱、ナ行變格作用言)

順二段活用爲相作用言 (略稱、順二段作用言)

附、カ行變格爲相作用言 (略稱、カ行變格作用言)

逆二段活用爲相作用言 (略稱、逆二段作用言)

混成二段活用爲相作用言 (略稱、混成二段作用言)

上一段活用爲相作用言 (略稱、上一段作用言)

下一段活用爲相作用言 (略稱、下一段作用言)

特殊四段活用然相作用言 (略稱、特殊四段作用言)

形狀複形特殊四段活用然相作用言

(略稱、形狀特殊四段作用言)

複形特殊四段活用然相作用言 (作用複形特殊四段活用然相作用言)

(略稱、複形特殊四段作用言)

準體複形特殊四段活用然相作用言
(略稱、準體特殊四段作用言)

直活形狀言

形狀言 一名、くしき活用形狀言(略稱、くしき形狀言)又ハ、く活形狀言

曲活形狀言

一名、しくしき活用形狀言(略稱、しくしき形狀言)又ハ、しく

活形狀言

コノ爲相作用言ニ屬スルモノノ活用ハ、在來「四段」上二段「又ハ、中二段」下二段「上一段」下一段ト稱セラレテ、正格ノ作用言ト認メラレ來リシモノト、之ニ對シテ變格ノ作用言ト認メラレ來リシ、所謂「カ行變格」「サ行變格」「ナ行變格」トヲ網羅シタルモノニテ、其ノ異ナル所ハ、「上二段」「順二段」「下二段」「逆二段」ト改稱シ、「カ行變格」「順二段」ニ附屬スル變格ト定メ、「ナ行變格」「バ」「四段」ニ附屬スル變格ト定メ、「サ行變格」ヲバ、混成二段トシテ正格ニ立テタルニアリ。然相作用言ニ屬スルモノノ活用ハ、在來一定ノ稱呼ヲ有セザリシナレド、最

普通ニハラ行變格ト稱ヘラレ居タルヲ、特殊四段ト命名シテ、之ニ屬スベキモノノ分類ヲ正シタルナリ。イツレモ、次ギノニ説ク所ニヨリテ分明ナルベキナリ。

一九。爲相作用言ノ別チ。

四段活用爲相作用言
四段作用言
四段活用

四段活用爲相作用言トハ、四段活用ト稱スベキハ、たらしキヲ有スル爲相作用言ナルヲ以ツテ、四段活用ノ爲相作用言トイフ義ニテイヘルナレド、略シテハ、四段作用言トイフベシ。(必シモ爲相トイフヲ要セザルハ、四段活用ト稱セラル、活テ知ルベシ。但シ、然相作用言ニモ、性質上四段活用ト稱スベキモノハアレド、特殊四段ト呼ビ單ニ四段トハ稱セザルヲ以ツテ、之トハ紛レズト知ルベシ。)

(未定) (運用) (結終) (連體) (已定)

かか かき かく かく かけ

トハタラク如ク、五十音ニツキテイヘバ、アイウエノ様式ヒ、テア列イ列ウ列エ列ノ四ツノ列スナハチ、四ツノ段ニハタラク活用ヲイフモノナリ。(コ他ニ、上註ニイヘル如ク、様式ヲ異ニシテ、同ジクアイウエノ四列スナハチ、四段ニ活ラク然相作用言ノ「はたらき」アレド、在來ノ慣用ノマ、コノ様式ノ活用ニ、條件ナキ四段活用ノ名義ヲ與ヘ

然相作用言ニ屬スル方ニ、條件ヲ具シタル「四段活用」(スナハチ、特殊四段活用)ノ名義ヲ與フルコトト定メタリ。オノツカカラ別ナリト知ルベシ。

「四段活用」ノ爲相作用言ニハ、カ行ノ四段ニ活ラクモノナルアリ、サ行ノ四段ニ活ラクモノナルアリ、タ行ノ四段ニ活ラクモノナルアリ、ハ行ノ四段ニ活ラクモノナルアリ、マ行ノ四段ニ活ラクモノナルアリ、ラ行ノ四段ニハタラクモノナルアリ。之ニヨリテ、四段活用ニハ、五轉活ニ合セテ、左ノ如キ六行六種ノ形式ヲ有ス。(活孤内ニ舉ゲタルハ、其タノ形式ヲ有スル語ノ例ナリ。)

カ	キ	ク	ク	ケ	(かく)「書」
サ	シ	ス	ス	セ	(おす)「推」
タ	チ	ツ	ツ	テ	(うつ)「打」
ハ	ヒ	フ	フ	ヘ	(あふ)「逢」
マ	ミ	ム	ム	メ	(うむ)「生」
ラ	リ	ル	ル	レ	(とる)「取」

サレド、スベテ、所謂濁音ヲ有スル行ハ、原形ノ尾音ニ濁音ヲ存スル語ヲ有スル以上、濁音ノ形式ヲツクルコトトナルガ故ニ、濁音ヲ有スル行ニ活ラク活

用ハ、所謂清音ノモノ以外ニ濁音トシテノ形式ヲ成スコトトナルベシ。(コ
 清音トイフモノヲ本位ニ置イテ濁音ヲ論ズルヲ好マザル人アレド、聲音學上、コノ概念ノ正當
 ナルヲ證明シ得ベキ十分ナル理由アルノミナラズ、五十音ニヨリテイフ以上、習慣ヨリモ、カク
 イフヲ便ト) 但シ、コノ四段活用ニ於イテハ、サ行タ行ノ濁音ニ活ラク語ナケ
 レバ、上ノ六種ノ形式ノ外ニ濁音ノ形式ヲ立ツレバ、左ノ二種ノミヲ存スベ
 キコトナル。

ガ ギ グ
 バ ビ ブ
 ギ (あぶぐ) 仰
 ズ (うかぶ) 浮

語尾

カクテ、之ヲ併スレバ、四段活用ノ形式ハ、八種ヲ有スルコトナルナリ。
 凡ソ、根辭ノソウテ成レル語ナルト否トヲ問ハズ、便宜上、末ノ方ノ音ヲ「語
 尾」トイフ。此ハ、最末ノ一音(コ、ニ一音トイフハ、一ツノ聲、スナハチ、西人ノ所謂「一
 音節」ヲ成スモノニテ、西人ノ所謂「音」ニハアラズト知ル
 シ)ヲ指スヲ常トスレドモ、便宜上二音乃至數音ニ亘ルコトアリ。スベテ
 便宜上ノ稱呼ナレバ、必シモ造語法上ノ本性ニ合フモノニハアラズ。四
 段ノ語ハ、其ノ語末ノ一音ヲ活ラクシメテ其ノ活用ヲ成スモノナルヲ以
 ツテ、通常其ノ語末ノ一音ヲ捉ツテ語尾トイフ。コノ故ニ、四段活用ノ作

用言ハ、語尾ノ一音ノ活用スルモノニシテ、其ノ活ラク形式ノ清濁ノ別ハ、
 スベテ、本形スナハチ結終活ノ語尾ノ清濁ニヨリテ定マルモノナリト知
 ルベシ。

四段活用爲相作用言ハ、元來、其ノ語ノ語幹トシテ立ツモノニ、其々ノ「はた
 さら」ノ形式ヲ成スベキ根辭ヲソヘテ成ルモノニシテ、語幹其ノモノノ活
 ラクコトナカルベキモノナレド、時ニハ、根辭ノソヘルモノノ類推法モテ、
 語幹ヲ成スベキモノノ尾音ヲ、直チニハタラカシムルコトトシタル變例
 モナキニアラザレバ、一概ニ語尾ヲ以ツテ根辭ナリト認ムベカラズ。サ
 レド、大方ハ、語尾ヲ以ツテ根辭ト認メ、其ノ上ナルヲ語幹ト認メ得ベキモ
 ノナルコト、造語法上ノ歸納的研究ニヨリテ明ナリ。(此等ノ事ニ關シテノ委
 原理ニ説クベシ。)但シ、語幹ニハ、語根ノマ、ナルモアルヘク、語根ノ集リナルモア
 ルベク、一語ヲ成セルモノヲ語根ニ準ジテ語幹トシタル類モ、マタ多シト
 知ルヘシ。

四段活用爲相作用言ニ附屬スルナ行變格爲相作用言ノ事ハ、活用ノ性質ニ

順二段活用
相作用言
逆二段活用
相作用言
順二段活用
逆二段活用

關スル説明上ノ便宜ニ依リテ後文ニ譲ルベシ。(本編)
順二段活用爲相作用言トハ順二段活用ト稱スベキハたらきヲ有スル爲相作用言ナルヲ以ツテ順二段活用ノ爲相作用言トイフ義ニテイヘルナレド略シテ順二段作用言トイフベシ。
逆二段活用爲相作用言トイフモ同ジ關係ニテ逆二段活用ト稱スベキハたらきヲ有スル故ニ然イヘルナレド略シテハマタ逆二段作用言トイフベシ。
コノ二種ノ作用言ノ名ヲ成セル其ノ順二段逆二段ノ活用ハ互ニ對照スル性質ヲ有スルモノニシテ一緒ニ説明スルヲ便トスルガ故ニコ、ニ一括シテ之ヲ説明セムニマツ順二段活用トハおく起トイフ語ノ轉活ノ五ツニ合セテ、

(未定) (連用) (結終) (連體) (已定)
ト活ラク如キ爲相作用言ノはたらき逆二段活用トハらく受トイフ語ノ同ジク、

二段活用

(未定) (連用) (結終) (連體) (已定)
ト活ラク如キ爲相作用言ノはたらきイフモノニテ一方ハイイウウルウレノ様式ニテイ列トウ列トウ列ニルソヘルト同ジクレソヘルトニテ其ノハタラキヲ成シ一方ハエウウルウレノ様式ニテエ列トウ列トウ列ニルソヘルト同ジクレソヘルトニテ其ノハタラキヲ成シ居ルモノナレバ、イヅレモ其ノ五轉活ニ共通ナル一行ノ音ヲ主トシ之ニルトレトソヘルモノトシテ認ムルヲ得ベキモノナルヲ以ツテ在來モカ、ル方ノ觀察ヨリ其ノ主トシテ認ムル一行ノ音ノ五十音ノ二ツノ列スナハチ二ツノ段ニハタラクヲ取リテ共ニ二段活用トイヒ其ノウチヲ互ニ相別チシガ如クニセムコト命名法上然ルベキコトナレバマツ之ニ據ルベキガナカニ一方ハ五

ア ↓
イ ○○
ウ ○○ル○レ
エ
オ

ノ中村氏ノ釋義ヲ檢スルニ、文法書トシテハ如何ハシキモノナレド、廣ク用例ヲ蒐集シテ一章ニ收メタル點ニ於テ、其ノ初學ヲ益スルコト大槻氏ノ廣日本文典ニ下ラズ。併セテ之ヲ表章ス。上一段ノ說ヲ執スル清水濱臣ガ「つきう」チマテ上一段ニ引キツケムトスル辭見臆案ヲ取レリシ類ハ、強ヒテ一端ニ定メムトシタル過チニシテ、マツ學者ノ戒ムベキ所ナリト知ルベシ。其ノ細密ナル論證、及ビ活用ノ形式ト實際ノ程度マテハ、續日本文典要義ニイフベキナリ。

キ	チ	ヒ	ミ	イ	リ	キ	ギ	ジ	ヂ	ビ
ク	ツ	フ	ム	ユ	ル	ウ	グ	ズ	ヅ	ブル
クル	ツル	フル	ムル	ユル	ル、	ウル	グル	ズル	ヅル	ブル
クレ	ツレ	フレ	ムレ	ユレ	ルレ	ウレ	グレ	ズレ	ヅレ	ブルレ
「あゝ」〔起〕	「あつ」〔落〕	「あふ」〔生〕	「あむ」〔浴〕	「あゆ」〔老〕	「ある」〔下〕	「もちう」〔用〕	「すぐ」〔過〕	「こず」〔堀〕	「とづ」〔閉〕	「ほろぶ」〔上〕

逆二段活用爲相作用言ニハ、アカサタナハマヤラワノ十行ニ亘リテ、皆、ハタラクモノアリ。之ニ依リテ、逆二段ニハ、十行十種ノ形式ヲ有スルコトナレドモ、清濁音ヲ別テバ、濁音ヲ有シ得ベキアカサタハノ四行ニ、皆、濁音ノハタラキアル語ヲ有スルヲ以ツテ、併セテ、左ノ如キ十四種ノ形式ヲ有スルコトナル。

エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ	エ	レ
ウ	ク	ス	ツ	ヌ	フ	ム	ユ	ル
ウル	クル	スル	ツル	ヌル	フル	ムル	ユル	ル、
ウレ	クレ	スレ	ツレ	ヌレ	フレ	ムレ	ユレ	ルレ
「う」〔得〕	「うく」〔受〕	「うす」〔失〕	「すつ」〔捨〕	「ぬ」〔寢〕。「かぬ」〔兼〕	「くは、ふ」〔加〕	「とどむ」〔止〕	「さかゆ」〔榮〕	「あくる」〔後〕

エ	エ	ウ	ウル	ウレ	(うゝ「植」)
デ	デ	グ	グル	グレ	(あぐ「擧」)
ゼ	ゼ	ズ	ズル	ズレ	(まづ「雜」)
ヂ	ヂ	ヅ	ヅル	ヅレ	(なづ「撫」)
ベ	ベ	ブ	ブル	ブレ	(くらぶ「較」)

コノ順二段活用逆二段活用ノ爲相作用言ハ、四段活用ノ爲相作用言トハ其ノ性質ヲ異ニシ、四段活用ノモノノ如ク、其ノ語ノ語幹トシテ立ツモノニ夫々ノハタラキヲ有スル根辭ヲソヘテ、其ノ語ノハタラキヲ成セルニアラズシテ、語幹トシテ立ツモノミヅカラハタラキテ、未定連用結終ノ轉活ヲ成シ、根辭ハ連體已定ヲ成ス場合ニノミソフナリ。(スベテ、作用言ノ活ラ理ニツキテハ、續日本文典原キ方ノ造語法上ノ原テ、俗習ニ任セテ語尾ト稱シ得ベケレド、語幹一音ノモノハ、語尾ト稱シ難シ。)「う」得「ぬ」寝等ノ例ニテ知ルベシ。

順二段活用ノ爲相作用言ニ附屬スルカ行變格爲相作用言ノ「ニ」ツキテハ、

混成二段活用
爲相作用言

混成二段作用
言
混成二段活用

説明ノ便宜上、上ニイヘルナ行變格爲相作用言ト共ニ、後文ニ説クベシ。
混成二段活用爲相作用言トハ、混成二段活用ト稱スベキは、た、ら、き、ヲ、有、ス、ル
爲、相、作、用、言、ナルヲ以ツテ、混成二段活用ノ爲相作用言トイフ義ニテ名ヅケ
タルナレド、略シテハ、混成二段作用言トイフベシ。

(未定) (連用) (結終) (連體) (已定)
せ し す する すれ

ト活ラクガ如ク、其ノ、エ、イ、ウ、ル、レ、ナ、ル、様、式、ハ、全、ク、順、二、段、ナ、ル、イ、イ、ウ、ウ
ル、ウ、レ、ノ、様、式、ト、逆、二、段、ナ、ル、エ、エ、ウ、ウ、ル、ウ、レ、ノ、様、式、ト、ハ、混、成、シ、タ、ル、モ、ノ、ナ
レ、バ、一、見、ス、レ、バ、エ、列、イ、列、ウ、列、ノ、三、列、ス、ナ、ハ、チ、三、段、ヲ、主、ト、シ、テ、ル、ト、レ、ト、ヲ
添ヘタルモノナルガ故ニ、三段活用トイフベキ觀ヲ呈スルニモカ、ハ、ラ、ズ、
對照セル二種ノ二段ノ混成シタル由ニテ、混成二段活用ト呼ブトシタル
ナリ。

コノ活用ハ、在來「サ」行變格ト稱セラレタルモノニシテ、ソハ、コノ活用ノ語ハ

極メテ多カレド、^すノ外ハ、皆^すノ複成語ヲ成セルモノノミナルヲ以ツテ、一ツニ括レバ、^すノ一語ノミトナルト、順二段モシクハ逆二段トシテハ、ヤ、異ナル所アルトニ依リ、オノヅカラサ行ニハタラク變格ノ活用ノ義ニテ言ヒ出シタルモノナレド、ヨク研究スル時ハ、決シテ變格トイフベキモノニアラズ。

ソノ故ハ、マヅ尋常ノ觀察ヨリシテイフモ、一ツニク、レバ、^すノ一語トモナルベケレド、ソガ添ウテ成セル語ノ極メテ多キノミナラズ、漢語其ノ他外國語ノ動的屬性ヲアラハス語スナハチ所謂動詞ノ類ヲ取ツテ、作用言トシテワガ國語ニ用キムトスル場合ノ如キハ、殆ンド全ク、コノ^すヲソヘテ複成語ノ新語ヲ建設スル方法ニ依ラザルナキコト、ワガ國語ノ古今ニ亘リテノ自然則ニシテ、今モ、語學ノ素養ノ有無ヲ問ハズシテ、コノ法則ニ支配セラレザル人ナク、口語ノ上ニサヘ及ボシテ、殆ンド無盡藏ナル語彙ヲ有スルモノナル、コノ活用ヲ變格ト認ムルコトノ不穩ニシテ、語學教育ノ上ニモ、修得者ノ頭腦ニ疑議ヲ惹起セシムル種子タルベキモノナルハ、何人モ承認セザルヲ

得ザルベキコトニシテ、更ニ一步ヲ進メテ觀察スレバ、世人多クハ之ニ擬セラレタル漢字ニ過タレ、タゞ漠然ト爲^レノ義トノミ思念シ、古來ノ用法ハ勿論、自己ノミヅカラ使用シ居ル口語ノ用法ヲダニ觀察スルコトヲ勉メザレドモ、一旦ヨク種々ノ用例ニツキテ歸納的ニ^すノ語義ヲ推究スル時ハ、古調ノ文中ニ使用セラル、^{ものす}（^{コノ語ハ、元來、或ル物事ノ義ナル「もの」ニ普通ノ「す」ヲ加ヘテ出テ來タル複成語ニシテ、あること、を、す、トイフ程ノ義ナレバ、コノ語ノ使用法ヨリ識得セラル、作用的意義ハ、アラユル爲相互作用言及ビ境遇的ニ爲相互作用言ト成レル然相互作用言ニ代用セラルベキコトナルナリ。「ふみ」を「ものす」トイハバ、「ふみ」に「つき」がして、あること、「||」かく、こと「ハ」おくる、こと「す」トイフ程ノコトアラハシ「ひがし」より、ものす「トイハバ」ひがし「より、あること」を「す」トイフノ義チアラハスガ如シ。）トイフ語ノ、アラユル爲相互作用言及ビ本來ハ然相互作用言ナガラ、其ノ態度ヲ取ル^{トイフ}義トナレルヨリ境遇的ニ爲相互作用言トナレルモノヲ代表シ得ラル、使用法ト、全ク同ジキ場合アルコト、古今ノ文献ト口語トニ亘リテ、或ハ獨立ノ語トシテ、（例ハバ、甲「は、ひがし、より、し、乙」或ハ複成語ヲ成ス一部分トシテ、（心ヲトバム^ノ如シ。「こゝろす^ノ」ノ如シ。「こゝろす^ノ」ノ如シ。「こゝろす^ノ」ノ如シ。）使用セラレタルモノニツキテ檢出シ得ラルベク、之ヲ知ラザレバ、^すノ意義上ノ趣味ハ全ク感知シ得ベカラザルノミナラズ、時ニハ、ヨク文義ヲ}

解スルコトダニナシ得ベカラザルモノアルコトヲ知ルニ至ルベキモノナルヲ以ツテ、カクノ如キ意義ヲ有シテアラユル爲相ノ作用ヲ包括スル「す」ノ活用ガ變格トシテ認メラルコトノ不穩ナル感格ハ、彌其ノ度ヲス、メ、上述ノ理由ト相需ツテ、オノヅカラ其ノ取捨ノ存ズベキ所ヲ明ニスレバナリ。「モシ、其ガ上ニ、更ニ歩ヲ進メテ、はたらき」ニツキテノ造語法上ノ研究ヲ施ス時ハ、更ニ、コノ種類ノ活用ヲ正格ニ立ツベキ他ノ理由アレド、ソハ續日本文典原理解其ノ他ニ讓ルベシ。

混成二段爲相作用言中ニハ、既ニイヘル所ニヨリテ明ナルガ如ク、其ノ「す」其ノモノノマ、ナルト、他ノ語ト複成語ヲ成シタモノトアリテ、複成語ヲ成セルモノノウチニ、純然タル一語的ノ概念ヲ起サシムルニ至レルモノ、スナハチ「ものす」「みぢす」「ほつす」「ほりす」「欲」「あまんず」「論ず」「辨ず」「死す」ノ如キモノト、他ノ語ト複成語ヲ成スモノホ明ニ本來ノ語義ヲ確執シテ之ヲ思念スルヨリ、幾分一語トシテノ熟成ヲ欠クガ如キ概念ヲ起サシムルモノ、スナハチ、「勉強す」「議論す」「ものまなびす」ことあげす」ノ如ク、其ノ複成語ヲ成ス語ト

上一段活用爲
相作用言用爲
下一段活用爲
相作用言用爲
上一段作用言
下一段作用言

モノ間ニ、辭「を」ヲソヘテ三語トシテ言ヒ更フルヲ常トスルモノトアリ。(コ後者ト同語形ニテ、時ニ、全ク別々ノ語ニシテ、辭「を」ヲソヘテイフベキモノナルナ、コノ後者ニ擬シタル一種ノ用法)スナハチ序編ノ六ニイヘル擬熟語法(參考)ヲ取リテ「を」ヲソヘザルモノアリテ、コノ後者ト混同シ易キ傾向アリ。「學、實、同形ニシテサレ用法ヲ成スモノアレバ」マタ、コノ後者ハ其ニ牽カレテ、一語トシテ熟成ヲ欠クガ如キ感ヲ起サシムルナリ。)

ノ活用ノ形式ハ、「す」ノハタラク其ノマ、ナレド、複成語ヲ成セルモノニ於イテ、濁音ニ活ラク語アルニ依リ、左ノ二種ノ形式ヲ有スルコトナルト知ルベシ。

セ シ スル (す「ものす」)
ゼ ジ ズ スレ (あまんず「論ず」)

上○一○段○活○用○爲○相○作○用○言○ト○イ○ヒ○下○一○段○活○用○爲○相○作○用○言○ト○イ○フ○二○種○ノ○作○用○言○モ、順二段逆二段ノ如ク、相對照シテ、一方ハ、上○一○段○活○用○ト○稱○ス○ベ○キ○は○た○ら○き○、一方ハ、下○一○段○活○用○ト○稱○ス○ベ○キ○は○た○ら○き○ヲ○有○ス○ル○形○式○上○相○對○ノ○爲○相○作○用○言○ナレバ、其々ノ「はたらき」ヲ有スル爲相作用言ノ義ニテ、其々ノ名稱ヲ用ウルモノナレド、略シテハ、其々ニ、上○一○段○作○用○言○下○一○段○作○用○言○ト○イ○フ○ベ○キ○コト、他ニ準ジテ知ルベシ。

ニ	ニ	ニル	ニル	ニレ	(にる〔似〕)
ヒ	ヒ	ヒル	ヒル	ヒレ	(ひる〔乾〕)
ミ	ミ	ミル	ミル	ミレ	(みる〔見〕)
イ	イ	イル	イル	イレ	(いる〔鑄〕)
キ	キ	キル	キル	キレ	(きる〔居〕)

下一段活用爲相作用言ニテハ、カ行ニノミハタラクモノアルニテ、上ニモ既ニ舉ゲタル左ノ形式ノミナリ。(其モ實ニ「ける」ノ一語ノ外、他ノ形式ヲ見ルコトナハルベシ。此ハ、文語ニナキ語ニ於テ自然ニ起ルベキコトニシテ、現ニカ、ル方ヨリ、下一段ノハタラクナリヤ否ヤノ疑問トナリ居ルモノモアルナリ。〔續日本文典要義ニイフベシ。〕今ノ所謂言文一致論者ガ、在來ノ文語ノ廢棄ヲ標識スルガ如キハ、言語ノ學理ニツキテノ根本ノ研究ヲ誤リ或ハ全ク之ヲ研究シタルコトナキヨリ來レル謬見ナレド、將來ニ於テ言文ナ相近ツクベキ必要アルハイフマテモナキコトナレバ、未來ハ、在來ノ文語ニ廢存スル語ニテモ、自然陶汰ノ結果トシテ、口語ノ語調ヲ移用スルコトモ多ク成リ行キテ、コノ下一段活用及ヒ上一段活用ニ於テ、在來ノ形式以外ニ他行ノ形式ヲ加フル趨向ヲ生ズベキナリ。)

コノ上一段下一段二種ノ活用ハ、語幹其ノマ、ナルト、之ニ根辭「ル」ノソヘルト同ジク「レ」ノソヘルトニテ成レルモノニシテ、其ノ語幹ハ皆一音ノモ

ナ行變格爲相作用言
ナ行變格作用

ノナレバ、其ノ活ラク部分ヲ語尾ト稱シ難キコト、ナホ、逆二段ノ「ラ」得「ぬ」(寢)ノ場合ノ如シ。

二〇。爲相作用言ノ別チ。(ツヅキ)

ナ行變格爲相作用言ハ、在來モナ行變格ト稱ヘ來レル活用ヲ有スルモノニシテ、略シテハ、ナ行變格作用言(然相作用言中ニ此ト紛ラハシキ活用ノモノナキガ故ニ必シモ常ニ爲相トイフヲ必要トセザルコト、四段活用爲相作用言ノ條ニイヘルニ準ジテ知ルベシ。下ニイフカ)ト呼ブベシ此ノ種類ニ屬スルモノハ、「しぬ」(死)、「いぬ」(去)ノ二語ニシテ、轉活ノ五ツニ合セテ、

(未定)	(連用)	(結終)	(連體)	(已定)
志な	志に	志ぬ	志ぬる	志ぬれ、志ぬ
いな	いに	いぬ	いぬる	いぬれ、いぬ

ト活ラクキ、共ニ、ナ行ニシテアイウウルウレ(エ)ノ様式ヲ成シ、四段活用上順二段活用上ニ近ケレド、イヅレトモ同ジカラズ。就中、已定活「ぬれ」ト「ぬ」トノ二形式ヲ有スルコト、特異ノ現象ナリ。コノ「ぬ」ノ形式ヲ成スモノノ、已定活ナルベキコトハ、コノ形式ヲ取レル「しぬ」「いぬ」ハ、所謂「希求」ノ意義ヲ含メテ使

用セラル、場合ニノミ限ラル、モノニシテ、スベテノ作用言ノ「希求」ヲアラハス場合ヲ檢スルニ、四段活用ノ爲相作用言及ビ下ニイフ特殊四段活用ナル然相作用言（其ノウチ、作用形特殊四段活用ノモノハ、意義ノ性質上、希求ナリ）ハ、皆、已定活ヲ應用シ、他ノ爲相作用言ハ、古クハ、皆未定活ヲ應用シタルガ、後ニハ、之ニ辭「よ」ヲソヘタルモノニテ、之ヲアラハスコトトシタルモノナレバ、コノ「しね」「いね」ノ語形ガ未定活ナラザルコト、別ニ嚴然タル未定形「しな」「いな」ノ古今ニ亘リテ動カザルモノアルニテ分明ナルニヨリテ明ナリトス。サレバ、一般ニ「ぬれ」ヲ以ツテ已定活ニ用キ居ルニカ、ハラズ、本來ハ、「ぬれ」ヲ以ツテ已定トシタリシテ、元來ハ四段ノ活用ナリシガ、半順二段ニ訛リ一種ノ混合體ヲ成シシモノナルベキヲ想像セムハ、容易カルベキワザニシテ、今ノ口語ニテ、全く四段活用ノ如ク使用セラル、習アルモ、古格ノ却ツテ口語ニ殘リシカ、或ハ復活シタリシカニテアルベキコト、疑ヒヲ容レザルハ、同時ニ感得シ得ラルベキナリ。何トナレバ、比較的ニ古キ時代ノ文献ホド、古代ノ言語ニ似、世ヲ降ルコト多キニ從ツテ古代ノ言語ニ遠ザカルベキハ、大體ニ於イテ動カ

スベカラザルコトナレド、平安朝ノ言語ハ必シモ藤原朝奈良朝ノ文献ニアラハレタル言語ノ訛リタルモノニアラズ、鎌倉時代以後現今ニ至ルマデノ言語ハマタ必シモ平安朝ノ文献ニアラハレタル言語ノ訛リタルモノニアラズシテ、常ニ言語ノ研究ニ從事スル時ハ、現今ノ言語中ニ、――藤原奈良朝ノ文献ヲ學ベルモノナラザルヲ明ニシ得ベキモノニシテ――平安朝ノ文學語ヨリモ却ツテ藤原朝奈良朝ノ文學語ニ近キモノアルヲ認め、――上代ノ文献ヲ學ベルモノナラザルヲ明ニシ得ベキモノニシテ――藤原朝奈良朝ノ文學語ヨリモ却ツテ上代ノ文學語ニ近キモノアルヲ認め、上代ノ文學語ヨリモ造語法上却ツテ古風ノ結體ヲ存スルモノアルヲ認め、事難キニアラズシテ、カクノ如キハ、一方ニハ、流行ヲ逐ウテ推移シ易キ都會ヨリモ、僻遠ノ境ニ、古語古格ヲ傳ヘタルモノノ、オノヅカラ世ニ行ハレ居ルモノトシテ解釋セラルベク、一方ニハ、必シモ、古格ノ殘遺ニアラズシテ、種々ノ理法ニ支配セラル、自然ノ復活ナリトシテ解釋セラルベキモノナレバナリ。サレバ、コハ、斷ジテ、四段活用ニ附攝セラルヘキ、變活ノ爲相作用言トシテ認め

カ行變格爲相
作用言
カ行變格作用
言

ラルベキナリ。サルニ、之ヲ四段活用變格爲相作用言トイハズシテ、ナ行變格爲相作用言トイフハ、在來ノ稱呼ヲ襲フヲ便トスベキニヨルナリ。在來之ヲナ行變格トイヘリシハ、變格トシテ認メラレタリシモノハ、偶然皆其ノ活ラキノ行ヲ異ニシタルニ依リ、其々ノ行ニヨリテ其々ノ名ヲ立テタリシニテ、コレハナ行ナルカ故ニ其ノ名ヲ得タリシナリ。サレド、今四段作用言ニ附攝セラルヘキモノト定メタル上ハ、ナ行ト呼ブハ全ク便宜上ノモノニシテ、變格トイフハ四段活用ニ對スル變格ノ義ナリトシテ思念セラルベキナリ。(在來ノ學者ニテ、コノナ行變格ヲ四段活用ノ變格トシタルハ、黒川春村ニシテ、改正詞格一覽ニ之ヲ表ハセリ。サレド、其ノ說ヲ具セズ、且ツ所謂ナ行變格ヲモ所謂下二段ノ變格ト認メタリ。)

- カ行變格爲相作用言ハ、在來モカ行變格ト稱ヘ來レル活用ヲ有スルモノニシテ、略シテハ、カ行變格作用言ト呼ブベシ。コノ種類ニ屬スルモノハ、(來)ノ一語ニシテ、轉活ノ五ツニ合セテ、
- (未定) (連用) (結終) (連體) (已定)
- こ き くる くれ

ト活ラキ、カ行ニシテ、オイウウルウレノ様式ヲ成シ、甚順二段ニ近クシテ、タゞ未定活ヲ異ニシ、コ、ニオ列ノ様式ヲ存スルコト、スベテノ活ラキアル語中ノ變例ニシテ、他ニ類語ナキト相需ツテ、變格ヲ以ツテ目セラレタルモノナリ。而シテ、ソガ順二段活用ノ變格ナリト認ムベキコトハ、形式上ノ類似ヨリシテ、マヅ思ヒ寄ラルベキコトナレド、元來、或ル作用言ノ未定活ト、其ノ作用言ガアラハス思念ヲ語幹トシテ他ノ語ヲ成スベキ場合トハ、性質上、甚密接シタル關係ヲ有スルモノニシテ、(コノ事ニツキテハ、續日本文典原理其ノ他ニ辭特ニ「す」「む」「る」等トノ關係ヲ既索セバ、オノツカラ、其ノ消息ヲ解シ得ベシ。)或ル語ガ語幹トシテ立ツ場合ニハ、屢オ列ノ音ヲ取ルモノニシテ、現ニ、コノ「く」テフ語ガ、語幹トシテ立ツニ方ツテ「こ」トナルコトハ、根辭「す」ト合シテ「こす」(越「こ」ハ「さ」ハ「く」)ノ如キ語ヲ成スニテモ明ナレバ、(ナホ、順二段活用爲相作用言ニテ、上ノ例ニモ舉ゲタルモノノツチ、お、く、ニ根辭「す」ヲソフレバ、お、お、す「起」トナリ、お、ふ、ニ根辭「す」ヲソフレバ、お、ほ、す「生」トナリ、お、る「二根辭」ヲソフレバ、お、る「下」トナリ、す、ぐ「三根辭」ヲソフレバ、す、ご、す「過」トナリ、ほ、る「ふ」ニ根辭「す」ヲソフレバ、ほ、る「ぼ」トナル類ヲ參照シテ思念スベキナリ。)コノカ行變格作用言ガ、本來的ニハ順二段ナルベキモノナリシガ、語幹トナル方ニ引カレテ其ノ未定活ニ「こ」ノ語形ヲ取ルニ至レリシモノナルコト、疑フベキ

言トありトノ結合シテ成レルモノト(二)形状言トありトノ結合シテ成レルモノト(三)爲相互作用言トてトありトノ結合シテ成レルモノトアリ。

準體語トありトノ結合シテ成レルモノトハ「しか然」ありト「しかり」トナリ、「ヤ」ハ「しか(然)」ありト「さり」トナリ、「かく(斯)」ありト「かゝり」トナレルヲイフニテ、結合スル上ノ語ノ尾音ト「あり」ノ「あ」トノ撮合上ノ關係ニテ、(上ノ語ノ尾音アル時ハ其ノ母韻ヲ略シ下ノ「あ」音ヲ以ツテ之ニ代ヘテ新音ヲ成立セシムルヲ「ニヨ」リテ新語形ス。ナ)

(未定) (連用) (結終) (連體) (已定)

しから しかり しかり しかる しかれ
さら さり さり さる され
かゝら かゝり かゝり かゝる かゝれ

ノ如ク活ラキ下ノ二種ト共ニ、歸着スル所ハ、特殊四段ノ様式ヲ成スモノナレド、其ノ複形ト名ヅクベキ特性ヨリ見レバ、普通ノ特殊四段ノアイイウエノ様式ナルニ對シテ、結合スル上ノ語ノ尾音ト共ニアアアアイアウアエ

形状複形 四段活用 然相 特殊
作用言 四段活用 然相 特殊
形状複形 四段活用 然相 特殊

ノ様式ヲ成スニ至レルモノナリ。コハ、複形ノ上ニ更ニ、ありト結合シテ其ノ複形特殊四段活用ヲ成スナル準體言ニ取リタル準體ノ一語ヲ加ヘ、準體複形特殊四段活用然相作用言ト呼ビテ、下ノ二種ト相別チ、略シテハ、準體複形特殊四段作用言トイフベキモノトス。(特ニ、コノ活用ヲ擧ゲテ呼バムトスル時ハ、準體複形特殊四段活用トイハスベシ。)形状言トありトノ結合シテ成レルモノトハ、形状言ニハ、下ニイフガ如ク、既ニイヘル例語ナル「よし」ノ「よく」トモ「よき」トモナリ、全ジク「あし」ノ「あしく」トモ「あしき」トモナル類ノ二種アルガナカニ、其ノ「よく」「あしく」ノ如キ語形ノ場合トありト結合シテ、よく ありハ「よかり」ト成リ、あしく ありハ「あしかり」ト成リ、

(未定) (連用) (結終) (連體) (已定)

よから よかり よかり よかる よかれ
あしから あしかり あしかり かしかる あしかれ

トナル類ヲイフ。此ハ、次ギニイフモノト共ニ、上ナル語ステニ用言ナレバ、準體複形特殊四段活用ナルトハ、オノヅカラ異ニシテ、其ノ一語ヲ合成セル

本來ノ語形ヲ連想スル方ヨリ、必然ニ、其ノ上ノ語ノ活ラク所ヨリシテ注目スルヲ要シ、其ノ上ノ語ノ「はたらき」ノ種類ニ依リテ、オノヅカラ形式上ノ相違アルコトヲ注目スルヲ、教練上ノ必要條件トスルガ故ニ、必ラズ、上ノ語ノ活ラクキヲ起ス所ヨリ下ヲ「はたらき」ノ形式トシテ、ヨク思念シ置クベキモノナリトス。之ニ依リテ、コノ種類ノ複形特殊四段ニハ、形状言ノ活用ガ、コノ「よし」あしノ如キ二種類ヲ成スニヨリテ、(ナホ、形状言ノ種類及ヒ其ノ活用)左ノ如キ二様ノ形式ヲ有スルコトシテ思念セラルベキモノトナル。

カラ カリ カル カレ (よかり)

シカラ シカリ シカル シカレ (あしかり)

カクテ、コノ種類ニ屬スル者ハ、上ノ例ニヨリ、複形ノ上ニ、更ニ「あり」ト結合シテ成ルモノナル、形状言ニ取リタル、形状ノ語ヲ加ヘ、形状複形特殊四段活用然相作用言ト呼ビ、略シテハ、形状複形特殊四段作用言トイフベキモノトス。

(特ニ、コノ活用ヲ擧ゲテ呼バムトスル時ハ、)
形状複形特殊四段活用トイヒツベシ。

原形ヲ連想スルヲ要スル方ヨリ、上ノ語ガ一旦或ル轉活ヲ取り、更ニ特殊

四段活用形特殊
四段活用形特殊
四段活用形特殊
四段活用形特殊

四段活用ノ轉活ヲ取ルト認メラルベキ點ヲ主持シ、之ニヨリテ、下ノ作用言ト「て」ありトノ結合シタルモノト共ニ、複形ニ代フルニ「再轉」テフ語ヲ以ツテシテ、特ニ準體複形特殊四段活用ノモノト別チ、再轉特殊四段活用然相作用言トイフコトトシ、此ヲバ、形状再轉特殊四段云々トイヒ次ギニイフ方ヲ作用再轉特殊四段云々トイフコトトセムモ、マタ一種ノ分類法タルベシ。(再轉トイフ漢語ヲ、文典上ノ術語トシテ採收シタリシハ、物集高見氏ノ初學形特殊四段ヲ第一再轉長行變格トイヒ、形状複形特殊四段ヲ第二再轉長行變格トイヘリキ。サレド、著者ガ襲用シタリシハ、再轉ノ二字ヲ術語トスルコトノミニシテ、氏ノ使用法ト著者ノ使用法トハ、其ノ指ス所ニ於テ、全ク同シカラズシテ、意義ノ内包外延ノ異ナル點ニ於テ、オノヅカラ別ノモノナリシナリ。ナホ、初等日本文典ニハ、カ、ル立脚地ヨリ見タル見解ニ重キナ置キ、準體複形特殊四段ヲ普通ノ特殊四段(舊名ヲ)行變格中ニ附屬セシメ、再轉ノモノト然ラザルモノトニテ大別セラレ、トトシタレドモ、應用的ニハ、寧ろ可ナルベキ點ニ從ハムトスル上ノ思念上ノ妨害ヲ起ス患ヘアルガ故ニ、今ハ之ヲ改メタルナリ。)

コノ形状複形ノ特殊四段ニ屬スルモノニツキテハ、重キヲ上ノ語ナル形状言ニ置キテ、形状言ト一種類タラシメムトスル人アレド、ソハ大ナル誤リニシテ、コノ種類ノモノノ作用言ニ屬スベキモノナルハ、其ノ原形ニ於イテモ、「あり」ハ文ノ從素タルベキモノニシテ、よく「あしく」ノ類ハ之ヲ限定スル制定

素タルニ過ギザルコトニヨリテ、マヅ其ノ結合上ノ主位ガイヅレニアルカ
 ヲ明示スルノミナラズ、一語トシテノ「はたらき」ガ明ニ作用言的ノ「はたらき」
 ヲ成シテ形状言的ノ「はたらき」ヲ成サザルコトニヨリテ見ルモ、コノ語ノ生
 産以來ノ大和民族ノ心的傾向ノ如何ヲ視ヒ得ベキモノナリトス。(世ニハ、然
 ナ擧ゲテ形状言ノ一團ニ置キ、以ツテ爲相作用言ト對立セシメムトスル人アレド、態度ガ、モ
 ノ作用ニ屬シ形状ニ屬セザルベキコトハ、屬性ニ關スル理論上疑フベカラザルコトニシテ、之
 ナ實際ノ作用言ニ微スルモ、其ノ形式上、態度ナアラハス用言ガ動作ナアラハス用言ノ類ナ成シ
 テ、明ニ作用言ノ一團ヲ成シ形状ナアラハス用言ガ動作ナアラハス用言ト明示スルノ
 ミナラズ、之ヲ諸外國語特ニ印度歐羅巴語系ニ屬スルモノニ微スルモ、態度ガ動作ト一團ノ種
 類ナ成シテ、所謂動詞ヲ成シ、形状ナアラハス用言ト同シウセザルガ如キ、以ツテ、人心ノ
 趨向ノ、スベテニ互リテ皆然ル用言ノ「はたらき」トナホ、形状言ノ「はたらき」ノ性質ニツキテハ、次
 節ニイフ所ヲ見テ、本来ノ作用言ノ「はたらき」ト大ナル相違ナ有スルヲ知ルベク、マヅ、コノ種
 類ノモ、ナ形状言ト同類視セムトスル人ノ方ニ取リテ、オ
 ノゾカラ誤解ヲ起シ易キモノアル根元ノ理ヲ知ルベシ。)

爲相作用言ト「て」「あり」「ト」ノ結合シテ成レルモノトハ、例ヘバ、かく(書)イフ語
 ニ「て」「あり」「ト」ソヒテ「かき」て「あり」ガ「かけり」「ト」成リ、「す」「ト」イフ語ニ「て」「あ
 り」「ト」ソヒテ「し」て「あり」ガ「せり」「ト」成レル類ノモノニテ、其ノ一語ト成ル様
 ハ、上ノ語ノ連用活ノ活ラク部分ト「て」「ト」ガ言ヒツバメラレテ、上ニハ母韻ヲ
 省キ下ニハ父音ヲ省キテ、其ノ殘レル父母音合成シテ、上ノ音ノ行ノ下ノ音

〔屬詞〕

ハ列ナル音ト化シ同時ニ「あり」「あ」音ヲ省キタルモノナリ。(コノ種類ノモノ
 ノ連用ニ「て」「あり」「ト」ソヒテ成レルモノナルコトナ明ニシタリシハ、富樫廣陰ニシテ、類義
 之ヲ奉シテ世ニ流布セシメタリ。コハ造語法上ヨリ見ルモ、實際ノ用例ニツキテ其ノ意義ナ
 歸納的ニ檢按スルモ、動カスベカラザル見解ナリ。但シ、廣陰秀成等ガ「かけり」「よかり」「あしかり」
 ノ類ト共ニ、イゾコトモ限界不明ニ「明白ニ其トハイハザレド、同一視セラル、モノノ命名
 ノ性質トヨリ推セバ、恐ラクハ「かけり」「よかり」等ノ類ニ於ケル「けり」「かり」等ヲ切り離シテ「いハム
 トスルナルベシ。又「せり」ヲ認ムルニ及バザリシモノノ如シ。」「動辭「す」「さす」「らる」等
 ト同一視シテ、屬詞ト稱シ、分類上甚曖昧ナル地位ニ置キタルハ、大ニ不可ナリ。此ハ、廣陰ガ「す」
 「さす」「らる」等ノ動辭ハ他ノ動辭トヤ、區別スベキ性質アルニヨリテ、マヅ、屬詞トイフ目ヲ
 立テタルニテ、其ノ際、誤ツテ「さす」「著」「似」ノ如キ一語ヲ成セルモノノ根辭「す」「ゆ」「煮」「みゆ」
 (見)ノ如キ一語ヲ成セルモノノ根辭「ゆ」「動辭「す」「らる」ノ「古クハ後世ノ「る」ニ當ル「ゆ」アリシモ
 ノ故)——等ト混同シタルヨリ、遂ニ取捨ノ法ヲ失ヒテ、カ、ル種類ノモノヲサヘ、其ノ屬詞トイ
 フモノニ取リ入レテ、分類上全ク不明ナル區別ヲ成ス「ト」ナリシニテ、秀成モ、マヅ、タ之ヲ悟ル「
 能ハザリ)カ、ル種類ノ語ヲ言ヒ出デタルハ極メテ古キコトニシテ、其ノ始
 メハ必シモ然限ラレタリシモノナラザリシガ如クナレド、上ナル語ハ、四段
 爲相作用言ト混成二段爲相作用言トニ限ルコトト定マリ了レルヲ以ツテ、
 其ノ形式ハ、上ノ語ノ四段活用ナルヨリ來レルモノ六行六種ニ濁音ノ場合
 ヲ加ヘテ八種(四段活用爲相作用言ニハ「サ」行ノ濁音ニ)、混成二段活用ナルヨリ
 來レルモノ一行一種ニ濁音ノ場合ヲ加ヘテ二種併セテ十種ノ形式ニ限ラ
 ル、トトナリ居リ。ソガナカニ、四段活用ノ「サ」行ヨリ來レルモノト混成二

段活用ノ清音ナルヨリ來レルモノトハ、全ク同形式ヲ成ス。トナルガ故ニ混ジテハ、九種ノ形式ヲ有スル。トナル。スナハチ、左ノ如シ。

上ノ語四段活用ナルヨリ來レルモノ

ケラ	ケリ	ケル	ケル	ケル	「かけり」書
セラ	セリ	セル	セル	セル	「おせり」推
テラ	テリ	テル	テル	テル	「うてり」打
ヘラ	ヘリ	ヘル	ヘル	ヘル	「あへり」逢
メラ	メリ	メル	メル	メル	「うめり」生
レラ	レリ	レル	レル	レル	「とれり」取
デラ	デリ	デル	デル	デル	「あふげり」仰
ベラ	ベリ	ベル	ベル	ベル	「うかべり」浮
上ノ語混成二段活用ナルヨリ來レルモノ					
セラ	セリ	セル	セル	セル	「ものせり」
ゼラ	ゼリ	ゼル	ゼル	ゼレ	「論ぜり」

作用四段活用然特殊相
作用四段活用然特殊相
作用四段活用然特殊相

コノ種類ニ屬スルモノモ、上ノ例ニ準ジテ、其ノ「複形」ノ概念ヲ成ス。上ノ語ナ
ル「作用言」ニ取リテ、複形ノ上ニ「作用」ノ語ヲ加ヘ、作用複形特殊四段活用然相
作用言ト呼ビ、略シテハ、作用複形特殊四段作用言トイフベキモノトス。(其
活用ヲ擧ゲテ呼バムトスル時ハ、作用
複形特殊四段活用トイヒツベシ。)

トス。

但シ、辭的作用言ハ、分類上、固ヨリコノ外ナルベキモノナレド、其ノ活用ハ、
皆、此等ノイヅレカニ屬スルモノナレバ、其ノ活用ニ依リテ之ヲ區別セム
ト欲セバ、容易ク、何々活用ノ辭的作用言トイヒテ相別ツヲ得ベク、且ツ、之
ニツキテハ、活用上ヨリ分類ヲ立テム。必シモ其ノ要アルニアラズシ
テ、打チ任セテ辭的作用言トイフヲ便トスルガ故ニ、其ノ活用ノ事ハ、其々
ノ語ニツキテノ説明ヲ施スベキ。續日本文典要義ニ譲リテ、コ、ニハイハ

元來、ワガ國語ノ「はたらき」ハ、動的思念(本編一六)ニ伴ナウテ自然ニ發展シタル一
種ノ符徴ニシテ、形狀ヲアラハスモノノ如キハ、之ニ合フベキモノニアラザ
ルガ故ニ、コノ形狀言トイフモノモ、本來ハ、一語ノ「はたらき」ニハアラズシテ、
語幹ヲ同ジウスル別々ノ語ナリシヲ言ヒツ、ツケ其ノ他ニ關スル用法等ノ
類似ニヨリテ、イツシカ之ニ對シテ用言的——(スナハチ、本來的ノ用言)ニ作
用言的——ニ類化セラレタル思念——言ヒ更フレバ、動的思念ヲアラハセ
ルモノニ擬シテ思念セラレタル語ノ思念——ヲ抱持スル自然ノ趨向ヲツ
クルニ至リ、く「し」きノ三ツノ根辭ヲ有スルモノノ如キハ、早ク既ニ、今ニ徴
シ得ラル、限リノ最古ノ文献時代ニ於イテ、一語ノ「はたらき」ノ如キ關係ヲ
以ツテ使用セラレタル形跡ヲ存シ、其ノ傾向ハ、漸ク進ミ漸ク固ク、ホゞ平安
朝ノ始メヨリシテハ、「けれ」ノ如キ語尾ヲ有スルモノモ、マタ、一語ノ活ラケル
モノナルガ如クニ使用セラル、ニ至レリシモノナリ。サレド、嚴格ニイヘ
バ、其ノ已定活ヲナスモノノ如キハ、性質上、全ク、形狀言ナルベキモノニハ、
ラデ、實ニ、一種ノ作用言ノ斷片ナルニ過ギザルモノナルナリ。蓋シ、「よけれ」

「あしけれ」ノ如キモノハ、元來、よくて あれ「あしくて あれ」ノ如キ三語
ノ合成シタルモノニシテ、(「よけれ」シク國語學上ノ素養アラム以上何人トイヘドモ、イト容易
カルベキコトニシテ、之ニ作用變形特殊四段然相作用言ノ造語法ヲ参照シテ、實際ノ意味上ノ
趣キヲ精察スレバ、形狀言ノ已定活ナルモノガ、カ、ル造語法ニヨリテ成レルモノナルコトノ
疑ヒナキヲ感得シ得ベク、ナホ、他ニモ、同一ノ造語法トシテ、意義用法ヲ檢案スル時ハ、又チ迎ヘ
テ解クルガ如キ語ヲ見出シテ、カ、ル造語法ノ廣ク行ハレタリシコトヲ認メツベク、彌々、其ノ
信念ヲ確メ得ベキナリ。ナホ、此等) 本來的ニハ、「よけれ」「よけり」「よけり」「よける」「よ
けれ」ノ如キ活用ヲ有シ、形狀複形特殊四段然相作用言ノ一種類トシテ、上述
ノモノト並ビ立ツベキモノナリシヲ、已定以外ノ形式ハ、皆、上述ノ形狀複形
特殊四段然相作用言ニ壓倒セラレ、已定活ノミ、よかれ以外ニ立ツテ特別ノ
趣味ヲ有スルガ故ニ世ニ行ハレ、已定活ヲ缺キタル形狀言ト聯結シテ、一語
ノ思念ヲ成スニ到レリシナリ。(但シ、「よけれ」ヨリ「よける」マデガ、悉ク、一旦世ニ行ハレ
ノ語ノ合成シタルモノノ類ニテハ、五轉活ノ一部分ノミニ用キラレ、他ニハ用キラレザリシコト
疑フベカラザルモアレバ、必シモ、結終活(スナハチ、活用ノ本形ト認ムルモノ)ヲ要スベキニハ、
ラズ。「よけれ」ノ痕跡ハ、明ニ古代ノ文献ニ存ス。萬葉集ナドニ、「おほほけむ」(多)「よけれむ」(戀)ノ
類多ク見エタルハ、「おほほけむ」「よけれむ」等ノ音ノ省カリシ訛成ノ叢語ニテ、此等ガ
「ら」音ノ省カリシモノナルハ、「よけれむ」「よけれむ」ガ如キ例多クアリテ、ソガ、「よけれむ」ニ依
カリシ訛成ノ叢語ナルヲ分明ナル上ニ、「よかれ」ガ如キ例多クアリテ、ソガ、「よけれむ」ニ依
タリテ、類推シテ、悟ルベシ。「カ、ル用例ノ事ハ、萬葉ヲ讀メル人ハ皆知ル所ニテ、古人ノ集メテ
タルモアレド、大槻氏ノ廣日本文典形容詞ノ條ノ註ニモ、集メテ皆知ル所ニテ、古人ノ集メテ

見ルベシ。但シ、氏ノ造語法上ノ説ナバ許容シ難シト知ルベシ。又、此等ノ説ニ關シテハ、先鞭ノ見ナ着ケタルモノトシテ、物集高見氏ノ初學日本文典參照ノ價值ヲ有ス。サレド、其ノ説ク所純駁互ニ交ハレリ。心シテ見ルベキナリ。連用結終連體ハ、始メヨリ言ヒ出テラレザリシニテモアルベシ。「よく」て「あり」あしく「て」あり等ハ、意義ノ性質上、「よし」「あし」「よかり」あしかり等盛ニ使用スル以上、一語トシテ新形ヲツクリ出サルベキマ）
 アニ使用セラルベキ必要ヲ感ズルヲ、ナカルベキモノナレバナリ。

カクテ、コノ元來作用言ニ屬スベキモノヲ、形狀言ノ已定活トシテ思念シ、一語ノ轉活トシテ之ヲ使用スルニ至レリシヨリ、コ、ニ讀者ニ注意スベキ一重要事件ハ、形狀言作用言ノ意義上ノ區別ニ於イテ起レリ。ソハ、形狀言ノ已定活ガ、既ニ、然相作用言トシテノ意義ヲ有スルコトハ、自然ノ勢トシテ、之ト一語トシテ思念セラル、結終活ノ、文ノ從素ヲ成ス場合——モシクハ、連體活ノ結終活ニ準ジテ使用セラル、モノ、スナハチ、所謂「ぞ」「なん」「か」「や」ノ結ビトシテノ連體活ノ類〔スベテ此等ノ事ニツキテハ、續〕——ニ於イテ、殆ンド「よかり」「あしかり」ノ如キ作用言ト差異ナキガ如キ思念ヲ以ツテ迎ヘラル、コアルニ至リ、動モスレバ、作用言ト形狀言トノ意義上ノ限界ヲ見失ハシメムトスルヲ、ナキニシモアラザルベキ傾向ヲ成スニ至レルコトナリ。サレド、形狀言ガ、大體上ニ於イテ其ノ本性ヲ失ハザルコトハ、明確ナル事實ニシテ、形狀

ノ作用ニ對スル區別ガ、之ニヨリテ全ク破壊セラレタルニアラザルコト、論ナケレバ、其ノ本性上ノ意味ト其ノ「はたらき」ノ形式トニヨリテ、兩者ノ區劃ヲ肯定スルハ、極メテ容易カルベキナリ。

ナホ、「しく」「しき」活用ノ起源ノコトニツキテ、コ、ニ注意シ置ク所アラムニ、元來「く」「しき」活用ノ尾音「く」「しき」ハ、其ノ形狀言ヲ成ス爲ニソヘラレタル根辭ニシテ、其ノ尾音ノ上ノ部分ハ、皆其ノ形狀言ノ語幹タルモノナレド、「しく」「しき」活用ノ方ニテハ、其ノ「し」ノ音ハ、本來的ニ其ノ形狀言ヲ成ス爲ニソヘラレタル根辭ニハアラズシテ、元來、形狀言ノ語幹タリ得ベキ準體言ヲツクル爲ニ或ル語根——モシクハ語根ニ準セラレタル或ル語——ニソヘルモノニテ、實ニ「しく」「しき」形中ノ「く」「き」ノ上ナル「し」ト同ジモノナルニテ、語根論上ヨリ見タル「しく」「しき」活用ハ、正ニ「しく」「しき」ノ如クナル尾音ヲ有シ、あし「テ」フ語ナラムニハ、あし「テ」フ一種ノ準體言ヲ語幹トシテ、之ニ「く」「しき」ヲソヘテ「あしく」「あしき」「あしき」トヤウニ活ラクベク、其ノ活用ノ本形ト信ゼラル、モノモ「あしき」ナリシナルベキニテ、二種ノ

形状言ノ活用ハ、合シテくしき活用ノ一ツヲ成スベカリシナリ。然レドモ、言語ハ、常ニ語源ノマ、ニ傳ヘラルベキモノニアラズシテ、コノ活用ヲ成ス形状言ノ如キモ、其ノ語幹ノ尾音タルしハ、形状言ノ結終活——(スナハチ活用ノ本形ト信ゼラル、モノ)——ヲツクルしト意義上ノ性質甚相近キト、(根辭ノし三、形状名ノ一種ナル準體言(スナハチ、カ、ル語ノ語幹トシテ立ツベキモノニツフし、スナハチ、よしノし、スナハチ、語根論上、あしトイフベキ其ノ原形ノ、下ノし)トノニツアリテ、本源ニ於イテハ、一ツモノニテ、意義ノ性質甚相近キ點ヲ有シ、ホ他ニ辭トシテ、^シフ、^ウみと^シ、^ウむ^コハ^ミナ^ナリ^ノシ^ノ如キモノアリテ、此モマタ、或ル關係ニ於イテ、縁由ヲ有スル語ナルナリ。此等ノ事ハ、續日本文典原理其ノ他ニイフベ) 音調上ヨリし音ヲ重ヌルコトノ忌避セラル、傾向アリシトニテ

現存最古ノ文献時代以前——(或ハ國語成立ノ始メヨリ)——既ニ二ツノしヲ縮約シテ、一ツノしトシテイフコトトナレリシモノナレバ、(あさましん^ルふるまひ^ウらめし^ノみ^ミ、^ハろ^おなじ^ビ、^{同日}むなし^けぶり^あし^さま^うれ^しなみだ^等ノあさまし^ウらめし^おなじ^あし^うれ^しノ^ハ、形状名ノ一種ナル準體言ヲツクル根辭ノしニテ、スナハチ、語幹トシテ立ツモノヲツクル根辭ノし^テリ。いと^あさまし^{いと}うらめし^{それ}と^おなじ^みな^むなし^や、^あし^はな^はだ^うれ^し等ノあさまし^{以下各語ノしハ、語幹トシテ立ツモノヲツクル根辭ノしトシテハ、}ト形状言ヲツクル根辭ノし^トノ縮約セラレタルしナリ。)

轉活ノかた^トシテハ、其ノ縮約セラレタルしヲ準トシテ其以下ノ尾音ヲ擧ゲザルベカラザル

コトトナルヨリ、形體上、オノツカラ特殊ノ様式ヲ成スコトトハナレリシナリ。コノ故ニ、其ノ語源上ノ成分ヨリイヘバ、くしき活用トしくしき活用トハ、活用上本來的ニ同一部類ヲ成スベキモノナルニカ、ハラズ、語源ノ研究ニハアラデ實際的活用ヲ論ゼムトスル場合ニ於イテ、コノ二種ノ形式上ノ區別ノ、固ク保持セラレザルベカラザルハ、明白ナル事理ナリトス。世ニ、武家興起時代頃ヨリノモノニ、口語調ヨリ入りテ、曲活形状言ニ屬スベキモノノ結終活ヲし、ト活ラカシメテ使用シタル少數ノ例アルヲ推シ、之ヲ標準トシテ、形状言ノ種類ヲくしき活用ノ一ツニ收メムトスル説ヲ唱フルモノアルハ、誤レリ。(言文ヲ接近セシム爲ニ、しくしき^ノ尾音ムコトノ可^否如何ハ、オノヅカラ別論ナリ。其ノ得失ノ學理ニツキテハ、別ニ説クコトア)ルベク、レド、ソハ、今ノ所謂文章語ノ語性論上ノ分類ニ關係スルコトナラズト知ルベシ。)

○上節ニイヘル辭的、形状言ノ活用ハ、大體上直活形状言ノ活用ナレド、本文ニイヘルガ如キ特殊ナル歴史ヲ有スル已定活ヲ取ルコトナキヲ異ナリトス。(か^ハり^リむ^すび^フ規則ニテ、^コソ^フ結^ビトナル場合ニハ、次節ニイフ假體法ニ準ク。委シキコトハ、續日本) 文典要義ニイフベシ。)

二三。用言ノ轉活ト用法トノ關係。

今、用言ノ性質ヲ會得スル必要上、其ノ轉活ト用法トノ關係ニツキテ、其ノ大略ヲ擧ゲムニ、作用言ト形狀言トハ、其ノ本來的性質ニ於イテ既ニ相等シカラザルモノナルガ如ク、其ノ轉活ト用法トノ關係モ、マタ、頗ブル異同アリ。作用言ハ、モト述定ヲ主トスルモノナルガ故ニ、其ノ活用モ、述定ノ種々ノ場合ヲ圓滑ニ言ヒアラハスヲ主トスルモノニシテ、其ノ述定ニハ、其ノ作用言ノマ、ニテ述定ノ用ヲ完ウスルモノモアリ、或ル關係的意義ヲアラハス靜辭動辭ノ補助ヲ需ツテ述定ノ用ヲ完ウスルモノモアリ。之ヲ以ツテ、作用言ハ、イ、或ル轉活ニテ文ヲ結び終フルコトモアリ、(ロ)或ル轉活ニテ、其ノ述定ヲ補助スベキ靜辭動辭ニ言ヒツケラル、コトモアリ。コノイノ場合ハ、其ノ述定ノ用ヲ成スベキ本形ナル結終活ヲ以ツテスルヲ常トシ所謂「かゝりむすび」ノ規則ニヨリテ、(「かゝりむすび」ノ規則トハ、下ノ例ノ如キ「ぞ」「なん」「か」「や」等ノアル時ハ、已定活ニテ文ヲ結ブナイフ。委)連體活モシクハ、已定活ヲ以ツテスルコトアリ。例ヲ擧グレバ、

あめ みる。 かせ あり。 みち を かわかせり。

なに を か みる。 あさひ ぞ いづる。

は、 を や おもふ。 ち、 なん やめる。

あに こそ およげ。

ノ如シ。「ナホ、作用言ガ希求ニ使用セラル、場合ニ於イテ、四段活用及ビナ行變格活用」ノ爲相互作用言及ビ特殊四段及ビ形狀複形特殊四段ノ然相互作用言ハ、已定活ヲ以ツテ之ニ當リ、別ニ辭ヲソフルコトナキヲ常トスルガ故ニ、「かゝりむすび」ノ規則以外、マタ之ヲ數フベシ。」(ロ)ノ場合ハ、主トシテ未定活已定活ニ於イテセラル、モノナレド、マタ、結終活連體活已定活ニ於イテセラル、コトアリ。

あめ くら む。 かせ ふか ず。

えと なり たり。 つき いら ぬ。

しぬ べし。 くるしみ あり や。

なに を かける か。 はやく ゆけ かし。

ノ如シ。(其々ノ轉活ヨリ言ヒツバケケラル、辭ニツ) 複文ノ場合ニ於イテハ(參照三)上ノ方ニ置カル、句ハ文ヲ結バズシテ下ノ句ニ言ヒツバケケラル、コトトナルガ故ニ上ノ句ノ述定ヲ成スベキ作用言ハ勢文ヲ結ブコトナク、スベテ他ニ言ヒツバケケラル、コトトナル。コノ場合ニモ其ノ作用言ニテ上ノ句ヲ終レルマ、ニテ下ノ句ヘツバケケラル、コトモアリ上ノ句ノ下ノ句ニツバクベキツバキ合ヒノ關係ヲアラハス或ル辭ヲツヘテ下ノ句ニ言ヒツバケケラル、コトモアルガ故ニ作用言ノ言ヒツバケトイフヨリ見レバ上ノ句ヲ終レルマ、ニテ下ノ句ヘツバクコトモアリ複文ヲ成スベキツバキ合ヒノ關係ヲアラハス或ル辭ニ言ヒツバケケラル、コトモアリ。コノ前者ノ場合ハ連用活ヲ以ツテスルヲ常トシ、後者ノ場合ハ或ハ未定活ヲ以ツテシ、或ハ已定活ヲ以ツテシ、或ハ連用活ヲ以ツテシ、或ハ連體活ヲ以ツテシ、或ハ結終活ヲ以ツテス。例ヲ舉グレバ、

あめ ふり、 かせ やむ。
あめ ふら ば、 かせ やまむ。

作用言ノ轉性

ノ如シ。「擬單文ヲ成ス擬語法ノ場合モ(序編三及ヒ、序編六ナ)之ニ準ジテ了知スベシ。」

「ナホ作用言ガ擬語法ニテ裝定素ヲ成ス場合ニ(序編六擬連語)「みる」ひと「か」ける ひと「そ」を さく ひと「汽車」に のる ひと「ノ如ク常ニ、連體活ヲ以ツテ體言ニツバクコトトナルハ、轉活ト用法トノ關係上、特ニ注目スベキ點ナリトス。」(擬體法ノ場合ニハ(六)「序編」連體活結終活ニテ、正體言ニ準ジタル用法ヲ取レド、ソハ、作用言ノ性質上、轉性ニ擬準シタル特殊ノ用法トシテ、全く他ノ一般ノ用法ヨリ區別セラルベキナリ。」

コ、ニ、語性論上ノ用法トハ別ニ、元來造語法上ノ範圍ニ屬スベキ作用言

假體言(舊)

ハ轉性トイフコトヲ注意スベキ必要アリ。作用言ノ轉性トハ作用言ガ「ふりつよしすしみはやしかなしみをくはふこのみ」をきく「たのみ」に「おもふ」ふりすしみ「かなしみ」このみ「たのみ」等ノ如ク、連用活ヲ以ツテ體言トナルヲイフニテ、(此等ノ例ナルハ皆正體言ヲ成スモノナレド、準體言トナルモアルナリ。)「うみ」と「うむ」は「みな」なり「うちつゞけ」に「うつたゞゆき」に「ゆき」ト「うみ」は「ゆき」ハ「ゆき」ノ如シ。但シ、コノ「うちつゞけ」ハ作用言ト作用言トノ叢語ニテ轉性シ、(「たゞゆき」ハ「ゆき」テ作用言ガ轉性スルト同時ニ「たゞ」準體言ト熱成語ヲ成シシモノニテ、スベテ事物ノ思念ヲ成サズシテ或ル動作ノ有様ヲ意味スル思念トナリト)「等」ノ辭ト相需ツテ制定素ヲ成スモノハ、皆準體言ト稱ヘ來リタレド、(コノ名集高世ノ辭格考抄本ニ始マリ、之ヲ承ケタル物集高見氏ノ初學日本文典ニヨリテ世ニ廣マレリ。余モ曾テハ舊稿初等日本文典ニ於テコノ稱呼ヲ襲ヒタリシナリ。但シ、余ガ指ス所ハ、大槻氏ノ所謂名詞法トシテ指スモノト共ニ連用形ノモノノミニテ、物集氏父子ノ如ク種々ノ別物ヲ包含セシメタルトハ同シカラザリシナリ。)全ク體言ニ轉性シタルモノナルヲ假體ト呼バムコト、甚不穩ニシテ從フベキニアラズ。全クノ體言ナリト知ルベシ。但シ、辭に「へつゞく」モノニテ動作ノ目的ヲアラハスモノ、例ヘバ「しに」に「ゆく」み「を」た「ふれ」ば「と」ふ「らひ」に「ゆく」な「き」に「ゆく」み「に」ゆく「み」を「た」ふ「れ」ば「と」ふ「ひと」し「に」と「ぶら」ひ「な」き「み」さ「し」ノ如キハ、(「はな」み「に」ゆく「た」ち「ぎ」に「ゆく」ノ如ク、他ノ語ト複成語ヲ成

假體法

セルモノモ) 全ク體言化シタルモノニアラズシテ屢「はな」を「み」に「ゆく」講演「を」き「し」に「ゆく」ノ如ク之ニ對スル主素ヲ取ルコトアリテ性質上頗ブル擬體法ニ近キ用法ヲ成スモノナルヲ以ツテ特ニ作用言ノ假體法ト呼ビテ擬體法ト並稱スベシ。(西洋文典ナル所謂不定詞ト、在來假體言ト大槻氏ノ名詞法ヲ成スモノニ當ル言ト匹敵スル性質ヲ有ス)「結終活ヲ以ツテ事物ノ名トスル類ハ、或ハ造語法上直接ニ結終形ヲ採リ、或ハ擬體法ヨリ入りテ轉性シ、以ツテ純然タル正體言ヲ成セルモノナリ。」
之トハ別ニ造語法上ノ關係ヨリ、一種準體言的ノ性質ヲ帶ビテ限定素トシテ用キラルベキ様ニ轉性シナガラ、ナホ半面ニ於テ述定的ノ性質ヲ帶ビテ全ク作用言的ノ性質ヲ脱却スルニ至ラザルモノアリ。
孔子「いはく、伯夷、叔齊、は、舊惡、を、おもはず」と「いふ」。
子「のたまはく、君子、は、義、に、さと、り、小人、は、利、に、さと、る」と「のたまふ」。

孟子 いへらく、ひとの性は善なりと いへり。
われ おもへらく、性善の説まづ、孟子の賢にして
て聖ならざるをみるにたる とおもへり。

われ ねがはく は、わが國語をもつて、世界第一の
國語 たら しめ む と ねがふ。

われ おそらく は、いま、正理のひかりよに しらる
べき とき なら じ と おそる。

「いへらく」「いへらく」「おもへらく」「ねがはく」「おそらく」ナドノ如キ、スナハチ
イフニ、いへらく、おもへらく、ねがはく、おそらく、いへり、おもへり、ねがふ、おそる等ノ作用言
ヲ、語根ニ準擬シテ一ツノ語幹トシ、之ニ根辭「ラ」ソヘタルモノニテ、一種
「狀況名ノ準體言」的ノモノトナリテ、限定素ノ用ヲ成シナガラ、(此等ハ、其ノ
イヘバ、其ノ始メニ立テル、文主ノ言ヒ思ヒナドスルモノナアラハス、詞句ヲ締メク、ル爲ニ、
限定素的ニ豫メ前ニ置カル、モノニテ、其ノ文主ノ從素ハ必ラズ、トノ下ニアルベキモノナ
レド、(コハ、古代ニ溯ツテノ歴史的研究ト今ノ口語ノ上ニ行ハル、構想的法規ノ研究
ニヨリテ、確實ニ證明シ得ラル、ナリ)此等限定素的ニ使用セララル、モノハ其ノ從素タル
モノ、モシクハ、之ト殆ンド同一義ナルモノヲ語幹トシテ成ルモノナルガ故ニ、文主ヨリコソ
ヒツバケ上、半面ニ於イテ、其ノ文主ノ從素タルガ如キ感得ヲ與フベキモノニテ、古代ニコソ

假體言(新)

由緒ノマ、ニ必ラズ、其ノ真正ノ從素ナドニ言ヒアラハシタルモノナレド、漸々「ト」ノミナリ
ツテ、文ヲ終フルコト多キ習ヒテ成シ、文主ノ省カリタル場合ニハ、(必シモ、文主ノ省カラザル
場合ニモ、其ノ「ト」ヲマテモ省ク習ヒテサヘニ起シ、來レル今日ニ於イテ、特ニ其ノ「ト」
感得ヲ深カラシメ、殆ンド動カスベカラザル性質ヲ成スコトト成リ居ルナリ。) 文主ニ
對シテ從素的ノ性質ヲ有スルヲ以ツテ、其ノ轉性ハ、殆ンド過渡ノ中程ニ
アリテ、イマダ彼岸ニ達了セザルモノトイフベク、イマダ、全ク體言ヲ以ツ
テ推スベカラザルナリ。(種々の「いへく」ある「ひと」なり「ひと」の「おもへく」
を「はく」か「おもへく」ナド「いへく」「おもへく」「はく」ノ如キハ、同一ノ
語體ヲ有スルモノナレド、意義用法ノ上ニ於イテ、全ク體言(正體言)サレド、此等ノ類ハ、
ノ性質ヲ享有スルモノナレバ、オノヅカラ別ナリト知ルベシ。)サレド、此等ノ類ハ、
造語法上ヨリ來レル語體ノ變化ナレバ、上ニ説キタル作用言ノ假體法ナ
ルモノトハ、固ヨリ等シカラズシテ、一例ニ呼ブベキモノニアラズ。サレ
バ、此コソハ、新ニ假體言ノ名ヲ以ツテ稱ヘ呼ブコトトシテ、「いへく」「おもへく」ヨリ成レ
ル假體言「いへり」「おもへり」成レル假體言ナドノ如ク言フベキナレ。(ナホ、カ、
ル造語法ヲ以ツテ成ルモノノ事ニ關シテハ、續日本文典要義其ノ他ニイ
フヲ見ルベシ。)

形狀言ノ轉活ト用法トノ關係ニツキテ、作用言ノ場合ト大ニ異ナル點ハ、其
ノ本來的ノ性質上、作用言ガ述定ヲ主トスルニ對シテ、述定、裝定、限定、ノ用ヲ

成シテ其ノ輕重ニ撰ブ所ナク、寧ロ裝限定ヲ主トスルニアリテ、連用活ヲ以ツテ限定ノ用ヲ成シ、連體活ヲ以ツテ裝定ノ用ヲ成シ、結終活ヲ以ツテ述定ノ用ヲ成スヲ常トス。例ヘバ、

よく あり。 あしく ひよく。

よき ひ なり。 あしき かぜ なり。

あし はやし。 おもひ なし。

ノ如シ。但シ、述定ノ場合ニ於イテ、結終活以外、かゝりむすびノ規則ニヨリテ、連體活或ハ已定活ヲ以ツテ述定ノ用ヲ成スコトアルハ、作用言ノ場合ニ如ク、例ヘバ、こゝろぞいたきそ。又、辭ノ補助ヲ需ツテ述定ノ功ヲ完ウスルコトモアルハ、作用言ノ如クナレド、コノ場合ニハ、結終活連體活ヨリツヅクノミニテ、其モ作用言ニ比シテ、ツヅク辭甚少シト知ルベシ。(例ヘバ、よしやあしきかぐるしきかな) しきかぐるしきかな) うれしきなり等ノ如シ。又、連用活ニテ、モ其ノマニ、未定活ヨリ辭ニツヅクコトハナク、(よくあしきかをりあしくあはるばをりあしくあはる) ばをりあしくあはる) 復文ノ場合ニツキテハ、ホマ作用言ノ用法ト等シケレド、未定活ヲ欠クガ故

省カル、習例ヲ成セルモノニ過ギズシテ、ソノ全クノ連用活ニシテ、省カレタルアリテ、限定スル用ヲ成スモノナリ。又、連用活ニテ、モ其ノマ、ニ下ノ句ヘツヅクモノノミニテ、辭ニツヅクモノナケレバ、(よくてをりあしくて) 如ク形式上ニツヅク場合ハアレド、ソノ其ノ連用活ノ下ニあり、省カレ居ルモノナリ。ルコトよく、ばナドノ例ト同シ、關係ニテ、正シク連用活ヨリツヅクモノニアラザルナリ。辭ニツヅクハ、結終活連體活已定活ノミナリト知ルベシ。例ヲ擧グレバ、

あめ つよく、 かぜ さむし。

あめ つよけれ ば、ひと きたら ず。

あめ つよけれ ば、ひと みな きたれり。

かぜ つよし とも、かれら は、もの とも おもふ まじ。

かぜ いと つよき に、いづれ も ふね を いたし たり。

ノ如シ。(かぜつよくともノ如ク、モイフハ、つよくありともノ如ク) 擬單文ヲ成ス擬語法ノ場合モ、之ニ準ジテ了知スベキコト、作用言ノ場合ノ如シ。(擬語法ニテ裝ナホ、擬體法ニツキテノ注意モ、作用言ノ條ニイヘルガ如シ。)

合ニツキテハ、序編六ヲ參考スベシ。

形狀言ノ連用活ヨリ轉性シテ體言的ノ用法ヲ成スベキ意義ノモノニテ

形状言ノ假體法

ハ、その おほく は あしき ひと なり、その おほく を し、
 りぞけ たり「報告」の おほく に よれ ば「おほく」の ひとノ如
 キモノアレド、作用言ノ如ク、多クノ語ニ起ラズシテ、語數甚少キノミナラ
 ズ、全ク轉性シ了レルモノト見ルベカラザル點モアリテ、其ノ性質、上文作
 用言用法ノ條ニイヘル假體言ニ似タル所アレド、寧ロ假體法ニ似テ、擬體
 法類似ノ用法ナリ。サレバ、形状言ノ假體法ト稱スベシ。

以上、作用言形状言ノ轉活ト用言トニ關スルコトニツキテハ、ナホ、例外ノ觀ヲ
 呈スルモノナドモアレド、スベテ、委細ノ事ハ、コ、ニイフベキモノナラネバ、
 今ハ欠略ニ附シテ、續日本文典要義其ノ他ニ讓ルベシ。

第四編 靜辭動辭ノ分類及ビ性質

二四。靜辭動辭ノ分類法ト、合法ナル其ノ分類表。

靜辭動辭ノ分類ニツキテハ、世上、イマダ、準據スルニ足ルベキ研究ヲ認メズ。
 サレド、委細ニ之ヲ檢スレバ、其ノウチニ、オノヅカラ、三種ノヤ、條理アル方
 法ヲ取ル傾向ノ存スルヲ認メ得ベシ。一、他ノ語ヲウクル關係ヨリ、スルト
 (例ヘバ、體言ヲウクルモノト、用言ヲウクルモノト、體言并ビニ用言ヲウクルモノトニ
 別チ、用言ヲウクルモノトシテハ、五轉活ノ某活ヲウクルモノトシテ相別ツガ如シ。)(二)造
 語法上、モシクハ、語形上ノ關係ヨリ、スルト、(三)語義上ヨリ、スルトノ系線ヲ見
 出シ得ベキガ如キ、コレナリ。此等ハ、(一)ノ場合ニ於イテノミ、比較的ニ見ルベ
 キ研究ヲ傳ヘタレド、他ノ二ツノ場合ニ於イテハ、取り立テテ見ルベキフシ
 モナク、マタ、此等ノ方法ガ、必シモ個々別々ナルニアラズシテ、互ニ相雜糅シ
 タルモアレド、概シテイフニ、分類上ノ方法トシテ、ヨク體裁ヲ備ヘタルモノ
 アラザルナリ。

其ノ(一)ノ場合ノ、マツ、比較的ニ見ルベキモノヲ傳ヘタルハ、辭ノ使用法上、之

度ハ一方ニハ異同甚繁キ語義ノ紛雜ヲ持テアグミ却ツテ之ニ束縛セラレ
 コトトナリ安ニ冗慢ニシテ檢束ナキ分類ヲ設クルニ至ルノミナラズ遂
 ニ全ク(一)ノ場合ノ用法形式ト乖離シテ靜辭動辭ノ區別ヲサヘニ混亂ス
 ルモノアリテ人ヲシテ之ニ歸依スルコト能ハザラシムルヲ致スヲ常トス。
 コ、ニ於イテ(一)ヲ之ニ調和セムトスル者其ノ間ニ出デ種々ノ分類ヲ試
 ムルガナカニ西洋文典ヨリ得來リタル或ル範疇的概念ヲ挿ンデ取捨ヲ其
 ノ一部分ニ試ミムトスル者モアレド要スルニ東西國語ノ性質ヲ達觀シ條
 理ノ根本ヲ究極シワガ國語ノ自然ニ合フベキ堂々タル學理上ノ推歩ヲ持
 シテ辭ノ分類ニ關スル原理原則ヲ闡明シ何人モ動カスベカラザル斷案ヲ
 下サムトスル順路ニ出ヅルコトヲ勉メズ空シク教科的西洋文典ニ於ケル
 形骸ヲ墨守シテ謂ハレナキ模倣ニアタラ自己ノ聰明ヲ閉ザスニ止ル。コ
 ノ故ニ辭ノ適當ナル分類絶エテ世ニ出デズシテ個々ノ辭ノ正確ナル意義
 ヲダニ其ノ品類自然ノ性情ヨリ推シタル歸納的ノ研究ニヨリテ檢按論定
 シ以ツテ古今ノ豐富ナル用例ヲ活用スルニ及バズ擾々トシテ暗中ノ摸索

ニ甘ンジてにをば「ラ神經トシ關節トシテ成立セルワガ國語構想上ノ光輝
 ヲ塵埃ノ下ニ埋没セシメテ顧ルヲ知ラザリシナリ。

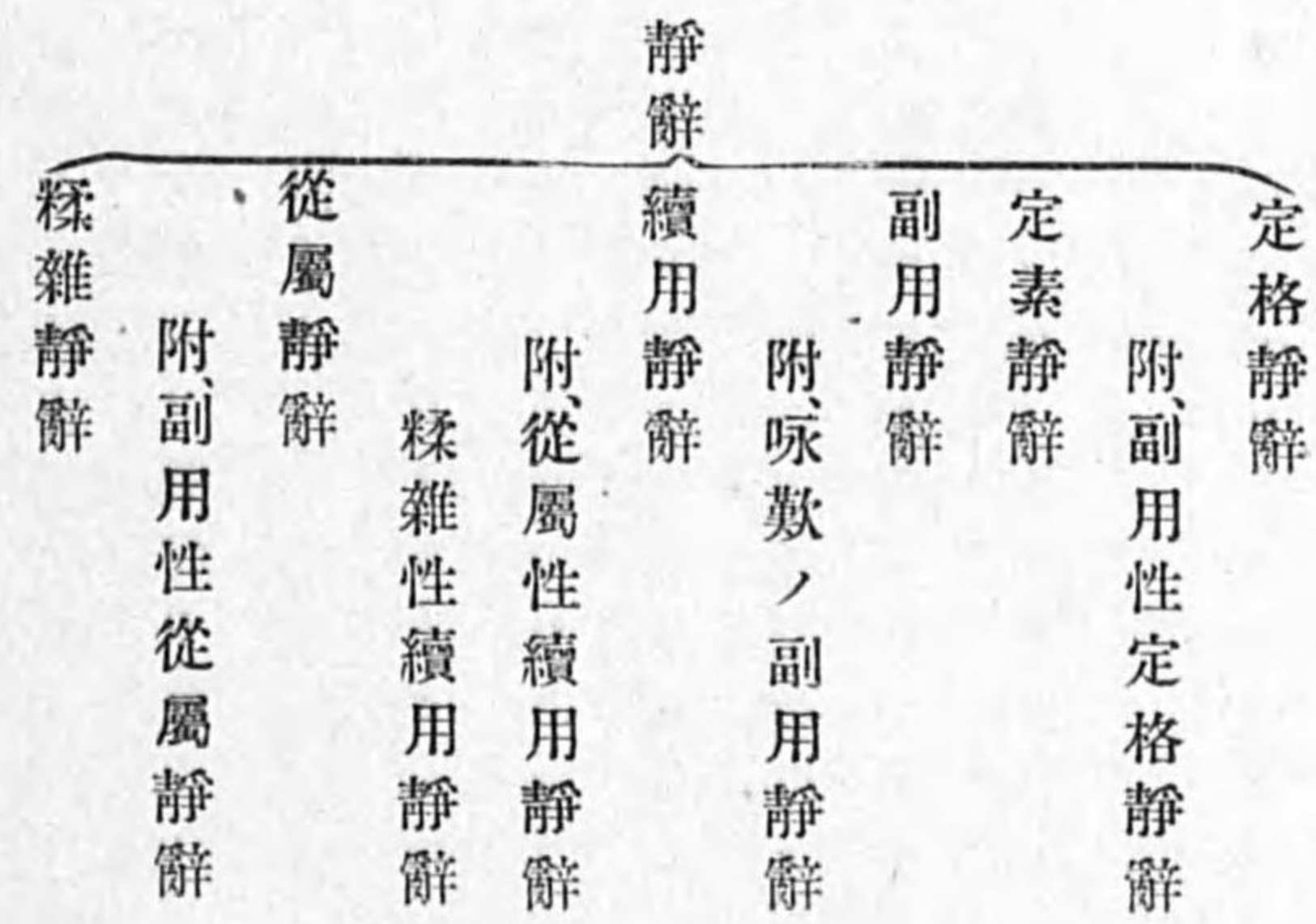
蓋シてにをば「ノ性タル文素ヲ成スベキ思考ノ主要ナル素材ヲ助ケテ其ノ
 文素トシテ立ツニ至ルベキ構想的結合ノ關係ヲ表白スルニアリテ其ノ文
 素ニハ單文擬單文複文ニヨリテ種々ノ差等ヲ有スルガ故ニ其々ノ主要ナ
 ル素材タルベキモノト其ノ構想的結合ノ關係トハ其々ニ種々ノ差等ヲ有
 スレドモ人ノ思考ハ單文ヲ成スベキ構想的結合ヲ以ツテ本位トシ其ヲ構
 成スル文素ノ單文的結合スナハチ句ヲ成シモシクハ其ノ部分的ノ或ル結
 合(成述部モシクハ必シモ成述部ヲ成スニアラザルモ單文的文素ニツ成ハ)ヲ成セシモ
 ノヲ結合シテ更ニ層大ノ結合ヲシメタルモノ(スナハチ複文擬單文ヲ成
 スニ至ルモノニシテ其等ノアラユル關係ハ體言用言ノ中ニ寓セラル、一
 定ノ意義用法ト限リアル辭トニヨリテ表現セラル、モノナレバ辭ノ有ス
 ル意義ガ如何ニ區々トシテ相容レザルモノアリトモソハ單文ヲ成スベキ
 文素モシクハ其ノ文素ノ二ツ或ハ二ツ以上ノ結合及ビ複文ヲ成スベキ大

文素(スナハチ句)ノ其々ニ結合シテ或ル種ノ單位文ヲ成スニ必要ナル或ル一定ノ範疇的概念ニヨリテ統括セラレザルベカラザルモノナルハ分明ノ事ニシテ體言用言ノ意義用法ノ間ニ寓セラル、モノ以外ノアラユル構想的結合ヲ完成セシムベキ補助的機關トシテ之ニ依リテ補助セラルベキ主要ナル素材ヲ添加セラル、辭ノ諸ノ文素中ニ附帶シタル結果ノツマキ合ヒ上ノ形式ガオノツカラ上述(一)ノ場合ニ當ルモノヲ成セルコト、マタ分明ノ事ナレバ、ヨク推究ノ道ヲ得テ百折不撓ノ精神ヲ以ツテ進マム以上、其ノ(一)ノ場合ノモノヲ生産シ其ノ(三)ノ場合ノモノヲ統紀スルモノトシテ理論實際共ニ間然スベカラザル或ル總合的系體ヲナス合法ナル分類ノてにをハ自然ノ性情ニヨリテてにをハ完全ナル研究ヲ遂ゲ得ベキモノガ見出し得ラレザルベキ理由ナキハ、勿論ノ事ナリトイフベク、其ノ推究ノ道ガ「單文複文擬單文ヲ成スベキ文素ノ主要ナル素材タルベキモノノ所期ノ單位文ヲ成スニ至ルベキ其々ノ文素ヲ成ス上ノ補助的機關トシテ其ノ素材タルモノニ附帶シ共ニ一團ヲ成ス方ノ或ル必要上ノ範疇」ヲアラユル辭ノ意

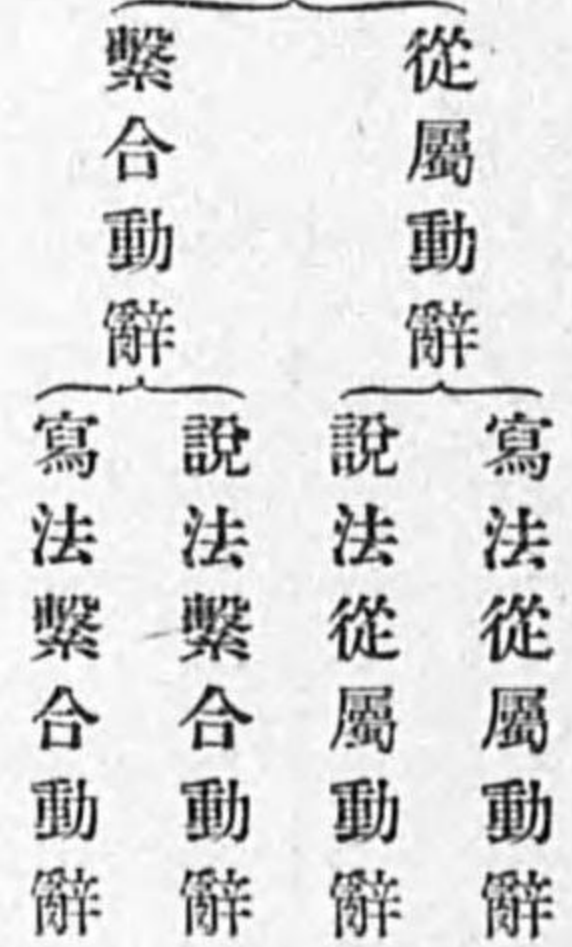
義ノ慎重ナル研究ノ結果ト(一)ノ場合ノモノトノ連結ノ上ニ推究シテ小心大膽ナル眞面目ノ論定ヲ與フルニアルベキハ、疑フベキ所ナク、マタ、アラユル辭ハ、理致上、カ、ル方法ニヨレル分類中ニ分隸セザルモノナカルベキモノニシテ、モシ、コレアリトセバ、ソハ、必ラズ、其ノ研究者ノ其ノ方法ニツキテ、ノ研究イマダ完全ナラザルモノアルニヨルカ、或ハ辭ノ意義用法ガ或ル特殊ナル關係ニヨリテ轉訛變遷シ、二ツ以上ノ種類ニ亘リタル性質ヲ併有スルニ至リ、又ハ辭ヨリ他ノ種類ニ赴カムトシテイマダ辭ノ性質ヲ脱セズ、或ハ他ノ種類ヨリ辭中ニ入り來リテイマダ醇化スルニ及バズ、辭的ノ性質ト辭以外ノモノガ有スベキ或ル種ノ性質トヲ兼帶スルニ至レルカノ場合ナルベキヲ知ルベシ。

然レドモ、カ、ル方法ノ推究ニツキテノ理論考證ノ如キハ、スベテ特殊ナル文法論ニ讓ルベク、篤志ナル専門家ノ爲ニノミ開示セラレベキモノナルヲ以ツテ、コ、ニハ、タ、カ、ル着眼ニヨリテ建設セラレタル著者ノ分類法ヲ指示シテ、之ニツキテノ解説ヲ與フルニ止メザルベカラザルモ、其ノ適否如

何ノ如キハ、實際ノ言語ト事理トニ徴シテ直チニ證實シ得ラルベキガ故ニ學理上、何人モ、——(少クトモ大體ノ上ニ於イテ)——異議ヲ挿ミ得ベキモノナラザルベキヲ信ズ。今、其ノ分類ノ表目ヲ舉グレバ、左ノ如シ。



動辭



コノ靜辭ノ分類中、用法上ノ一定ノ條理ニヨリテ正シク分類セラル、ハ、定格、定素、副用、續用、從屬ノ五種ニシテ、糅雜靜辭ハ、辭以外ノモノノ性質ヲ糅雜シテ、一種不規律ナル用法ヲ成スモノドモ、ニテ、コノ種類ノモノガ辭中ニ存スルハ、體言中ニ辭的體言ヲ存シ、用言中ニ辭的、用言ヲ存スルト、殆ンド五十歩百歩ノ關係ヲ有スルナリ。副用靜辭ニ附屬セシメラレタル咏歎ノ副用靜辭ハ、副用靜辭中ノ一種ニシテ、咏歎以外ノ副用靜辭ト對立セシメ得ベキモノナレド、副用靜辭ヲ咏歎ノ義ナラヌモノト、咏歎ノ義ナルモノトニ別タムヨリハ、性質上、咏歎ノ義ナラヌモノヲ主トシテ、咏歎ノ義ナルモノヲ附屬トスルヲ可トスルモノアルニ依リ(次節參照)定格靜辭ニ附屬セシメラレタル副用性、定格靜辭、續用靜辭ニ附屬セシメラレタル從屬

性、續用、靜辭、糅雜性、續用、靜辭、從屬、靜辭、ニ、附屬、セシメ、ラレタル、副用性、從屬、靜辭、ハ、靜辭、中ノ、或ル、二種類、ニ、亙リタル、性質ヲ、併有、スル、モノ、ニシテ、其々、ニ、附屬、セシメ、ラレタル、種類ノ、性質ヲ、主トシ、某性ト、冠セラレタル、種類ノ、性質ヲ、兼帶、スル、モノナリ。

二五。靜辭ノ分類。

辭ガ、或ル文素ヲ成スベキ、思考ノ主要ナル素材ヲ助ケテ、ソガ文素トシテ立ツニ至ルベキ構想的結合ノ關係ヲ表白スルモノナルハ、既ニイヘル所ノ如シ。サレバ、カクノ如キ辭ノ本性ヲ解シ合法ナル分類ヲ了知スルニ、マツ、其ノ構想的結合ノ關係ニ如何ナル性質ノモノアルカヲ知ルヲ要スルハ、自然ノ順序ナリ。(必シモ、其ノ分類法ノ性質ヲ解スルヲ要セザル者ハ、本節中、上節掲ケル所ノトナ見テ、直チニ次節以下ニ移ルモ可ナルベシ。) 靜辭六種ノ名目ヲ標記シタル條下ノ名目上ノ解釋ト、其ノ前文ノ用語例ト

内的結合ノ關係
外的結合ノ關係

構想的結合ノ關係ニハ、大體上、二種ノ區別アリ。一ヲ、内的結合ノ關係トイヒ、一ヲ、外的結合ノ關係トイフ。内的結合ノ關係トハ、或ル文素トシテ立ツベキモノガ、一ツノ文素トシテ立ツベキ内部ノ結體ヲ成ス上ニ必要ナル關

係ヲイヒ、外的結合ノ關係トハ、或ル文素トシテ立ツベキ資格ヲ有スルモノノ他ノ文素ト結合スルニツキテノ關係ヲイフ。(コ、ニイフ内的結合外的結合ハ、レバ、文素ノ内的結合外的結合ヲ指スコトトナルナリ。他ノモ、) 構想的結合ニツキテイフモノナニツキテハ、既刊日本文典原理第三編第四章ヲ參考スベシ。此等ノ關係ハ、必シモ辭ノミニヨリテアラハサル、モノニアラズシテ、時ニ、其ノ素材ヲ成スモノヲアラハス語ニ存スル、本來的意義及ビ用法上ノ曲折ニヨリテ、オノヅカラ表自セラル、コトトナリ居ルモノアレド、其ノ辭ニヨリテアラハサル、モノニツキテイヘバ、われもとらをみたりノわれもとらをみたり等ノ文素ニ於ケルもをたり等ガアラハストコロノモノノ如キハ、内的結合ノ關係ヲ成スモノニシテ、ひとのこゝろあきらかにしるゝひとのあきらかに等ガアラハストコロノモノノ如キハ、外的結合ノ關係ヲ成スモノナリ。

コノ内的結合ノ關係ヲアラハス辭ヲ有スルモノハ、恰モ、辭ノ補助ヲ借ラズ一語ノマ、ニテ一文素ヲ成シ得ベキモノアルガ如ク——例ヘバ、あめすこぶる つよし、かぜ つよく ふくノあめ、かぜガ主素トナリ、すこ

ぶる「つよく」ガ限定素トナリ、「つよし」ふくガ從素トナル場合ノ如ク「内
 的結合」ソノマ、ニテ、一文素ヲ成スコト多クシテ、寧ロ、斯クノ如クナルヲ
 常トス。コレ其ノ内的結合ノ關係ガ、オノヅカラ、一文素トシテ、外的結
 合ノ關係ヲ表シ得ベキ、意義上、モシクハ、用法上、ノ資質ヲ有スルニ依ル。
 例ヘバ、とら「を」をガアラハス關係ハ、一ツノ主素トシテ立ツ「とら」ノ地
 位上ノ關係スナハチ、位格ヤスヲアラハスモノナレド、既ニ位格ヲ取ルモノナ
 ル以上、或ル文ノ主素トシテ他ノ文素トノ外的結合ヲ成スモノナル關係
 ノ存在ヲ知ルニ足ルガ故ニ、特ニ、外的結合ノ符徴ヲ用ウルヲ要セス、み
 たり「たり」ハ「みる」ノ「時化」ニ關係シタル、或ル關係ヲアラハスモノナレド、
 其ノ結終活ヲ取り居リテ、特ニ、之ヲ左右スベキ用法上ノ條件ヲ備ヘザル
 ハ、ソガ述定ノ用ヲ成スコトヲ表明スルモノナルガ故ニ、別ニ從素トシテ
 他ト外的結合ヲ成ス特殊ノ符徴ヲ要セザルニ依ルナリ。「われ」も「も」
 ノ如キハ、「われ」ガ主素タルコトヲ表明スルニツキテ、何ノ意味合ヒヲモ
 有セザル、或ル關係ヲアラハスモノナレド、(下文副用辭ノ條ナ参考スベシ)「われ」ノ如キ正體

言ハ、特ニ他ノ文素タルベキ條件ヲ有スルニアラザル以上、始メヨリ主素
 トシテ文中ニ入ルベキ資格ヲ有スルガ故ニ、文ノ言ヒツマケ上、明ニ其ノ
 主素タルヲ知り得ベケレバナリ。他ハ、類推スベシ。
 但シ、同ジ主素タルコトヲアラハシ得ベキモノニテモ、をノ如ク位格ニ關
 スル辭ヲ有スルモノト然ラザルモノトアルハ、辭ノ成立ガスベテ、思考上
 ニ現ズルアラユル、思考上ノ關係ヲ遺漏ナク、表シスルヲ目的トシテ、ツク
 リ出サレタルモノニアラズシテ、關係ノ異同ヲ表シテ、彼此ヲ混雜セシ
 メザラムコトノ必要ニ應ジテ、言ヒ出サレツク、リ出サレタルモノナレバ、
 スベテニ於イテ、其ノ本位トシテ認メラルベキ、最普通ナル關係ヲ基トシ、
 之ニ比較シテ、之ト異ナル他ノ關係ヲアラハスコトトナル、自然ノ趨向ヲ
 有スルニ依ルナリ。サレバ、位格ニ於イテハ、普通ノ主格ヲ本位トシ、其ノ
 他ノ位格ヲアラハス辭ヲソフルコト上例ノ如ク、從素ノ「述法」ニ於イテモ、
 寫述ヲ本位トシテ、他ノ述法ヲアラハス場合ニ特殊ノ辭ヲソヘ「働勢」時化
 等ニ於イテモ、發働現在等ヲ本位トシ、其ノ他ニ特殊ノ辭ヲソフル等、スベ

テ、同一ノ方法ヲ取ルコトトナリ居ルナリ。
 サレバ、文素ノ内的結合ノ關係ト外的結合ノ關係トニ於イテモ、マタ、コノ方法ヲ用キ、内的結合ノ關係ヲアラハス辭ノミニテハ、文素ノ外的結合ノ關係ヲ了得セシムベカラザルモノニ於イテノミニ、外的結合ノ關係ヲアラハス辭ヲソフルコトトナリ居ルナリ。コノ故ニ、オノヅカラ、外的結合ノ關係ヲ知り得ラルベキフシアレバトテ、内的結合ノ關係ヲアラハス辭ヲ以ツテ、外的結合ノ關係ヲアラハス辭トナスコトナカレ。外的結合ノ辭ハ、其ナクテハ、其ノ外的結合上ノ關係ヲアラハシ難キモノヲシテ、特ニ、外的結合ノ關係ヲ有スルコトヲ知ラシムル辭ノミナリト知ルベシ。(例ヘバ、上例、ひと の、の、ナクバ、ソガ裝定素タルベキ關係ヲ有スルコトヲ知リ難ク、あさらか に、に、ナクバ、ソガ限定素タルベキ關係ヲ有スルコトヲ知リ難キモノナルニ、ソノ、の、に、アルニヨリテ、其々ニ、ソガ有スル外的結合ノ關係ヲ知り得ベキガ如キモノナルナリ。)

結合ノ關係トイフモノガ、皆意義上ヨリノコトニテ、形式上ニテハ、イヅレモ一文素ノ内部ニ入ルモノナルコトニシテ、ソハ、て、に、を、は、ガ、一、文、素、ヲ、成、サ、ザ、ル、ベ、キ、天、性、ニ、ヨ、リ、テ、オ、ノ、ヅ、カ、ラ、然、ル、ベ、キ、モ、ノ、ナ、リ、ト、ス。(ソノ例外トナ成スモノニツキテハ、下ノ二七チ参考スベシ。)

而シテ、文素ニハ、(イ)單文ヲ成スベキ文素ノ、文素ノ本位トシテ見ラルベキモノアリ、(ロ)複文ヲ成スベキ大文素(スナハチ句モアリ、ハ)成述部ヲ成シモシクハ、必シモ成述部ヲ成サズシテ、二ツ或ハ二ツ以上ノ單文ヲ成スベキ文素ハ、結合セルモノナル文素モアルコト、既ニイヘルガ如クナレド、其ノハニ屬スルモノハ、固ヨリ單文ヲ成ス文素ノ結合ナルニ過ギズシテ、複文ヲ成スベキ大文素ノ成述部ヲ取り離チタルモノナル場合ニ、下文ニイフガ如キ、外的結合ノ關係ヲアラハス辭ヲ有スルコトニ於イテ、單文中ニ見出シ得ベカラザルモノヲ有スルコトトナル外、皆單文中ニノミ見出シ得ラルベキ關係ノモノノミニテ、別ニ取り添ヘラレタル新成分ヲ有スルニアラザレバ、スベテ此等ノ諸文素ノ成立スル内的結合、外的結合ノ關係ハ、皆單文ヲ成ス文素ニ

存在スルモノト複文ヲ成ス文素ニ存在スルモノトハウチニ攝收シ得ラルベキモノナリトス。然ルニソノウチ複文ヲ成スベキモノハ其ノ大文素ト大文素トノ外的結合ノ關係ニコソ單文ヲ成スベキ文素中ニ見出シ得ベカラザル性質ノモノヲ有スレ、(複文ヲ成スベキ關係ノ辭ヲ有スルモノモ擬語法ニヨリテ單位文中ノ一文素ヲ成シ、モシクハ其ノ一文素中ノ一部トナル時ハ、序編六擬語法ノ條參照)複文ヲ成スベキ結合上ノ關係ヲアラハス辭ハ、單文ノウチニ見出シ得ラルベキコトナレド、ソハ全ク例外タルベキ性質ノモノナリト知ルベシ。

ソハ大文素ノ内的結合ノ關係ハ、全ク單文ヲ成ス文素中ニ見出サルベキモノハ、ミナレバ、結局アラユル内的結合ノ關係外的結合ノ關係ハ、左ノ三種ノ内ニ攝收セラル、コトトナルヲ知ルベシ。

- (1) 單文ヲ成スベキ文素ノ内的結合ノ關係
- (2) 單文ヲ成スベキ文素ノ外的結合ノ關係
- (3) 複文ヲ成スベキ大文素ノ外的結合ノ關係

之ヲ辭ノ方ヨリ見レバ、動辭ニアリテハ、準從素ヲ成スモノトシテ、辭トシテノ例外的ノ特性ヲ有スルモノ(序編二及ビ本編二七)ヲ除キ、皆、コノ(1)ニ屬スベキ本性ノモノノミナレド、靜辭ニハ、悉クコノ三種ノモノヲ具フ。ソノウチ、

定素靜辭

外的結合ノ關係ヲアラハスモノニツキテイヘバ、(2)ニ屬スルモノハスナハチ、上例ノ「ひと」の「あきらか」に「の」に「の」如キモノニシテ、此等ノ辭ノ立脚地ヨリ見ル時ハ、ソノ文素ノ主要ナル素材ヲ成スモノハ、必ラズ、正體言モシクハ、準體言及ビ、此等ニ準ジテ同一ノ資格ヲ與ヘラル、モノニシテ、ソノマ、ニテハ、其ノ所期スル制定素ヲ成スベキ關係的意義ヲアラハスコト能ハザルベキモノナル場合ニ、ソヒテ、ソノ制定ノ性質ヲ定ムル用ヲ成スモノナルヲ以ツテ、文素ノ性質ヲ定ムル由ニテ、正シク、定素靜辭ト呼ブベキ性質ノモノナリトス。(文素ハ、制定素ニノミ限ラザルコト勿論ナレド、定素靜辭ニヨリテ文素ノ性質ヲ定ムルモノハ、制定素以外ニハ、ナキヲ以ツテ、複文ノ大文素ニ關シテハ、次ギニイフヲ見ルベシ。)コノ種ノ辭ヲシテ定素ノ名ヲ放ニセシムルモ、毫モ憚ルベキトコロナキナリ。

其ノ(3)ニ屬スルモノハ、序編複文ノ條(三)及ビ前編用言ノ轉活ト用法トノ關係(三三)ノ條ニイヘル、「ばて」と「ど」もノ類ニヨリテアラハサル、モノニシテ、此等ノ辭ノ立脚地ヨリ見ル時ハ、或ル句ヲ成セル大文素(モシクハ、カ、ル大文素ヨリ分割セラレタル述定部ノ擬單文ノ一文素ヲ成スモノ)〔序編擬法(三)及ビ擬語(六)參照〕ヲ成スモノノ元來述定シテ言ヒ切ルベキモノヲ、他ノ文素ニ

言ヒツ、ツ、ク、ル、用、ヲ、成、ス、モ、ノ、ナ、レ、バ、其、ノ、述、定、ス、ベ、キ、モ、ノ、ヲ、他、ニ、言、ヒ、ツ、ク、ル、用、ヲ、成、ス、方、ヨ、リ、正、ニ、續、用、靜、辭、ト、呼、ブ、ベ、キ、性、質、ヲ、有、ス、ル、モ、ノ、ナ、リ、ト、イ、フ、ベ、シ。
(コレモ、或ル意味ニ於テ、定素靜辭トイフナ得ベキモ、ナレド、文素ハ元來單文ヲ成別名ヲ用ウルコトトセムモ、敢ヘテ不穩ナリトイフベカラザルモノニシテ、更ニ兩者ノ性質ヲ檢按スル時ハ、上述ノ靜辭ニヨリテ制定素ヲ成スベキ體言ハ、必シモ、或ル文素トシテ立ツベキモノナラザルヲ、上述ノ定素靜辭ニヨリテ其ノ制定ノ文素タル性質ヲ定ムルモノナルニ對シ、此ノ方ハ、言ヒツツケラレズハ、必ラズ述定ノ用ヲ成スニ止ルベキモノナリトイフベキトイフモノナリト認ムベキナリ。且ツ、續用ノ性質上ノ異同ハ、彌々、彼ヲ定素ト呼ビ之ヲ續用ト呼ブコトノ穩ナルヲ認ムベキナリ。)
上ヨリ見ルモ、マタ、便宜ノ命名ナルベキナリ。

コノ續用靜辭ハ、元來、他ノ句ヘツ、ツ、キ、テ、複文ヲ成スベキ句ノ末ニソフモノナレド、擬單文ヲ成ス時ニ方ツテ、其ノ句ヲ分割シテ、其ノ述定部側ノ成述部ヲ取ル場合ノ如キハ、關係上、其ノ辭ハ、其ノ成述部ニ附屬スルコトトナルモノト知ルベシ。
(稀ニハ、單文ノ限定素トシテ用キラレタル句) 又ハ、成述部ニソフコトアリ。(第五編三一參照)
 然レドモ、(1)ニ屬スルモノニツキテハ、其ノウチニ種々ノ曲折ヲ有スルガ故ニ、之ヲアラハス靜辭ヲ以ツテ全ク一種類ニ置クベカラザルヲ認ムベシ。
(コレ、上文ノ本註中ニ述ベタル如ク、外的結合ノ關係ヲアラハスモノハ、マタ、内的結合ノ關係ヲアラハスモノノ盡サザル場合ナリトミ、殆ンド補欠的ニ言ヒアラハスモノナルガ故ニ、顯アル)

簡單ナル種類ヲ成セドモ、内的結合ノ關係ヲアラハスモノハ、僅ニ外的結合ノ關係ヲアラハスモノトシテ立ツ、其ノ補欠的ノ辭ニ言ヒアラハサル、モノ以外ノ殆ンドスベテノ構想的結合ノ關係ヲ言ヒアラハスベキ辭ヲ包括スルモノナルガ故ニ、其ノウチノ動辭ニテ言ヒアラハサル、モノヲ除キテモ、其ノウチニハ、種々ノ種多ナルモノヲ網羅セザルヲ得ザルコトトナルヲ以ツテ、今、其ノ特性ヲ取ツテ之ヲ分類スルニ、マツ、オノヅカラ二種ノ別ヲ成スヲ見ル。
 蓋シ、辭ガアラハス内的結合ノ關係ノ思念ハ、皆、或ル立脚地ヨリ、見テ、或ル標準ニ於テ、同資格ヲ有スルモノヲ對比シテ、或ル辭ノソフベキ關係ナラザル他ノモノニ對シテ、ソノ或ル辭ノソフベキ關係ノモノガ區別セラルベキ、ソノ或ル關係ノ思念ナリ。而シテ、構想的結合ノ本形トシテ認ムベキ單文ニツキテ之ヲ見ルニ、其ノ文中ニアラハル、同資格ノ或ルモノトノ互ニ有スル關係ヲ對比シテ、他ノモノヨリ、其ガ有スル關係ヲ區別スル用ヲ成スモノト、其ノ文中ニアラハル、コトナクシテ、而モ對比セラルベキ、或ル資格ヲ有スルモノト、對比セラル、上ニ於テ、有シ得ラルベキ、或ル關係ヲ對比シテ、ソノガ有スル特別ノ關係ヲアラハスモノトアリ。前者ヲ名ツケテ、當面對比ノ關係トイヒ、後者ヲ名ツケテ、連想對比ノ關係トイフ。前者ハ、文中ノ他

當面對比ノ關係
連想對比ノ關係

ハ、モノト當面ニ對比スル關係上ノ區別ヲアラハスモノニシテ、後者ハ文中ニ無キモノヲ連想シテ之ト對比スル上ノ或ル關係ヲアラハスモノナレバナリ。(日本文典原理第三編第四章七三三) 外想對比「内想對比」トイヘルハ、スナハチ、コノ當面ズ、内外ノ意義ヤ、紛ラハシキフシアルベキナ思動辭ニアリテハ、上文ニモイヘル辭ヒテ、コノ卑近ナル名目ニ改メタルナリ。(ナホ、第五編ニイフ)之ヲコノ種ノ辭ノ立脚地ヨリ見レ

テハ、コノ兩者ノ種類ヲ兼ヌ。
當面對比ノ關係ヲアラハスモノハ、位格ヲアラハス靜辭ナリ。位格ノ事ハ、序編中ニモ一言シ置キタレド、(七、序編)ひといぬを かふニ於ケル「ひといぬ」は、ちをこに あたふのは、ちこひと 西京よりきたる「ひと」と「西京」ノ如キハ、皆、其々ノ文ニ於ケル主素タルベキモノナレド、其ノ主素トシテ立ツ資格中ニ區別アリテ、構想上互ニ等シカラザル關係的地位ニ立ツ類ノ關係ヲイフニテ、ソノ區別セムガ爲ニ「を」に「より」等ノ辭ヲ添加シテ、其々ノ位格ヲアラハシ、以ツテ、其々ノ位格ヲ有スル主素ノ形體ヲ成就セシムルモノナリ。(ナホ、第五編ニイフ)之ヲコノ種ノ辭ノ立脚地ヨリ見レ

定格靜辭

バ、ソハ、主素タルモノノ位格ヲ定ムル用ヲ成スモノナルヲ以ツテ、正シク、定格靜辭ト稱スベキ性質ヲ有スルモノナリトイフベシ。(コレハ、定位靜辭ト稱スルケレド、^{トイハムニハ}方位ヲ定ムルガ如ク、開ユル語弊アルノミナラズ、一般ニ^{トイハムニハ}位格トイフベキナタダ^{トイハムニハ}格トイフ言ヒ慣ラシタル習慣モアリ、且ツ、定素靜辭モ^{トイハムニハ}格トイフトハナラザレド、制定素ニ限リテノモノナレバ、其ニテ不可ナキガ如ク、此モ、主素ノ位格ニ限リテノモノナレバ、^{トイハムニハ}格トイフ言ヒ慣ラシタル習慣モアリ、且ツ、定素靜辭モ^{トイハムニハ}格トイフナルコトシルカレベク、毫モ不可ナル點ナカルベキナリ。)

連想對比ノ關係ヲアラハスモノノウチニハ、マタ、(甲)主素モシクハ制定素又ハ此等ノ或ル結合ヲ成スモノノ他ニ對シテ對比セラル、所アル或ル關係ヲアラハスモノト、(乙)從素ヲ成スベキモノノ他ニ對スル對比上ノ或ル關係ヲアラハスモノトアリ。

(甲)ニ屬スルモノハ、あめ さへ ふり ぬ これ を だに しら じ ひと に も あたへ たり ひがし より や こ し かく こそ あら め の さへ だに も や こそ は の 如ク ソレ ラ ソ ヘル 或ル 主素 制定素 ハ ソノ 辭 ガ アラ ハス 如キ 或ル 關係 ヲ ソノ 單文 中 ニアラ ハサレ ザル 或ル モノ ト ノ 對比 上 ニ 有 スル コト ヲ アラ ハス 類 ノ モノ ニ テ 其 ノ さへ だに も や こそ は

ヲ成スベキ大文素モシクハ其ノ述定部ノ分割セラレタルモノノ述定ヲ成シテ文ヲ終フルモノナラザルニ副へ用キラル、コトヲ得ベシ。コレ複文ヲ成スベキ大文素ハ或ル場合ニ於イテ一種制定素(限定素)的ノ性質ヲ領有スルコトアリテ其ノ述定部ノ分割セラレタルモノモ全ク之ニ準ズベキモノナルニヨルナリ。(第五編複文ノ條參考)マタ、咏歎ノ意義ヲ有スルモノ(スナハチ咏歎ノ副用靜辭)ニアリテハ、特ニ文ノ述定部ノ下ニソヘ用キラル、コトアレドモ、ナホ、コノ(甲)ノ區別ヲ破却スルモノトイフベカラザル理由アルハ、次節ニイフガ如シ。

○ナホコノ連想對比ノ關係ヲ有スモノト當面對比ノ關係ヲ成スモノトハ、既ニイヘルガ如ク、單位文ノ本位トシテ認メラルベキ單文ノ構想的結合ニツキテイフモノナレバ、複文モシクハ複文ヨリ變形シタル擬單文ニアリテ、其ノ例外トシテ認ムベキ現象、スナハチ、連想對比ノ關係ヲアラハス辭(副用靜辭)ノ一文中ニ對比セラルルヲ見ルコトアルハ、怪シムベカラズ。例へバ、甲も、きたり、乙も、きたれり、甲も、乙も、丙

も、丁も、みな、きたれり、いへをも、くらをも、什器を
も、みな、やき、たり、場合ニ於ケルガ如シ。

○マタ、コノ副用靜辭ノ或ル文素ノ結合ニソヘルモノ、例へバ、この「は、あ、ほい、なる、いぬ、は、さ、まで、はやく、は、あら、ず、如キモノニ於イテハ、ソノ「は、タ、タ、ね、こ、いぬ、は、やく、ニソヘルモノニハアラズシテ、この「あ、ほい、なる、さ、ほど」ニヨリテ制定セラレタル「ね、こ、いぬ」はやく「ニソヘルモノナレド、同ジ意味合ヒニテモ、前後ノ關係上、ソノ制定ノ條件ヲ有スベキモノヲ豫想シナガラタ、タ、ね、こ、いぬ」はやく等ノ語ヲ以ツテ其ノ思念ヲアラハス場合アリテ、カ、ル場合ニハ、ソノ副用靜辭ハ、形式上、ソノ「ね、こ、いぬ」はやく「ニソヘル類」(制定素ニ限ルニアラズ、他ノ文素トノ結合例へバ、や、より、はやく、は、あら、ず、ノ如キモノニテモ、スベテ相同ジト知ルベシ。)ノ文ヲ分解スルニ方リテモ、便宜上、單位文ヲ爲スベキ個々ノ文素ニノミ、全體ヲ分解スル場合ニアリテハ、コノ「は、は、如キ副用靜辭ヲ、其々ノ制定素ヲ有スルモノナル條件ノ豫想ノ下ニ、形式上、ソノ「ね、こ、

「いぬ」はやく等ニ附屬スルモノトシテ認ムルコトヲ得ベクカ、ル場合ニハ其ノ副用靜辭ハ形式上「ねこ」「いぬ」はやく等ト結合シテ一文素ヲ成スモハト認ムルコトヲ得ベシ。サレドカ、ル場合ニアリテハ其ノ形式上ノ關係ニヨリテ其ノ本性ヲ遺却スルナカラムヲ心スベキナリ。

(乙)ニ屬スルモノハ「あめ」「ふら」「じ」「きみ」「ゆく」「や」「なに」「を」「おも」「ふ」「か」「はやく」「ゆけ」「かし」「の」「じ」「や」「か」「かし」ノ如ク或ル標準ヨリシテ其ノ從素ノ素材タルモノハソノ文素ヲ成ス場合ト然ラザル場合トヲ對比シテソノ文素ヲ成スモノガ如何ナル關係ニ立ツカヲアラハスモノニシテ例ヘバ「ふら」「じ」ハ「ふる」テフ從素ノ素材ガタゞ其ノ動作ノ思念ノマ、ニ述定セラル、場合其ノ他ニ對シテ想像的ノ或ル關係スナハチ「じ」ガアラハス關係ニ包マレテ其ノ述定ヲ成シ居ルコトヲアラハシ「ゆく」「や」「おも」「ふ」「か」「はやく」「モシクハ」「おも」「ふ」テフ從素ノ素材ガタゞ其ノ動作ノ思念ノマ、ニ述定セラル、場合其ノ他ニ對シテ疑問的ノ或ル關係スナハチ「や」「モシクハ」「か」ガアラハス關係ニツ、マレテ其ノ述定ヲ成シ居ルコトヲアラハシ「ゆけ」「かし」「はやく」

トイフ從素ノ素材ガタゞ其ノ動作ノ思念ノマ、ニ述定セラル、場合其ノ他ニ對シテ希求的ノ或ル關係ニツ、マレテ其ノ述定ヲ成シ居ルコトヲアラハスガ如シ。コノ種類ノ關係ヲアラハス辭ノ(甲)ノ種類ノ關係ヲアラハス辭ト用法上ニ認め得ラル、相違ノ著シキ點ヲ擧グレバ(甲)ノ場合ニハソノ關係ヲアラハス辭ノ言ヒソヘラル、ハタゞソノ關係ヲ言ヒソフルノミニ止リテ其ノ主素タリ制定素タル形體ニ異同ヲ起スコト始ンドナケレドモ、コノ(乙)ノ場合ナルハ或ル一定ノ轉活ニソヒテ其ノ從素タル本來ノ形體ヲ左右スルコト多ク其ノ附加ノ關係ニ大ナル疎密ノ度アルコトヲ示スニアリ。(下文、コノ(乙)種ヲ成スモノ(從屬靜辭ノ五)コレ、從素ヲ成スベキモノハソノ從素トシテ述定ヲ致スベキ場合ニ富ミ辭ノ補助ナクシテハ其ノ述定ノ功ヲ完ウスベキ種々ノ關係ヲ完全ニ言ヒ別ツベカラザルコト、恰モ主素ガ其ノ主素トシテノ地位上ノ種々ノ關係(スナハチ種々ノ位格)ニヨリテ始メテ主素トシテノ完全ナル用ヲ成スガ如クニシテ其ノ關係ノ繁多ナルコト、更ニ之ヲ凌グモノアルヲ以ツテ從素ノ素材ヲ成スモノハ、コノ種ノ辭ヲカリテ

從屬靜辭

始メテ從素トシテノ種々ノ場合ヲ言ヒアラハスベキ功用ヲ完クスルモノナルニ對シ、カノ副用靜辭(スナハチ甲)ニ屬スル關係ヲアラハス辭ハ、既ニ主素ヲ成シ從素ヲ成セルモノニ任意ニ附加シテ或ル種ノ關係ヲ明ニスルニ過ギズシテソレナクトモ主素タリ制定素タル功用ハ完全ニ仕遂ゲラルベキ既定ノ成形ヲ有スルモノナレバナリ。コノ故ニ、コノ(乙)ノ關係ヲアラハス辭ハ、其ノ辭トシテノ立脚地ヨリ見レバ從素ヲ成スベキ素材ニ從屬シテ其ノ述定ノ功ヲ完ウスルモノナル方ヨリ正シク從屬靜辭ト稱スベキモノナルヲ知ルベシ。(定格靜辭モ其ノ主素ノ素材タルモノニ從屬スルモノトイヒ得ベケレバ此ハ其ノ關係複雜ニシテ特ニ一ヲ以ツテ指定スベキナリ。)

以上述ブルガ如クニシテ靜辭ノ構想上ノ關係ヲアラハスモノトシテノ理致合法ナル分類ハ、定格定素副用從屬ノ五種ナリトスベキモノナレド、(ナホ、此等ノ辭ニヨリテアラハサル、關係的概念ノ展開シ來レル思想上ノ狀態ヲ研究セムトスルハ、日本文典原理第四編第三章一〇七頁ノ三其ノ三ヲ精讀スベシ。余ハ自著ナガラ、思想言語ノ關係ヲ究メムトスルコト切ナリ。)前節ニモイヘル如ク靜辭ノ種類ニ屬スベキモノナリナガラ辭以外ノモノノ性質ヲ糅雜シテ一種不規律ナル用法

ヲ成スモノアリ。例ヘバ「えだ ながら をる」うたがひ ながら みる等ノ「ながら」ガ其ノ造語法上辭的準體言根辭的準體言ニ近キ性質ヲ有スル一種ノ靜辭ヲ成スガ如キ「さみ の」にも「あれ、われ の」にも「あれ。あしき は あしき なり」さみが の と わ が の と ふ たつ」の「ガ」定素靜辭ノ「ヨリ」轉用セラレテ其ノ本性ヲ移動セシメ、殆ンド正體言的ノ意味ヲ有スルニ至リタルモノナガラ、ナホ、一種ノ靜辭タルヲ脱セザル所アルガ如キ「ゆか まく ほし」ゆか ま ほし」の「ま」(まは、ま)ノ省カリシモ)ガ動辭ノ「む」ヲ語幹トシテ之ニ根辭「く」ヲソヘタル造語法ニテ前編「用言ノ轉活ト用法トノ關係」ノ條(第三編)ニイヘル假體言(新)ノ格ヲ成スベキ靜辭トシテ立チ、(但シ、上ニイヘル假體言(新)ハ、用言ヲ假體言トスルモノ、コレナル「ま」カ、む)ナル叢語ヲ假體言トスル爲ニナリ、其ノ最末ナル「む」ニ造語法上ノ變化ヲ起スモノナレド、カ、ハ、ル叢語モシクハ句ノ假體言ヲ成ス場合ノ最末ノ辭ニハ定リアル故ソノ造語法ヲ起セルモノ、オノツカラ種々ノ場合ノ叢語モシクハ句ノ末ニ立ツベキ一種ノ辭トシテ思考セラルハ、コトトナレルナリ。「ナホ、コノ種ノ辭ノソヘル假體言中「ま」及ビ「下」ニイフ「なく」ノソヘルモノハ、用法、作用言ヨリノ假體言ト等シカラズ。「ま」以外ニハ「お」も「は」なく「に」いひ「けらく」きく「ならく」なく「げらく」ならく「類」コレニ同シキ造語法ニテ成レル同種ノ語ニテ「なく」ハ動辭「げらく」ハ動辭「けり」ならく「ハ動辭連體活ニツフ從屬動辭」なり「ヨリ」來レルニテ、スベテコノ假體言ノ格ナルハ、イゾレモ連體形ノ擬體法ナル場合ヲ本トシ、之ヲ語幹トシテ、根

糅雜靜辭

辭（トナリヘタ）其ノ關係上、オノヅカラ體言的ノ性質ヲ其ノウチニ含有スルガ如キ（トナリヘタ）ましてわがみをや（トナリヘタ）をやが（トナリヘタ）定格靜辭ノを（トナリヘタ）下ニ或ル作用言ニ一定ノ動辭ノソヘルモノヲ含メテ（トナリヘタ）や（トナリヘタ）（次節ニイフ歌歎ノ副用靜辭ナレド、其ノ本義ヲ失）ト合成シ、今モ其ノ情味ヲバ維持シナガラ、一種複成語的ノ靜辭トナレルガ如キ、スナハチコレナリ。サレバ、大體上、靜辭トシテ立ツベキ性質ヲソナヘナガラ、辭以外ノモノノ性質ヲ糅雜スル方ヨリ、正シク、糅雜靜辭ト稱スベキ性質ヲ有スルモノトイフベシ。（民神雜糅不可方物ニテド、如ク、雜糅トイフ例ノ果シテアリヤ否ヤナ知ラザレド、コ、ニテハ、種々ノ種類ノモノヲ糅雜セシメタルニハアラア、他ノ性質ヲ糅雜シタル由ニイフベキ所ナレバ、混同セザラムガ爲ニ、カクハ言ヒカヘタリナ）

以上、説明シタル順序ニヨレバ、定素續用定格副用從屬糅雜ノ序次ヲ成セド、文素ノ性質上、定格ハマツ主素ノ地位ヲ定ムル方ヨリ——構想的結合ノ關係ヲアラハスモノトシテノ辭ノ分類ニ於イテ——最初ニ數ヘラルベキモノナリトイフベク、從屬ハ從素中ニ從屬スルモノニシテ、其ノ素材タルモノニ附屬スル關係モ、比較的ニ親密ナレバ、比較的ニ後ニ抽出セラ

○定格靜辭

ルベキ自然性ヲ有スルモノトシテ、（必シモ、カクイフベキモノ）暫ク之ヲ後ニシ、定格ト環連シテ直チニ文素間ノ結合ニ關スル關係ヲ連想スルヲ自然トスベキ方ヨリ、定格ニツグニ定素ヲ以ツテシ、文素ノ結合トイフ方ヨリイヘバ、續用ヲ次ギニ置クベキヲ、ソガ複文ニ關スルモノナル方ヨリ、暫ク之ヲ後ニシテ、定格ト或ル關係ニ於イテ混淆轉移シ易キ副用ヲ先ニ立テ、續用ヲ其ノ次ギトシ、從屬ヲ其ノ次ギニ置キ、糅雜ヲ以ツテ最後トシ、定格定素副用續用從屬糅雜ノ序次トセムコト、名目ノ性質上ヨリ來ル連呼ノ便宜ニモ合ヒ、マタ、實際ノ性質上及ビ辭ノ意義用法等ノ説明ノ便宜上ヨリ見テモ、比較的適當ナル所アルガ如シ。コノ故ニ、舊稿初等日本文典以來、コノ順序ヲ主持ス。（但シ、初等日本文典ニハ、糅雜靜辭ノ名ヲ用キズシテ、他名ヲ以テテシタリシノミナラズ、附屬的ノ種類ニモ多少ノ異同アリ、確信スル所ハ、次節及ビ續日本文典各辭ニツキテノ説明等ヲ見テ知ルベシト）

二六。 定格靜辭ニ屬スルモノノ要目ヲ擧グレバ、を（トナリヘタ）に（トナリヘタ）と（トナリヘタ）へ（トナリヘタ）より（トナリヘタ）から（トナリヘタ）まで（トナリヘタ）して（トナリヘタ）を（トナリヘタ）して（トナリヘタ）にて（トナリヘタ）もて（トナリヘタ）等ニシテ、其々ノ辭ニツキテノ用例ノ一端ヲ示セバ左ノ如シ。

はなをゆきとみる。よしとらふ。
徳をつまむとおもふ。
とほつす。

歌とたしかふ。ともときそふ。

おこなひ、こと(言)とたがふ。

*(序編六擬語法ノ條)

へ ひがしへすむ。英國へゆく。

より* 學校よりいへにかへる。五時よりはじむ。

やまよりたかし。それよりすくなし。

さみより命ぜらる。ひとよりみらる。

*(コノ「より」下對立シテ「ゆり」テフ辭アリ。今ハ、餘リニ物蓄リタレド、古クハ「たかり」くらにまししはじめ「ゆり」いまにいたる)

から まで

から わざはひをわれからまねく。みからいだす。
くれからふる。からからゆかむ。
まで くにさかひまであくる。時針八時まですむ。

*(時間數量ナアラハス體言ノ下ニツヘル「まで」ハ、殆ンド全ク、定格辭ナラズ。成サズ。タゞ、時間ナ場所ニ準ジテ思念シタル場合、スナハチ、コヽニ擧ゲタル例ノ如キモノノミ、コレニ入ル。其ノ他ノモ、ノニツキテハ、下文採釋辭ノ條ナ参照スベシ。)

以上ノ七辭ハ、定格辭中ノ最純粹ナルモノニシテ、下ノ四辭ハ、其ノ本

まで「テド」ノ如ク「イヒ」リ音省カリテ「つく」ヨミのひかりをきよみかみじまのいそまのうらゆふなです。われは「萬葉集」ノ如ク「イヘル」モアリテ「より」から「下」鼎立して甚微妙ナル言ヒ別チチナシシモノナリ。コヽニハ、參考ノ爲ニ注意スルノミナレド、續日本文典要義ニイフベシ。

*(時間數量ナアラハス體言ニ「より」フソヘル場合ハ、時間數量等ナ場所モハ、定格辭ナリト知ルベシ。但シ「三時」より「五時」まで「如ク」マデ「ソ」ヘル時間ノ體言ト一團結チ成セル時間ノ體言ハ、其ノ一團結チ以ツテ或ル時間ノ程度ナアラハス套語チ成シテ限定素トシテ用キラル、コト多クカイル場合ニハ、コノ例外チナス。サレド或ル時間ノ程度ナアラハス一團ノ套語チ成スニアラザルモノ、例ヘバ、「時針」三時より「五時」まで「すむ」ノ如キモノハ固ヨリ、コノ例外ノ類ニ入ルベキモラズ。)

の が

が きみ が のたまひ し こと は、ながく わすれ じ。
 わ が いひ つる をば、わすれ たまひ し か。
 わ が たもふ かな。 た が ゆき し か。
 品性 の よき が おほし。 しか たもふ が あしき なり。

の 智 の たらざる か。 用意 の 周密 ならざる

か。 にくし と おもひ し ひと の、さすが に あはれ なる ぞ かし。

利慾 を すて て 正義 に くみせ む と する ひと の

の すくなき かな。 かぜ の ふき いて ぬる よ。

コノウチは、元來副用靜辭ナレド、コノ例ノ如ク、文王ニツラ有スル特殊ナル構造ノ文ニ限リ、其ノ一方ニソヒテ、一種ノ文主タルコトヲアラハスコトトナルモノニテ、定格靜辭トナリテモ、ナホ、半面ニ於イテ、其ガ本來ノ性情ヲ

帶ブルモノナリ。(ナホ、第五編擬單文ノ位格ニ關スル關係ヲ説ケル條ヲ參照スベシ。)がハ、擬語法ニテ、裝定素トシテ用キラル、句モシクハ擬體法ノ句ノ主格ノ下ニソヒ、又ハ、此等ト共通シタル、或ル性質ヲ有スル特殊ナル構造ノ文ニ於ケル文主ニソヒテ、特ニ其ノ句ノ文主主格ナル由ヲ指示シテ、一種ノ情味ヲアラハスベキ用ヲ成スモ、カ、ル句モシクハ、文主ガ必シモ之ヲ要スルニアラザルコトニ於イテ、殆ンド副用靜辭的ノ性質ヲ領有スルモノナリ。(のハ、元來、定素靜辭ノ「の」君子「の」おもふところ、みちのほかにいて「ず」たびびとの「の」やめるものを「あはれむ」如キモノヨリ一轉シタル文ノ「たびびと」の「やめる」を「あはれむ」如クナルベキ構想ノモノヲ「ハ」之ヲ裝定スルモノナリ。ナホ、下文定素靜辭ノ條ヲ參照スベシ。)上記ノ「が」ノ類推ニテ、轉性セシメ、たびびとの「やめる」を「あはれむ」如ク思念シテ使用セラル、コトモアルニ至リシヨリ、(コノ場合ニ於イテハ「たびびと」や體法ヲ成サシムルニ方ツテ、其ノ文主ノ下ニ「オノヅカラ」上記ノ「が」ニ準ズル用法性「の」ヲソフルモノトシテ思念セラルナリ。)オノヅカラ上記ノ「が」ニ準ズル用法性質ヲ取ルコトトナリテ、コ、ニ擧グルガ如キモノヲ成スニ至レリシナリ。

○定素靜辭

定素靜辭ニ屬スルモノハ「と」「の」が「ノ」四ツニシテ、其々ノ用例ヲ示セバ、左ノ如シ。

に

あきらかに する。 かなしげに さげぶ。

たゞゆきに ゆく。 ちりぐに なる。

散々に やぶる。 丁寧にとり あつかふ。

五時に ゆく。 のちに する。

はじめに いふ。

注意。 従素あり及びありノ如キ義ナル混成二段ノ「す」ナル場合ニハ、コ

ノ定素靜辭ノ「に」ソヘル装定素ハ、其ノ文中ニ起ルコトナキガ故ニ、

似タル言ヒ廻ハシノモノ(例ヘバ、その どりあつかひ 丁寧

に あら ず)の どりあつかひ 丁寧 に し てノ丁寧

にノ如シニアヘバ、ソノ「ハ」定素靜辭ニアラズト知ルベシ。コ

レ、カ、ル場合ニハ、ソノ上ナル體言ハ、境遇的ニ、必ラズ、正體言的ノ

の と

の と

意義性質ヲ享有スルコトトナリ、主素トシテ立ツベキ資格ヲ領有
スルコトトナルベキ構想上自然ノ約束ヲ持スルモノニシテ、之ニ
ソフベキ辭ハ、定格靜辭タラザルヲ得ザルコトトナルガ故ナリ。
次ギノ「と」ノ場合ニモ、同ジク、あり及びありノ義ナル混成二段ノ「す」
ノ従素ト伴ナフコトナシト知ルベシ。(例ヘバ、頑 と し て、嚴
然 と ある すがたノ如キ)とハ、言ヒ廻ハシハ似タレドモ、定素
靜辭ニアラズシテ定格靜辭ナルガ如シ。(但シ、後者ノ如キ例ハ、嚴
然 たる すがたノ如ク)と ありヲたりニツマメテ一ツノ動辭
トシタルモノノ方ヲ用ウルヲ常トスルコトトナリ居ルナリ。)ナ
ホ、本編ニ七繋合動辭ノ條ヲ参照スベシ。

ちりぐ と なる。 はた と ゆき つまる。

くわつ と はらだつ。 頑 と うごかず。

嚴然 と 謝絶す。 般々 と なり わたる。

君子 の こゝろ。 旅順 の 要害。

無情のひと。ながのひ。
 うるはしのみこころかな。みてのちにこそしれ。
 ゆかむのこころなし。かつてかぶとのををしめよのことわざ。君子のおもふところ、みちのほかにいはず。
 甲のおとししかねいてたり。甲のみちにおとししかねいづ。
 賊のとらへらるゝをみる。西洋人のすぐれたけたかきをみたり。
 ひとの西洋にゆくをおくる。がさみがこころ。わがさみ。うめがが。か。

コノ「が」上記ノ「ガ」副用性定格静辞ノ方ニ轉性スルモノヲ出シタルト反對ニ、副用性定格静辞ノ「ガ」ヨリ來リテ「の」ニ準ジテ定素静辞ヲ成スニ至レル

○副用静辞

モノニテ「が」ノ下ニハ、従素タリ得ベキ或ル語詞ヲ含ミタル情味ヲ有スルヲ本義トスルナリ。
 (「が」あふく「きみ」うめ「が」か「うめ」の「こころ」われの「きみ」うめ「の」か「下」異ナルベキモノナリト知ルベシ。)

副用静辞ニ屬スルモノハ、「も」だに「すら」「さへ」の「み」「し」「ぞ」「なん」「こそ」「や」「か」及「び」と「が」等ニシテ、其々ノ用例ノ一端ヲ示セバ、左ノ如シ。

は ふゆ は さたりぬ。ひとをばせめじ。
 かれに は とはず。かれと は ゆかじ。
 ふでにて は かかず。かれより は まさらむ。
 あしく は おもはじ。まばらに は あらず。

も かれも さたれり。くつを も とられぬ。
 かしこにも ゆきたり。かなたより も さたれ

* (コノ例ノ如ク「は」が定格静辞を「ソ」ヘル下ニソフ「ト」ナル場合ニハ、濁音トナル習ヒ出テ來テ、一種ノ慣用法ヲ成シ、オノツカラ「を」ば「ニ」テ一熟辞ヲ成スガ如クニ思念セラル、ニ至レリ。)

だに	すら	さへ	のみ
だに 兒童だに解しうべし。 むしをだにころさず。	すら かゝる所業あらむとは父母だにおもひよらざりけり。 をとこすらなきぬ。 あぐることあたはず。 すら、反哺の孝はあり。	さへ かかれらのみならず、わがみさへおもひまどひぬ。 すみすべりあり。ふてあり。かみさへ、つくゑさへ、みなそなはれり。甲をくだし、乙をしたがへ丙をさへ屈服せしめたり。	のみ われのみすまむ。 あとうとをのみしたがふ。

し	ぞ	なん	こそ	や
し かなしくのみなりゆく。 われしゆかば……いつしかこむとまちわぶ。 むかしのひと、は、かくぞいひける。 伊藤仁齊ぞかくはときつる。	ぞ かくなんいひつたふる。 けふなんかへりたまひぬる。	なん 本居宣長 <small>（下字）</small> なん國學者の随一なる。	こそ われこそゆかめ。 文學をこそまなぶべけれ。	や さみやこし。 ふみをやつくる。 われやゆくべき。 われやはゆかむ*。

か たれ か きたり し。 なに にか あら じ。

な に を か おも ふ。

いかで か ゆる さ じ。 なに にか は せ じ。

*「コノ」や「ト」は「カ」ト「ハ」ハ、屢々「ハ」は「カ」ハニテ反語法ヲ成ス一熟辭ヲ成スガ如クニ思念セラレ居レドモ、サニアラズ。此等ノ「ハ」ハ、別ノ副用靜辭ノ下ニツヘルマデニテ、反語法ハ「カ」モ「シ」クハ「カ」ニ依リテ仕送ラレ居ルナリ。「コノ」ハ「ハ」上ニ擧グタル「ハ」ト「ツ」ハ「ナレド」副用靜辭ノ「ハ」ニハ、二様アリテ言ヒアラハサルベキ思想内容ニ、本ヨリ取り出シ取り別ケテ考フル由ノ意義ヲ有スルモノチアラハスニ用キラル、普通ノ「ハ」ト、或ル思想ヲ表白スルニ方ツテ、特ニ或ル文素ノ所ニ力ヲ籠メテイヒ、第二者ノ注意ヲ惹カムトシテ、ソチ取り出シ取り別ケル情チアラハスニ用キラル、「ハ」ト「ハ」ニテ區別スベク、コノ「ハ」ハ、其ノ後者ニ屬スルナリ。カハル意義上ノ區別ハ、日本文典要義ニイフベシ。副用靜辭ノ「ハ」モ、普通ノ「ハ」ニ對シテ恰モ、コノ前者ノ「ハ」ニ對スル後者ノ「ハ」ノ如キ關係ニ立ツモノアリト知ルベシ。サレド從屬靜辭ノ「カ」ノ下ニソヘル「ハ」ハ、用法上、殆ンド一熟辭ヲ成スモノト認ムベキマデニ「カ」ト密着シ其ノ「ハ」チ去リテハ反語ノ義ヨク聞エザルコトトナリタレバ便宜上「カ」ハ「ハ」チ以ツテ、一熟辭トシテ立ツベキナリ。(下文從屬靜辭ノ用例ヲ按ズベシ。)

コノ「ぞ」「なん」「や」「か」「ノ」「四ツ」「ハ」「其」「文」「結末」「ト」「呼應」「シテ」「普通」「ニ」「ハ」「結終活ナルベキ文末」ヲ連體活トシ「こそ」「ハ」「同ジク」「普通」「ニ」「ハ」「結終活ナルベキ文末」ヲ已定活トスル慣性ヲ成ス。世ニ之ヲ「かゝりむすび」ノ關係ト呼ブ。近來之ヲ「呼應」ト呼ブ人多クナレリ。(第三編二三參照。○コノ「かゝりむすび」或ハ「呼應」事ヲ明ニスルニ開示スベキ餘地ナキヲ以ツテ、日本文典要義ニ詳論スベシ。)

又、コノ「や」「ハ」本來的ニ副用靜辭ナレド「カ」ハ從屬靜辭ヨリ轉用セラレタルモノナレバ情味ニ於イテ頗ブル他ノ副用靜辭ト異ナル所アリ。(之ト反對ニ從テ「カ」ハ本來的ノ從屬靜辭ナレド「ヤ」ハ「コノ」副用靜辭ヨリ轉用セラレタルモノナリ。下文從屬靜辭ノ條參照。)

と 甲 と 乙 と、かなた より きたる。

かれ と われ と は いとこ なり。

うま と うし と を あたふ。

ちし と はし と あね と に わかれ て……………

が これ、みな、さみを おもふ が ゆゑ なり。

み を 利せむ が ため ならず。

みる が ごとし。 さく が ごとく ば……………

コノ「と」ハ、元來定格靜辭ノ「と」(上例「敵」と「た」と「類」ナリシガ、擬單文ノ場合ニ轉移カ「ふ」ノ如キト「類」)

かゝりむすび
呼應

と が

シテ副用靜辭トナリシモノ、(サレド、既ニトナ副用靜辭トシテ用ケルニ至リテハ、擬單五錢に、なるノ如キ套語法ノ叢語ヲ成ス場合ニナホ、副用靜辭トシテ見ルベキ)「が」ハ元、副用性定格靜辭ノ「が」ヨリ來リ裝定素ヲ成ス言ヒツヅケニテ連體形ヨリ、ゆゑ「ため」と「こと」ニツキテハ、第二編「ごとし」等ニツヅク場合ニ挿入セラレテ、一種ノ套語法ヲ成スノミノモノニテ、コノ二辭ハ他ノ副用靜辭ノ如ク自由ニ或ル文素ニ副へ用キラルベキ用法ヲ有セズ、寧ロ擬似ノ性質ヲ有スルモノトシテコノ種類中ニ攝收セラル、ニ過ギザルヲ思念シテ會得スベキモノナリ。

ばかり

〇咏歎ノ副用靜辭

コノ他、辭的準體言ノ「ばかり」「だけ」ノ上掲ノ「のみ」ト同義ニ使用セラル、モノガ例へバ、「このひとばかりゆるされたりせめてかれだけ」コノ種類ニ入ルベキモノトナル類ニ至リテハ、續日本文典要義ニ説クベシ。咏歎ノ副用靜辭ハ、或ル情味ヲ有スル咏歎性ノ辭ニシテ、之ニ屬スルモノハ、「はや」「を」「も」「な」「や」「及」「び」「よ」等ナリ。(コノ他「い」「え」「ろ」ノ如キ咏歎ノ副用靜辭アリ「は」「と」此等ハ「や」「が」裝定素ニソフ場合アルヲ除キ、裝定素以外ノ或ル文素ニソヒ、其々

はや

ガ有スル特殊ナル咏歎性ノ情味ニ伴フ用法上ノ異同ヲ存スレド、要スルニ、其ノ靜辭ハ、全ク任意ニ取捨セラルベクシテ、文ノ構想的結合ノ姿體ヲ動かスニ至ラズ。(「よ」ハ、他ノ咏歎ノ副用靜辭ト異ナル所アリ、連體活ノ下ニソフ場合ニハ、例へシテ咏歎文ヲ成スニ至ル。コノ故)「は」「と」種ノ辭ノ有無ハ、決シテ文性ヲ左右スルコトナシ。(スナハチ、咏歎ノ副用靜辭ノソヘルモノハ、咏歎文ヲ成スニ至ラズ)而シテ、コノ種ニツキテ特ニ注意スベキハ、ソガ從素ニソフ場合ノ頗ブル多キコトナリ。コノ種ノ辭ハ、「や」「よ」外、多クハ普通ノ文中ニ使用セラレズナリヌルノミナラズ、散文ニアリテハ、前後ノ關係上ヨリ來ル緩急ヲ明ニスベキ長文ヲ擧グルニアラザレバ、其ノ用法ヲ解シ難カルベキガ故ニ、今ハ、若干ノ古歌ヲコ、ニ擧ゲテ、其ノ性質ノ一端ヲ解スルニ便ニス。

はや きみが すむ やどの こずゑを ゆくく と、 かく、
 る、 まて に かへりみ し はや。拾遺集。
 を たち とまり、 み て を わたらむ。もみぢは は、 あめ

よや な も

と ふる とも みず は まさら じ。古今集。
 も あき たち て いくか も あらね ど、このねぬ
 る あさげ の かぜ は たもと すじし も。拾遺集。
 な あほぞらの おもは こと も はづかし な。さしあ
 ふき つ、かくて すごさ ば。拾玉集。

「や」ト「よ」トハ、他ノ咏歎ノ副用静辭トハ異ナル所アリテ、(「は」ハ「や」ハ、副用静辭ノ「は」ハ「や」ハ、キモノノ情味ヲフクメテ咏歎ノ副用静辭ノ「や」ハ「は」トヘタルガ、オノツカラ一熟辭トナリシモノ、
 「を」ハ、定格静辭ノ「を」ヨリ轉用セラレタルモノニシテ、固ヨリ別ナルベキモノナレド、「な」ハ「や」
 「よ」ト共ニ本來的ニコノ種類ノモノニシテ、就中「な」ハ、類ナル所アルニカ、ハラズ、ナ
 ホ其ノ間ニ種々ノ性質上ノ異點ヲ有ス。要スルニ、辭毎ニ相等シカラザル性質上ノ異點ヲ有
 スルハ、咏歎ノ副用静辭ノ特色ナルガナカニ、「や」寧ロ、文末(モ、シク、ハ、文ノ從素タリ得
 ベキ或ル形)ニソフヲ常トシ、マタ、文素ヲ成サザル體言ニソフヲ常トス。例
 へば、うれしや、おもへや、あらいたや、太郎や、ゆけよ、こゝろば
 そさよ、次郎よ、如シ。(コノ「や」ハ、太郎や、ノ如キモノナニツ重ネテ、太郎や、
 失ヒ、「うれしや、うまや、を」と「や、かくや」とノ如ク、上ニイヘル、擬單文ヲ成ス場合ニ
 副用静辭トナルト「と」同シ様ニ使用セラル、ニ至リ、其ノ「や」ノ用法ハ、更ニ轉ジテ、「と」
 と「あめや、みぞれ」とふる「うたや、詩」など「な」よむ「如キ一種ノ套語」
 法ヲ出スニ至レリ。此等ノ事ニツキテハ、ナホ、續日本文典要義ニイフヲ見ルベシ。

「や」ハ、マタ、古クハ、あま^二てる^一 ひの み^二かけ^一 あ^二ふみ^一 の か^二じみ^一 や^二ま^一 はる
 の の に なく う^二ぐひす^一 ナドイフ場合ノ装定素ノ下ニソヒテ、あま^二
 てる^一 や^二 ひの み^二かけ^一 あ^二ふみ^一 の や^二 か^二じみ^一 の や^二ま^一 はる の
 の に なく や^二 う^二ぐひす^一 ノ如ク用キラレタルコトアリテ、今モ、文體
 ニヨリテハ——(特ニ歌ナドニ)——便宜上使用シ得ベキナリ。コレ、咏歎ノ
 副用静辭用法中ノ例外ナリ。

元來、コノ咏歎ノ副用静辭ニ於イテ、文末(モ、シク、ハ、文ヲ終フベキ形體ヲ存ス
 ル或ル叢語ニソフコト多キハ、はやノ「は」ガ普通ノ副用静辭ヨリ來リ「を」ガ定
 格静辭ヨリ來リタル史的關係ヨリシテ特殊ノ情味ヲ有スルヲ除キ、意義ノ
 性質上、一文(モ、シク、ハ、文ヲ終フベキ形體ノモノヲ、輕ク擬體法ニ準ジテ考へ、
 緩クソノ下ニ言ヒソフルコトトスルヲ得ベキモノナルニ依ルコトニシテ、
 ソノ言ヒソヘラル、關係ノ概念ハ、殆ンド、嚴格ナル意味ニ於イテノ構想的
 結合ノ關係ニアラズ。コレ、副用静辭ヲ兩分シテ、咏歎ノ副用静辭ト普通ノ
 副用静辭トニ別タムヨリハ、前者ヲ以ツテ、後者ニ附屬スベキ被攝類トスル

○續用靜辭

ヲ適當ナリトスル所以ニシテ、マタ從素ノ下ニツフニカ、ハラズ之ヲ採ツテ從屬靜辭ニ收メズシテ副用靜辭中ニ置イテ疑ハザル所以ナリ。續用靜辭ハ「ば」「ど」「とも」及ビ「を」「が」も等ニテ其ノ用例ノ一斑ヲ擧グレバ左ノ如シ。

て あめ ふり て、 つち かたまる。

うち は あかるく し て、 そと は くらし。

需要 おほく し て、 供給 すくなし。

は かぜ ふか ば、 はな ちら び。

かく し あか ば、 不平 を となふる もの なかる べし。

われ ゆけ ば、 かれ きたる。

かぜ ふけ ば、 なみ たつ べし。

ひとたび て を くだせ ば、 みな かく の ごとし。

ど

ど あめ ふれ ど、 かぜ いて ず。

さ は あもへ ど、 いか が あら び。

ども (コノ「も」ハ元來副用靜辭ノ「も」ニ上テ副用靜辭ヲ「か」フ條ニ於ケル註文中ニ「言」セル「も」ナレド「ど」ト一熟辭ヲ成セルモノト見ルベク、レバカクハ擧ゲタリ。)

み、 を つけ て きけ ども、 さら に きこえ ず。

か、 ばかり の こと と おもへ ども、 いかん と も す

べから ず。

とも* ひと は まよふ とも、 われ は まよは じ。

かぜ つよ び とも、 なに か あら び。

*「とも」ハ其ノ本原ニ「ト」トシテ「も」ノ如キ疊語ヨリ來リ、其ノ「し」テ「音」カリテ成レルモノナレド、今ハ「タ」其ノ情味ヲ有スルノミニテ、全クノ熟辭ト成レルナリ。

續用靜辭トシテ「に」「を」「か」「も」ハ元來他種ノ靜辭ノ轉來セシモノニテ、「ハ」定素靜辭ヨリ轉移シ、「ハ」ハ副用靜辭ヨリ轉移シ、「が」ハ副用性定格靜辭ヨリ轉移シ、「ハ」ハ副用靜辭ヨリ轉移シ、「を」ハ副用性定格靜辭ヨリ轉移シ、「ハ」ハ副用靜辭ヨリ轉移シ、「も」ハ副用靜辭ヨリ轉移シ、「ハ」ハ副用靜辭ヨリ轉移シ、續日本典要義ニイフナ見ルベシ。其ノ流用ノ廣狹モ、時代ニヨリ文ノ種類ニヨリテ消長一ナラズ。ココニハ、タ、最普通ナル用例ヲ示スベシ。

に	は	を	が	も
くまじとおもひしに、たづねきたりぬ。 そのことのはもいまだかわかぬに、すてに、 かゝる態度をあらはせり。 おなじ日本のひとなるを、など、かくも敗徳 のわざをあへてする。 七時もすてにすぎぬを、約せしとも かげもなし。 はじめはあしきひととおもひしが、よくまじ はれば、さにもなかりけり。 よべはかならずよからむとおもひしが、おも ひのほかのそらとはなりぬ。 あめふるとするも、さしたることはあらざる べし。 所々たづねしも、つひにあはざりき。				

從屬性續用辭

て	な _て	な _ば
從屬性續用辭ハ、 <u>て</u> 「な _て 」「な _ば 」「て _ば 」「せ _ば 」「ま _{せば} 」「ま _{しかば} 」「な _{ましかば} 」 「て _{ましかば} 」ノ類ニシテ、今ハ、全ク一ツノ辭トハナリヌレド、元來他ノ語ト 續用辭トノ結合シタルモノナル關係ヨリ、其ノ續用辭トシテ、ノ功用ヲ 全ウスルト共ニ上ナル用言作用言ニ從屬シテ、其ノ用言ニ附屬スベキ、或ル 關係的意義ヲアラハスコト、恰モ從屬性ノ辭(從屬靜辭モシクハ從屬動辭)ノ 如クナル功用ヲ成スモノナリ。 <u>て</u> (ハ _テ 「 <u>て</u> 」ノ約合ニヨリテ成レルナリ。但シ、其ノ「 <u>ず</u> 」 「ハ _テ 」シテ「 <u>し</u> 」ヲ省カリシモノナリト知ルベシ。) 汽車より <u>は</u> せて、汽船にてゆきたり。 あめ <u>は</u> ふらで、くものみたちたり。 <u>な_て</u> (「 <u>に</u> 」 <u>「あら</u> 」 <u>「て</u> 」ヨリ出テ、「 <u>ら</u> 」音省カリ、「 <u>に</u> 」 <u>「あ</u> 」ノ音約合シテ「 <u>な</u> 」トナレルナリ) 一 上ノ分類ニ關スル性質ヲ示ス爲ニ、古歌ヲ以ツテ擧グ。 今ハ全ク廢レタレド、文典 なか <u>く</u> にさえ <u>は</u> さえ <u>な_て</u> 、うづみ <u>び</u> の <u>い</u> さ て <u>か</u> ひ <u>な</u> き <u>よ</u> に <u>あ</u> る <u>か</u> な。新古今集。 <u>な_ば</u> (「 <u>に</u> 」 <u>「あら</u> 」 <u>「ば</u> 」ヨリ出テ、「 <u>ら</u> 」音省カリ、「 <u>に</u> 」 <u>「あ</u> 」ノ音約合シテ「 <u>な</u> 」トナレルコト) 一 意義上用法上ニ一種ノ特性ヲ帶アルニ至レルモノナリ。)		

あめ ぶり いて なば ひとく かへり きたる べし。
 かく いひ なば、ひと、みな わらふ べし。

てば (て、あら、ばヨリ出テ、其ノ、あら、音カリ) 但シ、今ハ廢レタリ。

せば (動辭、キ、ノ、連體活、シ、三、に、て、あら、ば、ノ、ツ、ヒ、タル、結合、ヨリ、來、レル、ニ、テ、上、あら、ト、省、カリ、シ、下、て、下、約、合、シ、テ、セ、下、ナ、リ、テ、成、レル、モノ、ナ、リ。混、成、二、段、爲、相、作、用、言、ノ、未、定、活、セ、ヨ、リ、ハ、ツ、バ、ケ、ル、モ、ト、混、同、ス、ル、コ、ト、ナ、キ、ヲ、要、ス。)

不具に だに なかり せば、など か は、ひと に を
 とる べき。

をとこ と だに うまれ たり せば、ひとひも、かく

ませば (釋雜靜辭、まく、フ、ソ、ハ、ル、下、三、あり、ソ、ヒ、更、ニ、セ、バ、チ、ソ、ヘ、タル、結合、ノ、音、上、あり、ト、ノ、省、カリ、テ、オ、ノ、ツ、カ、ラ、一、熱、辭、ノ、如、ク、ナ、レ、リ、シ、ナ、リ。今、ハ、全、ク、廢、レ、タ、レ、ド、文、典、上、ノ、性、質、ヲ、示、サ、ム、ガ、爲、ニ、古、歌、ニ、依、リ、テ、其、ノ、例、ヲ、舉、グ。)

て ある べし や。
 いふ こと の たがは ぬもの に あら ませば、のち
 うさ こと は きこえ ざら まし。 後撰集。

ましかば

ましかば (從屬動辭、まし、ノ、古體、ノ、連用活、まし、ク、次節從屬動辭、まし、ノ、活用、ヲ、示、シ、タル、條、下、ノ、註、ヲ、參、照、ス、ベ、シ。ヨ、リ、あ、ら、ば、ト、ツ、バ、キ、タル、モノ、ノ、ノ、ク、あ、合、し、て、か、下、ナ、リ、音、者、カ、リ、テ、一、熱、辭、ノ、如、ク、ナ、リ、タ、ル。)

かゝる とき に、あめ くら ましかば、いかに うれし、
 から ましと ちもふ ほどに、くも いで きたり。
 よの なかに あら ましかばと ちもふ ひと、なき
 が あほくも なりに ける かな。 後撰集。

なましかば (元來、に、あら、ましかば、ノ、に、あ、約、リ、テ、な、下、ナ、リ、音、者、カ、リ、テ、一、熱、辭、ノ、如、ク、ナ、レ、リ、シ、モノ、ナ、リ。ヨ、ノ、な、に、あ、り、フ、ツ、バ、マ、リ、テ、ナ、リ、テ、フ、動、辭、ト、ナ、レ、ル、モ、ト、語、源、ハ、同、ツ、ケ、レ、ド、ソ、ノ、語、尾、省、カ、リ、シ、ニ、ハ、ア、ラ、ズ、ト、知、ル、ベ、シ。彼、ハ、體、言、モ、シ、ク、ハ、用、言、動、辭、等、ノ、連、體、活、ニ、ツ、ヒ、コ、レ、ハ、用、言、(作用、言)ノ、連、用、活、ニ、限、リ、テ、ソ、フ、チ、以、ツ、テ、見、別、ク、ベ、シ。上、ノ、な、て、な、は、フ、ナ、ニ、テ、從、屬、靜、辭、從、屬、動、辭、中、ニ、モ、コ、ノ、ナ、チ、有、ス、ル、モ、若、干、ア、リ。ナ、ホ、下、文、及、ビ、次、節、ノ、註、文、中、ニ、説、ク、所、ヲ、參、考、ス、ベ、シ。細、シ、キ、コ、ト、ハ、續、日、本文典要義、續、日、)

ちもひ いで て とふ ことのは を たれ み まし。 み
 の しらくもと なり なましかば。 後撰集。

てましかば (て、あら、ましかば、ノ、あ、ら、音、者、カ、リ、テ、一、熱、辭、ノ、如、ク、ナ、レ、リ、シ、モノ、ニ、テ、其、ノ、て、ハ、元、來、續、用、靜、辭、ナ、リ、シ、ナ、リ。)

ちくやまに たて てましかば、なきさ ことぶ ふなきも

てましかば

なましかば

〔熟辭〕

糅雜性續用靜辭

注意。いまはもみじしなまし。拾遺集。

コ、ニ學ケルモノノ類就中「まじればましかば」なましかば「てましかば」ノ如キハ、一種ノ詛性套語ヲ成スモノト言ヒ得ベキモノナレド、(序編六参照)カクノ如キハ、表ニ體言モシクハ用言ヲアラハサザルガ放ニ、其ノ内部ニ用言ノ意味ヲ想像スルコト頗アル著明ナルモノアラハサザルハラズ、概シテ構想的結合ニツキテノ或ル種ノ關係ヲアラハス補助ノ語スナハチ辭トシテノ性質ヲ享有スルコトナリ、一辭トシテハヤ、彪雜ナルモノアルニモカ、ハラズ、文典上、一種ノ熟辭スナハチ辭トシテ熟語トシテ論セザルベキモノト辭中ニ收容セラルベキ疑似ノモノトノ區別ヲ知ル

糅雜性續用靜辭ハ「にて」と「ニ」ニツニテ、一ハ定格靜辭ノ「に」ニ或ル一定ノ作用言ツヒテ「ソヒテ」にありて「に」より「て」に「し」て「ノ」如クイフベキモノガ其ノ作用言ノ義ヲ包含セシメテ其ノ作用言ヲ省キイフコト多カリシ慣性ヨリ「にて」テフ一熟辭ヲ成スニ至リ、(ハ「コ」にて「フ」ウチニ包含セラルベキ意義ハ、四段爲相作用言ノ「及」及び「あり」ノ如キ義ニ使用セ) 一ハ定格靜辭ノ「に」ニ或ル一定ノ作用言ツヒテ「ソヒテ」とおもひて「と」「いひて」と「し」て「ノ」如クイフベキモノガ前ノト同ジ様ニ其ノ作用言ヲ省キイフコト多カリシ慣性ヨリ「と」テフ一熟辭ヲ成スニ至リシニテ、(「コ」と「フ」ウチニ包含セラルベキ意義ハ、四段爲相作用言ナル「おもふ」(但シ「こゝろ」

「す」は「つす」ノ義ニ引キツケラレタルモノ或ハ「いふ」但シ、文勢上「いひて」ノ下「も」ノ情味ヲフクムル約束ヲ成スモノ多シ「モシクハ」おもふ「ノ」義ニ使用セラレタル混成二段爲相作用言ノ「す」ノ概念) 共ニ糅雜靜辭ノ性質ヲ帶有スル續用靜辭トナレリシナリ。

にて

にて

みやこにてありてまなぶ。

そはわれにて(に)に、かれにあらず。

これはあきらかに(に)に、かればあきらかならず。

出所 分明にて(に)に、毫もうたがふべきところなし。

こゝろがらにて(に)に、よりて、いかさまにもなるべし。

そのつみにて(に)に、よりて、めしとられたり。

そのふみかはむとて(に)と、おもひて、いてたつ。

ひだりにいてむとて(に)と、あやまちてみぎにいてたり。

とて

定形ヲ以テ命令ニ用キラル、事トナリ居リ(今ハ命令ノ表白ヲ完全ニスル爲メシ時代アルコト既ニイヘルガ如シ第三編二三) 從屬靜辭トシテ、二段一段及ビ之ニ類スル活用ノモノハ、ミハ未定活ニソフモノトナレルナリ。

次ギニ、連用活ヲウクルモノハ、

けらし (連用活ヲウクル動辭「下ニ」にてある「らし」ソヒテ、「ト」ある「ト」ハ「省カリ」キ「ト」にて「約合シテ」け「ト」ナリ「けらし」テ「フ」一熟辭ヲ成セルモノナリ。

ゆき ふり けらし。いと いぶせかり けらし。

しが (連用活ヲウクル動辭「下ニ」ニ「連體活ナル」シ「下ニ」ニ「糅雜靜辭」ノ「ガ」ソヘルモノナレド、一ハ普通ノ文ニハ全ク廢レテ殆ンド復活スベクモアラズナリニタレド、古調ノ歌ニハ) ナホ用キラル、コトアルベキガ故ニ古歌ノ例ヲ以ツテコ、ニ擧グルコトトセリ。

ひさかたの つきの かつらも をる ばかり、さへ
のかぜをも ふかせ て しが な。拾遺集、

* (コノ「下ニ」ニ「フ」副用性從屬靜辭ニシテ、一種ノ情味ヲアラハスタメニ挿入的ニ言ヒソヘラル、ノミニテ、大體ニ關セヌ語ナレバ、言ヒツマケ上、アリテモナクテモ變ルコトナキナリ。下ノ「な」ハ「詠歎」ノ副用靜辭ナリ。直チニ連用活ニツバケルモノニテハ「かひ」ガ「れ」を「さや」の「な」カ「み」しが「け」れ「なく、よこほり」ふせる「さや」の「な」カ「ま」古今集ノ如キモアレド、大方ハ上ニ副用性從屬靜辭にて「ワ」チナリソヘテ「イ」フ「ト」ナリテ、直チニツバケルモノニシテ、ハ「早ク」ヨ「リ」廢レタリ。ナホ續要義ノ説明ヲ見テ知ルベシ。)

そ	な	い	ひ	そ。	おも	ひ	な	かけ	そ。			
ね	た	え	な	ば、た	え	ね。	ゆ	き	ね	かし。		
てよ	は	やく	い	ひ	て	よ。	い	ま	は	やめ	て	よ。

ニテ、コノウチ、そハ、必ラズ、上ニ、下ニイフ副用性從屬靜辭ノ「な」ヲ言ヒソヘテ、相牽引シテ、制止ノ義ヲアラハスコトトナルナリ。

次ギニ、結終活ヲウクルモノハ、

や	き	み	ゆく	や。	か	れ	ま	さ	れ	り	や。		
など	ゆく	べ	し	や。	一	錢	を	も	あ	た	へ	む	や。
ゆ	く	べ	し	や。	は	*	あ	た	へ	む	や	は	*
な	ゆく	な	な。	わ	れ	を	わ	す	る	な。			
かし	これ	なり	かし。	さ	は	あ	ら	じ	かし。				

* (上文副用靜辭「や」カ「ナ」條ナリル註文ヲ参照スベシ。)

ニテ、コノウチ「かし」ハ、結終活ヲ承クルモノトイハムヨリハ、寧ロ、一旦文ヲ終
 リヌル語法ノ末ニ更ニ或ル情味ヲ加ヘテ其ノ述定ノ姿勢ヲ新ニスルモノ
 ニシテ「ゆけ かし」おもへ かしノ如ク已定活ニテ終ルベキモノニモソヒ
 マタ「そ は われ なる ぞ かし」ノ如ク轉活ニ關係ナキ辭ニテ終ルベ
 キモノニソフコトモアリ。（「そなん」か「や」ノ結ビノ連體活ナドニハソハズ。コレ、カ、
 ル姿體ノ文ハソノ「か」リ「む」スビノ關係ヨリ、文ヲ結ブ概念
 固定シテ、其ノ述定ノ姿勢ヲ改ムベキモノノ下ニ任意ニ添加セラレ、ナ得ベキハ、
 辭ガカ、ル結ビノモノノ下ニ任意ニ添加セラレ、ナ得ベキハ、
 改ムルニ及バズシテ、タ、
 ラル、ノミナレバナリト知ルベシ。）ソノ添加ノ状態、一見、甚詠歎ノ副用靜辭ニ
 近キ觀アレド、其ノ添加ノ影響ガ、文ノ構想的結合ノ關係モシクハ文性ニ波
 及シテ、其ノ姿體ヲ動カスニ至ルベキ情味ヲ有スル點ニ於イテ、彼此ノ間ニ
 ハ、全ク相異ナル性質ヲ伏スルナリ。（「ゆけ」おもへ「トイヘ」命令トナルベキモノナル
 ナル類ニテ、思
 ヒ辨フベシ。）「ゆけ」おもへ「トイヘ」命令トナルベキモノナル
 又、反語法ヲ成ス「や、モ、已定活」ノ下ニソフ場合アリ。「いかりて ゆか め や
 おもは ざら め や」（「用言」ノ「已定活」ノ下ニソヘル例モアレド、多クハ「む」ノソヒテ、已定
 活トナレルモ）ノ如シ。コハ、特ニ情致ヲ強メテ、イフ場合ニ用キラル、ニテ、ヤ

か

ヤ古キ語法ナリ。（次ギニイフ連體活ヲウクル「か」ノ反語法ヲ成ス場合）
 連體活ヲウクルモノハ、

か* なに を おもへる か。 おや を おもふ か。

かくても、わざは ならざる か。

かくても、ゆるむる べし とする か。

*（「コノ」か「ア」上ニ動辭ナリ）連體形なるアリテ、其ノ上ニ體言アルベキ場
 合ニ、其ノ「なる」ヲ省キテ直ニ體言ヨリ言ヒツクケラル、コト多シ。
 次ギノ「かは」モ、亦體言ノ下ニアルベキなるモシクハ「なら」むヲ省ク
 コト多シ。サレド、體言サウクルニハアラズ。誤解スベカラズ。

かは

かは* かくても なし うる かは。 なし う べき かは。

*（元來「や」「か」ソヒテ反語法ヲ成スハ、コノ二辭ノ疑問的ニ用キラル、下
 ニ之ニ對スル否認形ノ思念ヲ含メタルヨリ起リテ、オノヅカラ一種ノ
 語法ヲ成スニ至レルモノナルガ、其ノウチ「や」「ハ」本義ニ於イテ、疑問ニ用
 キラル、モ、ナホ、我ニ於イテ思念スル所アル、或ル情味ヲ言外ニ籠ムベ
 キモノナルガ故ニ、例ヘバ「ゆく や」トイヘバ、多分「ゆく だらう」
 然レ多分「ゆか ぬ だらう」レノ如キ、或ハ之ニ敬意ヲ加ヘタル情味
 言外ニ籠メテ、問フカ、或ハ「どうだ、らう」ノ如キ、或ハ之ニ敬意ヲ加ヘタ
 ル情味ヲ持シテ、相談ヲ懸ケルガ如ク、先方ノ意向ヲ伺フガ如クニ問フ
 コトトナルガ如シ。語法ナルコトハ、續日本文典要義等ニイフベシ。其
 ノマ、ニテ、ヨク反語法ナルコトハ、續日本文典要義等ニイフベシ。其
 於イテ、純粹ノ疑問ナルガ故ニ、反語法ヲ成スベキ情味ノ含蓄ヲ會得セ
 シメ難キ傾向ヲ存シ、從ツテ從屬靜辭トシテハ、其ノ本義ノ場合ト紛ラ

かな

かな* うせ
かな。

に

し

ひと

を

おもふ

かな。

あ

ほい

なる

ハシキチ以ツテ、古クヨリシテ、多ク用キラレズ。(古クハ、おひぬ、とて、など、かわが、み、を、せめぎ、けむ、おひ、ず、ば、け、ふ、に、あ、は、ま、し、も、の、な、か、古今集、ノ、如キモノ、イサ、カアルノ、ミ、ニ、テ、今、ハ、殆、ド、用、キ、ズ。コ、ハ、ニ、舉、ゲ、タ、ル、か、ノ、最、終、ノ、例、ナ、ル、す、る、か、ノ、如キモノ、ニ、或、ハ、反、語、法、ヲ、成、ス、場、合、モ、ア、ル、ベ、キ、ケ、レ、ド、此、モ、普、通、ニ、ハ、疑、問、ノ、義、ナ、ル、ベ、シ、こ、か、ヨ、リ、起、レ、ル、反、語、法、ニ、テ、ハ、古、ク、ハ、か、ノ、下、ニ、詠、歎、ノ、副、用、静、辭、ノ、モ、ソ、ノ、場、合、ニ、反、語、法、ヲ、成、セ、ル、モ、ソ、ノ、ア、ヘ、タ、ル、ナ、ホ、多、ク、ラ、ズ、中、古、以、來、今、ニ、及、ブ、マ、デ、か、ノ、下、ニ、副、用、静、辭、ノ、モ、ソ、ノ、ア、ヘ、タ、ル、ナ、ホ、多、ク、ミ、廣、ク、行、ハ、レ、殆、ド、か、ヨ、リ、起、レ、ル、反、語、法、ヲ、成、ス、ベ、キ、用、ニ、當、ル、ト、認、ム、ベ、キ、マ、デ、か、ハ、テ、フ、一、熱、辭、ヲ、成、シ、テ、反、語、法、ヲ、成、ス、ベ、キ、用、ニ、當、ル、ト、認、ム、ベ、キ、マ、デ、ノ、モ、ト、ナ、レ、リ。コ、レ、か、ハ、ノ、特、ニ、一、辭、ト、シ、テ、從、屬、静、辭、ニ、列、ス、ベ、キ、所、以、ナ、リ。)

* (コノ「かな」ハ、從屬靜辭ナル上、掲ノ疑問ノ「か」ヨリ轉ツテ、詠歎ノ情ヲアラハスモノトナレル「か」ニ、詠歎ノ副用靜辭ナル「な」ソヘルモノナレド、古クヨリ、「か」ソノマ、ニテ、詠歎ノ情ヲアラス從屬靜辭トシテ用キラル、コトハ、多カラデ、多クハ、ソノ下ニ、詠歎ノ副用靜辭トシテ用キラル、於イテシタリ。中古以來、か、も、ノ、使、用、漸、ク、廢、レ、テ、か、な、之、代、ル、コ、ト、ナ、リ、か、ハ、ミ、ニ、テ、詠、歎、ノ、情、ヲ、ア、ラ、ハ、ス、コ、ト、ノ、如、キ、ハ、今、ノ、文、語、ニ、ハ、全、ク、絶、エ、果、テ、タ、ル、チ、以、ツ、テ、か、な、チ、以、ツ、テ、一、熱、辭、ト、シ、テ、認、ム、ベ、キ、ハ、論、ナ、キ、コ、ト、ナ、リ、ト、ス。但シ、さ、う、か、ち、さ、う、か、な、ノ、状、態、ト、同、ジ、近、キ、義、ニ、イ、フ、か、ハ、疑、問、ノ、か、ヨ、リ、詠、歎、ノ、か、チ、起、シ、シ、古、人、ノ、状、態、ト、同、ジ、近、キ、義、ニ、イ、フ、か、ハ、疑、問、ノ、か、ヨ、リ、詠、歎、ノ、上、ニ、現、レ、セ、シ、メ、ツ、ア、ル、モ、ノ、ナ、リ。)

ぞ

ぞ* あめ
ふり
いづ
べき
ぞ。

ふ

り

い

づ

べ

き

ぞ。

よ

も

ふ

け

ぬ

る

ぞ。

そ

は

な

に

なる

ぞ。

な

に

なる

ぞ。

* (コノ「ぞ」ハ、上ニ「なり」ノ連體活「なる」アリテ、其ノ上ニ體言「アル」ベキ場合、ニ、ソ、ノ、な、る、チ、省、キ、テ、直、チ、ニ、體、言、ヨ、リ、言、ヒ、ツ、バ、ケ、ラ、ル、コ、ト、多、ク、レ、ド、條、下、ニ、イ、ヘ、ル、ト、一、様、ニ、思、フ、ベ、キ、ナ、リ。)

よ* あめ
の
ふり
いで
ぬる
よ。

あ

め

の

ふ

り

い

で

ぬ

る

よ。

あ

い

に

ける

よ。

* (コノ「よ」ハ、下ニ詠歎ノ副用靜辭「よ」トノ關係ニツキテハ、既ニ「い」ヘルガ如シ、口語的ノ特別ナル語調ヲ寫ス場合ノ外、今ニ於イテ使用セラル、コトナシ。但シ、あ、め、の、ふ、り、い、で、ぬ、る、よ、と、み、え、て、ふ、き、く、ヨ、リ、間、接、ノ、地、位、ニ、置、カ、ル、コ、ト、シ、タ、ル、文、末、ニ、ハ、必、シ、モ、口、語、的、ノ、特、別、ナ、ル、語、調、ヲ、寫、サ、ム、ト、ス、ル、ニ、ア、ラ、ズ、シ、テ、其、ノ、間、接、ノ、地、位、ニ、置、カ、レ、タ、ル、文、末、ニ、言、ヒ、ソ、ヘ、ラ、ル、チ、得、ベ、シ。)

ニテ、已定活ヲウクルモノハ、既ニ「い」ヘル如ク、か、し、ノ、一、語、ガ、已、定、活、ニ、テ、命、令、ハ、用、ヲ、成、ス、ベ、キ、モ、ノ、下、ニ、ノ、ミ、言、ヒ、ソ、ヘ、ラ、ル、ベ、キ、モ、ノ、ト、ス。

コノ五轉活ヲウクル約束ト、從屬靜辭ノ性質トノ關係ニツキテハ、下節ニイフ從屬性ノ動辭、スナハチ從屬動辭ノ性質トソノ五轉活ヲウクル約束

副用性從屬辭

トノ關係ト共ニ、尋釋スベキ微妙ナル學理ヲ存スレドモ、説明ヤ、複雜ニ
亘リ、少シク高遠ニ馳スル嫌ヒアルヲ以ツテ、今ハ之ヲ避ケテ別著ニ於イ
テスルコトトシタリ。上節(本編四)ニ於ケル論辯ト關與スル所アルガ故ニ、
コ、ニ一言ヲ陳ズ。
副用性從屬辭トハ、大體ニ於イテ從屬辭ニ屬スベキ性質ヲ享有スルモ、
マタ、甚副用辭ニ似タル性質ヲ領有スルモノヲイフニテ、「て」及「び」ナノ三
辭アリ。

其ノ「な」ハ、上例中ニ擧ゲタル「な」ゆき、「そ」ノ類ノ「な」ニテ元來ハ、結終活ヲウ
クル普通ノ從屬辭ノ「な」ナリシナルモ、恰モ「か」ニ從屬辭ヨリ副用辭ニ
轉セルモノアルガ如ク、從屬スベキ作用言ノ下ニ添ハズシテ任意ニ上ニ副
ヘ用キラル、コトニ於イテ、副用辭的ノモノトナリヌレド、副用辭ノ如
ク或ル文素ノ下ニソフモノトハ異ナリテ、ナホ、其ガ從屬スベキ作用言ヲ圍
繞シテ其ノ上ニ副ヘラレ、(作用言ト作用言トガ擬熟語法ノ一團ヲ成ス場合ニ、其ノ中
間ニ挿マル、コトアルハ、上例ノ「ゆき」ナ、まよひ、そ)
場合ノ如シ。サレド、同シ擬熟語法ニテモ「な」ゆき、まよひ、「そ」ノ如ク、其ノ語下モノ上ニソ
ヘ用キラル、コトモアリ又「な」あしく、おもひ、「そ」「な」ひと、を、ころし、「そ」ノ如ク、述定

にて

部ノ外圍ヨリ副フ) マタ、ソガ從屬スベキ作用言ノ下ニ「そ」ヲ置キテ之ト牽引シ
テ、分離シタル一團ヲ成ス所、マタ、一種ノ從屬辭タルヲ失ハズ。コノ故ニ、
今説明セムトスル「にて」ト共ニ、特種ノ名目ノ下ニ從屬辭ニ附屬セシムベ
キコトトナルナリ。

「にて」トハ、時化ニ關スル一種ノ對ヲ成ス情味ヲアラハシテ、動辭「き」、「結」
(連體「し」か「定」ト活ラク)及「び」ニ他ノ語ノ結合シテ成レル從屬性ノ辭ノ作用
ト次節ニ擧ケルガ如シ。
言ニ從屬スル間ニ副ヘテ用キラレ、其ノ下ナル辭ト共ニ上ナル作用言ニ從
屬スルコト、左ノ用例ノ如キモノナリ。

かく	なり	に	き。	かく	ぞ	なり	に	し。
かく	こそ	なり	に	しか。	かく	なり	に	けり。
かく	いひ	て	き。	かく	ぞ	いひ	て	し。
かく	こそ	いひ	て	しか。	かく	いひ	て	けり。

「き」ニ他ノ語ノ結合シテ成レルモノトハ、動辭「けり」(「き」ノ從屬シタルモノニ、
「あり」チソヘテイフトテ、
「に」テ「あ」ラ「ト」省略セラレ、
「む」ナ
トナリ「けり」テフ動辭ヲ成シナリ。)「けむ」(「き」ノ從屬シタルモノニ、
「に」テ「あ」ラ「ト」省略セラレ、
「む」ナ
トナリ「けり」テフ動辭ヲ成シナリ。)

がに

維持シテ殆んど一種ノ詠成套語トシテモ
（コレハ、古キ辭ニシテ、今ハ全ク廢レタレド、其ノ所屬ヲ明ニイフベシ。）
コ、ニ列ヌ。語源ナドニツキテハ、次ギ「なす」ト共ニ續要義ニイフベシ。

なく なみだ あめ と ふら なむ。わたりがは、みづき

さり ならば、かへり くる がに。古今集。

なす

なく こ なす したひ くる ひと……

たまも なす うかべ ながせり。やま なす なみ。

の

たれの にも あれ、とり すつ べし。

詩は かの きみの なん まされる。

これは ひとつの ならむ など、おもひ よす。

ひとづの よしと いふの を とり いる べし。

*（コノ「の」ハ、前節ニイヘルガ如シ。コノ末ノ例ノ如キモノモ、前節
全ク正體言的ノ力ヲ持ツニ至レルモノナルヲ推シテ、始メノ例ノ如キ
モノニツキテモ、タマ境遇的ニ擬體法ヲ成スノミニハアラズ擬體法如キ
性ヲ成スニ至レリシモノナルヲ認ムベキナリ。マタ、コノ末ノ例ノ如
レキ「ハ、口語ニハ常ニ用キラル、モイフモ今ノ文語ニテハ久シク用キ
ラザリシノミナラズ、古キ例アリトイフモ今ノ文語ニテハ久シク用キ

注意。

（コ、ニ擧ゲタル「の」外、古代ノ語法ニハアレド「あめ」つちの「いや」とほな
がくノ如ク言ヒテ「あめ」つちの「いや」とほながくノ如キ義ニ聞
ユルヨリ、人ナシテ、コレハ、所謂「言ヒ懸ク」スナハチ、語詞ノ兼用法ニテ、文主トナレ
モノノ遠ク長ク榮ユカム由ナドイハムニ、其ノ情味ヲ深クセム爲ノ修飾ノ料
ニトテ、イト遠ク長クカレベキモノナルヲ引キ「あめ」つちの「いや」とほ
なが「テ」フ概念ヲ提ゲテ、「いや」とほながく……トイフ所ニ言ヒ懸ケタルモノニ
テ、ソノ「の」ガ「あめ」つちノ如キ語ニソフハ定素辭トシテナルモ、「こ」と「チ」装定ス
ルニハアラズシテ、とほなが「チ」装定シ、ソノ「とほなが」ガ「とほなが」トシテナルモ、「こ」と「チ」装定ス
レタルコトハ、文典的、關係ニ於イテ、毫モ變化「チ」ノ性質ニ起スコトナキナリ。
又「あめ」つちの「の」とも、に「ひさしく」ナドノ如ク、文主タルモノノ、言ヒカケ
ノ形状（スナハチ「ひさしく」ナ領スル装定素ノ主材）スナハチ「あめ」つちトノ並行チア
ラハス爲ニ、特ニ「とほ」ニ「テ」フ限定素ヲハサメルガ如キモノアリテ、カハルモノハ、定
素辭タル「の」ノ性質ナカスコレトナシ。ソノ「とほ」ニ「テ」フ限定素ヲハサメルガ如キモノアリテ、カハルモノハ、定
素辭タル「の」ノ性質ナカスコレトナシ。ソノ「とほ」ニ「テ」フ限定素ヲハサメルガ如キモノアリテ、カハルモノハ、定
ルモノニシテ、文典的、關係ニ於イテ、毫モ變化「チ」ノ性質ニ起スコトナキナリ。
ベキモノニハアレド、兼用法ノ事ニツキテハ、續日本文典要義ニイフベシ。ナホ、
カハル種類其ノ他ノ兼用法ノ事ニツキテハ、續日本文典要義ニイフベシ。ナホ、
ノ種ノ言ヒ懸ケノ情ヲ成スモノハ、正體言モシクハ境遇的ニ正體言ノ義ニ装定セラ
ナルベキモノト知ルベシ。）

（もの）の * さ は い ふ も の の、こゝろ の うち に は あ

ぼつかなしと おもへるさまなり。

* (コ)のハ、元來、副用靜辭ノ「たけきたり」ナドハ、
「に」レド、イマダ余ク脱化セズシテ、上三ノ「給」
シナレド、イマダ余ク脱化セズシテ、上三ノ「給」
式的ニノミソヘラレタルナリ。必要トスルヲ以ツテ、
一ツノ慣用套語ト見ラレバ、語性論上ノナレド、
成セリトイフコトモアラネバ、語性論上ノナレド、
以ツテ、コノ部類ノモノトシテ認ムベキナリ。コレハ、
ヨリ入りテ、散文ニモ韻文ニモ、多少用キラレタリシ
シク文語ニ用キラレザレバ、今モ、口語ニハ常ニイフ
トモ文典上、其ノ所屬ヲ解シ置クベキ必要アルベクナリ。

(もの) から * はな に こゝろ を とむ べき み に あら

ぬもの から さすが に まちどほき こゝち す。

* (コレ)モ、必ラズ、形式的ニノミソヘラレタル「もの」
ニ入ルベキナリ。「もの」ニツバカザレバ、上三ノ「給」
テ、一切準體言ニ屬スベキモノナリト知ルベシ。例へバ、
「あき」の「くさき」の「しるべ」の「やまかせ」を
「あらし」といふ「らむ」古今集「から」ノ如シ。(コ)ノ
「ホ」もの「から」續要義ノ「意」上ノ「説明」ヲ見テ知
ルベシ。

き

(もの) を * 一戰して やぶる べき もの を、 など か おそる、

ゝ こと の ある。

こゝろ したり せば、 さる あやまち は ある まじかり

ける もの を、 など、 さ は、 こゝろ ゆる したり け

む。

あめ は ふる まじき もの を、 とく もの したまへ

かし。

* (コ)ノ「を」ハ、今ノ口語ニモ多ク用キラレド、古クモ散文ナドニハ多ク用
ル一定ノ辭トシテ、實ニ、定格靜辭ノ「を」ヨリ續用靜辭ノ「を」ニ移リタル過
代ナルモノナリ。程ノモノナレド、「を」ガ續用靜辭トシテ、
ナリテヨリハ、オノツカラ、ソノ「を」ハ、續用靜辭トシテ、
「もの」ナルモノナリ。カノ如ク思ヒ取ラレバ、情味ヲ有スルトナリ、
格靜辭ト續用靜辭トノ中間ニ立ツガ如キ性質ヲ有スルト共ニ、「を」
ニテ「それ」を「當」ツベキ「ス」ナハチ體言的ノ意義ヲ包含スル性質アル
ガ如キ感覺ヲ興フルニ至レリ。コノ故ニ、暫ク採録静辭ニ入ル。(サ)

まゝ * ゆか まく ほし。 さか まく ほし。

ま

ま
なく
けらく
ならく

ま ゆかまほし。 さかまほし。
なく あかなくに、まだきも つきの かくるゝか。やま
の^はにげて いれずも あらなむ。古今集。
けらく 宋儒 いひけらく、大學 は 孔子 の 遺書 なりと。
ならく さくならく、梅花 なほ はやし。

つ

つみ* み つい ゆく。 いしを なげ つい すゝむ。

*「つ」ハ「み」ノ作用言ナ者キテ、其ノ「なげ」ハ「つ」ナリ。結終活ニテ、擬體法ニヨ
リテ、他ノ語ニソヘルマ、限定素的ニ擬單文ノ一文素ヲ成スモノ例ヘ
バ「た」チ「つ」ヲ「ぬ」ヲ「も」ヲ「お」ヲ「ふ」ヲ「如ク」ニツノ文素ヲ重
ル場合ニ限リテ、コノ事アルヲ知ルベシ。委シキモノナリ。續要義ニイフ
ベシ。三「チ」ニ合セタル熱辭ナツクシ。出シシモノナリ。續要義ニイフ
シ、性質、從屬辭トモナク、定素辭ニ似タル點サヘアリテ、而モ其ノ用ナ
シ、或ル意味ニ於テハ、定素辭ニ似タル點サヘアリテ、而モ其ノ用ナ
ナ連想スルニアラザレバ、其ノ正シキ概念ナツクナル結ビタルハ、下ニ「あ
リ」ナ者キタルコトナリ。「つ」ヨリ「あり」ニツバク
ハ、典據アルコトナリ。續要義ニイフベシ。

み

み* ふり み ふら ず み さだめ なし。

あきの たの かりほの いほの とまを。 あら
み、わが ころもて は つゆに ぬれ つい。 後撰集。
あきの の の ひかり さやけ み、もみぢばの おつ、
る かけ さへ みえ わたる かな。 後撰集。

(根辭的糅雜靜辭)
てふ

てふ* 金田一^{キンダ} 一^{イチ} 郎^{ラウ} 一^{イチ} てふ な あり。

*「てふ」ハ「と」イ「ふ」ノ約合シテ一辭トナレルモノニテ、元來ハ一種ノ動辭
ナリシナレド、ナホ動辭トシテ「てふ」ノ類屬ノ古ク行ハレタリシモノ
ニツキテハ、續要義ニイフベシ。今ハ其ノ連體形ノ古語ノ動辭ナルコト
ナリテ、全ク靜辭ニ入ルベキモノトナレリ。其ノ古語ノ動辭ナルコト
ト呼ブベキナリ。其等ノ被攝類トシテ、糅雜性(糅雜性)ノ動辭

(糅雜性聚合動辭)

をや * なんぞ、かならずしも、とつづくに の ためしをひ
 きいでも。みくには、みくになるものをや。
 などかは、ひとにあたふべき。ちのかたみ
 なるをや。

いは、ひや、天下のおもきをや。

* (なや)ニツキテハ、前節(採)雜(靜)

(も) が * よき ひと も が。 とりにも が。

よきをりも が な。 よくも が な。

* (コ)が、元來、副用辭ナルも、ソヘル下ニ、あれ、かし、ナソヘテ、例ヘ
 ノノ、あれ、ト下ノ、音ト省カリ、カ、ハ、濁音ト變ツテ、オノツカラ、ガ、テ、フ、靜
 辭ヲ成スコトナレリシナリ。コノ故ニ、下ニソフテ、條件トス。
 (ナホ、コノ事ニツキテハ、も、ノ意義ナドニモ關係アル理由ナド、委シク續
 要義ニイフベシ) 今ハ、ひと、が、如ク、タ、ガ、下ノ、ミ、イ、フ、コトハ
 廢リ、咏歎ノ副用辭ナルヲ其ノ下ニソヘタルモノノミ行ハル、ガ、故ニ、
 殆ソド、ガ、ナ、テ、フ、一辭ナルカノ如ク、思念シテ用ウル人、多クナリタリ。
 (古クハ、咏歎ノ副用辭も、ナソヘテ、な、が、く、も、が、も、ナド、イ、ヒ、更ニ
 「な、や、」ナソヘテ、な、が、く、も、が、も、ナド、イ、ヒ、更ニ
 「な、や、」ナソヘテ、な、が、く、も、が、も、ナド、イ、ヒ、更ニ
 ノニテ、も、が、ニテ、一辭ヲ成セルニハ、アラザレド、コノ「が」ガ、一轉シテ、動辭

「き」ノ連體活「し」ノ下ニソヒ、一種特別ナル意義ヲ其ノ間ニ籠メテ、一熟辭
 ナ成スニ至レルモノアリ。上文從屬靜辭ノ條ニイヘル「し」ガ、ハ、スナハ
 ナコレ。

二七。動辭ガ從屬繫合ノ二種ニ別タルベク、更ニ寫法說法ノ二種ニ別タルベ
 キコトハ、既ニ上節(本編)ニ圖示シタル所ナルガ、今、其ノ學理ノ大要ヲ示サ
 ムニ、動辭ニハ、用言ガ文ノ從素トシテ立ツニ方ツテノ種々ノ關係的意義ヲ言
 ヒアラハシテ、用言ヲシテ從素トシテノ功用ヲ全ウセシムル補助ノ責務ヲ
 充タスモノアリテ、多クノ動辭ハ、皆、コノ種類ニ屬シ、ヨク動辭トシテノ本性
 ニ當ルモノナリ。例ヘバ、あめ、テ、フ、正體言ト、ふる、テ、フ、作用言トヲ以ツテ構
 想的結合ヲ起スニ方ツテ、文主タルベキ主素トシテ、ノ、あめ、ニツキテ、述、定、ス
 ル從素タルベキ、ふる、ノ、思念ハ、正認的ナルカ、否認的ナルカ、ノ、イ、ヅ、ン、カ、ノ、關
 係ニ立ツベキモノニシテ、カ、ル體言ト用言トノ構想的結合ヲ起スニ方ツ
 テ、スナハチ、あめ、ノ、思念ニツキテ、ふる、テ、フ、思念ヲ結びツケテ、文形ヲ成スベ
 キ思想ヲツクルニ方ツテ、其ノ、ふる、ガ、正認的ノ場合ヲ常トスベキハ、自然ノ
 勢ナルガ故ニ、其ヲ、バ、其ノ、用言ノ原形ニテアラハスト、共ニ、之ト區別セラル

ベキ否認形ノ關係ヲアラハスガ爲ニ、ふるテフ用言ニ否認ノ關係ヲアラハス「ず」ヲソヘテ「あめ」ふら「ず」ノ如クイヒ以ツテ其ノ思想ニ於イテ「ふる」ノ思想ガ認知ノ如何ナル關係ニ置イテ思念セラレ居ルカヲ明ニス。又或ル場合ニハ其ノ正認ノ「ふる」ノ思念中今思考セラレ、ふるハ今「ふる」ト考ヘラレ居ルモノ（スナハチ所謂時化ノ現在ナルカ今ハ既ニ降り終リシ「ふる」ノ思念スナハチ所謂時化ノ過去ナルカノ關係ヲ區別スル必要アルベク「ふる」トイフ正認ノ思念ガカ、ル關係ニ於イテ今「ふる」トシテ思考セラレ、場合ヲ常トスベキハ自然ノ勢ナルガ故ニ其ヲバ正認形ソノマ、ニテアラハスト同時ニ今ハ降り終リシ由ノ關係ヲアラハス爲ニハ「ふる」テフ正認形ノ用言ニ「き」モシクハ時化ノ過去ヲアラハス他ノ辭スナハチ「ぬ」「つ」等ヲソヘテ「あめ」ふり「き」モシクハ「あめ」ふり「ぬ」「あめ」ふり「つ」ノ如クイヒ以ツテ其ノ思想ニ於イテ「ふる」ノ正認ノ思念ガ時化ノ如何ナル關係ニ置イテ思念セラレ居ルカヲ明ニス。カクノ如クニシテ他ノ種々ノ關係上ノ着眼ヨリ見ラレタル標準ヨリシテ或ル用言ガアラハス思念ガ其ノ或ル標準ニ於イテ

從屬動辭

ノ如何ナル關係ニ置イテ思念セラレ居ルカヲアラハス動辭頗ブル多シ。カクノ如キモノハ皆其ノ用言ニ從屬シテ其ノ用言ガ組織スル從素ノ構想的結合ニ於ケル關係ノ表白ヲ完全ナラシムルモノナルガ故ニ之ヲ從屬動辭ト呼ブコトノ適當ナルハ從屬靜辭ノ命名ニ通ジテ知ルベシ。コノ從屬動辭以外ニ序編中ニモ既ニイヘルガ如ク（參照三）ひと「は」一種の動物「なり」伊藤博文「韓國統監」たりノ如クニ「元來ハ」一種の動物「に」あり「韓國統監」と「あり」ノ如ク靜辭「に」補助ヲ有スル動物靜辭トノ補助ヲ有スル「韓國統監」ニテ一主素ヲ成シ各「あり」ニテ從素ヲ成スベキ構成ノ文ガ其ノ「に」ト「あり」ト約合シテ「なり」ト成リ其ノ「と」ト「あり」ト約合シテ「たり」ト成リタル結果其ノ「なり」たりハ動物「韓國統監」ノ如キモノニ屬スル關係ノ思念「に」モシクハ「と」ガアラハスモノト從素「あり」ガアラハス思念トヲ結合シタル一種ノ動辭トシテ思念セラル、ニ至リ其ノ意義モマタ其ノ形體ノ推移ニ伴ナヒタル特色ヲ帶ビ來リテ一方ニハ其ノ原義ヲソノマ、ニ傳ヘナガラ一方ニハ文主タル主素トシテ立ツベキモノノ思念スナハチコ

今、其ノ從屬動辭ニツキテイフニ、從屬動辭ガ既ニ用言ニ從屬スルモノナル以上、コノ種類ニ屬スル動辭ノ用言ニ言ヒソヘラル、上ニ於イテ、五轉活ノイヅレヨリシテ言ヒツヅケラルベキカニツキテ注意スベキハ、正ニ自然ノ順序ナルガ故ニ、(從屬動辭モ、從屬靜辭ノ如ク、直接ニ、或ル從素ヲ成スベキ用言(準從素ヲニソフコト、スナハチ、一旦動辭ノソヒタルモノニ添フコトアリテ、カ、ル場合ニハ、動辭ノ或ル轉活ヨリツヅクコトナルモノニシテ、其ノ上ノ語ノ作用言タリ形状言タリ動辭タルニヨリテ、意義ノ關係上ノ必要如何ヨリ起ル、ゾ、キ合ヒノ異同アリ、其々ノ種類中ニアリテモ、同ジクツヅクキ合ヒニツキテノ異同アレド、其等ノ事ニツキテハ、スベテ、續要義ニ讓ルコトトスベシ)作用言ニツヅク場合ヲ主トシテ、言ヒツヅケラル、關係ニヨリテコノ種類ノモノヲ舉グレバ、左ノ如シ。

○未定活ヨリ言ヒツヅケラル、モノ。

- しむ。す。さす。
- る。らる。
- ず。ざり。
- む。まし。

○連用活ヨリ言ヒツヅケラル、モノ。

- き。ぬ。つ。
- ぬべし。つべし。
- けり。けむ。なむ。てむ。
- なまし。てまし。たし。
- たり、

○結終活ヨリ言ヒツヅケラル、モノ。*

- べし。まじ。らし。
- らむ。めり。
- なり。めり。
- べかり。まじかり。らしかり。

* (結終活ヨリ言ヒツヅケラル動辭ハ、然相作用言(及ビ、然相作用言ト同ジ)語尾ノ結終活ヲ有スル動辭ヨリ言ヒツヅケラル、ニハ、連體活ヨリクベキコトナリトス。)

○連體活ヨリ言ヒツヅケラル、モノ。

なり。

○逆二段的活用ヲ有スルノ從屬動辭

モシ、之ヲ活用ニツキテ區分スレバ、マヅ、作用言ニ於ケル逆二段活用ト一樣ナル活用ヲ有スルモノト、同ジク特殊四段活用ト一樣ナル活用ヲ有スルモノト、形狀言ノ直活モシクハ曲活ノ活用ト一樣ナル活用ヲ有スルモノト、四段活用ノ一部分ニ當ル活用ヲ有スルモノト、二段活用ノ一部分ニ當ル活用ヲ有スルモノト、特殊四段活用ノ一部分ニ當ル活用ヲ有スルモノト、用言中ニ類例ナキ特殊ノ活用ヲ有スルモノトアリ。今、其ノ活用ニ依リテ之ヲ擧グレバ、左ノ如シ。

○逆二段的ノ活用ヲ有スルモノ、及ビ、其ノ活用。

未定活	連用活	結終活	連體活	已定活
しむ	しめ	しむ	しむる	しむれ
す*	せ	す	する	すれ
さす*	させ	さす	さする	さすれ
る**	れ	る	るゝ	るれ
らる**	られ	らる	らるゝ	らるれ

○特殊四段的活用ヲ有スルノ從屬動辭

○特殊四段的ノ活用ヲ有スルモノ、及ビ、其ノ活用。

けり*	(けら)	けり	ける	けれ
たり**	たら	たり	たる	たれ

* (コノ「す」「さす」「しむ」下同義ナレド、「す」「さす」トハ、用法上特殊ノ條件アリテ、「す」ハ、四段活用及ビ之ニ準ジタル活用ヲ有スル語ノ未定活ヲウケテ居ルナリ。上「一段」ノ語ニ限リテ「す」ヲモテウケルコトアルガ如ク、思フハ、非ナリ。「みす」「にす」「きす」等ハ、皆、逆二段活用ノ爲相作用言ナリ。二語ニハアラズ。「カ」「ルコト」ハ、續要義ニ説クヲ見テ知ルベシ。)

** (「る」ト「らる」ハ、同義ノ語ニシテ、「す」「さす」トノ關係ノ如ク、四段的ノ活用アル作用言ヲバ「る」ニテウケテ、其ノ他ヲバ「らる」ニテウケルコトナリ居ルナリ。)

* (コノ「けり」ハ、下ニイフ動辭「き」ノ、或ル作用言ニソヘル下ニ「に」テ「あり」ノソヒテ成レルモノナリ。之ヲ「き(來)へ(歴)あり」フ約ナリナドイフ舊説ハ、イフニ足ラズ。「けり」ノ「け」ガ「き」ニ「て」ノ「き」テ「約」ナルコトハ「に」ト「あり」ノ「あ」トハ省略「辭中」ノ「け」音ヲ頭部ニ有スルコトニ巨ツテ、コノ一貫ノ解法ニヨリテ釋然トシテ徹セザルモノナク、意義ノ迷府タリシ「き」(けり)ノ區別ノ如キモ、コノ語源ノ釋法ニヨリテ、其ノ差異ガ寫述ノ時ハ、實ニ、又チ迎ヘテ割ル、竹ノ如ク、言文背馳以前ノアヲ解決チ求ムル時ハ、關スル時化表自法ヲ明ニシ得ラレバク、一トシテ其ラニ反證タルモノヲ見出シ得ザル日本典要義其ノ他ニイフベシ。)

○四段活用ノ一部分ニ當ルルノ
從屬動辭

む	○
らむ	○
けむ	○
なむ	○
てむ	○

○四段活用ノ一部分ニ當ル活用ヲ有スルモノ、及び、其ノ活用。

使用セラル、ト多クレド、體言ナク、
クルモノニハアラズト知ルベシ。

* (けむ)ハ、作用言ノ下ニ、ソヘルモノニ、更ニ、て、あらむ、ソヒテ、(に)下
「あら」ト省カリ、(き)テ、約リテ、(け)トナリタルモノナリ。古クハ、(け)む、
連體活ヨリモ、(む)フ連體活ヨリ、採難辭ノ「まく」チツクルカ、如ク、(け)まく、
テ、採難辭チツクリテ、用キタルコトアリシナレド、用例モ少ク、今ハ、
全ク廢レタレバ、採難辭ノ條ニハ、擧グザリシカド、事ノ序ニイフナリ。
「らむ」「なむ」「てむ」ニハ、古來會テ、コノ事ナシ。コレ皆、意義ノ性質ト用法
トノ關係ヨリ來ルベシ。

** (なむ)ハ、(に) 、「あらむ」ヨリ來リテ、前者ハ、「(に)」
「あ」約リテ、(ら)省カリ、後者ハ、(む)ノマ、ニ、(あら)省カリテ、各一熟辭トナリ、其
々ニ、特有ノ意義ヲ有スルコトナレリシナリ。「てむ」ノ如キハ、殊ニ、種々
ノ情味ヲ有スルガナカニ、(て) 、「あり」(け)む、ノ如キ、義ニ使用セラレタル
モノモアレド、語源別ナルニアラズシテ、意義ノ轉用ナリ。コノ他、既ニ
擧グタル從屬性屬用辭、(なむ)「てむ」ナレバ、(なむ)「てむ」ナレバ、(なむ)「てむ」
トナリト知ルベシ。

○二段活用ノ一部分ニ當ルルノ
從屬動辭

ぬ	○
つ	○

○二段活用ノ一部分ニ當ル活用ヲ有スルモノ、及び、其ノ活用。

ニ擧グタル「なまし」て、まし等、上ノ語ノ連用活ヨリ言ヒツ、ケラル、
ハ、其ノ「な」トテ、所皆、同ジ様ノ語源ヨリ來レルモノニテ、其々ニ一熟辭チ
成スナレド、(な)「らし」(な)「なり」(な)「めり」等、正體言モシクハ、用言ノ連體
活ヨリ言ヒツ、ケラル、モノハ、一熟辭ニアラズ。何トナレバ、此等ハ
皆、聯合動辭ノ「なり」モシクハ、從屬動辭ノ連體活チケル方ノ「なり」ノ連
體活ヨリなる「らし」なる「なり」なる「めり」ノ如ク言ヒツ、ケタルモ
ノ、(る)音省カリテ、一種ノ訛性、(な)「なり」成シシノミニ、(な)「なり」
ベキ、(な)「なり」呈セザレバ、ナリ。「スベテ」一熟辭チ成セルモノト、認ムベキ
ハ、辭ト辭トハ、結合モシクハ、辭ト、或ル言トハ、結合ガ、或ル程度ニ、於テ
ハ、意義用法上ノ變化ヲ起シテ、一辭トシテ、認ムベキモノアルヲ、要スル
モノト知ルベシ。コノ三ツノ例ノ外、(たる)「めり」チ「た」めり「トイフ」モ、マタ、然リ。

* (ぬ)「つ」トニツキテハ、本居宣長ノ「詞玉」緒以來、語學者皆、其ノ活用、
誤リテ、前者ハ、(な)「に」ぬ、ぬる、ぬれ、ト活ラキ、後者ハ、(て)「つ」
つる、つれ、ト活ラクテ、思ヒ取リテ、(ぬ)「方」ノ如キハ、ナ行變格爲相作用
言ナル「いぬ」(去)ヨリ來レリト、思フ妄信ヨリ、(れ)「下」イフ活ラキマテ、アル
モノト、思ヘリ。然レドモ、實際ノ用例ニヨリテ、(ぬ)「る」ぬる、ぬれ、ノ義、
バ、其ノ誤リ、極メテ分明ナリ。何トナレバ、(ぬ)「る」ぬる、ぬれ、ノ義、
上ヨリ、用例チ、歸納シテ、一語ノ活用セルモノナルコトノ、甚顯著ナルチ
認メ、(つ)「つる」つれ、モ、マタ、同ジク、一語ノ活用ナルコトノ、甚顯著ナルチ
チ、アラハス、ト明白ナルニ、其ノ二者ガ、共ニ、過去ノ時化ニ關スル、或ル情味

トシテ目セラル、モハ、意義全ク殊別ニシテ、如何ニシテモ、一語ノ活
 用ナリト解釋セムヤウナク、他ニ寸毫モ、^レフノ活用セルモノト見ルベ
 キ證ナシ。モシ、強ヒテ之ヲ求ムルコトトスレバ、其ノ未定活ヲ以ッ
 テ目セラル、^レナ^レトハ、意義用法ノ上ニ於テ、或ル程度ノ對照ヲ成
 ス所アリ、其ノ連用ヲ以ッテ成ス所アリトイフニ過ギザルニテ、宣長ノ説モ
 イテ或ル程度ノ對照ヲ成ス所アリトイフニ過ギザルニテ、宣長ノ説モ
 ニヨリテ成リ、其ノ末派ノ學者ノ違格ヨリ起リテ、^レフノ想ト抱合シタル
 ノ程度ノ對照アリトイフコトナレド、ソノ意義用法ノ未定連用ヲ以ッテ
 ナラズ、却ツテ、其ノ別々ノ語ナリト見解ノ下ニ、其ノ未定連用ヲ
 以ッテ目セラル、モハ、意義用法ノ研究シ、^レフノ意義用法ヲ研究ス
 ル時ハ、イヅレノ性質モ、委曲ニ闡明セラレ、彼此共ニ、在來ノ疑團ヲ消散
 シ、自家ノ聰明ヲ發シ、^レフノ學問ノ甘んゼンセントス
 ルハ、學術ニ忠ナル者ノ所爲ニアラザルナリ。ナホ、其ノ詳ナルコトハ、
 別著ニ於テ之ヲ論ズベク、^レフノ關スル意義用法ノ闡明、其ノ他時化ニ
 關スルコトニツキテハ、續日本文典要義ニ説クベク、^レフノ續要義ヲ待ツ
 コト能ハザルハ、余ガ舊稿初等日本文典ヲ求メテ之ヲ讀マムモ、其ノ
 一端ヲ解シ得ル性從屬辭ノ^レト^レニシテ、在來ノ學者ガ之ヲ連用活
 ト見タルハ、下ニ連用活ヲウケル^レキ^レケリ^レ等ノ來ルガ故ナリト知
 ベシ。ソガ過去ノ時化チアラハスモノナラザルコトハ、傳統的崇信熱チ
 入シ得ラレバ、^レフノナレド、ソガ果シテ總合スル時化チアラハスモ
 ノナラムニハ、ソハ、何ノ故ニ^レキ^レ及^レヒ^レキ^レノ類語ニ言ヒソヘラレ^レト^レ方
 如キハ、^レト^レニ^レサ^レハ、言ヒツケラレ^レベ^レキカ。サルベキ理由アラムコト

○特殊四段活用ノ一部分ニ當ル從屬動辭

なり

○

○特殊四段活用ノ一部分ニ當ル活用ヲ有スルモノ、及ビ、其ノ活用。

○

なり

なる

なれ

認メ得ベキモノナルニモカ、ハラズ——從屬動辭ソハ、モノハ性質ヲ舉グ
 ルニ足ラズ、ソノ活用ニヨリテ分類セムコトノ如キハ、用言ノ例ニ準ズレバ、
 マタ、適當ナルモノナルガ如クニモ見ユベケレド、其ノ用捨ニ關シテハ、決シ
 テ同一視スベカラザルモノアリ。何トナレバ、兩者共ニ其ノ活用ヲ會得ス
 ルコトノ必要ハ、文典學ノ入門ニ於イテ最大ニシテ極端ニマデ重キヲ置キ
 ヲベキモノナレド、用言ノ如キハ、其ノ全體ノ上ヨリ見テ、語數極メテ多クシ
 テ、活用ノ種類ニヨリテ整理シ、常ニ其ノ活用上ノ範疇ヲ提ゲテ之ニ臨ム
 ニアラサレバ、到底之ヲ知得シ得ベカラザルモノナルニ對シ、動辭ニ至リテ
 ハ、其ノ數些少ニシテ、必シモ其ノ活用ニ關スル抽象的ノ範疇ヲ提ゲテ之ニ
 臨ムヲ要セザルノミナラズ、其ノ造語ノ性質上、其ノ用途ノ性質上ヨリ、スベ
 テ、實際ノ語々ニツキテ、其々ノ活用ノ全形ヲ常ニ暗誦シ居ラザルベカラザ
 ルモノナルガ故ニ、之ヲ會得シ之ヲ記憶スル便宜上ヨリ、上述ノ如キ類別的
 ノ整理ヲ取ルハ、固ヨリ有益ナル事ナレド、サバカリ必要ナラザル活用上ノ
 範疇的概念ニヨリテ、其ノ動辭ニヨリテアラハサル、關係的概念ノ意義上

ノ性質ニ關スル、委曲ヲ沒却セムハ、動辭ノ性質用法ヲ十分ニ發揮スベキ文
 素論上ノ研究トノ關係ヨリイフモ、頗ブル失當ノ事ナリトイハザルベカラ
 ズ。コヽニ於イテ、動辭ニヨリテアラハサル、關係的概念ノ意義上ノ性質
 ヲ顧慮スベキ必要ノ存スルヲ見ルベシ。(ウケル轉活ト動辭ノ性質トノ事ニ關シテハ、前々節ノ注意ヲ見ルベキナリ。)
 然レドモ、關係的概念ノ意義上ノ區別ヲ標準トシテ之ヲ區分セムトスル時
 ハ、其ノ繁累スル所頗ブル繁雜ニ亘リ、マヅ、スベテノ語ノ分類用法ヲ知リタ
 ル後ニアラザレバ、ヨク其ノ條理ヲ明ラメ難キモノアリテ、カクノ如キ企圖
 ハ、全ク文素論ノ領域ニ於イテ試ミラルベキモノナルヲ、大體ノ上ニ悟了ス
 ルニ至ルベキノミナラズ、關係的概念ノ意義上ノ性質トシテハ、靜辭ト動辭
 トノ間ニ推移旋轉シタルモノアリテ、彼此ノ間ニ出入スベキ必要ヲ感ズル
 モノモ認メラルベク、マタ、動辭トシテノ意義モ、慣用上種々ニ轉移スルモノ
 ナレバ、關係的概念ノ意義上ノ性質ノ區別ト、或ル動辭トシテノ形體上ノ區
 別トハ、互ニ一致セズシテ、一語ニシテ境遇的ニ變化スルモノアルヲモ認ム
 ベク、又、動辭ガ、既ニ活用ヲ有シテ他ノ動辭モシクハ、靜辭ヲ以ツテ之ヲウク

ルコトアル方ヨリハ、此等ヲ結合セシメタルモノニ亘リテ之ヲ觀察スルニアラザレバ、關係的概念ノ或ル意義上ノ區別ヲ盡スベカラザルモノナルコトヲモ認メラルベキナリ。サレバ、關係的概念ノ意義上ノ性質ヲ標準トスルコトモヤ、モスレバ、語性論上ノ領域ト文素論上ノ領域トヲ混同シテ、遂ニ望洋ノ歎キヲ招クニ歸スベキ海路渺茫ノ觀アルヲ知ルベシ。(コノ語性論素論ノ領域トノ混淆ノ失ハ、スベテノ語ノ分類性質ヲ説ク上ニ於テ、多クワカ國文典ニ認メ得ラルベキノミナラズ、西洋文典ニ於テモ常ニ認メ得ラル、所ナリ。サレバ、所謂西施ノ鬢ニ傲ハムト欲スル者ハ、其ノ非ヲ飾ル類例ヲ、彼(特ニ教)科書的モシクハ舊式ノ文典ニ求メ易カルベキナリ。)

カクノ如クニシテ、動辭ノ活用ヲ主トスルト關係的概念ノ意義上ノ性質ヲ主トスルトニツキテハ、抽象的ニマヅ其ノ取捨ヲ決シ得ベキモノニアラズシテ、如何ナル程度ニ於テ調和シ得ラルベキカ、如何ナル状況ノ下ニ取捨セラレザルベカラザルカヲ決スルハ、實ニ實際上ヨリ得ラレタル討究ノ結果ナラザルベカラズシテ、其ノ結果トシテ認メラルベキモノトシテ、從屬動辭ヲ區分スベキ準繩タルベキモノハ、序編(八)ニモイヘル寫述ノ述定ヲ成ス意義上ノ區別ナリトス。蓋シ、文ノ種類ヲ成スベキ述定ハ、思想ノ表現

上、最終ノ形式ヲ成スモノニシテ、如何ナル關係ノ概念ナリトモ、文ノ述定ニ關スル程ノモノニシテ、ソノイヅレカニ概括セラレザルベキハナカルベキモノニシテ、一方ニ動辭ハ、皆、結、終、活ヲ本形トシ、述定ヲ以ツテ本用トスルコトナホ用言ノ如ク、如何ナル動辭モ述定ニ關セザルモノナカルベキモノニシテ、(但シ、殆ンド全ク同意義ノ動辭ニシテ、一方ナノミ多ク使用スルガ故ニ、他方ヲ以ツテ文ナリ。サレド、ソハ、ゴ、ノ、論ニ預ルベキコトナラズ。) 述定ノアラユル種類ヲ網羅シタル五種ノ述定ニツキテイフニ、咏歎ノ述定ヲ成スモノハ、固ヨリ、動辭ヲ以ツテ終ルコトナク、疑問ノ述定ヲ成スモノト希求ノ述定ヲ成スモノトハ、動辭ヲ以ツテ終ル場合ナキニアラネド、其ノ原形ハ、皆、寫、述、ノ、イ、ヅ、レ、カ、ヨリ成レルモノナレバ、寫述ノ形式ハ、動辭ニヨリテアラハサルベキ關係的概念ノアラユル場合ヲ網羅スルモノナルニ依ルコトニシテ、(序編(八)カクテ、スベテノ動辭ハ、ゴ、ノ、寫、述、ノ、イ、ヅ、レ、カ、ニ、入、ラ、ザ、ル、ベ、カ、ラ、ザ、ル、關、係、ヲ有シ、述定ニ關スルスベテノ關係の意味ハ、ゴ、ノ、兩者ノイヅレカ中ニ包含セラレザルベカラザルノミナラズ、之ヲ實際ノ上ニ徵スルニ、動辭ノ活用ハ、コ

ノ分類ト大ナル撞着ヲ起スコトナクシテ、ヨク之ヲ調停シ、ヨク之ヲ會得セシムルニ堪フベク進ンデハ、文素論上ノ委曲ニ亘ルベク退イテハ、語性論上ノ規ヲ越エザルヲ得ベキモノナレバナリ。

更ニ之ヲ繫合動辭ニ見ルモ、タゞ二辭ノミヲ有スル繫合動辭ハ、ソガ他ノ語ヲウクル關係ニ於イテハ、正體言(モシクハ之ニ準ジテ主素タルベキ資格ヲ有シタル語句モシクハ或ル叢語)ヨリ言ヒツマケラル、ノミニシテ、其ノ活用ニ於イテハ、

なり
たり

なり なら
なり なり
なり なる
なれ なれ
たり たら
たり たり
たる たる
たれ たれ

ノ如ク、タゞ特殊四段的ニ活用セシムルノミナルニモカ、ハラズ、其ノ間ニハ、寫述、說述ノ意義ヲ以ツテノ對照ヲ有シ(前者ハ說述ニシテ、後者ハ寫述ナリ)、恰モ從屬動辭ト同一ナル分類上ノ自然ノ待期アルヲ見テモ、述定ヲ本用トスル動辭ニ於イテ、コノ二種ノ分類ノ決シテ動カスベカラザルモノナルヲ認ムベキナリ。』之ニ依ツテ、寫述性ノ文ヲ成スベキ述定ノ形式ヲ成ス從屬動辭ヲ寫述ノ法

寫法從屬動辭

說法從屬動辭

說法繫合動辭

寫法繫合動辭

式ヲ成ス從屬動辭ノ義ニテ、寫法從屬動辭トイヒ、說述性ノ文ヲ成スベキ述定ノ形式ヲ成ス從屬動辭ヲ、說述ノ法式ヲ成ス從屬動辭ノ義ニテ、說法從屬動辭トイヒ、同ジ様ニ、說述性ノ文ヲ成スベキ述定ノ形式ヲ成ス繫合動辭ナリヲ、說法繫合動辭トイヒ、寫述性ノ文ヲ成スベキ述定ヲ成ス繫合動辭ヲ、寫法繫合動辭トイヒ、コヽニ上節(四二)ニ示シタルガ如キ表目ヲ成スベキ、合法ナル動辭ノ分類ハ生起スルコトトナルナリ。

今、用例ノ一斑ヲ具ヘテ、其ノ各種ニ屬スル動辭ヲ左ニ列記セムニ、マヅ、寫法從屬動辭ニ屬スベキモノハ、逆二段的ノ活用ヲ有スルモノ全部、スナハチ、しむ「す」「さす」「る」「らる」特殊四段的ノ活用ヲ有スルモノノウチ、た「ら」「さ」「べ」「か」「ら」「し」「かり」「まじ」「かり」五ツ、形狀言的ノ活用ヲ有スルモノノウチ、た「し」「つ」「一ツ」二段ノ一部分的ノ活用ヲ有スルモノ全部、スナハチ、「ぬ」「つ」用言中ニ無キ活用ヲ有スルモノノウチ、「す」「き」併セテ十五辭ニシテ、コノ他、說法動辭ガ境遇的ニ其ノ說法ノ義ヲ失墜シテ寫法ノ義トナル場合アレド、モト、其ノ或ル一轉活ノ一用法タルニ過ギザルモノナルヲ以ツテ、寫法動辭トシテ算入ス

ベキニハアラズ。(ナホ、下文、既法動辭ノ)之ヲ、ウクル轉活ノ順序ニヨリテ舉グ
レバ、しむす、さす、らる、す、ぢり(以上未定)、きぬ、つたり、たし(以上連用)、べ
かり「らしかり」まじかり(以上、結終)トナル。

しむ 京都へゆか しむ。 授業をうけ しめよ。

門をいでて、ひがしさまにゆか しめ たまふ。

す やまぢをゆかす。 ひとり のわらはべをばへ、

らせ しむ。

おくふかくいらせ たまふ。

さす ほまれをうけ さす。 しもにぬさせよ。

よふかくさてみづからみさせ たまふ。

る ひとにさかる。 あしをふまれたり。

らる

あのづからなかる。 なかじとすれど、なほ、

なかる。 さまくにおもひまどはる。

たれにもゆかるべし。 みをつめりてぞ、

ひとのいたさをもしらる。

かのさみ、はたして、ゆかるい。

らる ちゝにみる。 あににほめらる。

あのづからこゝろあごりせらる。 みぶるひせらる。

われだにうけらるべし。 兒童だにとりえ

らるべし。

らしかり

法ノモノガ其ノ説述ノ義ヲ失フニ準ジテ寫述性ノモ
ノトナレリシナリ。(ナホ下文ノ説明ヲ参照スベシ。)

らしかり*さる ころろ ある らしから (む) に は、油断す べ
からず。

をとこ

なる らしから ぬ わざ かな。

* (コノ) らしかりハ、碎クタル文ナラデハ用テラザルノミナラズ、上ニアルベキなるヲ省キテ直チニ體言正體言モシクハ境遇的ニ正體言ノ義ヲ含有スルニ至レル準體言ヨリ言ヒツケラル、モノ多ク寧ロ、之ヲ常態トスル習ヒナ成セリ。サレド、文理上、體言チウクルニハアラズ。誤解スベカラズ。

まじかり

まじかり ゆく まじかり ける ところへ ゆき て、みる ま
じかり ける はぢ を み たり。

説法從屬動辭ニ屬スルモノハ、特殊四段的ノ活用ヲ有スルモノノウチ、けり
「なり」めり、形状言的ノ活用ヲ有スルモノノウチ、べし、ぬ、べし、つ、べし、まじ、四段
ノ一部分的ノ活用ヲ有スルモノ全部、スナハチ、む「らむ」けむ「なむ」てむ、特殊四
段ノ一部分的ノ活用ヲ有スルモノ全部、スナハチ、なり、用言ニ無キ活用ヲ有
スルモノノウチ、まし「なまし」てまし、併セテ十七辭ナリ。之ヲ、ウクル轉活ノ

順序ニテ擧グレバ、む「まし」(以上未定)「なまし」てまし「けり」けむ「なむ」てむ「ぬ」
べし「つ」べし(以上連用)「べし」らし「まじ」らむ「めり」なり(以上結終)「なり」(連體活)ト
ナル。

コ、ニ、此等ノ用例ノ一班ヲ擧ゲムトスルニ方ツテ、マヅ、注意スベキハ、コ
レ等ノ辭ニアラハサルベキ説述ノ意味モ、述者ノ地位ヨリ見テ、間接的ニ
述定セラル、關係ニ置イテ思念セラレタルモノハ、其ノ述者直接ノ述定
ナラザル方ヨリ、境遇的ニ説述ノ義ヲ失フコトナリトス。カクノ如キハ、
「む」ガ、定格靜辭ト、及ビ、混成二段爲相互作用言「す」ノ、如キ義ヲ成スモノ
ト、あめ ふら (む) と す「いで た」 (む) と すノ如キ套語ヲ成シ、
純粹ナル、未來ノ、時化ヲ、アラ、ハ、ス、場合、(む)ト「す」ソヒテ、カクノ如キ套語法ヲ成シ、
然タル未來ノ時化ヲアラハスモノ絶エテナク、其ノ他ハ、皆、多少ノ程度ニ於テ、想像推定等
ノ情味ヲアラハスモノナリ。此等ノ事ニ關シテハ、續日本文典要義時化ノ條、及ビ別著ニ於
テ、正當ナル用例ト參照シテ、ミツカラテ、説法動辭トシテ、) 及び、形状言ノ、活用ヲ、有、ス
ル、モノノ、連用形ヲ、以、ツテ、限定素ヲ、成、ス、ベキ、關係ニ、立、ツ、モノ、ス、ナ、ハ、チ、あ
め、ふり ぬ、べく みゆ「あめ」も ふり つ、べく なり ゆけ ば、

なまし
てまし
けり
けむ

なまし かへれとだにいはざらましかば、いまもこゝにはありなましと、くゆるもかひなし。

てまし かれだにいきてあらましかば、つかのまに、こととくのいへてましを。

けり かくとつげければ、あざむかれにけりとあもひてぞ、ひとみなかへりける。

けむ かくとつげたれば、さてはいつはりなりけり。とてあしずりせぬひとなかりけり。

か のやまにわけいりけむひと、いかになり

き、おんまへにさぶらはましと、あもふもかひなし。

よもあけばとくとはましものをとあもひしに、ゆくりなきさまだけもいてくるものかな。

なむ
てむ
ぬべし
つべし

なむ *さもありなむ。おもひきりなむ。

あすあさてちりなむはなの、さてものどけくみゆるかな。

てむ *いてあはばかならずいひてむとおもひしこと、あひみてはいひいづべくもなし。

ぬべし さもありぬべし。よもふけぬべし。

くろきくもにはかにいてきぬ。かぜもふきぬべし。あめもふりいてぬべし。

つべし 賢なりといひつべし。あるかといひつべし。

とりすてつべきものども、ことくいだしあ

*「コ」なむ「てむ」特ニ「てむ」ノ種々ノ意義ニツキテハ、續要義ニ古キ用例ヲ擧ゲテ細シクイフマシ。

べし

べし あめやめば、かぜおこるべし。
ころさるべきひと、ゆるさるべきひと、みな、わがみのうへをしらず。

かぜおこらば、あめやむべし。

かれの心中も、また、かくのごとくなるべし。

志望のものは、まうしいづべし。

らし* かくおもふらし。よもふけぬらし。

いたむらしくは、みゆれども、いたまはずとのみ

こたふ。

いたむらしけれど、いたむといはず。

ひと ならしきひともし。

めり

めり このごろは、自然主義などいひて、獸畜的の自然をよしとおもふひともある。めり。ひと

らむ

らむ いかにおもふらむ。いかにいひつらむ。
いふかひなしとおもふらめど、せむすべなきをいかにせむ。

まじ

まじ ゆくまじ。おもふまじ。
財をもみをもをしむまじさぞ。
みるまじきものをみて、うぐまじさとがめをうけたり。

ひと

ひと ならしくみゆるひともし。

* コノらしハ、上文ニモイヘル如ク、平安朝時代ニ其ノ活用ナラズ、
静辭トナリタレバ、今ハ動辭トシテ用キラル、ニモカ、ハラズ、
シテノ「らし」ト共通ナル語形(スナハチ「形」ノ場合ノ外、
取ラル、傾向アリテ、碎クタル文ナラテハ用キラレズ。又體言正
體言ヨリ言ヒツマケラル、ナリフ連體活ナクテツマケ場合ノ如キ、
「なる」チ省キテイフ習ヒナル、成セルコトニツキテモ、上文、
寫法從屬動辭ラシカリニツキテイヘルト) 同ジ様ニ心得ベキナリ。

なり

として、は、ひととして、の自然をこそは
愛すべきなめれ。
儒者などいひてことしくひとのみちとく
めるひとの、ひとのみちしれるひとやある。
かれらは、孔子を理想として、かへりて
孔子にとほざかるめり。

なり(結終活ナク)

あきのののひとまつむしのこえす
なり。われかとうきて、いさとぶらはむ。古今集。

あとはやまけさこえくれば、ほととぎす、こずゑは、
るか、いまぞなくなる。古今集。

* (コノ「なり」ハ、今ノ普通文ニハ全ク廢レ居ルガ故ニ、次ギ)
(ノト紛ハシカラムヲ恐レテ、古歌ヲ以ツテ舉ゲタリ)

なり

なり(連體活ナク)

ひと、は、しかいふなれど、われはかく

おもふなり。

不撓の精神をもつてすゝむがゆゑに、かれ

なり

はつひにそのこゝろざしをうるならむ。
次ギニイフベキハ、寫法説法ノ繋合動辭ナルガ、繋合動辭ハ、元來説法繋合動
辭ナル「なり」ヲ本原トスルモノニテ、寫法繋合動辭ナル「たり」ハ、其ノ類推ニヨ
リテ後ニ起レリシモノナリ。コノ故ニ、マヅ説法繋合動辭ヨリイハムニ、既
ニ序編及ビ上文ニ舉ゲタルガ如キ例、スナハチ、ひと、は、動物なりノ如
ク、正體言(モシクハ、擬體法等ニヨリテ正體言ニ準ジテ用キラレタル語句)ヨ
リ言ヒツケラル、モノト別ニ、左ノ例中ニ舉グルガ如ク、準體言ヨリ言ヒ
ツケラル、モノトアリ。

なり* われは日本國民なり。

このいぬはわがいぬなり。

きのふさみをとひしはわれなり。

人心の離叛するは、誠意なきがゆゑなり。

その句は、『こほれるなみだいまやとくらむ』
なり。

『こほれる なみだ』の うた は 古今集 なり。
 すみだがは は むさし の くに なり。
 この すみだがは は むさし の くに ならず。

その いろ ましろ なり。

ゆき は ましろ なり。

天下 は 泰平 なり。

太郎 は うすぎ なり。

太郎 は うすぎ ならず。

※「なり」ハ、定格靜辭ノ「ト」特殊四段然相作用言ノ「あり」トノ結合シテ一辭トナレルモノナリ。ソノ「ト」ニツキテハ委シク言ハマホシキコトモア
 レド、意義上ノ曲折ニ巨ルコト多クレバ本書ニ
 盡シ難シ。續要義續原理等ニイフベキナリ。

然レドモ、説法繫合動辭ヲ從素トスル文ハ、既ニイハルガ如ク、其ノ構想的結
 合ニ於イテ、一方ニハ、其ノ原形ノ「に」あり、如キ思念ヲ持スルト共ニ、一方
 ニハ、二者ヲ對照シテ之ヲ繫合スル思念ヲ持スルモノニシテ、其ノ想ニヨリ

其ノ場合ニヨリテ前者ノ思念形ト後者ノ思念形トノ勢力ノ優劣ヲ一ニス
 ルコト能ハザレドモ、意義ノ關係上、前者ノ思念形ニツキテハ、文主タル主素
 ガ他ノ主素スナハチ對賓タル主素ニ屬スルコトヲ思念スルモノニシテ、後
 者ノ思念形ニツキテハ、文主タル主素ガ他ノ主素スナハチ對賓タル主素ト
 或ル契合ヲ保ツコトヲ思念スルモノナレバ、(ナレバ故ニ一方ノ主素ハ具體的ノ思念
 ノ思念ニシテ、兩者共ニ抽象的ノモノタルコトヲ得レドモ、兩者共ニ具體的ノモノタルコト
 ナ得ベカラズ。スベテ意義上ノ委シキコトハ、本書ニ於イテスベキモノナラネバ、續要義續原
 理其ノ他ノ別著ニ譲リテ、今ハ暫ク讀者自身ノ觀察ニ任セザルベカラズ。但シ、具體的
 抽象的ノ事ニツキテハ、第二編ナル實體名品象名ノ說明ヲ觀味スベシ。二四一五)又、文主ニ對
 スル他ノ主素ヲ對賓トイフコトニツキテ、西洋文典ニカ、ルモ、主格トイフニ、印度歐羅巴
 人ハ、怪シトモ見ルコトアルベク、今一言ヲ辨セムニ、西洋語スナハチ、嚴格ニハ、印度歐羅巴
 語トイフベキモノニテハ、古今ニ亘リテ、カ、ル構造ノ文ノ對賓タルモノノ語形、(所謂名詞
 代名詞ニ亘リテ)文主スナハチ、真正ノ主格タル場合ト同語形ヲ取ルガ故ニ、其ノ語形上ヨ
 リ主格ト呼ブ習ヒテ居シ、固ヨリ、構想上ノ關係ヨリ主格ト等シカルベキ地位上ノ資格
 アル由ノ正當ナル條理ヲ認メテ然イフニアラズ。其ノ西洋語ニテ、語形ノ文主ト互ニ相同ツ
 キ理由ハ、文主スナハチ、真正ノ主格ト區別セラルベキ諸ノ資格スナハチ、所謂「斜格」下モ、其々
 ニ、ソノ區別セラルベキ關係ヲアラハス語形ノ變化スナハチ、インフレクシ、オンナ有スルコト
 トシテ、其ノ國語ノ發展ヲ始メタリシカド、上文ノ註ニモイヘル如ク、彼ニアリテモ、ウガ説法繫
 合動辭ヲ有スル説文ニ當ルモノハ、所謂動詞ノ「あり」ニ當ルモノニ「なり」ノ如キ意味ヲ含マシ
 メテ言ヒ出スコトナリシモノナレバ、其ノ位格上ノ關係ハ、寧ロ「あり」ニ當ル語ノウチニアラ
 ハサレ居リ、且ツ「インフレクシ」ハ、元來或ル關係的ノ意義ヲ區別スベキモノト定メテラレタ
 ル或ル音節(根辭ニ當ルモノ)ヲ添加シテ一語ヲツクリ上ゲタルモノノ訛成シタルモノナレバ、
 既ニ「インフレクシ」ノ國語トナリシモノノウチニアリテ、(反省的ニ、或ル程度マデハ言

語ノ制作的事業ヲ企テツベキ廿世紀ノ現今以後ノ世トハ異ニシテ、殆ンド持チ崩シ的ニ推移
 轉訛スル惰性ニ任セタル時代ニ於イテ——特ニ新シキ「インフレクシヨ」ヲツクルコトハ、殆
 ノド成シ得ラレマシキコトナリシカバ、ソノ對實ハ、名詞ノ語形中最普通ノ形ト認ムベキ主格
 ノ形ヲ取リテ使用スル習ヒチ成シマデナリ。ソガ構想的結合ノ關係ニ於イテ、文主ノ對實
 トシテ認メラルベキハ、主委中被述部ニ立ツ唯一ノ主素ナル文主ト相對(序編一參照)其ノ準體言ハ、皆
 シテ述定部中ニ立ツコトニヨリテ分明ナリトイフベシ。(序編一參照)其ノ準體言ハ、皆
 境遇的ニ正體言的ノ意義ヲ成スベキ補助ノ思念ヲ思ヒソヘラレ、實際上、正
 體言ト同一ノ資格ヲ取り得ラル、コトトナルナリ。カクノ如クニシテ、對
 賓タル主素ガ文主タル主素トノ或ル契合ヲ保ツ由ノ思念ヲ成ス必要ヨリ
 準體言ノ境遇的ノ意義上ノ變態ヲ起サシムルコトハ、準體言ニシテ、ヨク文
 ノ主素タリ得ベキ地位ヲ占ムル特殊ノ境涯ヲ保有スル所以ナリトス。

ナホ、コ、ニ注意スベキハ、コノ「なり」ガ上ナル體言ト共ニ、其ノ連體形ヲ以
 ツテ裝定素ヲ成スモノニアリテハ、其ノ說述的形式ハ、述者ノ地位ヨリ見
 テ全ク間接ノモノトナルガ故ニ境遇的ニ說述ノ義ヲ失ヒテ寫述的ノモ
 ノトナルコトナリトス。コノ裝定素ヲ成ス場合ニハ、ソノ「なる」ノ上ナル
 モノノ正體言(モシクハ之ニ準ジタル資格ヲ取り得ルモノ)ナルト準體言
 ナルトニヨリテ、オノヅカラ二種ニ別レ、其ノ前者ニアリテハ、序編ニモイ

〔傳述的裝定〕

ヘルガ如キ傳述的裝定ヲ成スコトトナル。(參照九)ソガ、既ニイヘルガ如
 ク、必シモ承認セズトシモナケレドモ、暫ク其ノ表白ノ承認ヲ避ケ、全ク間
 接ノ地位ニ立ツヲ明ニスル義ヲ有シテ、いふて、ふ等ヲ以ツテ傳述的
 裝定ヲ成スモノノ暗ニ事實トシテ之ヲ承認スル義ヲ有スルモノト對シ
 テ關係ヲ異ニスル傳述的裝定ヲ成スハ、と いふて、ふハ元來寫述性ノ述
 定ヲ成スベキモノナレバ之ヲ以ツテ傳述的裝定ヲ成ス以上、ソノ裝定ヲ
 行フベキ事相ハ少クトモ暗ニ事實トシテ承認セラレタルモノナラザル
 ベカラザル、必至ノ勢ヲ成シ「なる」ノ方ハ元來說述性ノ述定ヲ成スベキモ
 ノナレバ之レヲ以ツテ傳述的裝定ヲ成ス以上、ソハ他人ノ說述ヲ傳フル
 モノタルヲ原義トスベキモノナルガ故ニ、其ノ說述性ヲ境遇的ニ失フト
 共ニ、必シモ承認セザルベキニハアラネドモトニモカクニモ自家ヲ間接
 ノ地位ニ置イテ、ソノ責任ニ當ラザルコトヲ示スモノタルベキ必至ノ勢
 ニ逼ルモノナレバナリ。(コノ「なる」傳述的裝定ハ、古クヨリ行ハレタリシモノニテ、
 〔なる〕こゝろは あきなく きく古今集いづしカトわがまつやま
 〔いま〕はとて、こゆなるなみにぬる、そでかな後撰集ノ如キ例モ、少

〔傳寫的裝定〕

カラズ、ヨミカ(はや)うど」なるもの、はしり、き、て……)其ノ後、者、スナハチ、準體言ヨリ言ヒツマクルモノニアリテハ、正體言ヨリ言ヒツマクルモノノ傳述的裝定トイフベキモノヲ成スニ對シテ、傳寫的裝定トシ、モイフベキモノヲ成シ、例ヘバ、おほいなるいへ「偉大」なる性格ノ如ク、既定ノ事實トシテ許スベキモノヲ傳ヘ寫ス關係ノ裝定ヲ成ス。コレガ既定ノ事實トシテ許スモノヲ傳ヘ寫ス義トナルハ、なるガ元來、說述性ノ述定ヲ成スベキモノナルコトハ、固ヨリ前述ノ如クナレド、コノ裝定素ヲ成ス場合ノ「なる」上ナル準體言ニアラハサル、モノハ性質上、本能的直覺的ニ感知シ得ラルベキモノナルヲ常トスルヨリ、正體言モシクハ之ニ準ジタル資格ヲ有スルモノニアラハサル、モノノ複雑ナル概念ヲ成スヲ常トスルモノト等シカラザル關係ヲ有シ、特ニ他ノ說述ヲ傳ヘ述ブルモノトイハムヨリハ、吾人共ニ普ネク肯定スベキ肯定ヲ傳フルコトトナルガ故ニ、其ノ說述性ヲ境遇的ニ失フト共ニ勢、既定ノ事實トシテ認ムベキモノヲ傳ヘ寫スコトトナレバナリ。コノ傳寫的裝定トイフ立脚地ヨリ見レバ、

〔直說的裝定〕

上文說法從屬動辭ノ條ニイヘル、連體形ノ裝定ニヨリテ、說述性ヲ失フモノモ、マタ之ト同ジク、傳寫的裝定トイフベキモノヲ成スコトトナルナリ。何トナレバ、其等ノ裝定ヲ成スモノハ、其ノ性質ノ依ル所、コレニイフモノト等シキニハアラザレドモ、ソノ本然ノ說述性ナル述定ノ場合ニスラ、繫合動辭ヲ以ツテ成ル說述文ノ述定ノ如ク、特ニ角立チタルモノナラザル性質ノモノナレバ、間接的ニ其ノ肯定ヲ傳フルニ方ツテ、ワガ說他ノ說ノ區別ヲ文典上ノ様式ニマデ、確持スベキ必要ナキモノトナリテ、殆ンド、コノ「なる」傳寫的裝定ヲ成ス場合ノ如キ程度ノモノトナリ、遂ニ共通ノ性情ヲ有スルニ至ルベキコト、マコトニ必至ノ勢ニシテ、事實上、カクノ如キ情味ヲ有スルモノトシテ認メラルベキモノト成リ居レバナリ。(之ヲ傳フニ對シテ、普通ノ寫述性ノ裝定ヲバ、直寫的裝定トイフコトヲ得ベシ。何トナレバ、傳寫的裝定ハ、トモカクモ肯定セラレ居ルコトヲ寫述的ノ想トシテ、イフモノナレバ、其ノ述者ノ地位ハ、確ニ傳フル關係ヲ成スモノナルニ對シ、普通ノ寫述性ノ裝定ニハ、毫モカ、ル情味ヲ有セザレバナリ。マタ、コノ直寫的裝定ニ對シ、全ク說述性ノマ、ニ裝定スルモノスナハチ、特殊四段の活用モシクハ、其ノ一部分ニ當ル活用ナ有スルモノ以外ノ說法從屬動辭ノ連體形ヲ有スル叢語モテ裝定素ヲ成セルモノヲ區別セムトシテハ、正ニ「直說的裝定」トシモイフベキナリ。)

ナ定素辭タラシムルコト能ハザルコトナルコトナリトス。(ナホ前節ニ定素辭條下ノ註文ヲ參照スベシ。)

然レドモ、コハ既ニ寫述性ノ述ヲ成スモノニシテ、文主ト對賓タル主素ト
 ノ契合ヲ保ツ情味ナキヲ以ツテ、準體言ヨリ言ヒツマケラレタルモノノ如
 キハ、其ノ準體言ヲシテ正體言的ノ意義ヲ包含セシムベキ勢力ナク、(コノ來
 的ニハ準體言ヨリトあり下ツマクル用法ナカリシニテ、後ニ至ツテ正體言ヲカクル
 リ「なり」ヨリ移リテ之ニ擬スベキモノトシテ準體言ヲウクル「に」あり「なり」ノ語
 トナレリシ、ソノ間ノ關係ヲ推シテ、之「に」下對照スル性質ヲ有スル「と」ニ移シ、
 クル「と」あり「たり」ニ擬スベキモノトシテ準體言ヲウクル「と」あり「たり」ノ語
 ナリ) タマニ「なり」ノ準體言ヲウクルモノノ類推的ノ心的作用ニテ、一方ニハ、其
 ノ原形ノ「と」ミあり「如キ思念ヲ持スルト共ニ、一方ニハ、文主タル主素ノ思
 念ト或ル形狀ノ思念トガ「たり」ニテ、繫合セラレタル由ノ思念ヲ持スル想
 ヲ成スニ過ギズ。コノ故ニ、ソノ形狀ノ思念ヲアラハス準體言ハ、正當ニ主
 素タルベキ資格ヲ得ルニアラスシテ、意義上ニテハ、寧ロ其ノ形狀ノ思念ト
 繫合動辭「たり」トニテ、一從素ヲ成シ一述定部ヲ成スモノトシテ認メラルベ
 キモノナレド、ソノ想形ノ關係ハ、文ノ分解ニ於イテ、其ノ形狀ノ思念ヲアラ
 ハスモノヲ呼ンデ、擬成主素トイヒ、其ノ繫合動辭ヲ呼ンデ、擬準從素トイフ

擬成主素
擬準從素

ヲ是認セザルベカラザル「ト」ナルニ至レルナリ。コレ、コノ繫合動辭ニ關
 シテ注意シ置クベキ點ナリトス。

第五編 文素ノ分解

二八。文素ノ分解ニ關スル緒論。

文ニ、單文、複文、擬單文ノ別アリテ、文素ニ、單文ヲ成ス、文素アリ、複文ヲ成ス、大文素、スナハチ句アリ、擬單文ヲ成ス、大文素、スナハチ成述部アルコトハ、既ニ序編中ニイヘルガ如シ(一、三)。然レドモ、文素ナハチ單位文ハ、元來、單文ヲ以ツテ本據トスベキモノニシテ、複文、擬單文ニテモ、一旦其々ノ大文素ニ分割シタル以上ハ、更ニ、單文的ノ想素的分解ヲ施スヲ要スルモノナルコト、マタ序編中ニイヘルガ如クニシテ(三)、普通ニ文素トイフモノハ、單文ノ文素ヲ指スモノナルヲ以ツテ(一)、文素ノ研究ニハ、マヅ、單文ノ分解、スナハチ想素的分解ニ於ケル、智識ヲ以ツテ、基トスベキモノナルコト、明ナリトイフベシ。

然レドモ、單文ニ於ケル文素ノ研究ハ、タゞ、ニ、想素的分解、スナハチ、單文、文素タル主素從素裝定素限定素ニ分解スルコトノミノモノニアラズシテ、別ニ、割斷的分解、スナハチ、分割トイフモノヲ要シ(二、一、二)、コノ分割ニヨリテ成ル大

文素ハ、恰モ、擬單文ヲ成ス、大文素ニ當ルモノ(スナハチ、イヅレモ成述部ニシテ(一、三)、其ノ擬單文ノ如キハ、實ニ、單文ニ於ケル分割上ノ自然ノ智識ヲ應用シ、擬連語法ノ手段ニヨリテ、其ノ成述部ノ一方ニ、複雑ナル思念ヲ含蓄セシメ、以ツテ、複文ヲ成スベキ思想ヲ、單文的ニ短縮セシムル、自然的ノ應用ヲ巧ニシタルモノナリ。(序編六擬連語法ノ條參照)サレバ、擬單文ノ如キモノノ存在ハ、偶單文ニ於ケル割斷的分解ガ、思想上、自然ノ約束ニシテ、文典家ノ任意ニ定メタル理論上ノ分割ナラザルコトヲ證スルモノナリ。

サルニテモ、擬單文ヲフモノノ表章ハ、全ク本書ノ著者ニ始マリタルモノナレバ、暫ク之ヲ措クコトトセムモ、割斷的分解、スナハチ、被述部ト述定部トノ分割ハ、各自ノ思考状態ニ反省シテ、在來ノ學者ガイマダ曾テ之ヲ否認シタルコトナギガ如ク、——スナハチ、西洋ニ於イテモ、希臘以來ノ論理學ヨリ取レル「主部」「從部」ノ概念ガ、一度文素ノ分解ニ用キラレテヨリ、忽チニ文典界ヲ風靡スル勢ヲ成シ、人皆、マヅ、大體上ヨリ之ヲ信受シ、敢ヘテ疑ヒヲ採否ノ間ニ容レズ、ワガ國語學者ノ如キモ、傳ヘテ之ニ倣ハザラムトスル者ナキガ如

(論理的従部)

ク——何人モ、マタ、之ヲ否認スベキ理由ヲ見出スコト能ハザルベキ、的確ナル共通ノ事實ニ徴シテ、ソガ、人ノ構想的結合ヲ支配スルコトニ於イテ、如何ニ有力ナル自然ノ心的現象ナルカヲ知ルベキナリ。

然レドモ、論理的ノ主部（ロジカル・サブジェクト）スナハチ、論理的（ロジカル・プレディケート）の従部ノ如キハ、固ヨリ、言語ノ構文上ノ形式ニ合セテ餘リニ濶大ナル分割ニシテ、其ノ従部ヲ、更ニ繫部（コネクション）繫語、接辭（コネクティブ）従部（サブジェクト）客語、賓辭（オブジェクト）ニ別ツ論理學上ノ本習ノ如キハ、構文上ノ最普通ナル形式（ノルマ）スナハチ、我ノ作用言西洋文典ノ所謂動詞ヲ以ツテ從素ヲ成スモノト契合セザルモノナルヲ以ツテ、單ニ其ノ論理的割斷ニ甘ンズルコト能ハズ、マタ、論理學上ノ本習ニ從フコト能ハザル必然ノ勢ハ、西洋ノ文典家ヲシテ、此等ヲ斟酌シテ、構文上ノ形式ニ合セ、ヨク文典上ノ研究ニ資スベキモノタラシメムト欲セシメタリ。コ、ニ於イテ、種々ノ提案ヲ出シテソノ問題ノ解決ヲ試ミタルガナカニ、論理的の主部ニツキテハ、其ノ緊要部タルモノノ裝定素（コンストラクティブ）スナハチ、所謂形容詞的成分ヲ成スモノヲ、制定部（コンストラクティブ）テフ（コンストラクティブ）概念ノ下ニ、文典上ノ主部ヲ擴張スルモノトシテ之ト分チ、其ノ緊要部

(制定部)

(文典上ノ主部)

(主語)

(文典上ノ從部)

(從語)

(補語)

(被說語)

(說述部)

(賓語)

(補部)

ノミヲ文典上ノ主部（ロジカル・サブジェクト）主語ト認メ、論理的の従部ニツキテモ、最普通ナル構文上ノ形式（ノルマ）スナハチ、普通ノ動詞ヲ以ツテ從素ヲ成スモノニツキテハ、其ノ動詞ヲ以ツテ文典上ノ從部（ロジカル・プレディケート）主語ト認メ、對賓タル諸主素ハ、之ヲ補充シテ其ノ論理的の従部ヲ成スモノナリトシテ、之ヲ補部（コンストラクティブ）主語トイヒ、其ノ各主素ヲ成スベキモノノ裝定素及ビ、其ノ裝定素モシクハ從部等ヲ限定スル限定素ヲバ、其々ノ制定部ナリトスル概念ノ下ニ、補部ト共ニ皆、文典上ノ從部ヲ擴張スルモノトスルガ如キハ、其ノ大體ノ趨向トシテ認メツベキモノニシテ、其ノ文典上ノ主部（ロジカル・サブジェクト）主語及ビ文典上ノ從部（ロジカル・プレディケート）主語ハ、其ノ解釋上ヨリ得ラル、概念ニ於イテ、寧ロ前者ヲ被說語トイヒ、後者ヲ說述語トイヒ、之ニ對シテ、論理的の主部ヲ被說部トイヒ、論理的の従部ヲ說述部トイフベキモノトナリ居ルナリ。サレド、コハ、決シテ、一定セラレ統一セラレタルモノニアラズシテ、其ノ對賓タル諸主素ノ如キモ、或ル者ハ、皆之ヲ賓語ト呼ビ、或ハ者ハ、其ノ一少部分ヲノミ賓語ト呼ビ、或ル者ハ、皆之ヲ補部（コンストラクティブ）主語ト呼ビ、或ビ、或ル者ハ、其ノ一少部分ヲノミ補部ト呼ビ、或ル者ハ、スベテ之ヲ、從語ニ對

(制定部)

スル制定部。寧ろ制定語ト呼ブ類。各其ノ我執ヲ是トスルモ、要スルニ、毫モ取捨ノ正確ナル準據ヲ捉ヘ得ルコトナク、タゞ推シ宛テニ、論理學的智識ト構文上ノ形式トヲ調停セムトアセルノ、ミニシテ、其ノ必至ノ運命ヲ觀ジ、其ノ大本ノ論ニ復リ、信ジテヨク之ヲ裁シ、人ヲシテ疑惑ヲ遺サザラシムルガ如キ、正大ノ識見ヲ立ツル能ハザルヲ常トス。

就中、カ、ル分解法——(既ニ割斷的分解ニアラズシテ、割斷的分解系、寧ろ、論理的系統ヲ蹈ンデ、一種ノ想素的分解ニ進入シタル分解法)——ヲ取ル人ノ撞着トイフベキハ、彼等ガ、一方ニ、所謂動詞本位ノ從部ノ概念ヲ支持スルト共ニ、一方ニ、論理學上ノ繫部從部ニ合フ構想ノ文、スナハチ、ワガ國語ノ說法、繫合動辭ノ「なり」ニ當ル、助動詞ヲ有スルモノニアヒテハ、ナホ、論理學的ノ概念ヲ以ツテ之ニ擬シ、必然ニ、論理學的ニ繫部從部ノ名ヲ配シテ之ヲ文素論上ニ解説スベキ地位ニ立チナガラ、此等兩者ノ想形上ノ關係ヲ分解上ニ明ニスルコト能ハザルガ故ニ、首鼠兩端ヲ持シテ、其ノ態度ヲ明ニセザルモ、絶エテ怪シム者ナクシテ、更ニ、他ノ一面ニハ、カクノ如キ想形ノ文ニ於イテ、其

論理的の思想
判定的の認知
思想的の思想
直覺的の認知
想

ノ助動詞ニ伴ナフモノガ彼ノ所謂形容詞ナル場合ニアリテ、其ノ形容詞ナルモノヲ以ツテ名詞ヲ制定スルモノナリトシテ、却ツテ、其ノ分解法ノ本據タル論理的主部論理的從部ノ分割線ヲサヘニ破壊シ居ルヲモ、怪シマムトスル者ナキニ近キガ如キコト、コレナリ。

(コノ文末ノ事ニツキテハ、上編第一編一氏ノ如キ人モアレド、遂ニ一世ノ注意ヲ惹カズシテ、世ハ滔々トシテ、其ノ狂瀾ヲ肆ニシ居ルデ、イ如シ。蓋シ其ノ説取ルベキモノアル學者論客アリトモ、其ノ餘波全局ニ及アベキ重大問題ニ向ツテ、タゞ一部分ノ正見ヲ立ツルノミニテ、全局ヲ動かカスベキ大研究ヲ遂アルコト能ハザラムニハ、一度耳ヲ傾クル人ハアリトモ、自他共ニ大勢ヲ如何トモスルコトヲ得ズシテ、ソノ説ハイツシカニ其ノ人ト共ニ葬リ去)コレ、スナハチ、序編ニモ一言シタル舊式ノ分解法ニシテ、其ノ誤リハ、論理的智識ノ利用セラルベキ點ガ、タゞ、文ノ兩斷的ノ分割ヲ營ムニアリテ、其以上ニ及ボスベカラザルモノナルヲ知ラズ、其ノ論理的智識ノ崇信熱ヲ驅ツテ、深ク想素的分解ノ領野ニ進入シタルノミナラズ、其ノ崇信熱ニヨリテ、所謂動詞ヲ以ツテ繫部ト從部トノ結合ニヨリテ成レルモノナリトシ、(四人中ニテモ、近ク、タルメステ、イ、氏ノ如ク、動詞ニツキテ、ノスレク、究モナシ。○ナホ、コノ前後ノ文ニ關シテ、第四編)却ツテ、人ノ思想ニハ、論理的ノ思想ニ七設法繫合動辭ノ條ノ註文ヲ參考スベシ)却ツテ、人ノ思想ニハ、論理的ノ思想(スナハチ、判定的の認知ノ想ト直覺的ノ思想、スナハチ、直覺的の認知ノ想トアル

ヲ知ルニ及バザリシニアルナリ。而シテ、ワガ國語界ニ於イテ、文素分解ノ事ヲ試ムル者、マタ、皆、コノ不正ナル舊式ノ分解法ニ出入シテ文ノ分解ヲ試ミ、イマダ正準ヲ見出スコト能ハザルモノノ如シ。

蓋シ、論理的智識ヲ文典上ニ應用セムトシタリシハ、十八九世紀ノ交以來ノ學界自然ノ風潮ニシテ、ソガナカニ、嶄然頭角ヲ出シテ文素論上ノ局面ヲ新ニシタリシハ、實ニ、獨ノベ、ツカ、氏ナルガ如シ。然レドモ、コノ流レノ學說ノ比較的ニ發展シタリシハ、却ツテ、英米ノ地ナルガ如シ。(コレ、英語ガ、名詞ノ「イヘリシコト」ニヨリテ、比較的ニ、カ、ル分解法ニ附會シ易キ國語タルガ故ナリ。蓋シ、名詞ノ「イヘリシコト」ニヨリテ、富ム時ハ、位格ニヨリテ名詞ヲ統一シタル文素スナハチ、主素ノ如キ概念ヲ建設シ易クシテ、ヤ、論理的系統ノ分解的思而シテ、他ノ一方ニハ、心理學的智識ヲ念ノ發展ヲ妨クベキ傾向ヲ有スレバナリ。

文典上ニ應用セムトスル流派モ、マタ世ニ出、デタレド、殆ンド見ルニ足ルモノナク、其ノ間、所謂「新派」ノ史的研究モ生起シテ、言語學上、頗ブル見ルベキモノヲ出シタレド、文素論ニ關シテハ、殆ンド新生面ヲ開クコトナカリシモノノ如シ。要スルニ、論理派ハ、過ギテ却ツテ達セズ、心理派ハ、及バズシテ遂ニ達セズ、西洋ニ於ケル文素論上ノ研究ヲシテ、イマダ幼稚ノ時代ニ屬セシメ、

取捨ノ標準ヲシテ、ナホ一世ニ明ナラザラシメ居ルモノナリ。(バウル氏ノ言キ、文素論ニ關シテ西人ノ著書中重要ナル地位ヲ占ムルモノ一ツナリ。然レドモ、其ノ所説、十九世紀ノ後半ニ於ケル所謂「新派」ノ言語學說ノ一代表者トシテノ價值ヲコソ有スレ、純駁一ナラズシテ、屢裁定ノ正ヲ失ヘルモノノ如シ。然レドモ、文素ノ分解ガ、ヨシ、或ル程度ニ於イテ、論理心理ノ補助概念ヲ要スルモノナルニモセヨ、元來、文其ノモノノ歸納的研究ニ依ルベキモノナルハ、明ニシテ、コノ見地ヨリスレバ、構想的結合ニ關スル關係ヲアラハスニ、インフレクシ、ヨンヲ主トスル西洋語嚴格ニイヘバ、印度歐羅巴語、或ハ印度日耳曼語、ガ、一語ヲ以ツテホマ一文素ヲ成スベキ大體上ノ傾向ヲ有スルモノナルコト、第一編ニモイヘルガ如クニシテ、ソノ一語ノ分類トシテ自然ニ彼等ノ間ニ發展シタル所謂品詞品詞ナリナルモノガ、大體ニ於イテ文素ノ分解ニ當ルベキ候補タリ得ベキ傾向ヲ存スルハ、マヅ許容シ得ラルベキモノニシテ、之ヲ、他ノ國語、特ニ、カクノ如キ目的ノ對照上ノ研究ニ宛ツベキ言語學上絶好ノ好資タルワガ國語ニ對照スル時ハ、文ノ構想的結合ノ關係ト其ノ要素トハ、柄焉トシテ明ナルベキモノニシテ、割斷的分解ハ、想素的分解ニヨリテ認メラルベキ文素ノ支配上、自然ノ分

ナ知ルベキ) 而シテ、コノ主素ノ概念ガ主部從部ノ分割ト一致スルコト能ハザル以上、少クトモ、想素の分解ガ主部從部ノ分割ニ對シテ特殊ノ立脚地ヲ有スルモノナルコト明ナリトイフベク、更ニ、論理的系統ノ文素分解ヲ試ミズ、タゞ品詞ノ概念ノミニヨリテモ、殆ンドスベテノ文典上ノ説明ヲ成シ得ラルベキ、實際ノ事實アルヲ思ヘバ、(ホウ、キ、ツトニ、氏ノ梵文典、ヤイルス氏ノ比較文典、ホウ、キ、ツトニ、氏ノ佛文典、ヤンク氏ノ伊太利文典ノ類、サテハ、ガスベ、イオットー、カノエ、ル、三、氏ノ歐洲各國語ノ會話文典叢書ノ各文典ニ徴シテ、其ノ事實ヲ知ルベキナリ。) カノ論理派ノ分析法ノ誤レルコトハ、オノヅカラ、其ノ間ニ證明セラレ居ルモノトイフベキナリ。サレバ、理論上ノ豫斷ヲ避ケテ、實際上ヨリ歸納スル傾向ヲ帶ビ來レル最近ノ研究者中、最卓拔ナルデルブリ、ユツク氏ノ如キ、命世ノ大著ト稱セラル、其ノ印度日耳曼語比較文章論ニ於イテ、其ノ所見必シモ余ガ所見ト等シカラザレドモ、恰モ余ガ主素ニ當ル文素ヲ立テテ、暗ニ在來ノ文典家ノ過失ヲ正スニ足ルベキ正見ヲ示シタルハ、彼ノ學界ニ於イテモ、漸ク正理ノ顯レムトスル機運ヲ起シ來リタルヲ見ツベキナリ。サバレ、インフレク、シヨ、ン、ラ主トスル國語ノ範圍ハ、文典學理ノ自由ナル研究ニ關シ

被說部
述定部

テ、ワガ國語ノ如キ便宜ヲ有セザルコト多キモノナルヲ以ツテ、余ハ、語想相關ノ理ヲ究メテ文素論上ノ正規ヲ示シ、文素論上ヨリ、全ク性質ヲ異ニスル東西諸國語ノ完全ナル比較研究ヲ試ミ得ルニ至ラシムベキ動機ヲ今日ニツクルハ、實ニ、ワガ國民ノ發奮ニ需タザルベカラザルモノアルヲ信ズ。言餘論ニ亘リテ、僅ニ分解ノ一端ヲ概說スル本書ニフサハシカラザルメレド、特ニ其ノ所由ヲ開示スルニアラザラムニハ、先入主ト成レルモノヲ信ズル保守ノ情感ニヨリテ、既ニ陳腐ニ屬スル、カノ誤謬多キ舊式分解法ニナヅム人ナホ多カラムコトヲ思ヒテノミ。

ナホ、在來ノ西洋文典家ノ主部(論理的)主部從部(論理的)從部ノ概念ハ、寧ロ被說部說述部トイフベキモノナルコト、本文中ニイヘルガ如クナレド、既ニ直覺的認知ノ想判定的認知ノ想ニ亘リタルモノヲ概括シタル成述部ノ分チナルヲ知レル以上、ソガ論理的推斷ノ想スナハテ判定的認知ノ想ニノミ適應スベキ「被說」「說述」ノ名稱ヲ捨テ、被說部、述定部ノ名稱ニヨリテ指呼セラレザルベカラザルコト、論ナキモノナリト知ルベシ。

二九。單文ノ文素ニ於ケル要旨。

既ニイヘル如ク單文ニツキテ取ラレベキ文素觀ニハ、オノヅカラ二種ノ別アリテ、一ハ、割斷的分解ニヨリテ認ムル文素ニシテ、之ヲ被述部述定部ノ二大文素ニ別ツベク、一ハ、想素的分解ニヨリテ認ムル文素ニシテ、之ヲ主素從素裝定素限定素ニ分ツベク、其ノ二種ノ分解ノ起ルベキ關係ハ、人ノ思想ハ主素從素裝定素限定素等ヲ成スベキ想素スナハチ一思想ヲ成スベキ有機的結合ヲ營ム構想上ノ素子ニヨリテ成ルガ故ニ、其ノ思想ヲアラハセル文ニモ、其等ノ想素ニ合フベキ此等ノ文素ヲ有スルコトヲ認メテ言語ノ研究上之レニ合セテ文ヲ分解スル必要ヲ生ズルモノナレド、人ガカクノ如キ想素ニヨリテ或ル思想ヲ構成シテ之ヲ言語ニアラハスニ方リテハ、其ノ構想的結合ノ動機ヲ支配スル注意ノ集中點ヲツクリ、之ヲ主位ニ置イテ他ヲ從位ニ置クモノナルガ故ニ、人ノ思想ハ、オノヅカラ、其ノ主位ニ就クモノト從位ニツクモノトニ分割セラレ、コトトナリ、其ノ思想ヲ言ヒアラハシタル文ノ上ヨリ見テモ、ソノ主位ニツクモノスナハチ主部ト、其ノ從位ニツクモノ

想素

注意ノ集中點

主部

從部
被述部
述定部

ハ、スナハチ從部トノ劃線ハ、ソノマ、ニ存在スルコトトナルベク、コノ主部從部ヲ既ニ文ヲ成セルモノノ上ヨリ見レバ、寧ロ言ヒ述ベラル、部分スナハチ被述部ト、言ヒ述ブル部分スナハチ述定部トノ別チトシテ認ムベキモノトナルニテ、コノ分割線ニヨリテノ大文素ノ分解モ、言語ノ研究上、想素的分解ト並行スベキ必要ヲ感ズルコトトナルナリ。

而シテ、其ノ想素的分解ノ文素ノウチ、裝定素ト限定素トハ、元來、思想表白上ノ便宜ニヨリテ起ルモノニシテ、常ニ文ノ構想的結合ニ必要ナルモノナラザルヲ以ツテ、(コノ事ニツキテハ、次節ニ) 暫ク之ヲ措キ、常ニ文ノ構想的結合ニ必要ナルハ、主素從素ノ二ツナリト知ルベク、文ノ割斷的分解ヨリイヘバ、被述部ハ如何ナルモノニテモ、必ラズ一ツノ主素アルヲ要シ、述定部ハ如何ナルモノニテモ、必ラズ一ツノ從素アルヲ要スルモノナルコト、下ニイフガ如クニシテ、想素的分解ノ主素從素ノ方ヨリイヘバ、主素ハ被述部ニ立ツコトモアリ、述定部ニ立ツコトモアルニテ、從素ハ述定部ニ限ルモノナレバ、(或ル素ガ、擬語法ヲ成セル句モシクハ、成述部ヨリ成レル場合ニハ、ソノ句モシクハ、成述部中ノ從素ハ、原本文ノ述定部以外ニ起ルコトモアレド、ソハ本文ノ從素ニアラズシテ、全ク間接ノモノナ

緊要部

要部

文主

對賓

レバ關係全ク別ナ)コノ如何ナル被述部ニモ必要ナル主素スナハチ被述部ニ
 リト知ルベシ。立ツ主素ト如何ナル述定部ニモ必要ナル從素トヲ擧ゲテイフベキ必要ア
 ル時ハ之ヲ文ノ緊要部トイヒ、(特ニ其ノ一方ヲ擧ゲテイハムトスル時ハ其ノ被述部
 ノ緊要部トイフ)スベテノ主素ト從素トヲ擧ゲテイフベキ必要アル時ハ之ヲ
 文ノ要部トイフ。(其ノ一ツヲ擧ゲテイハムトスル時ハ上例ニ準ジテ被述部モシクハ述
 部トイフヲ得ベシ。但シ擬單文以外ニハ被述部ニ二ツモシクハ二ツ以上ノ主素起ルヲナシ
 ト知ルベシ。コノ要部ノ稱ハ荷クモ主素トシテ或ル文中ニ立タム以上ノ主素ニシテ其ノ文ノ構
 想的結合ニ必要ナラサルモノナキガ故ニイフナレド緊要部ノ主素ノ如ク如何ナル文ニモ必
 要ナル程構想的結合ノ要衝ニ立ツモノニアラス。緊要部ト要部トナ區別スベキ必要アル所
 以實ニコ、ニ
 起ルナリ。

ソノ緊要部ヲ成ス主素ハ實ニ文ノ被述部ヲ成ス思想上ノ衝點スナハチ、
 注意ノ集中點トシテ文全體ノ主位ヲ占ムルモノナルヲ以ツテ之ヲ文主
 トイヒ、之ニ對シテ述定部中ニ立ツ主素ヲバ、スベテ文主ノ對賓トイフコ
 ト、既ニ序編中ニモ(一)イヘルガ如シ。
 蓋シ、人ノ思想ハ、モト、或ル對象ヲ捉ヘテ、(例ヘバ「あめ」)之ヲ思想上ノ衝點ト
 シ、之ニツキテ思考スルニヨリテ(例ヘバ「あめ」)ニツキテ「ふる」ト思考スルガ如シ。成ルモノ

ナルガ故ニ其ノ對象ハ如何ニ多クノモノナリトモ、(例ヘバ「群衆」萬人)之ニツ
 キテ思考スルニ方リテハ、(例ヘバ「郡衆」ニツキテ「かへる」ト思考シ「萬人」)ソノ對象ハ、ソ
 ノ思想ニツキテ一ツノ對象トシテ一括シテ考ヘラル、モノナレバ、或ル
 單位文ニアラハサル、被述部ノ緊要部タルモノハ、普通ノ場合スナハチ單
 文ノ場合ニ於イテ必ラズ一ツノモノタルベク、ソノ對象ニツキテ思考セラ
 ル、コトハ必シモ一事ナラザルベケレド、人ノ思想ノ原形ハ必ラズ其ヲ一
 ツ、ニ思考スベキモノニシテ、其ノ一ツ、ニ思考シタルモノヲ取り經
 メテ思考スルコトハアレド、二ツ、或ハ二ツ、以上ノ事件ヲ思考スル場合ナレ
 バトテ、始メヨリ同時ニ之ヲ思考スルニアラズシテ、一旦ハ、順次ヲ逐ウテ別
 々ニ思考シタルモノナラザルヲ得ザルベキモノナレバ、(コハ單位文ノ構想的
 的ニ知得セラル、所ニヨリテ、正シ)其ノ思想ノ原形ヲ寫シタル單位文スナハチ、
 單文ノ述定部ガ有スル緊要部ハ必ラズ一ツノ從素ニ限ラルベキモノナル
 ナリ。(コノ一旦別々ニ思考シタルモノナ一ツニ取り經メテ思考シタル想
 形ハ、スナハチ、複文モシクハ擬單文ヲ成スモノナリト知ルベシ。)

然レドモ、構想的結合ヲ成スベキ述定部ノ緊要部タル從素ノ思念ハ、タゞニ

自立的從素

依立的從素

對賓

其ノ文主タルベキモノヲ對象トシテ思考スルコトニヨリテ成レルモノ「スナハチ自立的從素」ノミニアラズシテ其ノ思考セラルベキ衝點タリ注意ノ集中點タルベキ對象「スナハチ文主タルベキモノ」ニ關シテ或ル繫累上ヨリ之ト對照セラルベキ第二ノ對象ヲ認識シ其ノ繫累上ヨリ見ラレタル本來ノ對象「スナハチ思考セラルベキ衝點タリ注意ノ集中點タルモノ」ヲ思考スルコトニヨリテ成レルモノ「スナハチ依立的從素」ナルコトアリ。(例ヘバ、マツトシ之ト共ニ注意ニ入レルモノトシテ第二位ニ置イテ對照セラル、^{「ゆき」}ヲ認識シ、ソノ^{「あめ」}ニツキテ^{「ゆき」}を^{「けす」}フ如キ思想ヲ成スヘキ^{「けす」}ノ思念ヲ起スガ如キ又ハ、マツ^{「ゆき」}ニツキテ^{「ゆき」}を^{「ましろ」}ナリ^{「けす」}フ如キ思想ヲ成スベキ^{「なり」}テフ説法繫合動辭ガアラハス思念ヲ起スガ如キ) コノ第二ノ對象タルモノノ思想ニ上ルハ文主以外ノ主素「スナハチ對賓」ヲ成ス主素ノ言語ニアラハレ述定部ニ入ルコトトナル所以ナリ。

コノ故ニ單文ノ要部ニツキテ其ノ構想的結合ヲ觀ズレバ單文ニハ(甲)對賓ナキ文主ト相伴ナフ從素ノ文「スナハチ自立的從素」ト文主トノ構想的結合ハ文「スナハチ^{「あめ」} ^{「ふる」}ノ如キモノ」ト(乙)對賓ト繫累ヲ有シテ文主ト相伴

自立從素ノ文

自立主素

自立主素ノ文

依立的主素

依立主素ノ文

ナフ從素ノ文「スナハチ依立的從素」ト文主ト對賓トノ構想的結合ノ文「スナハチ^{「あめ」} ^{「ゆき」}を^{「けす」} ^{「ゆき」} ^{「ましろ」} ^{「なり」}ノ如キモノ」トアリ。(參照ハ)

コノ前者ヲ自立從素ノ文トイヒ後者ヲ依立從素ノ文トイフ。コノ自立從素ノ文ニアリテハ其ノ從素ガ自立的ニ其ノ文主トノ構想的結合ヲ起スモノナルガ如ク其ノ文主モ、マタ自立的ニ其ノ從素トノ構想的結合ヲ起スモノナリ。コノ故ニ、コノ種ノ文ニ於ケル主素ヲ呼ンデ自立的主素トイフ。

自立的從素ノ文ハ主素ノ側ヨリ見レバ實ニ、コノ自立的主素ト從素トノ構想的結合ノ文ナリ。コノ故ニ、コノ種ノ文ハ、マタ自立主素ノ文ト稱スベシ。

依立從素ノ文モ、マタ之ニ同ジク其ノ從素ガ對賓ト互ニ依立的ノ繫累ヲ持シテ文主トノ構想的結合ヲ起スモノナルガ如ク其ノ文主モ、マタ對賓ト互ニ依立的ノ繫累ヲ持シテ從素トノ構想的結合ヲ起スモノナルヲ以ツテ、ソノ種ノ文ニ於ケル主素ヲ呼ンデ依立的主素トイヒ、ソノ依立的主素ノ側ヨリ見テハ、ソノ種ノ文ヲ呼ンデ依立主素ノ文ト稱スベシ。

カクテ、單文ガ其ノ構想的結合ヲ營ム要部「スナハチ要素タル主素從素」ノ性

自然的結構ノ
加工の結構ノ

質ヨリシテ、自立從素ノ文或ハ自立主素ノ文ト呼ブベキモノト、依立從素ノ文或ハ依立主素ノ文ト呼ブベキモノトノ別ヲ有スルコトノ外ニ、單文ニハ其ノ構想的結合ノ動機ヨリ來リ、其ノ文ノ結構上ノ形式ヲ異ニスルニ至レ、ソノ結構上ノ別チアリ。自然的結構ノ文ト加工の結構ノ文トノ別チ、コレナリ。自然的結構ノ文トハ、作用言形狀言ヲ以ツテ從素ヲ成ススベテ、文ヲイヒ、加工の結構ノ文トハ、繫合動辭ヲ以ツテ從素準從素ヲ成ススベテ、文ヲイフモノニテ、其ニ從屬動辭從屬靜辭等ノ補助アリヤ否ヤヲ問ハザルナリ。

コノ二ツノ結構ハ、其ノ本性ニ於イテ、寫述文ノ本來的形式說述文ノ本來的形式ヲ成スモノニシテ、自然的結構ノ文ハ、寫述文ノ性質ト合シ、加工の結構ノ文ハ、其ノ主要ナルモノ（スナハチ、繫合動辭ナリ）ヲ以ツテ文ノ從素ヲ成スモノニ於イテ、說述文ノ性質ト合ス。蓋シ、人ノ思想ニハ、或ル程度ニ於イテ、理性的ノ判斷ヲ要セザルモノナカルベケレド、人ノ智能ノマツ開發スルヤ、其ノ境遇ニ依リ、其ノ程度ニ應ジタル本能的作用ニヨリテ、殆

ソド直覺的ニ事物ヲ覺知スルヲ常トシ、既ニ發展ヲ遂ゲタル身ニアリテモ、平常ノ生活ニ於イテハ、マタ、ホッ斯克ノ如ク、特ニ理性ノ判斷ヲ要スルモノサヘニ、一度之ヲ肯定シタル後ハ、殆ソドスベテ、直覺的ノ覺知ヲ以ツテ、之ヲ心相ニ上スモノナリ。况シテ、學術的思辨研究的思索ノ大ニ開ケザル時代ニアリテハ、其ノ傾向ハ更ニ甚シク、言語ニ上サルベキ思想ニアリテハ、特ニ直覺的ノモノヲ主トシタリシナリ。コノ故ニ、言語發展ノ跡ハ、如何ナル國語ノ上ニアリテモ、皆符節ヲ合セタルガ如ク、直覺的認知ノ形式（スナハチ、寫述文ノ本來的形式）ヲ主トシ、判定的認知ノ形式（スナハチ、說述文ノ本來的形式）ハ、後ニ直覺的認知ノ形式ヨリシテ展開シタルコトヲ示シ、今モ、特ニ二ツノ物體ヲ對比シテ之ヲ判定スル場合ヲアラハサムトスルニアラザル以上、斷定的ノ言語ヲ用ウルコト多カラズ。コレ前者ヲ以ツテ自然的ト認メ、後者ヲ以ツテ加工のト認ムベキ所以ナリ。
（第四編二七、繫合動辭ノ條、及本編二八參照）

カクテ、コノ二ツノ結構ノ文ハ、大體ニ於イテ寫述說述ノ本來的形式ト合

スルモノナレド、必シモ寫述說述ノ文性ニハ伴ナハス。何トナレバ、寫述
 文ハ直覺的認知ノ想ノ表白セラレタルモノニテ、說述文ハ判定的認知ノ
 想ノ表白セラレタルモノナレバ、其ノ本來的形式ニ於イテハ、其ノ兩者ハ、
 コノ自然的結構ノ文ト加工の結構ノ文トニ當ルベキモノナレド、判定的
 認知ノ想ニ入ルベキモノニモ種々ノ階段アリテ、其ノウチニハ、嚴格ナル
 意義ニ於イテノ「判定」スナハチ、二ツノ物件ヲ對比シテ異同ヲ斷ズル「斷定」
 モアリ、廣義ニ於イテノ「判定」ニ入ルベキモノ、スナハチ、必シモ異同ヲ斷ズ
 ルニアラズシテ、或ル物件ヲ肯定シ推定シ、說示シ推測スル類モアリテ、言
 語ノ約束上、後者ハ、大方自然的結構ノ形式ニ其ノ廣義ノ判定ヲアラハス
 ベキ補助ノ語ヲソフルヲ常トスルニ至レルト、(序編八、第四編二七、說法從屬動
 辭ノ條參照。但シ說法從屬
動辭ノ連體活ナウクル「なり」ハ、一語トシテハ、說法聯合動辭ノ「なり」ト殆ソド相同シキ意義ヲ
 有スレド、ソカソヘル文トシテハ、斷定「スナハチ」異同ヲ對比シテ之ヲ斷ズル判定ヲ成サズシ
 テ、事實ヲ肯定シ說示スルニ過ギザル點ニ於イテ、區分)直覺的認知ノ想ニ入ルベキ
モ、ノニモ、語形上、ニ起レル類推法ニテ、加工の形式ヲ取ルニ至レルモノア
 ルト、(序編二、及ビ第四編二七、寫法聯合動辭ノ條參照。ナ)ニヨリテ、習慣上ヨリ契合
 ホ下、文準、聯合對ノ位格ヲ讀クル所ヲ參考スベシ)

セザル多クノ點ヲ生ジタレバナリ。

今之ヲ自立依立ノ關係ト合ハスル時ハ、文素ヲ主トスル方ヨリ見レバ、自立
 主素(從素)ノ文ハ、固ヨリ自然的結構ノ文ニシテ、依立主素(從素)ノ文ニハ、自然
 的結構ノ文ト加工の結構ノ文トアルコトトナリ、結構ヲ主トスル方ヨリ見
 レバ、自然的結構ノ文ニハ、自立主素(從素)ノ文ト依立主素(從素)ノ文トアリテ、
 加工の結構ノ文ハ、當然ニ依立主素(從素)ノ文ナルコトトナル。コノ故ニ、文
 素研究ノ便宜上、左ノ如キ分類ヲ立テ置キテ之ヲ觀察スルコトヲ得ベシ。

自立主素(從素)ノ文

自然的結構ノ文

依立主素(從素)ノ文

加構的結構ノ文

之ヲ從素ノ上ヨリ見ル時ハ、單文ニテハ、イヅレノ文ニアリテモ、從素ハタゞ
 一ツノモノニシテ、從素其ノモノトシテハ、説明スベキ題目頗ブル多ク、ソガ
 皆、文素ノ結合上ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナルニモカ、ハラズ、其ノ題目

準從素

擬準從素

ハ、皆構想的結合ヲ營ム從素ノ想材ガ如何ナル關係的性質ヲ有スルカノ委曲ノ消息ニシテ、文ノ分解ニ後レテ研究セラルベキモノナルヲ以ツテ、從素ノ性質ノ一部分ニツキテ、便宜上、次節ニ説明スル些少ノ智識ノ外、スベテ續日本文典要義ニ譲リ、コ、ニハ、タ、加工の結構ノ文、スナハチ、説法繫合動辭「なり」寫法繫合動辭「たり」ガ從素ノ位地ヲ充タスモノニ於イテ、其ノ繫合動辭「ガ成ス」從素ヲ準從素トイヒ、ソノウチ寫法繫合動辭「たり」ガ準體言ヨリ言ヒツ、バ、ケ、ラ、レ、タル場合ノ加工の結構ノ文、ニアリテ、ハ、其ノ繫合動辭「ガ成セル」從素「スナハチ、ゆき 紛々 たり」ノ如キモノヲ、バ、特ニ擬準從素トイフベキ由アレド、概括シテ、ハ、單ニ準從素トイフベキモノナルヲ一言スルニ止ムベシ。(第四編二七繫合動辭ノ條及ビ下文繫合對準繫合對ノ條ヲ參照スベシ。)

ナホ、コ、ニ注意シ置クベキハ、主素ニ起ル連語從素ニ起ル擬熟語法ノ場合ハ、(六參照)皆一語ニ準ジテ單一ノ一文素ヲ成スモノナレバ、擬熟語法ノ從素例ヘバ、ゆき うゆき つくすひ なすすひ こゝろむうち みるさく しるおもひ とるおし たふすノ如キモノヲ以ツテ、擬單文ヲ成スベシ。

位格

主格

賓格

キ擬連語法ノ之ニ似タルモノ(スナハチ、つかひ の ゆき かへる。そ の あひだ「はやく ゆき て かへれ」いひて こゝろみ よおして たふす)ノ如キモノト混淆スルコトナカルベキコトナリ。

之ヲ主素ノ上ヨリ見ル時ハ、其ノ自立主素ノ文ニアリテハ、主素ハ、文主一ツノモノ、ナレド、依立主素ノ文ニアリテハ、文主ト對賓トノ關係頗ブル複雑ニシテ、或ル程度ニ於イテ、其ノ關係的地位、スナハチ、位格(序編七)ノ概念ヲ挿ムニアラザレバ、文素分解ノ理ヲ解スルコト能ハザル恐レアルガ故ニ、コ、ニ其ノ大綱ヲ略説スベシ。(其ノ學理及ビ、作曲ノ事ニツキテハ、續日本日本文典要義、續日本文典原理等ニ譲ルベシ。)

位格ノ約束上、自立的ナルト依立的ナルトヲ問ハズ、スベテ、文主タル主素ノ位格ヲ主格トイヒ、(文語ニテハ、定格靜辭ノツハザルヲ常トス。副用性定格靜辭ノ「ガ」ルモノナレバ、次節ニイフベキナリ。)之ト對立スル對賓ノ位格ヲバ、スベテ賓格トイフコト、既ニ、序編中ニモイヘルガ如シ。(七)

凡ソ、對賓ガ文主ト對立スル關係ニ左ノ別チアリテ、アラユル賓格ハ、皆、コノイヅレカニ屬スベキモノナリ。

(甲) 自然的結構ノ文ニ於ケル依立の主素ニ起ルモノ。

- (一) 正對
- (二) 從對
- (三) 副對

(乙) 加工の結構ノ文ニ於ケル依立の主素ニ起ルモノ。

- (一) 繫合對
- (二) 準繫合對

正對

提性資格

正對トハ、文主ト從素トノ構想的結合ヲ成スニ方ツテ、其ノ從素ガアラハス動作態度ノ成存ニ成立存在ト直接ノ關係ヲ持シテ、文主ガ其ノ動作ヲ營ミ其ノ態度ヲ取ルニツキテ、直接ノ對者トシテ、相對照セラル、對賓ノ對照上ノ關係ヲイフ。正對ノ對賓ノ有スル位格ニ二種ノ別アリ。一ヲ提性資格トイヒ、一ヲ指性資格トイフ。

提性資格トハ、定格靜辭をノソヘルモノノ大部分ヲイフニテ、ソガソフ對賓ハ、文主ガ營ム動作モシクハ取ル態度ノ力ニヨリテ、包容左右セラル、地位

ニ立ツ直接ノ對者タルコトヲアラハスモノナリ。例へば、を みる みづ を かく みち を と あし を さら る 理由 を と は る を ソヘル 主素 ノ 地

位ノ如キヲイフ。(コノ「つみ」を「ゆるす」みづを「かく」類ハ、コハ、ニ合セテ、ヤ、不穩
 理ノ密集固定スルナ緩解スル力ナ「つみ」テフモノニ加フル義「かく」ハ、水ノ或ル物ノ上ニ懸カ
 標ナル力ナ「みづ」テフモノニ加フル義「成」スモノトシテ、他ト同一ノ語法ヲ成セルモノナリト
 シ、之 ヲ 提性 ト イフ ハ ソ ノ を ニ 文主 ノ 營ム 動作 取ル 態度 ノ 力 ガ 之 ヲ 提
 契、スル ガ 如キ 語法 上 ノ 情味 ヲ 有 スル ニ 依ル。(第四編二六定格
 參照)

みづ を わたる やま を のぼる 「へ を やる 「地 を はなる
く に を あは る ノ 如キ を ハ (第四編二六定格
 參照) ソ ノ を ニ 提契 的 情味 ヲ 有
 セザルニハアラザレドモ、ソノ動作態度ハ、ソノ「を」ノソヘル對賓ヲ本據ト
 シテ成存スルモノニシテ、を ノ 提契 的 情味 ハ、タ 々 語法 ノ 上 ニ 存 スル ノ ミ
 ニテ、文主ハ却ツテソノ對賓ニヨリテ包容セラル、關係ヲ存シ、其ノ動作
 ヲ營ミ、其ノ態度ヲ取ルニツキテ、直接ノ對者トシテ相對照セラル、地
 位上ノ關係ヲ成サザルヲ以ツテ、コノ位格ニ入ラズ。(カクノ如キモノハ、副對
 性資格ナリ)

指性賓格

成スモノト
知ルベシ。

指性賓格トハ、定格靜辭ニノソヘルモノノ一部分ヲイフニテ、其ガソフ對賓ハ、文主ガ營ム動作モシクハ、取ル態度ヲ——(消極的モシクハ積極的ニ)——成就セシムル地位ニ立ツ直接ノ對者タルコトヲアラハスモノナリ。例ヘバ、「ひとに あたふちやに つかふ敵に かつおやに いだか
る」ひとに みるる」をノソヘル地位ノ如キヲイフ。之ヲ指性トイフハ、カクノ如キニニ、文主ノ營ム動作取ル態度ヲ——(消極的モシクハ積極的ニ)——成就セシムルモノヲ指示スル語法上ノ情味ヲ有スルニ依ル。(第四編二六定格靜辭トノ條參照)

スベテ、定格靜辭ノ「ハ、或ル程度ニ於イテ、皆、共通ノ情味ヲ有スレドモ、文主ヲ容ル、場所ヲアラハシ、文主ノ歸着スル地點ヲアラハシ、文主ノ屬スル種類ヲアラハシ、モシクハ、文主ガ營ム動作取ル態度ノ本據タリ由因タリ目的タル類ノモノヲ指示スルモノハ、文主ガ其ノ動作ヲ營ミ其ノ態度ヲ取ルニツキテノ直接ノ對者トシテ相對照セラル、地位上ノ關係ヲ成

從對

サザルヲ以ツテ、コノ位格ニ入ラズ。例ヘバ、「みやこに ありいへに
かへる」午後に いたる「かれは ひとに して、ひとに あ
ら ず」生死に 關す「こゑに おどろく」はなみに ゆく」如シ。

〔第四編二六定格〕(カクノ如キモノハ、副對ノ條ニイフ副性賓格ヲ成スモノト知ルベシ。○靜辭ニノ條參照) (ナホ、定格靜辭ノ「ハ」ノソフモノニテ、指性賓格ニモ副性賓格ニモ入ラヌモノニツキテハ、次ギニイフ從對ノ條ヲ參考スベキナリ。)

從對トハ、文主ト從素トノ構想的結合ヲ成スニ方ツテ、其ノ從素ガアラハス動作態度ノ成存ト直接ノ關係ヲ持シテ相對照セラル、コトハ、正對ノ場合ト同ジケレド、其ノ對賓タルモノハ、文主ガ其ノ動作ヲ營ミ其ノ態度ヲ取ルニツキテノ直接ノ對者トシテ立ツモノニハアラズシテ、文主モシクハ、文主ガ其ノ動作ヲ營ミ其ノ態度ヲ取ルニツキテノ直接ノ對者スナハチ、正對性ノ對賓(通例、提性賓格ノモノ)ノ變化ノ對象或ハ擬準セラルベキ作用ヲ起ス標準ノ對象トシテ相對照セラル、其ノ對照上ノ關係ヲイフモノナリ。從對ノ對賓ガ有スル位格ニモ、二種ノ別アリテ、一ヲ從主賓格(或ハ略シテ從主格)トイヒ、一ヲ從賓賓格(或ハ略シテ從賓格)トイフ。

副性資格

タルスベテノ場合、及ビ他ノアラエル定格靜辭(但シ、副性資格靜辭ハ、例外ニ屬ス)スナハチ「へ」より「から」まで「して」を「して」にて「もて」等ノソヘルモノノ位格ヲ含ムモノニシテ、一括シテ之ヲ副性資格トイフ。(理論的研究ニ亙リテハ、意味ノ關係上ヨリ、更ニ足リヌベキモノニシテ、且ツ、紙數ニ限リアル本書ノ如キモノニハ、其ノ一端ヲダ)例ヘバ「み」ニ示スベキ餘地モナケレバ、續要義ニ至リテ其ノ大綱ヲ示スコトトスベシ。

「はなをゆきとみるよし」といふ「敵」と「たゝかふ」と「これとあなじ」が「しへ」すゝむ「われ」から「まねく」「わがはひ」「く」に「よかひ」まで「あくる」田村磨して「蝦夷」の「賊」を「うたしむ」ひとを「して」かなしましむ「よて」にて「かく」やり「もて」つく「如シ」。

但シ、より「まで」ソヘル副性資格ハ、時間モシクハ場合ノ意義ヲ含ム體言ニソヒテ、文全體ニソフベキ關係ト成ル時ハ、轉ジテ限定素トナリ、其ノ副性資格タル資格ヲ失フ。例ヘバ「このときより、よのさま、やうく」に「たてなほりぬこれより、風俗もあらたまり

編二六定格靜辭ノ條ヲ參照スベシ

契合對

たり「このときまで、敵陣より大小砲をうちかくることいとはげしかりきこれまで、かばかり機智にとめるものをみしことなし」如シ。

又「はなをみにゆく」その「さまをみせにやる」ひとに「やり」に「ゆく」罪人「なり」に「ゆく」ノ如ク、意志ノ注向(寧ロ目的)ヲアラハス副性資格ト同伴スルモノニシテ、文ノ從素ヨリ見テ間接ノ關係ヲ以ツテ立ツモノハ、元來、正對モシクハ從對ノ位格ヲ成スベキモノナリトモ、スベテ、副性資格トナルモノト知ルベシ。(但シ、カクノ如キモノハ、モト認メテ、分解スルコトヲ得ベキナリ)

契合對トハ、文主ト對賓トガ、或ル關係ニ於イテ、契合ヲ保ツモノトシテ、述者ノ思索ニヨリテ、契合對比セラル、其ノ對照上ノ關係ヲイフモノニテ、其ノ契合ノ正否如何ハ、一ニ述者ノ斷定ニ訴ヘラルベキモノニシテ、其ノ斷定ハ、既ニ屢イヘル説法契合動辭ニヨリテ表白セラル、ヲ以ツテ、言ヒ更フレバ、マヅ、文主ト之ニ契合對比セラル、對賓トヲ主素トシテ、其ノ文中ニ對照シ、

準從素
繫對資格

準繫合對

加工のニ其ノ對比上ノ關係ヲ定ムル其ノ斷定ヲ繫合動辭モテ表白スル一
種ノ構想的結合ノモノナレバ其ノ對賓タル主素ト離ルベカラザル特殊ノ
關係ヲ有スル一種ノ從素スナハチ準從素ハ其ノ繫合對ノ主素ト相扱引シ
テ其ノ結構ヲ成スコトトナル。コノ繫合對ノ對賓ガ有スル位格ヲ繫對賓
格トイフ。われ は 日本國民 なりかれ は 日本國民 なら ずゆ
きは ましろ なりゆきは ましろ なら ず日本國民「ましろ」ノ
如キ主素ノ地位スナハチコレナリ。(第四編二七寫法繫合動辭ノ條參照)
準繫合對トハ形式上ニ於イテ繫合對ニ擬準セラレタル一種ノ構想的結合
ヲ營ムモノニシテ其ノ對賓ノ繫合セラレ對照セラルハ決シテ或ル關係
ノ契合ニ於イテセラルモノニアラズタゞ文主ノ時ニ取ツテノ資格性質
形狀等ノ境遇的ニ文主ヲ舉グルニ足ルベキモノヲ文主ノ對賓トシテ繫合
シタル一種ノ構想的結合ヲ成スモノナリ。而シテ其ノ繫合セラルベキ關
係ノ指示ガ寫法繫合動辭たりヲ以ツテセラレ其ノ寫法繫合動辭ガ其ノ對
賓ト離ルベカラザル特殊ノ關係ヲ有スル一種ノ從素スナハチ準從素「モシ

準繫對資格
擬成繫對資格

クハ擬準從素トイフベキモノ(第四編二七寫法繫合動辭ノ條參照)ヲ成スコトナド其ノ構想的
結合ノ形式上ノ關係スベテ繫合對ノ文ト同ジ。
コノ繫合對ノ對賓ガ有スル位格ニハ二種ノ別アリ。一ハソノ對賓ガ正體
言ヲ以ツテ成ル場合ニシテ之ヲ準繫對賓格トイフ。かれ 強者 たりわ
れ 弱者 たら ずノ「強者」「弱者」ノ如キ主素ノ地位コレナリ。(第四編二七寫
法繫合動辭ノ條參照)一ハ其ノ對賓ガ準體言ヲ以ツテ成ル場合ニシテ之ヲ擬成繫對賓格ト
イフ。創古 の こと、實 に、茫 たり、漠 たり創古 の こと、
かならず し も、茫 たら ず、漠 たら ずノ「茫」「漠」ノ如キ擬成主素
スナハチ本來的ニ主素トシテ或ル位格ヲ有シ得ベカラザルモノナルニカ
ハハラズ構想上ノ關係ヨリ隨時ニ擬成セラル準主素ノ地位コレナリ。
(第四編二七寫法繫合動辭ノ條參照)
位格ニハ此等ノ外ニ擬單文ニ限リテ起ル位格アリ。ソハ下節(三一)擬單
文ノ文素ノ條ニ説クベケレドソガナカニ甲 乙 丙 丁 きたる「甲
乙 丙 丁」を たらふノ如ク同ジ位格ノ若干ノ主素ガ合シテ一ノ結

(合格法)

重格法

合セシレタル位格ヲ成スモノアリテ、位格ノ方ヨリ見テ、之ヲ合格法ヲ成ストイヒ、其々ニ、其々ノ本來的位格ヲ持シテ(前ノ例ニテイヘバ主格後)他ト互ニ合格ヲ成ストイフナレド、其トハ別ニ、全クノ單文ナルニモカ、ハラズ、同ジ位格ノモノヲ起ス修辭上ノ語法アリ。「なんぢら、わが忠良なる臣民」日本ノ「カント、何某」さみらは、われを、岡澤鉦次郎を、いかなるひとなりとかおもふ、東洋隨一の強國すなはち日本「インフレクシ、ヨン」、世人これをして譯して「屈曲」といふ。あたらざるにたりノ如シ。カ、ル語法ヲ重格法トイヒ、カ、ル主素ハ、其々ノ本來的位格ヲ持シテ、他ト互ニ重格ヲ成ストイフ。混同スベカラズ。(コ、ニ擧ゲタル最終ノ例ハ、一方ヲ擬呼モノナリ。(序編七)擬呼法ノ條参照)

又、重格法ニテ同格ノモノヲ連ネタルモノト、團成語ニ擬シタル擬熟語法ニテ(序編六)子爵鳥尾得庵「米庵」市河三亥「ナドイヘルモノト」差ハ、此ハ前後ノイツレモ、一ツモノヲ指ス義ニ使用セラレテ、同ジ位格ヲ取り、彼

對立的關係
隨從的關係
從屬的關係
制定的關係

三〇。單文ノ文素ニ於ケル要旨(ツマキ)。

凡ソ、想素的分解ニヨリテ認めラル、單文文素ノ構想的結合ノ關係ニ、二種ノ別チアリ。一ヲ對立的關係トイヒ、一ヲ隨從的關係トイフ。コノ隨從的關係ニハ、マタ二種ノ別チアリ。一ヲ從屬的(或ハ述定的)關係トイヒ、一ヲ制定的關係トイフ。對立的關係トハ、依立主素相互ノ對立上ノ關係(スナハチ位格ノ關係)ナリ。從屬的(或ハ述定的)關係トハ、從素ノ主素ト結合スル關係言ヒ更フレバ、從素ガ自立的、ニ、或ハ依立的、ニ、文主ト結合スル隨從的關係ナリ。コノ二者ハ、實ニ、文ノ要部ヲ成スモノノ構想的結合ノ關係ナリ。要部以外ニ立ツ、裝定素限家素ガ、ソノ裝定シ限定スルモノニ隨從スル關係ヲ

ハ、上ナルモノ、ハ下ナルモノニ對シテ、裝定的關係ヲ持シテ、一種ノ擬熟語法ヲ成スニアリ。サレバ、其ノ用法如何ニテ、同ジ外形ヲ持シテ彼此イツレニモ通用シ得ベキモノアリト知ルベシ。(日本ノ「カント」何某ガ「日本ノカント」すなはち、何某ア如キ義ナル時ハ重格法ヲ成シ、日本ノ「カント」なる何某ノ如キ義ナル時ハ團成語ニ擬シタル擬熟語法ヲ成シ、米庵市河三亥ガ「たぞ」ノ如キ問ヒニ答ヘタル場合ナドニテ「米庵ナリ」市河三亥ナリ)ノ如キ義ナラム

裝定素	先天的制定	限定素	後天的制定
<p>ニヨリテ、オノヅカラ、二種ニ別タルベキモノアルヲ見ル。一ハ、文ノ主素タルベキモノノ思念ガ如何ナルモノナルカヲ明ニスルモノ言ヒ更フレバ主素タルモノヲアラハス語ガ其ノ主素トシテ立ツ場合ニ於イテ指サズ所ノ意義ヲ明ニセムガ爲ニ、其ノ主素ヲ制定スルモノニシテ、其ノ主素ガ自立的或ハ依立的ニ從素トノ構想的結合ヲ起スニ方ツテハ、既ニ先天的ニ定マリ居ルモノヲアラハスコトトナル制定素ナリ。コノ故ニ之ヲ先天的制定ト稱スルヲ得ベシ。コレ、スナハチ、裝定素ガ營ム制定ナリ。一ハ、文素ノ如何ナルモノナルヲ擇バズ、文素ノ或ル結合ナリヤ既ニ想形ヲ成スモノナリヤヲ問ハズ、主素ト從素トノ構想的結合ヲ起スニ方ツテノ或ル狀況モシクハ或ル關係ヲ明ニセムガ爲ニ、其ノ文素モシクハ文素ノ結合或ハ想形ヲ成セル文素ノ結體ヲ制定スルモノニシテ、ソノ制定素ニアラハサル、モノハ、其ハ文ノ構想的結合ヲ起ス刹那ニ於イテ始メテ定マルモノナリ。コノ故ニ前者ニ對シテ、之ヲ後天的制定ト稱スルヲ得ベシ。コレ、スナハチ、限定素ガ營ム制定ナリ。裝定限定ノ區別之ニ依リテ明ナリトイフベシ。</p>			

コノ限定素ハ、上文ニイヘル制定素ノ資格上、ソガ制定スルモノハ、要素モシクハ要素ノ結合或ハ想形ヲ成セル要素ノ結體ナルニ限ルベキガ如クナレド、言語ノ操縦ニハ、擬語法ヲ行フ自由アリテ、自立的或ハ依立的ニ從素タリ述定部タリ得ベキ語ハ、既ニ限定素ヲ取ル慣性ヲ持スルガ故ニ、制定素トシテ立ツ場合ニモ、其ノ限定素ト提契スベキ自由行動ヲ取り得ラル、コトトナルヲ以ツテ從素トシテ立チ得ベキ語ノ裝定素モシクハ限定素タルモノハ、マタ、限定素ニヨリテ、制定(限定)セラル、コトアルコトトナリ、上述ノ如ク「文素ノ如何ナルモノナルヲ擇バズ」トイフベクシテ、要素ノ或ルモノ「トノミイフベカラザルコトトナルナリ。〔限定素ガ主トシテ從素ニソフハ、意義ノ關係上ヨリ來レル自然ノ約束ニ過ギズ。主素ニサヘソフモノアルコト、及ビ種々ノ用例ニツキテハ、既ニ序編想素的分解ノ條(二)ニイヘル所ニテ、其ノ大體ヲ知ルベシ。〕(擬語法ノ條六)及ビ後文ニイフ所ナ参照スベシ。○ナホ、前節位格ノ條ニイヘルガ如ク、定格辭ヲ有シテ限定素トナルモノ、及ビ、次節ニイフガ如ク、複文ノ屬句、擬單文ノ屬成述定部連成述定部等ノ形ヲ有シテ限定素トナルモノナ参考スベシ。〕

序編(二)及ビ前文ニモ之ヲ引キテ擧ゲタル裝定素ノ定義ノ條ニ、殆ンド全

ク主素ニノミソフ「トイヒ、特ニ、殆ンド全ク」ノ語ヲ言ヒソヘタルハ、裝定素ハ、實ニ、主素ヲ制定スベキモノナレド、言語ノ慣性上、第二編一三ノ本註及ビ第三編二三等ニモ擧ゲタルガ如ク、はなの「ごと」つねなきが「ごと」(コノ「ごと」ハ、限定素トシテ立ツモノニシテ、或ル用言ヲ限定スルモノナリ。)(「もの」下ニ語ナキモノハ、イヅレモ、アルベキ用言ノ省カレタルモノト知ルベシ。)

を「おもふ」が「ごとし」ひとの「こゝろ」の「さま」に「ナド」ノ如ク、主素ナラヌモノニ言ヒソフル例モ、全クナキニハアラヌコトト成リ居レバナリ。

又、或ル裝定素及ビ限定素ハ、既ニ、或ル裝定素、限定素ヲ有スルモノ、外部ヨリ之ヲ制定スルコトヲモナシ得ベキモノナルハ、ココニイフ知識ト共ニ、注目シ置クベキナリトス。例ヘバ、さみが「さら、ふ」よわき「敵」わが「このむ」つよき「敵」は「なはだしく」つよく「ひく」なく「ほど」つよく「つめる」ノ如シ。之ト同時ニ、別々ノ制定素ガ同時ニ「一ツ」モノヲ制定スルコト、例ヘバ「よむ」も「しる」も、されど、かなしき「ふみ」つよく「も」よわく「も」みゆノ類モアルコト、又、大體同ジ思想ヲ成スモノモ、

隷屬的制定

限定素ノ位置ニヨリテ、其ノ限定ノ關係ヲ別ニシ、結構上ノ曲折ヲ異ニスル場合アルコト、例ヘバ「よく」ふみを「よむ」ふみを「よく」よむ「く」ると「これ」を「ぬり」たり「これ」を「くろく」と「ぬり」たりノ如クナルモアルコトヲ、注目シ置クベキナリ。(スベテ委シキコトハ、續要義ニイフベシ。)

今、制定素ニ於ケル隷屬的關係ト繫屬的關係トノ別ニ復ラムニ、裝定素ヲ成スモノニモ、限定素ヲ成スモノニモ、皆、其ノ制定的ノ關係ヲ成スベキ本來的ノ性情ヲ有スル一定ノ語、スナハチ、形状言ノ連用活ヲ以ツテ、限定素ヲ成シ(「よく」みゆ「よ」連體活ヲ以ツテ、裝定素ヲ成ス「よき」類ノ如シ。)(「よ」ガ如ク、マダ、狀况名ノ準體言ノ、限定素、單文ノ、限定素ヲ成ス「し」と「さむし」ヤ「しる」類ノモノモアリテ、此等ハ、元來、裝定素モシクハ、限定素ヲ成シテ他ノモノニ隷屬スベキ關係ヲ有スル、或ル、屬性ヲナガラ、裝定素モシクハ、限定素トシテ立ツベキ思念トシテアラハスベキ約束ヲ、其ノ語義語形ノ上ニ有スルモノナリ。)

カクノ如キモノガ制定素トシテ他ヲ制定スルハ、スナハチ、隷屬的制定(裝定或ハ限定)ノ關係ヲ成スモノナリ。コノ隷屬的ノ制定ニ對シ、裝定素ニモ限

轉性繫屬ノ制
 轉性繫屬ノ裝
 本性繫屬ノ制
 本性繫屬ノ裝
 本性繫屬ノ限

ナ以ツテ終レルモノヲ除外シタルコノ種類ニ限定素ヲ有スベキ理由ナキナリ。但シ擬單文ノ場合ニ於テハ、殆ンド限定的ニ使用セラルルモノナキニアラズ。寫法從屬動辭ヲ以ツテ終ル場合、コレナリ。〔あか、ず、くら、ふ、あめ、ふら、ず、し、て、た、ち、つ、ぬ〕之ヲ、上ツ、まふ、ノ如シ。サレド、其モ、寧ロ轉性繫屬ノ限定ニ近クシテ、コノ類ニ遠シ。〕
 ニ舉ゲタル繫屬的制定ノ關係ト別チテハ、轉性繫屬ノ制定(裝定)ノ關係トイヒ、之ニ對シテ、前者ヲバ、本性繫屬ノ制定(裝定)モシクハ、限定ノ關係トイフ。之ヲ要スルニ、隸屬的制定(隸屬的裝定)モシクハ、隸屬的限定ノモノハ、辭ヲ以ツテ終ラザルスベテノ制定素及ビ、形狀言的ノ活用ヲ有スル動辭ヲ以ツテ終ルスベテノ制定素ニシテ、繫屬的制定(繫屬的裝定)モシクハ、繫屬的限定ノモノハ、形狀言的ノ活用ヲ有スルモノ以外ノ辭、定素、靜辭及ビ形狀言的ノ活用ヲ有セザル動辭ヲ以ツテ終ルスベテノ制定素ナリ。〔但シ、ごとしニテ終レルモノノ擬語法ニテ、裝定素(ごとし)限定素(ごとし)トナレルモノ、と、いふて、ふ等ニテ傳述的裝定ヲ成スモノ、かなしく、感ずノ如ク、形狀言ノ連用活ニテ終リナガラ、殆ンド、結終活ノ下ニ、と、ソヒタルニ近キ義ヲ成シテ、限定素タルモノハ、例外トシテ、特ニ繫屬的制定ヲ成スモノナリ。コノ事ニツキテハ、ナホ、續要義ニイフベシ。〕

〔部屬的繫屬〕
 〔領屬的繫屬〕
 〔記述的限定〕
 〔說述的限定〕
 〔通性制定〕
 〔局性制定〕

コノ二者ノ別チヲ成ス性質上ノ對照ニツキテハ、繫屬的制定中、本性繫屬ノ制定(一部、部屬的繫屬)ノ制定(全部、一部ノ關係ニテ起ル制定的結合例へバ、ひとのて、ひとの)ノ如キ繫屬(領屬的繫屬)性質ト主體トノ間ニ於テ、主體が其ノ性質ニ支配セラルル(うて、及、之、ニ準シタルモノ(例へバ、)ノ別チアルコト、限定素中ニ記述的限(きみ)が、こゝろ、わが、み、ノ如キ繫屬)ノ別チアルコト、限定素中ニ記述的限定(說述的限定以外)說述的限定(おそらく、いか、て、如ク、述者ノ(第一者トシテ)情意ヲシテ、全ク主觀的)ノ別チアルコト、スベテノ制定的關係ニ於テ、通性制定(裝定)或ハ限定(ふつか)の(小説)局性制定(裝定)或ハ限定(ちかめ)の(小説)局性制定(如キ制定)ノ別チ(コノ別チハ、限定素ニモアレド、)アルコトナドニツキテ、趣味アリマタ必要ナル智識アレド、本書ノ紙數ニ限リアルヲ以ツテ、スベテ之ヲ欠略シ、タゞ、前編中ニ言ヒ置キタル所アル關係上、コノ對照上ノ性質ニハアラザレド、言ヒ述ブル上ノ性質ヨリ來リテ、コノ二者ノ別チト或ル關係ヲ有スル直寫的制定(裝定)モシクハ、限定(傳寫的制定)傳述的制定(裝定)ノ事ニツキテ、コ、ニ一言スルコトトセムニ、直寫傳寫傳述ノ制定ハ、元來、擬語法ニヨリテ成ルモノニシテ、(コノ故ニ、本來ハ、擬語法ニヨリテ成レル制定素ニツキテ、ノミ言ヒ得ベキ區別ナルベキナレド、

擬語法(及ビ之ニ準ツテ見ルベキモノ)「スナハチ」といふノ縮約シテ成レル「て、ふ」今ハ述定ヲ成スコトナクシテ傳述的ノ裝定ヲ成スベキ一種ノ様雜靜辭トナレルガソヒテ、ソノ制定ヲ成セルガ如キ場合(註)以外ノモノモ其ノ性(註)其ノ關係上、マヅ、述定ニ於ケルコノ三種直寫傳寫傳述ノ述定ノ別ヨリシテイハザルベカラザルガ、コノ述定ノ別チハ、固ヨリ寫述文ニ關スルモノシテ、序編(九)ニモイヘル如ク、傳述法ノ文アルニ對シテ、普通ノ寫述文ノ述定ヲバ、直述トシ、モイフベキモノナルニ似タルヲ更ニ傳述ト直述トノ中間ニ立ツベキモノ(例ヘバ、あめ、ふらむ)とすノ場合ノ如ク(參照)「ふらむ」ナル元來說述的ノ述定ニ「と」ありノ如キ義ノ「す」(混成二段寫)トヲソヘテイヘル場合ノ如ク、殆ンド一塊ノ義ヲ成スベキ特殊ノ慣性ヲ有スル套語ヲ成セルモノ(參照)「わ、れ、この」「さ、き、を、き、ら、む」と「す、ら、む」如キモノハ、例外ニ屬ス。「ゆ、か、む」と「する」とキモ、傳寫的裝定ヲ成サザルコト、推シテ知ルベシ。ノ傳述トモ言ヒガタク直述トモ言ヒ難キモノアリテ、普通ノ寫述性ノ述定ト相對シテ直寫傳寫ナド言ヒ別ツヲ可トスベキニ依リ、鼎立セシメテ直寫法傳寫法傳述法トイフコトトシタルニテ、(說述文ヲ成スモノニテモ、說述形ヲ重ネタルリ)「な、め、り、げ、る、な、り、ナ、ド、ノ、ツ、ヘ、ル、ニ、テ、ヤ、コ、ノ、傳、寫、ト、似、タ、ル、モ、ア、レ、ド、オ、ノ、ツ、カ、ラ、別、ナ、リ。」續要義ニイフベキナリ。此等ガ擬語法ニテ制定

直寫的限制裝定
直寫的限制裝定
直寫的限制裝定
直寫的限制裝定
直寫的限制裝定

詞

素トナル場合ハ、スナハチ直寫的限制裝定モシクハ限定傳寫的限制裝定傳述的限制裝定(傳寫法傳述法ヲ成スモノ)トイフベキモノヲ成スコトトハナルナリ。(第四編二七說法繫合動辭)ナホ、此等ニツキテモ、委シキコトハ、スベテ續要義其ノ他ニ讓ルベシ。

以上說ク所ニヨリテ單文ノ分解ニ必要ナル文素ノ項目ハ、ホ、其ノ綱領ヲ擧ゲ得タルヲ信ズルガ故ニ、コ、ニ、此等各文素ヲ成スモノニツキテノ最終ノ一言ヲ述ベムニ、既ニ序編中ニモイヘル如ク(六擬語法ノ條三六)單文ノ文素ハ、ものモシクハ作用「形狀」ヲアラハス語、スナハチ「言」一ツナルカ、或ハ之ニ或ル辭ノソヘルモノナルカラ原則トスルモノニシテ種々ノ擬語法ニヨリテ、始メテ種々ノ複雑ナル語ノ團結ヲバ取り得ルナリ。コノ故ニ、モシ此等ヲ區別シテ呼バムトスル時ハ、其ノ原則ノマ、ナルモノ、スナハチ、一ツノ言モシクハ之ニ辭(ハ、二ツ或ハ二ツモシク)ノソヘルマ、ナルモノヲバ、皆「詞」トイヒ、(擬語法ヨリ來レルモノナルモ、コノ條件)之ニ依リテ、主詞、從詞、裝定詞、限定詞、等ノ稱呼ヲ起スベク、擬語法ニヨリテ、二ツ以上ノ言ヲ以ツテ成リ、イマダ、句ヲ成スニ及

き^リか^ビ等ノ如キモノヲ有スル類、コレナリ。アル時ハ、其ノ單文ヲ呼ンデ、雑性單文トイフ。

雑性單文ノウチニハ「かれは漢字は不便なり。東洋的なり。」

このゆゑに「すつべし」と「へり」漢字は高尙なり。

り。東洋的なり。このゆゑにとるべし」の論をた

つ」如ク若干ノ文ヲ包含シテ擬語法モテ一語ニ準ジテ主素ヲ成スベキ

モノトナシ或ハ制定素ヲ成スベキモノトナセルアリ。カ、ル文ニアリ

テハ單位文ヲ論ズル文典ニアリテモ、マタ數個別々ノ單位文ヲ一團トシ

テ、文素論中ニ措置スベキ必要ヲ感ズベシ。之ニヨリテ、カクノ如キ状態

ノ擬語法ヲ成セル引用ノ單位文ノ集團ヲ名ヅケテ、文團トイフ。(單位文既

藏スベシ。擬單文複文ノ場合推シテ知ルベシ。サレド、本書中之ニ論及スベキ餘地ナ)コ

キナ以ツテ、次節ノ文中、ゴノ事ニ及バズ、タ、ゴ、ニ一言ノ注意ヲ附スルニトム。

ノ文團ニ出入シテ文典上ニ注意セラルベキ種々ノ條項ニツキテハ、皆續

要義ニ讓ルベシ。

三一。複文擬單文ニツキテノ要旨。

複文ガ元來單位文トシテ立ツベキモノ(スナハチ單文)ノ二ツ以上ヲ繋ギツケテ更ニ一ツノ單位文タルベキ一種ノ形ヲ取ラシムルモノナルコト、及ビ之ヲ其ノ原ノ單文的ノ結合ドモニ分割シタルモノヲ句(或ハ文形文素)トイフコトハ、既ニ序編中(三)ニモイヘル所ナルガ、ソノ句ノ繋ギツケラル、關係ニ於イテ、大體上、二種ノ區別アルヲ見ルハ、甚容易ナルベキモンニシテ、讀者モ、既ニ感得シタル所アリヌベキナリ。

其ノ二種ノ區別トハ、スナハチ(甲)よあけ、ひいづよあけ、ひいて、

つきかくるノ如ク、續用、靜辭ヲ要セズシテ、ヨク其ノ結合ヲ成スモノト、

(乙)よあけて、ひいづよあくれど、ひいて、すよあけ、ば、

ひいて、むノ如ク、續用、靜辭ニヨリテ、其ノ結合ヲ全ウスルモノトノ別

チナリ。

コノ二種ノ別チニツキテイヘバ、(甲)ハ、全ク別々ニ言ヒノベラルベキ思想ヲ便宜上一經メニシタルノミニシテ、(イ)其ノ思想ヲ成ス事件ニ前後ノ順次アル場合モアルベク、(ウ)いいて、つきかくる「よあけ、ひ(ロ)同時ニ起ル事件ヲ

取り並べテイフマデノモノナル場合モアルベケレド、(おもてはしるく、うらひあかし)ひと要スルニ其ノ前後ノ句ノ間ニハ、(は)よろこび、われは客觀的ノ必要ニヨリテ——述定ノ便宜上ヨリ言ヒツクタル句ト言ヒキル句トノ別ヲ生ズレドモ、一方ガ他方ニ對シテ或ル特別ナル關係ヲ持シテ言ヒツクケラル、由ノ思念ヲ言語ノ上ニアラハサザルヲ以ツテ語面上ヨリイヘバ前後ノ句ハ對等ノ機能ヲ有シテ相提契スルモノナリ。

之ニ反シテ、乙ニ屬スルモノハ或ル一ツノ思想ヲ言ヒアラハスニツケテ、或ル關係ヲ以ツテ他ノ思想ヲ附屬セシメ、一纏メニシテ思念スルモノニシテ、其ノ各思想ヲ成ス事件ノ一纏メニシテ思念セラル、關係ニハ、イ分立的ニ其等ノ事件ヲ思念スル場合モアルベク、(よ)あくれば、ひいてすかぜつよくとも、如キハコレナリ。(ロ)合成的ニ其等ノ事件ヲ思念スル場合モアルベケレド、

(よ)あけて、ひいづノ如キハコレナリ。但シ續用靜辭「テ」ヘリトモ必シモ合成的ニ思念セラル、モノニハアラズ事情ノ折リ合ハザル關係モシクハ特ニ對照セラルベキ對立的關係ヲ有スルモノハ例ヘバ「あたへやすくして、用ひろし」み 婦人ニしして、こゝろは男子ナリ」フ如シ。分立的ノ關係ヲ成スコトナルモノト知ルベシ。本來的ニハ「合成」的ノ語法ヲ成ス辭ナレド、意義ノ關係上ヨリ異動ヲ起スモノナリ。「ば」「て」「と」も「續用靜辭」ハ本來的ニ分立的ノ語法ヲ成スモノニシテ如何ナル意義ノ場合ニモ合成的ノ

主要句
連成句
屬成句
縱聯連成句
橫聯連成句
散聯屬成句
集聯屬成句

關係ヲ成スコトナシト知ルベク其ノ他ノ續用靜辭ハ其々ノ意義ノ關係ニテ定マルモノナレド今普通ニ使用セラル、用法ニテハ殆ンド全ク分立的ノモノヲ成スト知ルベシ。委シクハ續日本典要義其ノ他ニイフベシ。要スルニ前後ノ句ノ間ニハ、附屬スル關係ト主位ニ立ツ關係トノ別チアルコトヲ語面ニアラハスモノナリ。

カクノ如クニシテ、二種ノ差異ハアレド、甲ノ場合ニモ其ノ言ヒ廻ハシ上、正シク述定シテ文ヲ結ブモノハ末ノ句ナルヲ以ツテ、ホ、形式的ニハ、乙ニ準ジテ末ノ句ヲ以ツテ主位ニ立ツモノト認メラレザルベカラザルモノナリトス。之ニヨリテ、(甲)ノ種類ヲ通ジテ複文ヲ結ブベキ末ノ句ヲ主要句トイヒ、之ニ言ヒツケラル、句ヲバ、(甲)ニツキテハ、連成句トイヒ、(乙)ニツキテハ、屬成句トイヒ、更ニ、連成句ノ(イ)ロヲ別チ呼バムトスル時ハ、(イ)ヲ縱聯連成句トイヒ、(ロ)ヲ橫聯連成句トイヒ、屬成句ノ(イ)ロヲ別チ呼バムトスル時ハ、(イ)ヲ散聯屬成句トイヒ、(ロ)ヲ集聯屬成句トイヒツベシ。

サレド、複文ハ、タゞニ此等ノ單純ナル結合ヲ以ツテ成ラズ、連成句、モシクハ屬成句ヨリ言ヒツクケラレタル主要句ノ一團ヲ以ツテ、更ニ他ノ句モシクハ句ノ或ル團結ト結合シタル、複雑ナル結構ヲ成スコトアリ、ソガ上ニ更ニ、

他ノ句、モシクハ句ハ、或ル圍結ト結合スルコトサヘモアリ。其ノ一班ヲ例示スレバ、左ノ如シ。

(1) 甲はあつろへ。乙はやみて、丙ひとりさかんなり。
(2) 甲はしに。乙はおい、勢威あつろへて。ひとかへりみず。

(3) 甲は貧なれどもひと敬愛し。乙は富貴なれどもひと蔑視す。

(4) はなさきて。ひもあたかなれど、かぜありて。ほこりいみじ。

(5) 甲きたり。乙きたり。丙きたり。丁きたり。甲はすみをすり。乙はふてをいだし。丙はかみをのべ。丁はつくえにむかふ。

(6) 甲は軍功をたてて。天下服し。乙は政界に雄飛して。一世これをあもんずれども、甲の家庭は

をさまらずして。みもやらくあつろへたれば、その境遇かへりて。あはれむべく。乙の家庭は聲なく。みなほさかんなるも、こにかしこきひとなく。人生に對する理想のひかりもあらざれば。みなひとのうらやむもあたらす。

疊成複文	原成複文	連成複文	屬成複文
<p>カクノ如クニシテ、複文中ノ複雑ナル結體ヲ成セルモノヲバ、連成句モシクハ屬成句ト主要句トノ單純ナル結體ニ對シテ、スベテ、疊成複文トイヒ、コノ疊成複文ニ對シテ其ノ單純ナル結體ノ複文スナハチ普通ノ複文ヲバ、原成複文トイフ。サレド、原成複文ノウチノ別チトシテハ、連成句ヲ有スルモノヲバ、單ニ連成複文トイヒ、<small>(ソガ上ニ更ニ、縱聯連成句ヲ有スルモノト、橫聯連成句ヲ有スルモノト、區別セムガ爲ニハ、縱聯連成複文、橫聯連成複文トイフ)</small>屬成句ヲ有スルモノヲ單ニ屬成複文トイフコトト定ムベク、<small>(散聯屬成句ヲ有スルモノト、集聯屬成句ヲ有スルモノト、區別セムガ爲ニハ、散聯屬成複文、集聯屬成複文トイフ)</small>コノ連成複文モシクハ屬成複文ヲ以ツテ疊成複文中ノ一團ヲ成ス場合ニハ、其ノ内部ノ結合ノ如何ナルモノナルヲ問ハズ、其ノ主要句ニ當ルベキ團結<small>(例ハ、(2)ノ「勢威」以下、(3)ノ「乙」以下、(4)ノ「かぜ」以下、(5)ノ「乙」</small></p>			

疊成主要句
疊成連句
疊成屬句

「甲」(以下)ヲ疊成主要句トイヒ之ニ言ヒツマケラル、モノヲバ疊成連句(別
ノ如シ)ハ疊成連句トイフベシ。モシクハ疊成屬句(別チテハ疊成散聯屬句トイフ)トイフ。(1)例ヘバ、
横聯連句トイフベシ。ハ疊成屬句集聯(3)ノ甲(ハ)ハ疊成連句(横聯(4)ノハ)ナ
シ。ハ疊成連句トイフベシ。ハ疊成連句(横聯(4)ノハ)ナシ。ハ疊成連句(横聯(4)ノハ)ナシ。
如シ。ハ疊成連句トイフベシ。ハ疊成連句(横聯(4)ノハ)ナシ。ハ疊成連句(横聯(4)ノハ)ナシ。
マシ。ハ疊成連句トイフベシ。ハ疊成連句(横聯(4)ノハ)ナシ。ハ疊成連句(横聯(4)ノハ)ナシ。
性質ヲ見定メテ之ヲ分割スベシ。但シ連句ニアリテハ原成複文ニテモ必シモニツニ限ラザ
ルコト(4)ノ例ノ如クナリト知ルベシ。但シ連句ニアリテハ原成複文ニテモ必シモニツニ限ラザ
文ナリト知ルベシ。但シ連句ニアリテハ原成複文ニテモ必シモニツニ限ラザ
ベテ之ニ準ジテ稱呼シ、タゞ層々疊成シタルモノナリトシテ會得セラルベ
キナリ。(例ヘバ、(6)ノ「甲」ハ「ヨリ」服「おもん」ずれども「マデ」ハ疊成屬句(散聯ニシテ、(ソノ内
「おもん」ずれども「マデ」ハ疊成屬句(散聯ニシテ、(ソノ内
主要句(其ノ内部ハ、更ニ「甲」ノ「ヨリ」服「おもん」ずれども「マデ」ハ疊成屬句(散聯ニシテ、(ソノ内
タゞ、(其ノ内部ハ、更ニ「甲」ノ「ヨリ」服「おもん」ずれども「マデ」ハ疊成屬句(散聯ニシテ、(ソノ内
家庭「ハ」以下ノ疊成主要句トシテ「おとろへ」たれ「ハ」以上ヲ疊成屬句トス)ト「乙」の
め「ハ」以上ヲ疊成屬句トシ「更ニ」マタ、ソノ疊成屬句中「ハ」以下ヲ疊成主要句トシ「と」ハ
トシ「ハ」以上ヲ疊成屬句トスルナリ。ヨリ成ルコトナルニ「タル」ガ如シ。蓋シ如
何ニ多クノ句ノ團結ヲ成セルモノナリトモ、ソノ外部ニ對スル聯結ノ關係
ハ、スベテ必ラズ、原成複文ノ結體ニ於ケル形式ヲ取ルモノナレバナリ。
ナホ、複文ノ分割ニ關シテイフベキ事ハ、甚多ケレド、簡約ヲ期スルニヨリ、

スベテ、續日本文典要義ニ讓ルコトトシタルヲ、ナホ、コ、ニ一言ヲソヘザ
ルベカラザルハ、複文ニ似テ複文ナラザル、文單文モシクハ、擬單文アルコ
トニテ、例ヘバ、それがし つゝしみて こと の さま を 按ずる
に、いま の 語學教育 は まづ 根本的 の 誤謬 を 有す
「われ おもふ に、自國語 の 知識 を もとむ と せ ざる
語學教育 は、算術 を あきらめ ず して 代數 を まなぶ
が ごとし」それがし……按ずる に「われ おもふ に、又「かれ
は、こゝろ は うごき ながら、つひ に 利 に さそは れ
ざり し なり」かれ は、こゝろ いさゝか も うごか ず、道
徳堅固 に みを を へ たり」こゝろ は うごき ながら「こゝ
ろ いさゝか も うごか ず」ノ如キモノハ、屬成句モシクハ、連成句ニ
似タル點モアレド、屬成句モシクハ、連成句ニアラズシテ、前者ハ下ノ文全
體ニツフ限定素、後者ハ下ノ成述部ニツヒテ共ニ擬單文ノ成述部ヲ成ス、
一種限定素的ノ句形ナル成述部(句形ナル成述部トイフコトニツキテハ、下)ヲ成

有スルナリ。然ルニ、コノ準擬成複文ハ、本來的ニ複文タルベキ十分ナル資質ヲ有シナガラ便宜上ヨリ却ツテ、——擬團成語法ヲ應用シ——擬成複文ノ屬成句ガ有スル限定素的系線ノ或ル情味ヲソノ屬成句ニ與ヘムトスル語法ヲ成スモノナリ。コレ特ニコノ名目ヲ撰定シタル所以ナリ。

(複文ノ屬成句ハ、コノ方法ヲ取ルニアラザレバ、元來單文中ノ文素ニ附屬スベキモノナル副詞ヲ添接スルヲ得ズ。サレバ、コノ方法ニヨリテ、副詞ヲ用テ、複文ノ屬成句ニ添接スルモノナルトハ、知ルベシ。ナホ、副詞ヲ添接以外ニ、コノ方法ニヨリテ、收メ得ラル、情味上ノ得分ニ至リテハ、續要義ニイフベシ。)

擬單文ガ元來複文ヲ成スベキ想形ヲ變ジ、擬連語法ヲ應用シテ單文擬似ノモノトシタルニアルコトハ、既ニイヘルガ如クナレド、(序編三及ビ六)既ニ擬單文ノ成立ヲ見レバ、マタ擬單文トシテノ特殊ノ發展ヲ見ルモノニシテ、スベテノ擬單文ヲ擧ゲテ、必シモミナ複文形ニ還源シ得ベキモノニハ、アラズシテ、其ノ間ニ種々ノ委曲ヲ存シ、複文(複文ノ或ル被述部ノ場合)單文トノ限界ニツキテモ、説明セザルベカラザルコト、マタ多ケレド、本書ニ於イテ之ヲ縷説スベキ餘地ナキヲ以ツテ、委細ノ事ハ悉ク續要義ニ讓ルコトトシテ、コ、ニハ、タ、上、文、複文ニツキテノ叙述ニ準ジ、擬單文ノ分割ニ關スル根本的智識ノ一斑ヲ擧

複成述部

グルコトトセムニ、マツ注意スベキハ、擬單文ハ、被述部モシクハ述定部時トシテハ、兩成述部ニ於イテ、二ツ以上ノ別々ノ成述部ヲ成シ得ベキモノヲ擬語法擬連語法ニテ一團ト成スモノナルガ故ニ、ソノ單文トノ相違點ハ、或ル成述部(或ハ被述部或ハ述定部)ノ單一ナリヤ、複數ナリヤニアリテ、複文トノ相違點ハ、同ジク複數ナル、或ル成述部ガ句々ニ分立シテ外部ヨリ提契セリヤ、一句中ニ提契セリヤニアルコトト、コノ擬單文ノ特徴ヲ成ス、複數ノ成述部、スナハチ、一句中ニ提契スル、或ル成述部ガ單文ニ於ケル、成述部ニ對シテ、正ニ複成述部トイフベキモノナルコトトナリ。

複成述部ノ構成ハ、被述部ト述定部トニテ、互ニ等シカラザルモノニシテ、前者ハ、單文ニ於ケル主素ノ位格ニ則ル所アリテ、一種擬單文的ノ位格ヲ保有シ、後者ハ、主トシテ、複文中屬成句ニ限定素的情味ヲ保有スルモノ(スナハチ擬成複文標準擬成複文)ノ性質ニ則ル所アリテ、成ル種ノ共通の性質ヲ保有ス。(但シ、後者中、對實ヲ包含スル、或述部ニアリテ、其ノ對實ニ於イテ、ニ、複數ノ結體ヲ成ス、(ベキ述定部ヲ成スモノハ、却ツテ、前者ニ等シキ性情ヲ有スルモノトナルコト、後文部分ニイフガ如シ。)今、マツ被述部ヨリシテ、イハムニ、被述部ノ複成述部、スナ

複成被述部

複成文主

合格ノ文主

統轄性ノ合格

ハチ、複成被述部ハ、其ノ要部ナル文主ヲシテ、提契シタル、複數ノ主素ヲ以ツテ成立セシムルモノナリ。

文主ノ複數ノ主素スナハチニツ或ハニツ以上ヲ以ツテ成立スルモノヲ複成文主トイフ。何トナレバ、カクノ如キハ、文主タルベキモノスナハチ主格ノ主素ニツ或ハニツ以上ノ提契シテ被述部ノ要部ヲ構成スルコトニヨリテ擬單文ノ文主ヲ成スモノナレバナリ。之ヲ其々ノ主素ニツキテ位格ノ上ヨリ見ル時ハ、互ニ合格ヲ成ストイヒ合格ノ文主トイフ。コノ複成文主スナハチ合格ヲ成ス文主ノ結合ニハ、オノヅカラ二種ノ別チアリ。統轄性ノ合格ヲ成スモノト等列性ノ合格ヲ成スモノトノ二ツ、コレナリ。而シテ、此等ハ、皆位格上ノ關係ヲ以ツテ提契スルモノナルヲ以ツテ、今コ、ニ、ソノ位格ノ大要ヲ述ベテ、其ノ性質ヲ示スコトトスベシ。

統轄性ノ合格ヲ成ス複成文主ハ、全部ト一部トノ關係ニテ、統轄スルモノト統轄セラル、モノトノ提契性ヲ有スル主素ヲ以ツテ文主トシテノ合格ヲ成スモノナリ。例ヘバ、

太郎 は たけ たかし。

仁者 は いのち ながし。

日本 は くに 小 なり。

日本人 は こゝろ あほい なり。

ノ如シ。コノ統轄スル方（太郎は仁者は日本は）ハ、位格ヲ、統轄性相伴主格トイヒ、統轄セラル、方（たけいのちくに）ハ、位格ヲ、被統轄性相伴主格トイフ。

統轄性相伴主格ハ、副用性定格靜辭はノ添加スルヲ常トシ、其ノ文ノ從素ガ、なし以外ノ形状言モシクハ、説法繫合動辭ノなり、準從素ヲ以ツテ成ルト相需ツモノナリ。（コノ條件ニ合フモノ以外ニアリテハ、ハ、副用性定格靜辭）但シ、特ニ他ノ副用靜辭ヲ要スベキ意義上ノ關係アル時ハ、ソノ副用靜辭ヲ以ツテ之ニ代フルコトヲ得ベク（但シ、ソノ副用靜辭ハ、イヅコマテモ副用靜辭トシテ立ツモノナリ。其ノ學理ニツキテハ、續要義ニイフベシ）例ヘバ、甲も たけ たかし）マタ、擬呼法（序編）ノ場合ニハ、ソノハ）ヲ省クコトヲ得ベキモノトス。（述性ノ從屬動辭ナツフルヲ得ズ。モシ、之ヲ加フル時ハ、其

統轄性相伴主格
被統轄性相伴主格

ノ動辭ノ力ニヨリテ、其ノ構想的結合ノ關係ハ一變シ、被統轄性相伴主格タルベキモノハ述
 定部ニ入り、統轄性相伴主格タルベキモノノ普通ノ主格(文主トシテ)被述部ニ立ツトナ
 ルモノト知ルベシ。例ヘバ「太郎」ハ被統轄性相伴主格ヲ成サズシテ「たかき」ニテ擬熱語法
 主格ナル文主トナリ「たけ」ハ被統轄性相伴主格ヲ成サズシテ「たかき」ニテ擬熱語法
 ナリ。此等ノ事ニ關シテハ、委曲ハ、續要義ニイフベシ。ナホ下ニイフ擬熱語法相伴主格ノ
 文ニ於テモ、之ト同一ナル條件ハ存在スルモノナリト知ルベシ。○又、如何ナル場合ニモ、
 被統轄性相伴主格ノ下ニハ、副用性定格靜辭ノ「ナ」許容セザルベキモノナレバ、全部一部ノ
 關係ノモノノ點接シタル構造ノ文モ、之ニ擬セラルベキ語ノ下ニ「の」辭アラバ、必ラズ、コノ
 複成文主以外ノモノト知ルベシ。例ヘバ「太郎」ハ「たけ」ノ「たかき」ナリ「り」太郎
 け」トガ同成述部ニ立テルモノナラザルガ如シ。
 統轄性ノ合格ヲ成シ得ベキモノヲ有スル、思想ノ統轄性相伴主格タルベ
 キモノガ、他ノ統轄性ノ合格ヲ成シ得ベキモノヲ有スル、思想ノ統轄性相
 伴主格タルベキモノモシクハ、普通ノ單文ヲ成スベキ思想ノ文主タルベ
 キモノト同一ナル場合ニ於テ、相結合セムトスル時ハ、ソノ被統轄性相
 伴主格タルベキモノハ、其ノ統轄性相伴主格タルベキモノト分離シ、述定
 部ニ入りテ、句形ヲ以ツテ擬單文ノ連成述定部屬成述部モシクハ、主要
 述定部(擬單文ノ述定部ガ複成述部ヲ成ス場合ニ於テ、其ノ複成述部ヲ成ス成述
 部トモガ、複成述部ニ於ケル連成句屬成句主要句ノ概念ニ比擬シテ、連成述定部屬成
 述定部トモト稱フナリ)ニイフヲ稱呼セラル「成スコトアリ。例ヘバ「太郎」ハ、
 述定部主要述定部トモト稱フナリ。

たけ たかくし てちから つよし 太郎 は、 ちから は、 つ
 よけれど、 こゝろ は、 よわし 次郎 は、 ちから も つよく、 こ
 りろ も たけし 甲 は、 學問 ふかけれ ど、 頑陋 なり 甲 は、
 頑陋 なれ ど、 學問 は、 ふかしノ如シ。サレバ、カ、ル場合ニハ、特
 ニ、句形ノ述定部ヲ有スル述定部ヲ見ルコトトナルト知ルベシ。「カ、ル
 文ニアリテハ、其ノ文主ハ、其ノ想形ノ變化ニヨリテ、既ニ統轄性相伴主格
 ノ資格ヲ保ツモノニアラザルヲ以ツテ、固ヨリ、副用性定格靜辭ノ「は」ヲ有
 スルコトナシ。(カ、ル文ノ文主ニツヘル「ハ」ハ、普通ノ副用靜辭ノ「ハ」ニシテ、副用性定格靜辭ヲ成サズト知ルベシ。)
 統轄性ノ合格ニ攝スベクシテ、其ノ性質上、嚴正ナル統轄性ノ合格ヲ成サ
 ザル一種ノ擬單文アリ。蓋シ、正シクハ統轄性ノ合格ヲ成サザルモノヲ、
 統轄性ノ合格ニ擬成セルモノナリ。カクノ如キハ、ソノ思想ニ於テ、從
 素形狀言ノ「なし」ナルカ、或ハ作用言(モシクハ、之ニ「或ル」ナルカ、或ハ從屬性繫
 合動辭ナルカ、然ラザレバ、全部一部ノ關係彼此轉倒シテ、彼此所ヲ換ヘタ
 ル關係ヲ有スルカノ場合ニ於テ起ルモノナリ。例ヘバ「うま」ハ、つ

擬成統轄ノ合
格成統轄相
伴主格
擬成統轄相
伴主格
等列性ノ合格

の なし「ひと」みな「こゝろ」あり「甲」ちから「まさる」ちから「は」
 甲 | つよし「桂太郎」み「總理大臣」たり「如シ」。(カ、ルモノハ、上ノ方ナ
ソフチ必要トセズ。モシ、ソヘバ、ソハ、皆、副用カ、ル文ノ統轄性ノ合格ニ攝セラ
静辭ナリト知ルベシ。(例文ノ「正」皆、然リ)ルベキ文主ヲ擬成統轄ノ合格トイヒ、上ノ方ノ文主ノ位格ヲ擬成統轄相
 伴主格トイヒ、下ノ方ノ文主ノ位格ヲ擬成統轄相伴主格トイフ。
 等列性ノ合格ヲ成ス復成文主ハ、文素トシテ對等ノ資格ヲ有スル文主ヲ以
 ツテ、文主トシテノ合格ヲ成スモノニテ、ソノウチニ三種ノ別チアリ。一ツ
 ハ、甲 | 乙 | 丙 | は、よき 學生 なり「如ク、タ、對等ノ資格ヲ有スルモ
 ハヲ合セテ復成合格トスルモノ、次ギノ一ツハ、甲 | 乙 | と | は、探險
 に「むかひ」たり「如ク、對等ノ資格ヲ有スルモノヲ並行的ニ合セテ復
 成文主トスルモノニシテ、他ノ一ツハ、甲 | 乙 | か | 乙 | か | は、かならず「か
 へり」きたる「べし」如ク、歸着スベキ運命ニ於イテ、互ニ分離スベキ關係
 ヲ存シ、今ニ於イテ對等ノ資格ヲ有スルモノガ暫ク結合シテ復成文主ヲ成
 スモノナリ。此等ハ、其ノ排列ノ順序ニ依リテ、毫モ構想的結合ニ於ケル資

合性
等列
相伴
主格
並性
等列
相伴
主格
離性
等列
相伴
主格

格上ノ輕重ヲ起スベキモノナラザルヲ以ツテ、其々ノ復成文主ノ内部ニツ
 キテ、位格上ノ區別ヲ立ツベキ性質ヲ保有セズ、其ノ前者ノ如キモノニツキ
 テハ、スベテ、合性[○]等列[○]相伴[○]主格[○]トイヒ、其ノ中者ノ如キモノニツキテハ、スベ
 テ、並性[○]等列[○]相伴[○]主格[○]トイヒ、其ノ後者ノ如キモノニツキテハ、スベテ、離性[○]等
 列[○]相伴[○]主格[○]トイフ。
 並性等列相伴主格ハ、普通ニハ、副用靜辭ノ「と」も「モシクハ、咏歎ノ副用靜辭
 ノ「や」「ん」ノ咏歎ノ義ヲ失ヒテ、普通ノ副用靜辭ノ如クナレリシモノ。(編二
 六、咏歎ノ副用靜辭ノ條註文參照)ヲ、合格ヲ成ス各文主一ツフルモノヲ以ツテ成レドモ、時
 ニハ、特ニ言ヒツヘラル、限定素ニヨリテ、其ノ並性ナル由ヲ示スコトア
 リ。甲 | 乙 | 丙 | 丁 | は、あのか(或ハ、それ)「各自等」若干の
 義捐 を なせり「如シ」。(サレド、ソノ文主タル主素ドモ、ニツフ限定素以外ノモノ
 モノハ、語法上、コノ格例ニ入ラズ。例ヘバ、甲 | 乙 | 丙 | は、分離 し て、こゝろ) 離性
 の 義捐 を なせり「甲 | 乙 | 丙 | は、別々 に 義捐 し たり」如シ。 離性
 等列相伴主格ニハ、二ツノ場合アリテ、一ハ、副用靜辭ノ「か」ヲ合格ヲ成ス各
 文主ニソフル「ニヨリテ、其ノ離性タルヲアラハスモノニシテ、(本文ノ例

複成述定部

あし なしノ文ニ於ケル文主ノ例ノ如シ。ナホ、此等ノ事ニツキテハ、續要義ニイフベケレド、此等ノ例文ヲ斲索セバ、ヨク、層成文主ノ性質ヲ解シ得ラルベキナリ。

次ギニ、述定部ノ複成述部スナハチ複成述定部ニツキテイハムニ、複成述定部ハ、(甲)其ノ要部ヲシテヨク其ノ文ノ被述部ニ對スル述定部トシテ立チ得ベキモノハ、提契シタルモノ(スナハチ、複數ノ成述部ヲ以ツテ成立セシムルカ、或ハ、(乙)其ノ要部中ノ同格ナル、或ル對賓、モシクハ、其ノ要部中ナル從素(モシクハ、從素ト或ル種ノ對賓トノ結合ノ、ナホ、其ノ文ノ被述部ニ對スル述定部トシテ立チ得ルニ及バザルモノ)ヲシテ、提契シタル複數同種ノ文素(スナハチ、成述部ノ一部分ノ複數ヲ以ツテ成立セシムルモノナリ。

(但シ、(甲)ニアリテハ、スベテ、限定素ノ有無ト、成述部構成上ノ異同如何ト、ナホ、眼中ニ置カズ、(乙)ニアリテハ、對賓ノ場合ニハ、スベテ、限定素ノ有無ヲ眼中ニ置カズ、前文ニイヘル複成文主ノ場合モ、固ヨリ、之ニ同シ、從素ノ場合ニハ、之ト結合スル對賓ノ有無ヲ眼中ニ置カズ、而シテ、其ノズシテ、其ノ複數ノ文素モシクハ、文素ノ結合ヲ平等視スルモノト知ルベシ。)

(甲)スナハチ、述定部ノ要部要部全體ヲ述定部トシテ立チ得ベキモノナル成述部ノ複成シタルモノナル場合ト、其ノ(乙)スナハチ、述定部要部ノ一部分ノ複成シタルモノナル場合トノ別ハ、複成述定部ノ性質ヲシテ大ナル差異ヲ

全成的複成述定部

部分的複成述定部

複成對賓

複成從素

有セシムルモノナルニヨリ、之ニヨリテ複成述定部ヲ區別シ、前者ヲ全成的複成述定部、或ハ、便宜上、單ニ複成述定部トイヒテ後者ト別ツベシ。トイヒ、後者ヲ部分的複成述定部トイフベク、其ノ後者(スナハチ、(乙)ノ複成述定部ヲシテ部分的複成述定部タラシムル所以ノモノニツキテハ、更ニ、(イ)同格ノ對賓ノ複成シタルモノニシテ、述定部中ニアリナガラ、却ツテ、複成文主ト同ジク、單文ニ於ケル主素ノ位格ニ則リテ擬單文的ノ位格ヲ保有スルコトニヨリテ、其ノ疑單文ヲ成ス所以ノ複成對賓ヲ成スモノト、(ロ)述定ノ責メヲ充タス所以ノ從素ヲ主トシテ、——或ハ、或ル對賓ヲ有シ、或ル對賓ヲ有セズシテ——屬成複文ノ關係ニ則ル複成從素ヲ成スモノトノ性質ヲ認ムルヲ要スルヲ知ルベシ。(コノ複成對賓複成從素等ニツキテハ、下ノ注ニ準グル文例ヲ參照スベシ。)

此等擬單文ヲ成ス複成述定部ノ事ハ、頗ブル繁雜ナル關係ヲ有シ、本書ニ於イテ縷説スベキ餘地ナキヲ以ツテ、避ケ得ベキダケ之ヲ避ケテ續日本文典要義ニ譲リ、今ハタゞ大綱ノ針路ヲ指示スルニ止メムニ、マツ、全成的複成述定部ヲ成スモノニツキテハ、其ノ複成述定部ハ、スベテ、複文ノ分割ニ準ジ、連

つみ かるき ものを ば (提統性相伴) ほな を (被統性相伴) そぐ。
 うま に (指統性相伴) ひたひ に (伴指統性相伴) 印し、うし に (は)
(指統性相伴) しり に (伴指統性相伴) 印す。
 その の (は) ひと は、甲 と 乙 と (共ニ並性等列相伴) 以下準ジテ知ルベシ、合格
 なり。

この こ (は) 軍人 か 教師 か (共ニ離性等列相伴) なる
 べし。
 かれ は、京都 大阪 神戸 へ (共ニ合性等列相伴) ゆき し なる
 べし。

餘ハ推シテ知ルベシ。委シキコトハ、スベテ、續要義ニイフベシ。

合格ハ固ヨリ、同格ノ對賓ヲ以ツテ成ルベキモノナルガ故ニ、似タルモノ
 モ、既ニ位格ヲ異ニスレバ、合格ヲ成スコトナシト知ルベシ。例へバ、ひと
 を^レして、こゝろ を いたま しむ ひと を して こゝろ を
 トハ、全部ト一部トノ關係ヲ有シ、ツノ兩者ノ意義上ノ關係、統轄性被統轄

性ノ相伴資格ヲ成スベキニ似タレド、其ノ從素ト結合セル地位上ノ關係
 スナハチ、其ノ位格相等シカラザルガ故ニ、スナハチ、同格ナラザルガ故ニ、
 相伴資格ヲ成サザルガ如シ。

○ナホ、最終ニ注意スベキハ、合格ヲ成ス主素ノ一團(スナハチ、複成文主モ
 シクハ複成對賓)ハ時アリテ、制定素裝定素ニ轉用セラル、トアリ。太郎

か 次郎 かの つゑ 太郎 と 次郎 と の いへ 太郎 ちよ

び 次郎 の 説ノ如シ。此等ハ、固ヨリ、擬單文ノ格例ニ入ラズ。又屬
 成句ヨリ轉ジテ、特ニ文全體ノ制定素(限定素)ヲ成ス套語ヲ成セルモノノ
 類(例へバ、され ば、か、れ ば、かく の ごとく なれ ば、され ど)
 ば、て (省略) ノ類、意義上ノ關係ト慣用上ノ習辭トニヨリテ別チ得
 ベキモアリ。此等ノ類、其ノ他擬似ノモノニツキテハ、スベテ續要義ニイ
 フベシ。

凡ソ、擬單文ハ、單文的ノ構成法ヲ取リナガラ、ソノ文全體トシテ、成述部ヲ
 成スモノハ、一方モシクハ、双方ガ複成成述部モシクハ、ソノ疊成シタルモノ

複成擬單文
層成擬單文

雙影複成擬單
文影複成擬單
片影複成擬單
文影複成擬單
混體層成擬單

ナル層成、成述部ヲ成スモノナルコトニヨリテ成立スルモノナルヲ以ツテ、ソノ成述部ノ複成ナリヤ疊成ナリヤニヨリテ其ノ文性ヲ別ツベキハ、自然ハ順序ナリトイフベシ。之ニ依リテ擬單文ヲ別チテ、ソノ擬單文ヲ成ス所以ノ成述部ノ複成ナルト疊成ナルトニ取リテ、直チニ其ノ名ヲ命ジ、前者ヲ複成擬單文トイヒ、後者ヲ層成擬單文トイフ。擬單文既ニ其ノ文全體トシテノ成述部ノ一方ノミノ性質ニヨリテ成立シ得ベキモノニシテ、他ノ一方ガ單一ナル成述部ナルヲ厭ハザルモノナレバ、一方複成成述部ニシテ一方層成成述部ナル時モ、マタ之ニ準ジ、ソノ大ナル方ニツキテ、之ヲ層成擬單文トイフベキモノナレド、成述部ノ双方共ニ複成成述部ヲ成シ或ハ層成成述部ヲ成ス場合ヲ以ツテ、然ラザル場合ヨリ別タムトスル時ハ、双方共ニ相等シキモノヲ雙影複成擬單文、雙影層成擬單文ナド稱スベク、之ニ對シテ、一方ガ全ク單一ナル成述部ヲ以ツテ成ルモノヲ、片影複成擬單文、片影層成擬單文ナド稱スベク、一方ガ層成成述部ニシテ他ノ一方ガ複成成述部ナル場合ニハ、之ヲ混體層成擬單文ト稱スベシ。モシ複成モシクハ、文團ヲソノ中

雜性云々擬單
文雜性云々擬單
雜性擬單文

ニ含蓄スルコトアルアラムニハ、擬體法ニヨリテ制定素ノ素材ヲ成ス場合、モシクハ、アル場合ナドニ起ルコト、單文ノ條ニイヘル所ニヨリテ推知スベシ。但シ、其ノ他ニ、統轄性ノ相伴主格ヲ成ス複成文主ノ文ヲ成スベキモノヨリ轉成シタルモノニシテ、われは、こゝろにせまり、むねいたし、われは、てかじけあしなえて、すゝむべくもあらざり、如ク、複文形ヲ持シテ、複成成述部複成成述部ヲ成シ、或ハ、複成成述部(複成成述部)ノ一部ヲ合格ノ條下ニ於ケル本註ヲ参照スベシ。委曲ハ、續要義ニイフベシ。スベテ、其々ノ稱呼ノ上ニ「雜性」ノ語ヲ加ヘ、雜性云々擬單文トイヒ、廣ク其等ヲ概括シテハ、雜性擬單文ト呼ブベキモノトス。

教科
参考

日本文典要義

終

文典學參考書

◎ハ命世ノ書ニシテマタ必要ノ参考書タルモノ、◎ハハノガ國現代ノ著書中注目スベキモノノ符ナリ

- ◎ 加茂真淵語意考
- ◎ 富士谷成章、かさし抄三冊
- ◎ 富士谷成章、あゆひ抄六冊
- ◎ 本居宣長、紐鏡
- 本居宣長、高岡猛彦、紐鏡うつし辭
- ◎ 本居宣長、詞の玉緒七冊
- ◎ 東條義門、玉の緒線分五冊
- ◎ 幻裡庵、詞玉緒延約三冊
- ◎ 中村尙輔、玉緒澁添三冊
- ◎ 長野義言、玉緒末分櫛三冊
- ◎ 中島廣足、詞玉緒補遺一名手引草六冊
- ◎ 萩原廣道、てにをは係辭辨

- 黒川眞頼、玉緒變格辨
- ◎ 本居春庭、詞八衢二冊
- ◎ 本居春庭、詞八衢黒川春村、赤松祐以等書入本
- ◎ 本居春庭、清水濱臣、岡本保孝、加部嚴夫、増補詞のやちまた二冊
- 本居春庭、渡邊弘人、詞のやちまた語釋二冊
- ◎ 中島廣足、詞八衢補遺一名陸蹈道二冊
- ◎ 本居春庭、詞通路三冊
- ◎ 長野義言、活語初の栞
- 東條義門、ともかゞみ
- ◎ 東條義門、山口栞三冊
- ◎ 東條義門、話語雜話初編二編三編
- ◎ 東條義門、平井重民、里見義、頭書話語指南二冊
- ◎ 本居宣長、校正玉霰
- 玉あられ論

- 三井高蔭、辨玉あられ論
- ◎ 中島廣足、玉霰窓酒小篠前編後編五冊
- ◎ 鹿持雅澄、用言變格例
- ◎ 鹿持雅澄、舒言三轉例
- ◎ 鹿持雅澄、結詞例
- ◎ 鹿持雅澄、鍼囊一名歌詞三格例二冊
- ◎ 黒澤翁滿、言靈のしるべ上編中編三冊
- ◎ 橘守部、助辭本義一覽二冊
- ◎ 富樫廣蔭、詞玉橋二冊寫本
- ◎ 富樫廣蔭、堀茂足、落合直亮、たまたますきそへひも
- 堀茂足、玉襟例證題名ヲ逸ス。今假ニ名ヅク。或ハ、次二冊寫本
- 堀茂足、玉襟懸左萬二冊寫本
- ◎ 堀秀成、玉襟添紐古體之部寫本
- 堀秀成、語格全圖

- 堀秀成、羅鬘二册寫本
- 源影面、古今集和歌助辭分類二册
- 堀秀成、後撰拾遺類辭(寫本)
- 物集高世、辭格考抄本二册
- 物集高世、東語例
- 林國雄、言葉の緒環二册
- 珠阿彌、詞の八千種三册
- 萩原廣道、詠歌心の種二册
- 保田光則、歌難抄
- 鈴木重胤、詞捷徑三册
- 鹿持雅澄、雅言成法二册
- 野々口隆正、通略延約辨
- 敷田年治、音韻啓蒙二册
- 上田秋成、靈語通假字編

- 楫取魚彦、古言梯再考
増補標註
- 石塚龍麿、古言清濁考三册
- 荒木田久老、信濃漫錄
- ◎〔金石音主、古言本音考〕
- 鈴木朗、雅言音聲考
- 林國雄、皇國之言靈
- 平田篤胤、古史本辭經四册
- 富樫廣蔭、堀茂足音義本末考(寫本)
- 堀秀成、音義本末考(寫本、稿本)
- 堀秀成、音義本末圖(寫本)
- 堀秀成、音義本末考
- 堀秀成、音圖略說
- ◎堀秀成、言靈顯證拔抄(寫本)
- 堀秀成、助辭音義考二册(寫本)

- 堀秀成、難語本義考二冊(寫本)
- 堀秀成、語學階梯二冊
- 鶴峰成申、語學新書三冊
- 野々口隆正、神理入門用字訣二冊
- 平井梧庵、歌格類撰正編、續編
四冊
- 梅園春男、形狀言五種活用圖
- 權田直助、語學自在二冊
- 權田直助、詞の經緯圖
- 權田直助、詞の眞澄鏡
- 黒川春村、改詞格一覽(寫)
- 佐藤誠實、語學指南四冊
- 黒川眞頼、鈴木弘恭詞乃栞打聽
- 田中義廉、小學日本文典二冊
- 中根淑、日本文典二冊

- ◎こんどうまこと、ふみまなびの おほむね(ことばの その)
- チャン・ブレン、日本小文典
- 谷千生、日本小文典批評
- 谷千生、詞の組立二冊
- 里見義、日本文典正編、續編
四冊
- 林甕臣、開發
新式日本文典(内二冊)
- 林甕臣、日本文典二冊
- 物集高見、初學日本文典二冊
- 物集高見、てにをは教科書
- 物集高見、日本文典ぬきほ(日本大辭林)
- 大槻文彦、語法指南(言海)
- 大槻文彦、廣日本文典
- 大槻文彦、廣日本文典別記
- 中村秋香、皇國文法釋義

- 〔落合直文、小中村義象、中等教育 日本文典〕
- 落合直文、日本大文典四册
- 東宮鐵麿、語格要覽
- 〔高津歙三郎、日本中文典〕
- 岡倉由三郎、日本新文典
- 岡倉由三郎、日本文典大綱
- 〔奏政治郎、皇國文典〕
- 岡田正美、新式日本文典上卷
- 岡田正美、日本文章法大要
- 岡田正美、解説批評日本文典二册
- 草野清民、日本文法
- 金澤庄三郎、日本文法論
- 關根正直、國語學
- 〔芳賀矢一、明治文典三册〕

- 〔芳賀矢一、中古文典〕
- 芳賀矢一、明治文典參考書
- 〔松平圓次郎、新式日本中文典〕
- 〔松平圓次郎、新式日本文典別記〕
- 〔和田萬吉、日本文典講義〕
- 〔廣池千九郎、てにをはの研究〕
- 宮脇郁、論理的日本文典
- 大矢透、國語溯源
- 大矢透、現行普通文法改定案調查報告之一
- 入江祝衛、日本俗語文法論
- 山田孝雄、日本文法論上卷
- 岡澤鉦次郎、初等日本文典前編二册
- 岡澤鉦次郎、初等日本文典後篇ノ部未定稿〔寫本〕
- 岡澤鉦次郎、新式日本文典原理正編〔總論ノ部、以下追刊〕

- 皇典講究所講演
- 帝國文學
- 言語學雜誌
- 國學院雜誌
- 本居宣長, 漢字三音考
- 黒川春村, 五十音三内所發圖解
- 白井寛蔭, 字音假字用例
- (Port Royal), Art of Speaking. 1676.
- Harris, Hermes, or a philosophical inquiry concerning universal grammar. 1786.
- Sacy, Universal Grammar. 1834.
- Heyse—Steinthal, System der Sprachwissenschaft. 1856.
- Rogers, Grammar and Logic in the nineteenth century as seen in a Syntactical Analysis of the English Language. 1892.

- Becker, Organism der Sprache. 1841.
- Becker, Das Wort in seiner organischen Verwandlung. 1833.
- [Paul, Pincipien der Sprachgeschichte. 1898].
- Paul—Strong, Principles of the History of Language. 1891.
- Strong—Logeman—Wheeler, Introduction of the History of Language. 1891.
- Bréal, Semantics. 1900.
- Wederer, Zur Sprachwissenschaft. 1861.
- Steinthal, Einleitung in die Psychologie und Sprachwissenschaft. (Abriss der Sprachwissenschaft, erster teil.) 1871.
- [Max Müller, The Science of Thought. 1887].
- [Max Müller, The Science of Language. 2 vols. 1891].
- Noiré, Max Müller and the Philosophy of Language. 1879.
- Whitney, Max Müller and the Science of Language. 1892.
- Abel, Ueber den Ursprung der Sprache. 1881.

- [Sayce, Introduction to the Science of Language. 2vols 1900].
- [Sayce, The Principles of Comparative Philology. 1892].
- Whitney, Language and the Study of Language. 1884.
- Whitney, Life and Growth of Language. 1889.
- Whitney, Oriental and Linguistic Studies. (First series) 1893.
- Peile, Philology. 1891.
- Sweet, The History of Language. 1899.
- [Gabelentz, Die Sprachwissenschaft. 1901].
- [Oertel, Lectures on the Study of Language. 1901].
- [Steinthal—Misteli, Charakteristik der hauptsächlichsten Typen des Sprachbaues. (Abriss der Sprachwissenschaft, zweiter teil.) 1893].
- Byrne, General Principles of the Structure of Language. 2vols. 1892.
- Fr. Müller, Grundriss der Sprachwissenschaft. 4 Bde. (in 11) 1876—88.
- Latham, Elements of Comparative Philology. 1862.

- Hovelacque, Science of Language. 1877.
- Lefevre, Race and Language. 1894.
- Cook, Origins of Religion and Language. 1884.
- Delbrück, Introduction to the Study of Language. 1882.
- Bopp, Analytical Comparison of the Sanskrit, Greek, Latin, and Teutonic Languages, shewing the Original Identity of their Grammatical Structure. 1888.
- Bopp, Vergleichende Grammatik des Sanskrit, Soud, Armenischen, Griechischen, Lateinischen, Litauischen, Altslavischen, Gothischen und Deutschen. (Mit Ardent's Sach- und Wortregister). 4 Bde. 1857—63.
- Bréal, Introduction a la Grammaire comparée des Langues Indo-Européennes de M. Fr. Bopp. 1868.
- Schleicher, Zur Morphologie der Sprache. 1859.
- Schleicher, Compendium der vergleichenden Grammatik der indogermanischen Sprachen. (Mit Bleischnitten von Johannes Schmidt.) 1866.

- ◎ Clark, Student's Handbook of Comparative Grammar. 1862.
- ◎ Brugmann, Elements of the Comparative Grammar of the Indo-Germanic Languages (With Index.) 5 vols. 1885-95.
- ◎ Brugmann, Vergleichende Laute-, Stammbildungs- und Flexionslehre der indogermanischen Sprachen. (Zweite bearbeitung) Erster Band. 1897.
- ◎ Delbrück, Vergleichende Syntax der indogermanischen Sprachen. 3 Bde. 1893-1900.
- ◎ Giles, Short Manual of Comparative Philology. (Vergleichende Grammatik der klassischen Sprachen). 1901.
- Hirt, Kleine grammatische Beiträge. (Indogermanische Forschungen.) 1901.
- ◎ Smith-Blackwell, Parallel Syntax Chart of Latin, Greek, French, English and German, based on the logical analysis. 1885.
- ◎ Fick, Vergleichendes Wörterbuch. 1871.
- ◎ Abel, Einleitung in ein aegyptisch-semitisch-indoeuropäisches Wurzelwörterbuch. 1887.

- ◎ Kühner-Bluss, Ausführliche Grammatik der griechischen Sprache. (Elementar- und Formenlehre). 2 Bde. 1890-1892.
- ◎ Kühner-Gerth, Ausführliche Grammatik der griechischen Sprache. (Satzlehre.) 2 Bde. 1898-1904.
- ◎ Jannaris, Historical Greek Grammar. 1897.]
- ◎ Curtius-Gerth, Griechische Schulgrammatik. 1882.
- ◎ Curtius, Erläuterungen zu meiner Griechischen Schulgrammatik. 1875.
- ◎ Matthiae, Copious Greek Grammar. 2 vols. 1832.
- Jelf, Greek Grammar. 2 vols. 1851.
- Donaldson, Complete Greek Grammar. 1862.
- ◎ Harrison, Treatise on the Greek Prepositions, and on the Cases of Noun with which these are used. 1860.
- ◎ Goodwin, Syntax of the Moods and Tenses of the Greek Verb. 1900.
- ◎ Goodwin, Greek Grammar. 1892.

- ◎ [Thompson, Murray's Greek Grammar. 1902.]
- ◎ Sonnenschein, Greek Grammar. 1889-901.
- Madvig, Syntax der griechischen Sprache. 1847.
- ◎ Clyde, Greek Syntax. 1881.
- Benfey, Griechische Grammatik. (Wurzelleikon.) 1839.
- ◎ Curtius, Grundzüge griechischen Etymologie. 1875.
- Roby, Grammar of the Latin Language, from Plutus to Suetonius. 2 vols. 1896-1904.
- ◎ Kennedy, Pubile School Latin Grammar. 1893.
- Madvig, Latin Grammar. 1902.
- Allen-Greenough, Latin Grammar. 1902.
- ◎ Sonnenschein, Latin Grammar. 1901.
- Zumpt-Schmitz, Grammar of Latin Language. 1847.
- Andrews-Stoddard, Grammar of the Latin Language. 1866.

- ◎ Nene, Formenlehre der Lateinischen Sprache. (Mit Wagner's Register.) 3 Bde. 1875-77.
- [Morris, On the Principles and Methods in Syntax, with special reference to Latin. 1902.]
- Hamilton, Logical Consistency of Greek and Latin Syntax. 1870.
- ◎ Byrne, Origin of Greek, Latin and Gothic Roots. 1893.
- ◎ Schmidt, Beiträge zur Geschichte der Grammatik des Griechischen und des Lateinischen. 1859.
- Whitney, Sanskrit Grammar, including both the classical language, and the older dialects, of Veda and Bramana. 1896.
- Speijer, Sanskrit Syntax. 1886.
- ◎ Edgren, Compendious Sanskrit Grammar, with a brief sketch of Scenic Prakrit. 1885.
- ◎ Max Müller, Sanskrit Grammar. 1866.

- ◎ Max Müller-Macdonell, Sanskrit Grammar for Beginners. 1886.
- ◎ Kielhorn, Grammar of the Sanskrit Language. 1888.
- Williams, Elementary Grammar of the Sanskrit Language. 1846.
- ◎ [Williams, Practical Grammar of the Sanskrit Language. 1877.]
- ◎ Benfey, Practical Grammar of the Sanskrit Language, for the use of early students. 1868.
- ◎ Benfey, Vollständige Grammatik der Sanskritsprache. 1852.
- Wilson, Introduction to the Grammar of the Sanskrit Language. 1847.
- ◎ Apte, Student's Guide to Sanskrit Composition, being a treatise on Sanskrit Syntax. 1898.
- ◎ Edgren, On the Verbal Roots of the Sanskrit Language and of the Sanskrit Grammarians. 1878.
- ◎ Sweet, New English Grammar, logical and historical. 2 vols. 1898-900.
- ◎ Keller, Historical Outlines of English Syntax. 1892.

- ◎ [Meitzner, English Grammar: methodical, analytical and historical. 3 vols. 1874.]
- ◎ Mason, English Grammar, including Grammatical Analysis. 1898.
- Mason, English Grammar, including the principles of grammatical analysis. 1872.
- ◎ Whitney, Essentials of English Grammar 1889.
- Whitney-Lockwood, English Grammar. 1892
- Bain, First English Grammar. 1891.
- ◎ Bain, Higher English Grammar. 1884.
- ◎ Bain, Companion to the Higher English Grammar. 1877.
- ◎ Nesfield, English Grammar, past and present. 1900.
- ◎ Morell, Grammar of the English Language, together with an exposition of the analysis of sentences. N. D.
- [Murray, A Grammar of the English Language. 1804]
- Adams, Elements of the English Language. 1874.
- Swinton, English Grammar 1887.

- Davenport-Emerson, Principles of Grammar. 1898.
- ◎ Meiklejohn, English Language. 1898.
- Abbott-Seeley, English Lessons for English Peoples. 1901.
- ◎ Dixon, Handbook of English. 1886.
- Dixon, English Lessons for Japanese Students. 1888.
- Dixon, English Composition. 1889.
- ◎ Greene, Treatise on the Structure of the English Language, or the Analysis and Classification of Sentences and their Component Parts. 1847.
- Day, Art of English Composition. (Grammatical Synthesis). 1868.
- ◎ Bardeen, A System of Rhetoric. 1884.
- ◎ [Earle, The Philology of the English Tongue. 1892.]
- [Skert, Principles of English Etymology. 1891-92]
- ◎ [Skert, Etymological Dictionary of the English Language. 1898.]
- ◎ Lonsbury, History of the English Language. 1904.

- ◎ Whitney, Compendious German Grammar. 1893.
- ◎ Thomas, Practical German Grammar. 1906.
- Behaghel-Trenckmann, Short Historical Grammar of the German Language. 1899.
- Curme, Grammar of the German Language. 1905.
- ◎ [Becker, Handbuch der deutschen Sprache. 1876.]
- Becker, Ausführliche deutsche Grammatik. 1842.
- Heyse, Theoretisch-praktische deutsche Grammatik. (oder Ausführliches Lehrbuch der deutsche Sprache.) 2 Bde. in 3. 1838-49.
- ◎ Heyse-Lyon, Deutsche Grammatik. 1900.
- ◎ Engelien, Grammatik der neuhochdeutschen Sprache. 1892.
- ◎ Vernalden, Deutsche Syntax. 2 Bde. 1861-63
- Gurkes, Deutsche Schulgrammatik. 1898.
- Wihmann, Deutsche Schulgrammatik. 1891.
- Straus, Grammar of the German Language. 1884.

- Cutting, *Modern German Relatives, "Das" and "Was."* 1902.
- [Wilmann, *Deutsche Grammatik*. 2 Bde. 1897-99.]
- Becker, *Deutsche Wortbildung, oder die organische Entwicklung der deutschen Sprache*. 1824.
- ◎ [Kluge, *Etymologische Wörterbuch der deutschen Sprache*. 1899.]
- ◎ Strong-Meyer, *History of the German Language*, 1886.
- ◎ Chassang, *New Etymological French Grammar*. 1880.
- ◎ Whitney, *Practical French Grammar*. 1887.
- ◎ Brachet-(Prette-Masson-Gannu-Lerlander), *Public School French Grammar*. (Accidence.) 1896.
- Brachet--Toyribee, *Historical Grammar of the French Language*. 1896.
- Darmesteter, *Historical French Grammar*. 1899.
- Alcock, *Elements of Japanese Grammar*. 1861.
- Hoffmann, *Japanische Sprachleer*. 1867.

- [Aston, *A Grammar of the Japanese Written Language*. (First edition) 1872.]
- ◎ [Aston, *A Grammar of the Japanese Written Language*. (Third edition) 1904.]
- Chamberlain, *Handbook of Colloquial Japanese*. 1888.
- [Lange-Noss, *A Text-book of Colloquial Japanese*. 1907.]
- Underwood, *Introduction to the Korean Spoken Language*. 1890.
- Gale, *Korean Grammatical Forms*. 1903.
- ◎ Bachelor, *Grammar of the Ainu Language*. (Ainu-English-Japanese Dictionary.) 1905.
- Caldwell, *A Comparative Grammar of the Dravidian or South-indian Family of Languages*. 1875.
- ◎ [Halbert, *A Comparative Grammar of the Korean Language and the Dravidian Dialects of India*, 1906.]
- ◎ Singer, *Simplified Grammar of the Hungarian Language*. 1882.
- Eliot, *Finnish Grammar*. 1890.

- ◎ Redlions, Simplified Grammar of the Ottoman-Turkish Language. 1884.
- ◎ Grunzel, Entwurf einer vergleichenden Grammatik der Altäischen Sprachen, nebst einem vergleichenden Wörterbuch. 1895.
- Forbes, Comparative Grammar of the Languages of Further India. 1881.
- Maxwell, Manual of the Malay Language. 1895.
- Williams-Mather, Easy Introduction to Hindustani. 1858.
- Hunter, Comparative Dictionary of the Non-Aryan Languages of India and High Asia. 1868.
- ◎ Bertin, Abridged Grammars of the Languages of the Cuneiform Inscriptions, containing (1) A Sumeru-Akkadian Grammar, (2) An Assyro-Babylonian Grammar, (3) A Vannic Grammar, (4) A Medic Grammar, (5) An Old Persian Grammar. 1888.]
- [Budge, Easy Lessons in Egyptian Hieroglyphics. 1902.]
- ◎ Green, Grammar of the Hebrew-Language. 1889.

- Edkins, China's Place in Philology: An Attempt to show that the Languages of Europe and Asia have a Common Origin. 1871.
- Edkins, The Evolution of the Chinese Language. 1888.
- [Lacouperie, The Languages of China before the Chinese. 1887.]
- ◎ Barnum, Grammatical Fundamentals of the Inuit Language, as spoken by the Eskimo of the Western Coast of Alaska.
- Diez, Introduction to the Grammar of the Romance Languages. 1863.
- ◎ Young, Italian Grammar. 1904.
- ◎ [Sauer, Italian Conversation-Grammar. 1900.]
- ◎ Sauer, Spanish Conversation-Grammar. 1891.
- ◎ [Motti, Russian Conversation-Grammar. 1901.]
- ◎ Valette, Dutch Conversation-Grammar. 1893.
- ◎ [Wundt, Völkerpsychologie. (Die Sprache.) 2 Bde. 1900.]
- ◎ [Dittrich, Grundzüge der Sprachpsychologie. 2 Bde. 1903.]

- ◎ Schmidt, Zur Geschichte des Indogermanischen Vocalismus. 2 Pde. 1871-75.
- ◎ Gray, Indo-Iranian Phonology. 1902.
- ◎ Ulllenbeck, Manual of Sanskrit Phonetics. 1898.
- ◎ Sweet, Handbook of Phonetics. 1877.
- ◎ Sweet, Primer of Phonetics. 1890.
- ◎ Sweet, Primer of Spoken English. 1900.
- ◎ Viotor-Rippmann, Elements of Phonetics. 1893.
- ◎ Sonnes, Introduction to English, French and German Phonetics. 1899.
- ◎ Sievers, Grundzüge der Phonetik. 1893.
- ◎ Trautmann, Die Sprachlaute im Allgemeinen und die Laute des Englischen, Französischen und Deutschen im Besondern. 1834-86.
- ◎ Viotor, Elemente der Phonetik des Deutschen, Englischen und Französischen. 1898.
- ◎ Scripture, The Elements of Experimental Phonetics. 1902.
- ◎ Hermann, Lehrbuch der Physiologie 1905.

- ◎ [Landois, Lehrbuch der Physiologie der Menschen. 1905.]
 - ◎ Huxley, Lessons in Elementary Physiology. 1893.
- 發音中ノコハ發音中ニ發スルシタレモハ若干ナレテ見出シタルトシテ發スルニテ發スルヤトク
キキルハニモナラズニテナチ發キス。

正誤表 (緒言七頁参照)

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
三三	一三	(黄喰む)	(黄喰む)	一七三	三	三	三	四二〇	九	かなしまし	かなしまし
四六	一四	ナナル	ナナル	一九八	八	か	か	四二九	二左	フドベルナム	フドベルナム
四九	一〇	市川	市河	二〇七	一三	原形	本形	四三三	三註	属句	属成句
六二	五	標記想	相	二二〇	四	存ズ	存ス	四四〇	九註	われこの	われこの
六九	一四	然ナ	自然ナ	二二四	三	準体語	準体言	四四四	一〇註	単位文	單文
七二	一〇	あらず(トモ)	あらず	二三八	一〇	「かく」	「かく」	四五〇	ハ九註	「をもんずれ」	「おもんず」
七六	一	アル通則	アル通則	二五六	一三註	ニヨリテ	トニヨリテ			「ん」トノ間ナツメ、	「れ」ト「ト」
七六	二	「ど」	「など」	三〇五	二	「こむ」	「こむ」			ノ間ナハナスマシ。	
七六	一三	ノ意義(重複ニツキ)	セラル、セラル	三〇七	一	「が」ノ	「か」ノ	四五五	二	或ル	或ル
八四	六	セラル	セラル	三二七	五註	「が」ノ	「か」ノ	四六五	八	或ル	或ル
九二	二	標記(脱字アルハ)	物事ノ名ニ準ズル指示名ニ準ズル指示名	三三四	一四註	ナ具備	ノ形式ナ具備			或ル	或ル
九二	三	標記(脱字アルハ)	ズル指示名ニ準ズル指示名	三五〇	七	***	***			或ル	或ル
一〇二	一	其ノ(衍字ニツキ)	「かたち」	三五八	五	「ず」ノ興起	「て」ノ興起			或ル	或ル
一二五	一四	「かたち」	「かたち」	三五九	三	コトニヨリテ	テトニヨリ			或ル	或ル
一二七	二	心得ベキ	得ベキ	三六七	二	なかり	なかり			或ル	或ル
一三〇	六	感歎	感歎詞	三九八	一	希伯語	希伯來語			或ル	或ル
一三〇	七	「甲」	「甲案」	四〇〇	一四	國語ノ	國語ノ弱點			或ル	或ル
一六〇	八	下節(一六)	上節(一三)	四一一	一	加構的	加工的			或ル	或ル

フノ他、字体ノ錯誤字畫ノ錯誤(括弧括弧、熟ナ熟、週ナ週、辨ナ辨)若干アリ。()、〇等及ビ傍線ノ錯誤遺脱、マタ少カラザレドモ、通讀ノ際容易ク發見シ得ベキモノナレバ、煩雜ナ厭ウテ之ヲ擧ゲズ。

索引

(音寫實のナル順序ハ、五十音圖ニ依リ、且ツ、便宜上、字音ノ語ニ限リ、大體上、聲ノ假名遣ヒニ從ハザルコトトシタリ)

ア

アリストートル 三九八。

暗索指示名(暗索指示品象名) 七九註。

イ

イ 三〇八註。

位格 四九一五〇。五六一五七。四一三。四二。四五六一四六四。四六七。四六九。

爲相 一八五。一九〇。

爲相作用言 一八五。二〇六。二二三〇。

爲相的ノ然相 一八八。一八九。

已然言 二〇一。

一段活用 二二二。

已定活 二〇二。二〇三。

已定活ヲウクル從屬靜辭 三二七。三三。

爲動的相作用言 一八九。一九〇。

言ヒキリ 一九六。

「いひそへ」(アルス) 三九八。

依立主素ノ文 四〇七。四一一。

依立從素ノ文 四〇六。四〇七。四一一。

依立的主素 四〇七。

依立的從素 五六。五七。四〇六。

陰性寫述文、陰性說述文等 七四。

陰性ノ思想 七三。七四。

陰性ノ述定(陰性寫述、陰性說述等) 七四。

隱體單位通稱名 一六二。一六三。

印度歐羅巴語(印度日耳曼語)

一四二。三八一。三八二註。

「インフレクシヨン」 二七。二八。一四。三七。三七八二。

「インフレクシヨン」ト語ノ分類 一四一。一四二。

エ

英語ト「インフレクシヨン」 三九六註

咏情語 五三。五四。一一三。一三。一四。一五。一六。一七。一八。一九。二〇。二一。二二。二三。二四。二五。二六。二七。二八。二九。三〇。三一。三二。三三。三四。三五。三六。三七。三八。三九。四〇。四一。四二。四三。四四。四五。四六。四七。四八。四九。五〇。五一。五二。五三。五四。五五。五六。五七。五八。五九。六〇。六一。六二。六三。六四。六五。六六。六七。六八。六九。七〇。七一。七二。七三。七四。七五。七六。七七。七八。七九。八〇。八一。八二。八三。八四。八五。八六。八七。八八。八九。九〇。九一。九二。九三。九四。九五。九六。九七。九八。九九。一〇〇。

咏情語ノ轉用 五四。

咏情語ノ本用 五四。

咏情名ノ準體言一五一。一五二—一五三
咏歎、咏歎文六六一—六七。
咏歎ノ辭ト感歎詞一一四註。
咏歎ノ副用靜辭三〇八—三一七。

オ

横聯連成句四四五—四四七。
横聯連成述部四六六。
大槻文彦氏一〇二。一二六註。一九一。二四
五—二四六。(有對、無對參照)

カ

か(副用)三〇六。三〇六—三〇七。三〇七。
か(從屬)三二五。
解剖(文モシクハ文素ノ)二七。
「かゝりゝひすび」二五〇—二五二。二五
八。三〇六—三〇七。
客語三九二。

客動的爲動一九〇。

加工の結構ノ文四〇八—四一一。

カ行變格二二八—二三〇。

カ行變格爲相作用言(二二六—二二七)。
三二八—二三〇。

カ行變格作用言二二八。

かし三二三—三二四。三二七。

訛成叢語三五—三六。(三一八注意參照)

假體言(舊)二五四。

假體言(新)二五五—二五七。

假體法二五四—二五五。

割斷的分解五。三九〇—三九一。

割斷的分解ト想素的分解五七—五九。

活用二四—二六。(用言、動辭ノ條參照)

活用上ヨリ來ル用言ノ類別表、及

ビ、其ノ説明二〇三—二〇六。

かな三二六。

かは(從屬)三二五—三二六。

上一段活用二二二—二三三。

上一段活用爲相作用言二二一。

上一段作用言二二一。

上二段二〇五—二二二。

加茂真淵一九七註。

から(定格)二九五。

(もの)から(糅雜)三三六。

「關係」四。一八一。(靜辭、動辭ノ條參照)

冠性根辭二九—三〇。

感歎詞(「間投詞」)五四。

感歎詞ト希臘時代ノ文典家一—三

間投詞(「感歎詞」)五四。

ガ

が(定素)三〇二—三〇三。

が(副用性定格)二九八。二九九。

が(副用)三〇七。三〇八。

が(續用)三一三。三一四。

(も)が(糅雜)三四〇—三四一。

外國語教育ト國語ノ分類一四三—
一四五。

ガスペイ、オットー、サウエル三氏

四〇〇註

外想對比ノ關係(「當面對比ノ關

係」)二八〇註

外的結合ノ關係、及ビ、ソヲアラハ

ス辭二七〇—二七八。

がてら三三二。

がに三三四。

がら三三一。

がり三三二。

キ

き三四七。三五六。三五八註。三六八。

希求、希求文六九—七〇。

記述的限定四三九。

軌範的品象名一七四—一七六。

境遇の間接相對ノ想六三。

境遇的相對ノ想六二。

曲活二四三。

曲活形狀言二四三。

曲觀單位通稱名一六三。

局性制定四三九。

叫聲ト感歎詞一三—一四註。

緊要部(文ノ)五。四〇四。

緊要部(被述部ノ)五。四〇四註。

緊要部(述定部ノ)五。四〇四註。

緊要部ト要部四〇四註。

ギ

擬呼法五四—五五。

擬語法三六一—四九。

擬成繫對賓格四二三。

擬成主素三八八。四二三。

擬成統轄相伴主格四五九—四六〇。

擬成統轄ノ合格四五九—四六〇。

擬成被統轄相伴主格四五九—四六〇。

擬成複文四五二。
 擬熟語法四五―四六、四八―四九。
 擬熟語法四二―四三。
 擬熟語法ト重格法四二―四二五。
 擬準從素三八八、四一二。
 擬體法四二―四四。
 擬單文<sup>一七―一九、四六―四八、
三九〇―三九一</sup>。
 擬單文ト單文トノ相違點四五五。
 擬單文ト複文トノ相違點四五五。
 疑問、疑問文六七―六九。
 逆二段活用二〇―二二三。
 逆二段活用爲相作用言二二〇―
 逆二段作用言二二〇。
 希臘ノ文典家<sup>一三註、三九八註、
四二九註</sup>。
 擬連語法四五―四八、四二―四一三。

ク
 句〔「文形文素」〕二〇、二一、四四二。
 く活形狀言二四三。
 草野清民氏八九註。
 く・し・さ活用二四二―二四三。
 く・し・さ活用形狀言二四三。
 黒川春村氏二二八、二三一註。
 黒川真頼氏二三一註。
 黒澤翁滿二三一註。
グ
 具足相位名二六九―二七一。
 具體名詞一四八、一四八―一四九註。

繫合對ノ賓格四二―四二二。
 繫合的從素〔「準從素」〕四一―一五。
 繫合動辭<sup>三四三―三四五、三六四―三六五、
三七九―三八九</sup>。
 繫合動辭ト寫述說述ノ意義三六四。
 繫合動辭ト其ノ活用三六四。
 形質的品象名二七〇―二七一。
 「形狀」^{一三、二一―二二、一八一―一八二}。
 「形狀」^{形狀的品象名ノ條參照}。
 形狀活用詞(形狀活詞)一三一。
 形狀言〔「形狀用言」〕<sup>二四―二五、
二四四―二四五</sup>。
 形狀言ノ假體法二五九―二六〇。
 形狀言ノ用法二五七―二五九。
 形狀的品象名一七七―一七九。
 形狀ノ名八六―八七。^{準體言ノ條參照}。
 形狀ノ名ニ準ズル指示名<sup>九二、
九三ノ號參照</sup>。

形狀複形特殊四段活用二三六註。
 形狀複形特殊四段作用言二三六。
 形狀複形特殊四段然相作用言
 二三五―二三八。
 形狀名ノ準體言一五一、一五二。
 形狀用言〔「形狀言」〕<sup>一八四、二四二―
二四九、二五〇―
二六〇</sup>。
 繫屬的限定四三五―四三六。
 繫屬的制定四三五―四三六。
 繫屬的裝定四三五―四三六。
 繫屬的隨從ノ關係四二六―四二七。
 繫對賓格四二―四二二。
 繫部三九二。
 形容詞(裝定語、裝定詞)<sup>九六―九九、
一二五註</sup>。

三九八註、四二八、
四二九―四三〇註。
 形容詞的的成分一〇、四二八。
 形容性叢詞四二八。
 結終活二〇―二〇三。
 結終活ヲウクル從屬辭<sup>三二―三三、
三二五</sup>。
 結終活ヲウクル從屬動辭三七四。
 けむ<sup>三四七、三四九、三五二、
三七四―三七五</sup>。
 けらく^{二八九註、三三八}。
 けらし^{三三二}。
 けり<sup>三七四、三四九、三五二「めり」ノ註、
三二九―三三〇註參照、三七四</sup>。
 顯體單位通稱名^{一六二―一六三}。
ゲ
 言〔「こと」〕^{二二、一八一}。
 言語及ビ思念^{二四、一八一―一八二}。

「言語四種論」^{一三五―一三六}。
 原成複文^{四四七―四四九}。
 限定句^{四四二}。
 限定語〔「副詞」〕<sup>九九―一〇一、四二八、
四二九―四三〇註</sup>。
 限定語^{四四一}。
 限定素<sup>一一―一三、四〇三、四二七―四二八、
四三一―四三三、四三四―四四一</sup>。
 限定叢語〔「副性叢詞」〕^{四二八}。
 限定叢詞^{四四二}。
 呼應^{二〇六―三〇七}。
 後詞^{一〇二註}。
 構想的結合〔「語ノ構想的結合」〕^二。
 〔「構想的結合ノ關係ノ條參照」〕
 構想的結合ノ關係<sup>二七〇―二八八、
四二五―四二六</sup>。

<p>構想的結合ノ關係ヲアラハス語 (辭)二七〇—二八八。 構想的結合ニ於ケル、注意ノ集中 點四〇二。 後置詞一〇一—一〇三。 後天的制定(「限定」四三二。 呼格五一。 こそ三〇五。三〇六—三〇七。 個體名ト單位トノ關係一五九— 一六一。 個體名ノ「實體名」正體言一五八— 一六一。 「こと」(言)二三。一三八註。一八一。 「ことば」(語)三。一三八註。 「ことば」(ル)三九八。四二九註。</p>	<p>語ノ構想的結合「構想的結合」二。 「詞ノ玉緒」三三〇。 「詞ノ玉橋」一三六。 固有名詞一四八。二四八—二四九註。 混成二段活用二二七。 混成二段活用爲相作用言二二七— 二二九。 混成二段作用言二二七。 根辭的糅雜靜辭三三九註。 根辭的準體言一五五。 混體層成擬單文四七〇。 建立相位名一六九—一七〇。一七一。 ゴ 語(文典學上ノ)「單位語」三。 「語」「言」「辭」字ノ用法一三七— 一三八。</p>	<p>合格四二四。四五六—四六三 合格ノ文主四五六。 合格法四二三—四二四。 語幹三〇—三二。二〇九。二一六。 語根三。二八—三〇。 合性等列相伴主格四六〇—四六一。 合性等列相伴賓格四六七。 合性等列相伴「某」賓格四六七。 ごと一五三。 ごとし一九五。 語尾二〇八。 權田直助氏一三四註。二二一註。 サ 再轉二三一註。二三六—二三七。</p>
---	---	---

<p>サ行變格二〇五。二一七— 二二〇。二二八註。 さす三四六。三四八。三四九註。三六六。 佐藤誠實氏一〇二。二三一註。 「サ」ノ根辭ヲ有スル正體言 一五〇註。「形状的品象名參照」 さく三〇四。 「ぢぢな」の體言(「準體言」)一四七。 作用一三。二二—二二。一八一—一八二。 作用一八五—一九〇。 作用言一四—一五。二五註。 作用言(作用言ノ條參照) 作用言ノ轉性二五三—二五四。「品象名 作用言ノ用法二五〇—二五三。 作用的品象名一七七。一七九。 作用複形特殊四段活用二四一註。 作用複形特殊四段活用然相作用言</p>	<p>二三八—二四一。 作用複形特殊四段作用言二四一。 作用言二四二。「然相作用言」爲相作用言 ノ條參照二五 〇—二六〇。 散聯屬成句四四六—四四七。 散聯屬成述部四六六。 散聯的合性等列相伴主格四六二。 散聯的離性等列相伴主格四六二。 ザ 雜性擬單文四七〇—四七一。 雜性單文四四二—四四四。 ざり三四六。三五〇。三六八。 シ し三〇五。</p>	<p>詞四四一。 「詞」字ノ用法一三五—一三七。 し・さ活形狀言二四三註。 しく活形狀言二四三。 しく・し・しき活用二四二—二四三。 しく・し・しき活用二四七—二四九。 しく・し・しき活用形狀言二四三。 し・しき活形狀言二四三。註 しが三二二。「三四〇—三四一 (も)が」ノ註參照」 指詞八九註。 指性賓格四一六—四一七。 思想(文典上ノ)「單位思想」二。 指示言八九。 指示詞八八—八九。 指示名八九。一二六。</p>
--	--	--

指示名的品象名一七八。一七九。
 自然的結構ノ文四〇八―四一一。
 して二九六―二九七。
 「思念の對照」 「思念のてりあはせ」四二六註。
 清水濱臣二一四註。
 しむ三四六。三四八。三六六。
 下一段活用二二二―二二三。
 下一段活用爲相作用言二二一。
 下一段作用言二二二。
 下二段二〇五。二二二。
 斜格三八一註。
 寫述、寫述文六三一―六五。
 寫述說述ト擊合動辭三六四。

寫述說述ト從屬動辭三六二―三六四。
 寫法擊合動辭三六五。三八六―三八九。
 寫法從屬動辭三六四―三六五。
 三六五―三七〇。
 主格五〇。四一三。四五六―四六四。
 主句四四二。
 主語三九二―三九三。
 主詞四四一。
 主素一〇。四〇三―四〇四。「自立的主素、依立的主素參照」
 主叢詞四四二。
 主動性爲動一九〇。
 主部〔論理的主部〕四三九―三九二。
 四〇二―四〇三。
 主要句四四五―四四七。
 主要詞四六六。
 主要成述部四六六。

主要叢詞四六六。
 種類的品象名一七一―一七四。
 種類名詞一四八。
 集合的單位名一六四。
 集合名詞一四八。
 集聯屬成句四四六―四四七。
 集聯屬成述部四六六。
 集聯的合性等列相伴主格四六二―四六三。
 集聯的離性等列相伴主格四六二―四六三。
 招呼法(呼ビ懸ケ、呼ビ出シ)五〇―五三。
 將然言二〇一。
 初等日本文典二一三註。二三一註。二三七。二四三註。二五四註。二九一及ビ註。三五四註。三

シ

じ三二一。
 辭〔にてにをは〕二三。
 自他ノ關係五七。
 實體ノ思念一五六―一五七。
 實體名ノ正體言〔個體名、準個體名參照〕
 實名詞三九八註。
 辭的形狀言一九五。二四九。
 辭的作用言一九三―一九五。
 辭的準體言一五二。一五四―一五五。
 辭的體言一五五。
 辭的用言一九三註。
 自動詞一九〇―一九一。
 ジャイルス氏四〇〇註。
 重格四二四。

重格法四二四。
 重格法ト擬熟語法四二四―四二五。
 從句四四二。
 從語三九三。
 從詞四四一。
 從主格〔從主賓格〕四一七―四一八。
 從主賓格四一七―四一八。
 糝雜性擊合動辭三三九註。
 糝雜性靜辭二八八―二九〇。二九一註。
 糝雜性續用靜辭三一八―三二〇。
 糝雜性定格靜辭二九六。
 從素一。四〇三―四〇四。四〇五。「自立的從素、依立的從素、準從素等參照」
 從叢詞四四二。
 從屬靜辭二八六―二八八。二八二―二八三。三本註參照。三二〇―三二八。

三二八―三三〇。
 從屬靜辭トウクル轉活三二〇―三二七。
 從屬性續用靜辭三一五―三一八。
 從屬的關係〔述定的關係〕四二五。四二六。
 從屬動辭三四二―三四三。三四六―三四九。三四四―三四五。三五五―三五七。三六四。
 從屬動辭トウクル轉活三四〇―三四七。
 從屬動辭ト寫述說述ノ意義三六二―三六四。
 從屬動辭ト其ノ活用三四八―三六一。
 從屬動辭ノ意義上ノ別チ三六一―三六四。
 從對ノ賓格四一七―四一九。
 從賓格〔從賓賓格〕四一七。四一九。
 從賓賓格四一七。四一九。
 從部〔論理的從部〕四三九―三九二。四〇二―四〇三。
 從部(客語、賓辭)三九二。

<p>縱聯連成句四四五―四四七。 縱聯連成述部四六六。 熟語(熟成語、團成語)三二―三三。 熟辭三一八注意。三五二―三五三註參照。 熟成語三二―三三。 述格六〇―六一。 述格ノ第一者、第二者、第三者 六〇―六一。 述定ス、述定セラル四。 述定的關係(「從屬的關係」)四二五― 四二六。 述定上ノ性質五九―七四。 述定部四。四〇三。 猶太人ノ希伯來語ノ分類三九八。 準繫合對ノ賓格四二―四二三。</p>	<p>準繫對賓格四二三。 準個體名ノ「實體名」正體言 一五八―一五九。一六三―一六六。 準建立相位名「六九―一七〇。 七七―一七九。 準擬成複文四五―四五四。 準具足相位名一六九。一七七―一七九。 準相位品象名「準相位名」一六七。 準相位名ノ「品象名」正體言 一六六―一七〇。一七六―一七九。 準從素(「繫合的從素」)一四―一五。四 二―四二。 準體言一四六―一四八。一五一―一五五。 準體言ノ用法一五二―一五三。 準體複形特殊四段活用二三五註。 準體複形特殊四段作用言二三五。</p>	<p>準體複形特殊四段活用然相作用言 二三四―二三五。 準單位特稱名(準個體名)一六五― 一六六。 準單位通稱名(準個體名)一六五― 一六六。 順二段活用二〇―二一三。 順二段活用爲相作用言四。二〇―二 二七。 順二段作用言二一〇。 狀況名ノ準體言一五一。一五二。 狀況ヲアラハス語「副詞」一〇〇― 一〇一。 助詞「「靜辭」」一〇二。一〇三―一〇 四。 助辭一〇二。 助動詞九四―九六。一四一―一四二 自立主素ノ文四〇七。四一一。</p>
--	---	---

<p>自立從素ノ文四〇六―四〇七。四一一。 自立的主素四〇七。 自立的從素五六―五七。四〇五―四〇六。 ズ す三四六。三四八。三四九註。三六六。 數詞九二―九四。一二六。 數ノ形狀ノ名九三。「準體言ノ條參照」 すから三三三。 鈴木腹(「鈴木朗」)一三四註。一三 五―一三六。 ストイツク派ノ學者三九八註。 すら三〇四。 ズ ず三四六。三五六。三五七―三五八。三六八。 隨從的關係四二五。四二六。</p>	<p>ず けむ 三五五註。 ず けり 三五五註。 セ 生格三九九註。 正說七一註。 靜辭二六―二七。二六一―三四一。 靜辭動辨ノ分類ノ論二六一―二六七。 靜辭動靜ノ分類表及ピソノ説明 二六八―二七〇。 成述部二〇。二二。 成述文素二〇。 靜助詞、助動詞(無活助詞、有活助 詞)二一八。 正體言<small>一四六―一五一「實體 名、品象名ノ條參照」</small></p>	<p>正體言ノ用法一五〇。 正對四一四。 正對ノ賓格四一四。四一四―四一七。 制定語(制定部)三九三―三九四。 制定素四三〇―四三一。四三一―四三三。 制定的關係四二五―四二六。 制定部五。三九二。三九三―三九四。四二八。 靜的思念一八〇。一八一。 接合性根辭二九―三〇。 正認七〇―七四。 正認形七四。 接辭(「繫語」)三九二。 說述、說述文六五―六六。 說述語(「說述部」)三九三。</p>
---	---	---

說述的限定四三九。
 說述部三九三。四〇一本註。
 接續詞一〇一—一三。
 截斷言二〇一。
 接頭語三〇。
 接尾語三〇。
 說法繫合動辭三六五。三七九—三八六。
 說法從屬動辭三六五。三七〇—三七九。
 せば三二六。
 先天的制定「||裝定」四三二。
 ゼ
 絶對的構成ノ想六二。
 全成的複成述定部四六四—四六五。
 然相一八五—一八九。

然相作用言一八五。二三〇—二四一。
 然動的爲相作用言一八九。
 然相的ノ爲相一八八—一八九註。
 前置詞一〇一。一四一—一四二。三九八註。
 前置詞ノ對象(目的)三九九註。
 ソ
 そ三二三。
 相位ノ概念一六八—一六九。
 相位名ノ「品象名」正體言一七六—
 双影層成擬單文四七〇。
 双影複成擬單文四七〇。
 叢語三四—三六。
 叢詞四四二。
 層成擬單文四六九—四七〇。

叢成副詞「||副性叢詞」三九九註。
 層成文主四六三—四六四。
 想素四〇二。
 想素的分解九。一〇。三九〇。四〇二。
 想素的分解ト割斷的分解五七—五九。
 相對的構成ノ想(本采的相對、境遇
 的相對)六二。
 裝定句四二二。
 裝定語九六。四二八。四二九—四三〇註。
 裝定詞四四一。
 裝定詞(裝定語)九六。
 裝定素一—一二。四〇三。四二七。
 裝定素—四二八。四三一—四四一。
 裝定叢語四二八。
 裝定叢詞四四二。

裝定名詞「||添接名」三九八註。
 相伴資格四六七。
 ゴ
 ゴ(副用)三〇五。
 ゴ(從屬)三二七。
 屬詞二三九註。
 屬性三八一。「作用、形狀ノ條參照」
 屬成句四四五—四四七。
 屬成詞四六六。
 屬成成述部四六六。
 屬成叢詞四六六。
 屬成複文四四七—四四九。
 續用靜辭二七—二七八。三一—三二四。
 三—三一八。三一八—三二〇。

體言二六。一四六。「正體言準
 體言ノ條參照」一八〇。
 對稱的品象名一七八—一七九。
 態度一八四。一八五—一八九。
 對賓七—八。三八—三八二註。四〇四。
 對賓四〇六。四六五。四六七—四六九。
 對賓抱擁主要叢詞四六六—四六七。
 對賓抱擁屬成叢詞四六六—四六七。
 對賓抱擁連成叢詞四六六—四六七。
 對立的關係四二五。四二六。
 たがる三五〇註。
 たし三四七。三五—三六九。
 他動詞一九〇—一九一。
 たり(從屬)三四七。三四九。三五〇。
 三六八—三六九。
 たり(繫合)三六四。三八六—三八九。
 單位語三。

單位思想二。
 單位通稱名一六一—一六三。
 單位特稱名一六一—一六二。
 單位文二。「單文、複文、擬單文等ノ條參照」
 單文一六一—一七。四〇二—四四四。
 單文ト擬單文トノ相違點四五五。
 單文ニツキテ取ラルベキ文素觀
 四〇二。「想素的分解、割斷的分解參照」
 ダ
 第一再轉ラ行變格二三一註。
 第一者(述格ノ第一者)六〇—六一。
 第一人稱六一。
 第三者(述格ノ第三者)六〇—六一。
 第三人稱六一。

第二再轉ヲ行變格二三一註。
 第二者(述格ノ第二者)六〇一六一。
 第二人稱六一。
 代名詞八八―九二、三九八註。
 たけ(副用)三〇八。
 たに三〇四。
 ダルメステーター氏八八、三五四註。三五五註。
 團成語三三。
 抽象名詞一四八、一四八―一四九註。
 疊成橫聯連句四五〇註。
 疊成散聯屬句四五〇註。
 疊成集聯屬句四五〇註。
 疊成成述部四六六。

疊成主要句四四七―四五〇。
 疊成縱聯連句四五〇註。
 疊成述定部四六六。
 疊成屬句四四七―四五〇。
 疊成復文四四七―四四九。
 疊成連句四四七―四五〇。
 直覺的認知ノ想(直覺的ノ思想)
三九五、四〇九―四一〇。(三四五註文參照)
 直覺的ノ思想(直覺的認知ノ想)
三九五。(三四五註文參照)
 直活二四三。
 直活形狀言二四三。
 直觀單位通稱名二六三。
 直寫的限制四三九―四四一。

直寫の制定四三九―四四一。
 直寫の裝定三八五註、四三九―四四一。
 直寫法四四〇。
 直說的裝定三八五註。
 ツ
 つ三四七、三五三―三五五、三六八。
 つゝ三三八。
 「つなぎ」(スメンデ)三九八。
 つべし三四七、三五一、三七五―三七六。
 つらく三三八註。
 鶴峯戊申八九。
 ツ
 づから三三一。
 づゝ三三一。

チ

テ
 て(續用)三一一。
 て(副用性從屬)三二九―三三〇、三五五。
 定格靜辭二八〇―二八一、二九一―二九七。
 提性賓格四一四―四一五。
 定素靜辭二七六―二七七、三〇〇―三〇三。
 「てにをは」(辭)參照二二三、一八一。「靜辭動辭」
 「てにをは」(狹義ノ)二三註、八六、一〇
 辭ト語ノ分類一四三。
 てぬ三五五註。
 てふ三三九。
 ては三一六。
 てまし三四七、三五六、三五八―三五九、三七四。
 てましかは三一七―三一八。

て三四七、三五二、三五三、三五五、三五七。
 てよ三二二。
 轉活(「はたらきのかた」)一九五、二〇三。
 添詞語(添動詞語、副詞)四二九註。
 轉性繫屬ノ制定四三七―四三八。
 轉性繫屬ノ裝定四三七―四三九。
 轉性隸屬ノ限定四三六―四三七。
 轉性隸屬ノ制定四三六―四三七。
 轉性隸屬ノ裝定四三六―四三七。
 添接名(裝定名詞、形容詞)四二九。
 添動詞語(添詞語、副詞)四二九註。
 て三一五。
 デイ氏九九、三九五註。

デルプリ、ユツク氏九註、四〇〇。
 傳寫の制定四三九―四四一。
 傳寫の裝定三八四―三八五。
 傳寫法四四〇。
 傳述的制定四三九―四四一。
 傳述的裝定八二―八五、三八二―三八四、四三九―四四一。
 傳述法七八―八二、四四〇。
 ト
 と(定格)二九三―二九四。
 と(定素)三〇一、三〇一本註參照。
 と(副用)三〇七―三〇八。
 統轄性相伴主格四五七―四五八。
 統轄性相伴賓格四六七。
 統轄性相伴「某」賓格四六七。

<p>統轄性ノ合格四五六―四六〇。四六七― 四六八。 套語三六。 套語法三六。 東條義門「義門法師」一三四註。二〇 トーマス氏四〇〇註。 當面對比ノ關係、及ビ、ソヲアラハ ス辭二七八―二八一。 等列性相伴主格四六〇―四六三。 等列性ノ合格四六〇―四六三。 特殊四段二三二。 特殊四段活用然相作用言二三二、二三三 特殊四段作用言二三三。 富樫廣蔭九註。一三四註。一三六、二三九註。三九 とて三一八―三一九、三一九―三二〇。</p>	<p>とめ三二三。 ド ど三二三。 「動作」一八四、一八五、一九〇。 動詞九四―九六、一二五註。 動詞的成分一〇。 動辭二六一―二七、三四一―三八九。 動辭ノ本形一八一。 動的思想一八〇、一八一。 ども三二三。</p>	<p>「な(オノ)三九八、四二九註。 内想對比ノ關係「連想對比ノ關 係」二八〇註。 內的結合ノ關係、及ビ、ソヲアラス 辭」二七〇―二七六、二七八―二八八。 中二段二〇五、二二二。 中根肅氏一〇二註。 中村秋香氏二一三―二一四註。 なぐ二八九註。三三八。 ながら二八九。 ナ行變格二〇四―二〇五、二二五―二二八。 ナ行變格爲相作用言 二〇四、二〇九―二一〇、二二五―二二八。 ナ行變格作用言二二五。</p>
--	---	--

<p>なす三三四。 など三三一―三三二。 なり三五一―三五三註。 なで三一五。「なましかげ」ノ註參照 なば三一五―三一六。「なましかげ」ノ註參 照 なまし三四七、三五六、三五八―三五九、三 七四。 なましかば三二七。 なむ(從屬靜辭)三二一。 なむ(從屬動辭)三四七、三五二、三五二― 三五三註、三七五。 なめり三五二―三五三。 ならく二八九註。三三八。 ならし三五二―三五三註 なり(繫合)三六四、三七九―三八六。 なり(從屬)「連體ヲウクル」</p>	<p>なり(從屬)「結終ヲウクル」 三四七、三五五―三五六、三七八。 なん(副用)三〇五、三〇六―三〇七。 ニ に(定格)二九二―二九三。「三〇〇―三〇 一本註參照」 に(定素)三〇〇―三〇一。 に(續用)三二三、三二四。 に(副用性從屬) 三二九―三三〇、三五三―三五五註參照」 (二段活用)二二一。 にて(定格)二九五。 にて(採雜性續用)三一八―三一九。 日本文典原理註。二八〇註。二八八註。三四五 緒言六一―七註參照」</p>	<p>人稱六一。 ヌ ぬ三四七、三五三―三五五、三六八。 ぬべし三四七、三五一、三七五。 ぬらく三三八註。 ネ ね三二三。「三五三ぬ」ノ註參照」 ネスフキールド氏一〇六一―一〇七註、四 二九註。 「ねてにとは」(根辭)二九―三〇。 の(定素)三〇一―三〇二。「三三五注意參 照」 の(副用性定格)二九八、二九九。 の(採雜)二八九、三三四―三三五。「三三五 注意參照」 もの(採雜)三三五―三三六。</p>
---	---	---

野々口隆正二三一註。

ハ

は(副用)三〇三。三〇六註参照]

は(副用性定格)二九七—二九八。

は(咏歎ノ副用)三〇八註。

ハリス(「ヘルメス」)三九八註。

芳賀矢一氏二〇二。一七。

「はたらき」(活用)二四—二六。[用言、動辭ノ條参照]

「はたらき」ト「インフレクシヨ」

二七—二八。

「はたらき」ト語ノ分類一四三。

「はたらき」ト作用言ノ分類一九一—一九三。

「はたらきのかた」(轉活)一九五—二〇三。

「はたらき」の第一のかた一九八—二〇二。

パウル氏三九七。

ヒ

被説語三九三。

被説部三九三。四〇一本註。

被述部四〇三。

被統轄性相伴主格四五七—四五八。

被統轄性相伴賓格四六七。

被統轄性相伴「某」賓格四六七。

否説七一註。

否認七〇—七四。

否認形七四。

賓格五〇。四一—四二。三。四六五。四六七—四六九。

賓語三九三。

品詞八六。三九七。四〇〇。

バ

は三二。

ばかり(副用)三〇八。

はや三二。

パ

「はたらき」の第五のかた一九八—二〇二。

「はたらき」の第三のかた一九八—二〇二。

「はたらき」の第四のかた一九八—二〇二。

「はたらき」の第二のかた一九八—二〇二。

「はたらき」のふり(活用)二〇三註。

はや三〇九。三一〇註。

反語法七五—七六。

判定的認知ノ想(論理的ノ思想)

三九五。四〇九—四一〇。

品詞調停第一案一九—二六。

品詞調停第三案二七—二九。

停詞調停第四案二九—三三。

品詞停第二案二六—二七。

品詞的分類ト單位語ノ四別

八六—一四。

品詞的分類ノ反正一三三—一四〇。

品詞的分類ノワガ國語ニ於ケル對

照表一四—一六。

品詞的分類ニ代ルベキ分類表

一三九—一四〇。

品象ノ思念一五七—一五八。

品象名ノ正體言

一五〇。一五六—一五八。一六六—一七九。
[相位名、準相位名参照]

品象名の形狀名一五三。

賓辭三九三。

フ

副詞(限定語)

九九—一〇一。三九八註。四二八。四二九—四三〇註。

副詞的成分(限定素)一〇。

複成擬單文四六九—四七〇。

複成語(熟語、連語)三二—三三。

複成語ノ語藉ニ關スル法則一五一

複成成述部四五五。

副性叢詞四二八。

複成從素四六五。

複成成述部四四—四六九。

複成對賓四六五。四六七—四六九。

複成被述部四五四—四五五。

複複成文主四五六。

副對ノ賓格四一九—四二二。

複文一六一—一七。四四五—四五五。

複文ト擬單文トノ相違點四五五。

副用辭辭二八一—二八六。三〇三—三〇

副用性從屬辭三二八—三三〇。

副用性定格辭二九七—二九九。

富士谷成章二三一註。

不定單位通稱名(物質的單位通

稱名)一六四—一六五。

普通名詞一四八。一四九—一四九註。

ブ

部屬的繫屬四三九。

<p>物質的單位通稱名〔 不定單位通稱名〕一六四—一六五。 物質名詞一四八。 部分的複成述定部四六四—四六五、四六六—四六八。 文(文典學上ノ)〔 單位文〕一。 文(補部トシテ認メラ七。〔自立主素ル、モノナキ文〕ノ文參照) 文(補部トシテ認メラ七。〔依立主ル、モノアル文〕素文參照) 分解(想素的)九。〔想素的分解ノ條參照〕 分解(割斷的)〔 分割〕五。 分解(單文ノ)〔 想素的分解〕一〇。 分解(複文、擬單文ノ)一九—二〇。 分割(單文ノ)〔 割斷的分解〕五。 分割(複文、擬單文ノ)一九—二〇。 文形文素〔 句〕三〇。</p>	<p>分詞三九八註。 文主五。四〇四。四一三。四五六一—四六七。 文素(單文文素)一〇。 文素(單文文素)ノ原則三七—三八。 文團四四四。 文典學二。 文典上ノ主部三九二—三九三。 文典上ノ從部三九三。 文ノ緊要部五。 ハ ハ二九四。 並性等列相伴主格四六〇—四六一。 並性等列相伴賓格四六七。 並性等列相伴〔某〕賓格四六七。</p>	<p>片影層成擬單文四七〇。 片影複成擬單文四七〇。 遍性制定四三九。 ベ ベイン氏二五五註。 べかり三四七。三五〇。三六九—三七〇。 べし三四七。三五一。三七六。 ホ ホウ、キツトニ一氏四〇〇註。 包括的單位通稱名一六五。 補語〔 補語〕三九三。 補部〔 補語〕六。三九三。 堀秀成二二九註。 本形(用言モシクハ動辭ノ)一八〇—一八一。</p>
--	---	---

<p>本性繫屬ノ限定四三八。 本性繫屬ノ制定四三八。 本性繫屬ノ裝定四三八。 本性繫屬ノ限定四三七。 本性隸屬ノ制定四三七。 本性隸屬ノ裝定四三七。 翻述法七六—七八。 本來的ノ爲相一八八—一八九。 本來的ノ然相一八八—一八九。 ポ ポト・ローヤルノ文典家三九八註、四二九註。 マ ま二八九。三三八。 まゝ二八九。三三七。</p>	<p>ましかば三一七。 まし三四六。三五一。三五六。三五八—三五九。三七三—三七四。 まじ三四七。三七八。 ませば三一六。 まで(定格)二九五。 まで(糅雜)三三二。 まに／＼三三三—三三四。 ミ み三三九。 未定活二〇二—二〇三。 未定活ヲウクル從屬辭三二〇—三二一。 未定活ヲウクル從屬動辭三四六。 ム む三四六。三五二。三七三。</p>	<p>無對(所謂動詞ノ)一九一。 メ 名詞八六—八八。三九八註。 名詞的成分一〇。 明索指示名〔 明索指示品象名〕九一。一七九註。 めり三四七。三五〇。三五一。三七八—三七九。 モ も(副用)三〇三—三〇四。〔三〇六註參照〕 も(咏歎ノ副用)三一〇。 も(續用)三一三。三一四。 物集高見氏二三七註。二四六註。二五四註。 物集高世二四三註。二五四註。 もて(定格)二九五。</p>
---	---	---

<p>本居宣長 一三四註、三三〇、三五三―三五五註。 本居春庭 一九七註、二〇一註。 「もの」三、二二―二二、一八一。 物事ニツキテノ數量ノ名 九三。「品象名ノ條參照」 物事ノ名ニ準ズル指示名 九二。「實體名、品象名ノ條參照」 「もの」の體言〔正體言〕一四七。</p> <p>ヤ</p> <p>や(副用) 三〇五、三〇六―三〇七、三二〇註。 や(咏歎ノ副用) 三二〇―三二一。 や(從屬) 三二三、三二四―三二五。「三二二―五「かば」ノ註參照」 ヤング氏 四〇〇註。</p>	<p>有活形狀詞 一二五。 有活作用詞 一二五。 有機的結合(思念ノ) 三。 有對(所謂動詞ノ) 一九一。 ゆり、ゆ 二九四、二九五註。</p> <p>ヨ</p> <p>よ(從屬)〔未定ヲウクル〕 三二一―三二二。 よ(從屬)〔連體ヲウクル〕 三二七、三三〇。 よ(咏歎ノ副用) 三二〇。 用言 二六、二四―二五註、一八〇。「作用言、形狀言ノ條參照」 用言ノ本形 一八〇―一八一。 陽性ノ思想 七三―七四。 陽性寫述文、陽性說述文等 七四。 陽性ノ述定(陽性寫述、說述等) 七四。</p>	<p>要部(文ノ) 四〇四。 要部(被述部ノ) 四〇四註。 要部(述定部ノ) 四〇四註。 要部ト緊要部 四〇四註。 四段一活〔有居格〕 二三一註。 四段活用 二〇六。 四段活用爲相作用言 二〇六―二一〇。 四段作用言 二〇六。 呼ビ懸ケノ招呼法 五一―五二。 呼ビ出シノ招呼法 五二―五三。</p> <p>ラ</p> <p>ら 三三一。「三三九「か」ノ註參照」 羅行一格第一活、第二活、第三活 二三 ラ行變格 二〇五―二〇六、二三〇。</p>
--	--	---

<p>ラ行四段一格 二三一註。 らし(靜辭) 三二〇註、三五一註。 らし(動辭) 三四七、三五一、三五二―三五五註、三七六―三七七。 らしかり 三四七、三五〇、三七〇。「三六九―三七〇註來照」 らむ 三四七、三五二、三七八。 らる 三四六、三四八、三四九註、三六七。</p> <p>リ</p> <p>履性根辭 二九―三〇。 離性等列相伴主格 四六〇―四六一。 離性等列相伴賓格 四六七。 離性等列相伴〔某〕賓格 四六七。 領格 三九九註。 領屬的繫屬 四三九。 力相的品象名 一七一。</p>	<p>る 三四六、三四八、三四九註、三六六―三六七。 隸屬的限定 四三五。 隸屬的制定 四三五。 隸屬的裝定 四三五。 連語 三三。 連成句 四六六。 連成詞 四六六。 連成成述部 四六五―四六六。 連成叢詞 四六六。 連成複文 四四七―四四九。 連想對比ノ關係、及ビ、ソヲアラハス辭 二七八―二八〇、二八一―二八八。</p> <p>ル</p>	<p>連體活 二〇二―二〇三。 連體活ヲウクル從屬靜辭 三二五―三二七。 連體活ヲウクル從屬動辭 三四七。「前項註文參照」 連體言 二〇一。 連用活 二〇二―二〇三。 連用活ヲウクル從屬靜辭 三二二―三二三。 連用活ヲウクル從屬動辭 三四六―三四七。 連用言 二〇一。</p> <p>ロ</p> <p>ろ 三〇八註。 羅馬ノ文典家 三九八註、四一九註。 論理的主部 三九二。 論理的從部 三九二。</p>
--	---	---

論理的ノ思想(「判定的認知ノ想」)

三九五、三四四。「三四五註文」参照

エ

系三〇八註。

ヲ

を(定格)二九二。

を(續用)三二三、三一四。

を(咏歎ノ副用)三〇九—三一〇、三一〇

(もの)を(糅雜)三三七。

岡倉由三郎氏八九註。

を「して二九六—二九七。

をほ三〇三「は」ノ註。

をや二九〇、三四〇。

19158

索引 終

□ 明治四十一年七月十四日印刷
明治四十一年七月十七日發行

(11001)

附典義要典文本日

有所權作著

→(錢拾貳圓壹金價定)←

著者 岡澤 鉦次郎

東京市日本橋區本町三丁目八番地

發行者 大橋 新太郎

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷者 飯田 三千太郎

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀英舍 第一工場

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館

第二高等
學校教授 岡澤鉦次郎君著

新日本文典原理

一名理論的日本文典

全一冊洋裝大判特製
脊皮金文字入
製本堅牢頗美本
紙數六百八十七頁

正價金壹圓五拾錢 郵稅金拾貳錢

此の語想相關の原理を啓發し、未顯の眞理を發揚し、眞摯の端を起さず、空前の理論的日本、理致周密も忽にせず秩序整んとする。然として、小大悉く擧げ、空論に馳せずして學理の堂奥に盡す所わが國語の異彩として世に許されたる著者の眞面目を視ふべく、其の體たる、外國語を解する人にも適切に博通旁達の學者にも缺くべからず、晩進獨學の士にも缺くべからずして、言語の學に志す者は言ふまでもなく、荷も言語に關する所ある學科に遊ぶ者の精讀せざるべからざる斬新の知識を與ふる所、恐らくは廿世紀の劈頭に於ける語學界の奇書として、天下の公評を博すべきものならむ。

行發館文博

文學士 岡田正美君著

解説日本文典

全三冊洋裝大判紙數五百九十頁
並製一冊金四拾錢 郵稅八錢
特製一冊金五拾五錢 郵稅拾錢

本書は吾國語上法上の諸般の事實を我國一般の人士に示さんことを欲して其を便宜の順序に列記して解説批評したるものにして國語學專攻の人士の爲めに特に時文的文法又は歴史的な文法又著者自らの日本文法體系を述べたるものにあらず「解説」の條下に記述したる事柄は多くは當今普通に用ゐらるる諸文典に記述せるを或は意を採り或は意と文とを併せ採りたるものなり

發兌元 東京博文館

文學士 鈴木暢幸君著

日本口語文典

全一冊洋裝大判美本 紙數三百三頁
並製正價金四拾錢 郵稅金八錢
特製正價金五拾五錢 郵稅金拾錢

本書は氏が多年の研究に依りてわが國語の本質及び運用を忠實に闡明し叙述したるもの、まづわが國語に存する言音を音韻學的に説明し、發音機關の調製を指導して、方言の矯正其の他發音教授の便に備ひ、品詞の叙述に於いては文章語との差異を説明して文語教授の參考に資す、特に詞章の綜合法に至つては著者の獨創によりて新式なる文典の模範を示したり

第一高等
學校教授 落合直文君小中村義象君合著

中等日本文典

全一冊洋裝特製
脊皮金文字入
紙數四百五十七頁

正價金六拾錢 郵稅金八錢

古來往々邦文の不規律にして統一なきを難するものあるは主として完全なる文典の書なきに依りて文を學ぶ者の文典に待つある猶航海者の羅針盤に依るが如きは船舶の楫に待つ事あるが如し小中村落合兩先生が國文學に精通せらるるは世の夙に知悉する所今や初學者の爲に好書なきを慨し切磋研究の餘斯書を著はさる是より桃花始て津ありといふべし殊に著者は多年官私の諸學校に於て實地教授せられたるものなるを以て中學校師範學校其他高等諸學校教科書として尤も適當無比なるものなり幸に愛讀を賜はらん事を

全部廿四册
 文藝學博士 萩野由之君 校註
 落合直文君 池邊義象君
日本文學全集
 正一册金廿五錢 以上册五 以上册八 以上册拾 以上册壹
 二册金廿五錢 以上册五 以上册八 以上册拾 以上册壹
 中判洋裝並綴

- 第一編 竹取物語 ○住吉物語 ○伊勢物語 ○徒然草 ○紫式部日記
- 第二編 枕草子 ○更科日記 ○佐日記 ○方丈記
- 第三編 十六夜日記 ○辨内侍日記 ○落窪物語 ○辨内侍日記
- 第四編 堀河物語 ○四季物語 ○中納言物語 ○四季物語
- 第五編 中務内侍日記 ○讃岐典侍日記 ○蜻蛉日記 ○和泉式部日記
- 第六編 源松中納言物語 ○唐物語 ○大和物語 ○唐物語
- 第七編 ○宇治拾遺物語 ○多武峰少將物語
- 自第八編 源氏物語 五册に分册
- 自第十三編 至第十五編 榮花物語 上中下三册
- 自第十六編 至第十八編 太平記 上中下三册
- 第十九編 保元物語 ○秋夜長物語 ○平家物語 ○鶴鷲合戰物語
- 第二十編 古今著聞集
- 第二十一編 公事根源 ○十訓抄
- 第二十二編 水鏡 ○大鏡
- 第二十三編 源氏物語
- 第二十四編 源氏物語

東京 元兌發 本町 館文博

文學士 橋本忠夫君著
世界文學史

本書は世界各國文學の異同長短を調査し其相互の感化影響を考究し之に系統と順序とを與ひ以て其推移發展の跡を研究す故に史的性質をして縦に時代を以て區別すると共に横に分括するに一傾向一潮流を以てし其の時代某の傾向を有するものを網羅せり讀者本書に依り世界文學の源泉過程を知り併せて各國民詩歌の特性及び一般文學の趨勢を知らば其研究に資する所決して鮮少にあらざるなり

（大判二九八頁）
 並製正價金四拾錢
 郵稅金八錢
 特製金五拾五錢
 郵稅金拾錢

英國文學史

英國文學史は偉大なるアングロ、サクソン人種の千二百年間に亘れる精神的大歴史にして今日覇を世界に稱しつゝあるは此民族の骨髄となり生命となりしものなりこれ彼等と提携して世界の大舞臺に躍り出でんとする我が大和民族の至大なる興味を以て研究すべき大事業にあらずして何ぞ本書は實に此要求を充さんとして生れ來りたるものなり大方の諸君早く一本を購ひ以て社會の風潮に後れざらんことを期せられよ

（大判三二七頁）
 並製正價金四拾錢
 郵稅金八錢
 特製金五拾五錢
 郵稅金拾錢

文學士 林森太郎君著
日本文學史

帝國上下三千年の文學は幾變遷を以て現今に至り其間燦爛を驚かすもの尠からず、而して本書は之れが要義を深遠なる著者の學識を以て其材を精選し記述されたるものなれば從來類書の少からざるも中等教科書の目的を以て只た梗概を説叙したるものとは大に其趣を異せり故に教科書以外に文學の眞想を研鑽し日本文學の多趣味を知らんと欲せば必ず本書に於て求めざるべからず

（大判三五二頁）
 並製正價金四拾錢
 郵稅金八錢
 特製金五拾五錢
 郵稅金拾錢

文學士 笹川臨風君著
支那文學史

支那は東洋の古國にして、特に其文學は日本文學の鼻祖たり、苟くも日本今日の文學を研究せんと欲するものは、必ず支那文學の發達沿革を玩味して、今日文化の淵源する所を知悉せざる可らず本書は時代に依り、種類を分ち各種文學の由來變遷を説明すること精透を極めたり

（大判三二二頁）
 並製正價金四拾錢
 郵稅金八錢
 特製金五拾五錢
 郵稅金拾錢

見よ!! 樗牛全集(全部)!! 見よ

樗牛博士識見一世を抜き名一代に高し評論の筆に文壇を嚮導する事數年その間又倫理美術に關して斬新の提説を公にして學界に雄飛したり而して前後一貫常に社會人生の深義を求め晩年靈界の光明に接してより猛然として身を妙法の宣傳に委し三世の豫言者としてその短き一代を終りこの時々の議論不朽の述作は收めて此全集五冊の中にあり日本文明の將來と人生の光明とに焦慮する人士はこれの中に一條の大天火を見ん

第壹卷 ● 美學及美術史 著者の肖像及自筆原稿佛像寫眞版及精巧木版數多挿入 紙數五百五十二頁 正價金壹圓五拾錢 送料拾五錢

第一部 美學上の研究 ① 美學上の理想説に就て ② 美感に就ての觀察 ③ 月夜の美觀に就て ④ 宗教と美術 ⑤ 詩歌の所縁と其對象 ⑥ 日本畫の過去及び將來に就いて ⑦ 歴史畫論 ⑧ 歴史畫の本領及び題目 ⑨ 再び歴史畫の本領を論ず ⑩ 坪内先生に與ひて三度び歴史畫の本領を論ずる書 ⑪ 審美綱領を評す ⑫ 壯美及び優美 ⑬ 外界の美 ⑭ 自然美 ⑮ 第二部 日本美術史(未定稿) ⑯ 總論 ⑰ 奈良朝以前の美術(上代、推古期、天智式の美術) ⑱ 天平時代(奈良朝の文化概見、奈良朝の佛教、彫刻、繪畫、本邦佛像の形式と希臘教式との關係) ⑲ 平安朝(前期、後期)

第貳卷 ● 文藝及史傳 上 著者少壯時氏の肖像及筆蹟挿入 紙數壹千頁 正價金壹圓五拾錢 送料貳拾錢

文藝評論の文藝及び人生 ① 近松東林子 ② 緒論 ③ 批評及其方法 ④ 戯曲及び之に對する近松の意見 ⑤ 近松戯曲の種類及び結構 ⑥ 全材料に就いて ⑦ 近松に於ける人物の性格 ⑧ 東林子の人生觀 ⑨ 東林子の女性 ⑩ 第一期 ⑪ 運命と悲劇 ⑫ 歴史的精神 ⑬ 作者の道念と觀念 ⑭ 詩人の模倣と天然 ⑮ 文學と美術 ⑯ 天才論 ⑰ 叙事詩と叙情詩 ⑱ 第二期 ⑲ 我國現今に於ける批評家の本務 ⑳ 支那文學の價值 ㉑ 坪内逍遙が史劇に就いての疑ひを讀む ㉒ 曲亭馬琴 ㉓ 第三期 ㉔ 文明批評家としての文學者 ㉕ 嗚呼凡俗改良、外敷十項

振替 貯金 口座 第二十四番 發兌 元 東市 本橋

第參卷 ● 文藝及史傳 下 高山博士寫眞挿入 紙數八百頁 正價金壹圓五拾錢 送料拾五錢

釋迦の緒言 ① 佛陀の誕生 ② 宮中の生活 ③ 三苦 ④ 佛陀の決心 ⑤ 佛陀の出家 ⑥ 車匿及乾陁 ⑦ 佛陀の學童 ⑧ 阿羅羅山入 ⑨ 成道 ⑩ 佛陀の布施 ⑪ 王舍城に於ける佛陀 ⑫ 父子の再會 ⑬ 佛陀の入滅 ⑭ 附言 ⑮ 平相國 ⑯ 平家興隆の由來 ⑰ 清盛の前半生 ⑱ 一門の榮華 ⑲ 重盛論 ⑳ 法印問答 ㉑ 法皇の幽屏 ㉒ 源氏の勃興 ㉓ 入道の最後 ㉔ 清盛論 ㉕ 菅公傳 ㉖ 序論 ㉗ 菅原氏の傳統及少時 ㉘ 菅公の生れたる時代 ㉙ 菅公の性格 ㉚ 政治上の菅公 ㉛ 詩人菅公 ㉜ 菅公の崇拜 ㉝ 菅公年表 ㉞ 大隈伯が菅公談の後に書す ㉟ 菅公論に就て ㊱ 史傳雜纂 ㊲ 南歐美術談 ㊳ ナポレオン三世 ㊴ 古事記 ㊵ 神代卷の神話及歴史外十四項 ㊶ 文藝評論補遺

第四卷 ● 時勢及思索 高山博士寫眞挿入 紙數千百餘頁 正價金壹圓五拾錢 送料貳拾錢

第一期 倫理問題研究の時代 ① 人生終に奈何 ② 厭世論 ③ 老子の哲學 ④ 道德の理想を論ず ⑤ 人生の價值及び厭世主義 ⑥ 東西二文明の衝突 ⑦ 島國的哲學思想を排す外に七目 ⑧ 第二期 國家主義の時代 ⑨ 日本主義 ⑩ 日本主義と哲學 ⑪ 國民的哲學 ⑫ 世界主義 ⑬ 國家主義 ⑭ 宗教と國家 ⑮ 我國體と新版圖 ⑯ 自殺論外廿三目 ⑰ 第二期 雜編 ⑱ 歴史と人種 ⑲ 成敗と正義 ⑳ 社會問題 ㉑ 基督教徒の進取主義 ㉒ 士の徳操 ㉓ 私立學校を論じて當局者の注意を促す外七十九目 ㉔ 第三期 ㉕ 期信仰覺醒の時代 ㉖ 美的生活を論ず ㉗ 日蓮上人とは如何なる人ぞ ㉘ 日蓮と基督 ㉙ 吾が好む文章外に八目 ㉚ 第三期 ㉛ 雜編 ㉜ 無題錄 ㉝ 笑はん乎狂せん乎 ㉞ 口耳の學 ㉟ 空腹高心外に五十目

第五卷 ● 想華及消息 高山博士墳墓筆蹟挿入 紙數六百廿四頁 正價金壹圓五拾錢 送料拾五錢

浦入口道 ① 歴史小説 ② 感想 ③ 吾妹の墓 ④ 戀情論 ⑤ 故郷論 ⑥ 雪中梅 ⑦ 今様三首(敦盛、忠度、小春) ⑧ 准平の悲哀 ⑨ 傷心録 ⑩ わがそでの記 ⑪ 厚積薄發 ⑫ 冷鐵のひびき ⑬ 送年の辭 ⑭ 秋色 ⑮ 歲暮 ⑯ 思ひ出の記 ⑰ 雜編 ⑱ 鳥海山紀行 ⑲ 序 ⑳ 夏季の學生 ㉑ 海の文藝 ㉒ 清見瀧日記 ㉓ 鎌倉の話 ㉔ 郷里の弟を戒むる書 ㉕ 猶多放言 ㉖ 人と愛情 ㉗ 疑問 ㉘ 消息 ㉙ 仙臺より國元實父へ ㉚ 病院より姉崎博士へ ㉛ 大磯より笹川風氏へ ㉜ 鎌倉より井上博士へ ㉝ 大磯より登張竹風氏へ ㉞ 其 他消息 ㉟ 百餘通 ㊱ 外編 ㊲ 倫理教科書(社會總論、皇室に對する本務) ㊳ 世界文明史(文明とは何んぞや 羅馬帝國と基督 教) ㊴ 論理學 ㊵ 近世美學

區本 町三 丁目 博文館 販賣 用電 話本 局第 二六二 番

帝國百全書 哲學書類拔萃目錄

<p>● 進 文學士十時彌君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 認 文學士澁野輝淳君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 社 文學士十時彌君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 比較 文學士高木敏雄君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 處世 第二高等學校教授文學士杉谷泰山君譯 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 近世 文學士高山林次郎君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 哲學 文學士藤井健治郎君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 純正 文學博士井上圓了君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>
<p>● 宗 文學士融道玄君譯 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 比較 文學博士南條文雄君譯 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 兒童 文學士松本孝次郎君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 心理 文學士速水滉君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 近世 文學士德谷豐之助君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 社會 文學士德谷豐之助君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 倫理 文科大學卒業木村鷹太郎君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>	<p>● 倫理 文學博士蟹江義丸君著 ▲洋布特製 正價五拾五錢 郵正 稅價 小包料八錢 拾</p>

終